

飯 塚 病 院 年 報

Annual Report of ASO IIZUKA HOSPITAL
2 0 2 5

第38号（令和7年）

WE DELIVER THE BEST

～まごころ医療、まごころサービス

それが私たちの目標です～



飯塚病院



がんゲノム医療連携病院 関係者会議



ホームカミングレクチャー



近隣病院への医師派遣を開始

序



飯塚病院院長 本 村 健 太

飯塚病院の2025年の活動を記録した「飯塚病院年報 第38号」をお届けします。

2025年は、世界と日本の政治・社会が大きな転換点を迎えた一年でした。米国ではドナルド・トランプ大統領が再び就任し、外交・安全保障、通商政策などにおける方針転換が、国際秩序や世界経済の先行きに不安をもたらしています。国内においては高市早苗首相が就任し、自公連立の枠組みの変化や外交・安全保障政策をめぐる姿勢の変化が、日本の政治・社会に少なからぬ影響を与えています。そのような中、メジャーリーグでは大谷翔平選手が打者としての圧倒的な活躍に加え投手としての復活を果たし、山本由伸投手、佐々木朗希投手とともにロサンゼルス・ドジャースの2年連続世界一に貢献したことは、多くの人々に明るい話題と前向きな力をもたらしました。

社会全体が先行きの見通しを立てにくい状況にある中で、飯塚病院にとって2025年は、地域医療における自らの役割を改めて見つめ直し、病院単体の機能充実にとどまらず、地域全体の医療体制を支えることを強く意識した一年となりました。筑豊地域では人口減少と高齢化が進み、医療人材の確保や病院機能の維持はますます困難になっています。このような環境の中で、当院は近隣医療機関との連携を一層強化し、済生会飯塚嘉穂病院、社会保険稲築病院、博愛会京都病院において入院患者の診療を担当する医師の派遣を開始しました。これは、地域全体として医療を維持していくための新たな連携の形であり、当院にとっても重要な一歩であると考えています。

診療体制の面では、当院ががんゲノム医療連携病院としての指定を受け、がん診療における個別化医療を地域で完結できる体制が整いました。また、産婦人科において無痛分娩を開始し、出産に対する価値観やニーズの変化に応える医療の提供を進めています。これらはいずれも、患者さん一人ひとりに寄り添うまごころ医療の理念を実現するための取り組みです。

一方で、病院運営を取り巻く環境は厳しさを増しており、医療資源を適切に配分することの重要性も明らかになっています。2025年には、精神病床を70床から43床へと再編するとともに、一般病床において救急病床の見直しを行い、7床を返上しました。その結果、当院の許可病床数は1040床から1006床となりました。これらの取り組みは、医療需要と人材配置の実情を踏まえ、診療の質と安全を維持・向上させることを目的としたものです。

飯塚病院は、筑豊地域の基幹病院として、今後も高度急性期・急性期医療を担い続けるとともに、地域の医療機関と連携しながら、持続可能な医療提供体制の構築に努めてまいります。最後に、本年報の編纂に尽力された地域共創・広報戦略課をはじめとする関係職員の皆さんに、心より感謝申し上げます。

目 次

〔Ⅰ〕 院内の動き

2025年この1年の歩み	1
許可病床数変更（1,040床から1,006床へ）	2
近隣病院への医師派遣を開始	3
“ホームカミングレクチャー”の開催について	4
がんゲノム医療連携病院へ	5
副院長就任にあたって	6
副院長就任のご挨拶	7
循環器内科部長就任にあたって	8
心不全科部長就任にあたって	9
小児外科部長就任にあたって	10
ペインクリニック科部長就任にあたって	11
呼吸器腫瘍内科部長就任にあたって	12
呼吸器外科部長就任にあたって	13
感染症科部長就任にあたって	14
形成外科部長就任にあたって	15

〔Ⅱ〕 各部門業績

1. 肝臓内科	17
2. 呼吸器病センター呼吸器内科	18
3. 呼吸器病センター呼吸器外科	20
4. 心療内科	21
5. 内分泌・糖尿病内科	22
6. 消化器内科	23
7. 血液内科	25
8. 総合診療科	26
9. 膠原病・リウマチ内科	27
10. 連携医療・緩和ケア科	28
11. ペインクリニック科	30
12. 放射線科	31
13. 画像診療科	32
14. 放射線治療科	33
15. リエゾン精神科	34
16. 小児科	36
17. 腎臓内科	37
18. 循環器内科	39
19. 心不全科	40
20. 外科	41
21. 肝胆膵外科	47
22. 乳腺外科	50
23. 小児外科	51
24. 整形外科	52
25. 皮膚科	53

26. 泌尿器科	54
27. 産婦人科	55
28. 眼科	57
29. 耳鼻咽喉科	58
30. 脳神経外科	59
31. 歯科口腔外科	60
32. 心臓血管外科	61
33. 血管外科	62
34. 脳神経内科	63
35. 漢方診療科	64
36. 救急科	65
37. 集中治療科	67
38. 形成外科	68
39. リハビリテーション科	69
40. 麻酔科	70
41. 周術期管理科	72
42. 病理科	73
43. 感染症科	74
44. 予防医学センター	75
45. 看護部門	76
46. 医療技術部門	78
47. 経営管理部門	81

〔Ⅲ〕 診療統計

1. 退院患者統計	82
2. 科別統計表	83
3. 最近5年間の患者数推移	84
4. 最近5年間の救命救急センター利用状況の推移	84
5. 最近5年間の年間手術件数の推移	84
6. 科別・年齢別・性別 退院患者数	85
7. 地域別・年齢別・性別 退院患者数	87
8. 市町村別診療科別紹介件数	89
9. 病理解剖件数内訳	90
10. 手術に関する施設基準および手術件数	91

〔Ⅳ〕 学術業績

1. 発表論文・著書	92
2. 学会発表	104
3. 講演	132

〔Ⅴ〕 院内研修会・勉強会

1. 院内臨床病理検討会（CPC）記録	154
2. 看護部	155

3. 医療安全研修	159	診療の適正化ブロック	
4. 改善勉強会	160	33. 呼吸管理委員会	202
5. 学会を除く学術研修会・勉強会	161	34. 褥瘡管理委員会	203
〔VI〕委員会活動報告		35. 栄養管理委員会	204
業務安全ブロック		36. 輸血療法委員会	205
1. 医療ガス安全管理委員会	168	37. 診療報酬適正管理委員会	206
2. 放射線安全委員会・特定放射性同位元素防護委員会	169	38. 臨床検査適正化委員会	207
3. 感染管理委員会	170	39. 骨粗鬆症リエゾンサービス(OLS)委員会	208
4. 労働安全衛生委員会	172	40. がん診療連携委員会	209
5. 医師の負担軽減・処遇改善委員会	173	41. がん集学治療委員会	210
6. BCP 管理委員会	174	42. 緩和ケア委員会	211
物品購入ブロック		〔VII〕院内報告	
7. 薬事委員会	175	1. 飯塚病院地域医療支援病院運営委員会活動報告	212
8. 資材委員会	176	2. VHJ (Voluntary Hospitals of Japan) 活動報告	213
医療の質のモニターブロック		3. 改善活動報告	214
9. ISO 委員会	177	4. ISO9001 品質マネジメントシステム (QMS) 活動報告	216
10. TQM 活動推進委員会	178	5. イノベーション活動報告	217
11. クリニカルパス委員会	179	6. 地域包括ケア推進本部活動報告	219
12. QI 委員会	180	7. 医学研究推進本部活動報告	221
13. 患者経験価値向上委員会	181	8. 治験管理室活動報告	224
医療の安全管理ブロック		9. 当院における分離菌と薬剤感受性	225
14. 急変対応委員会	182	10. 研修スケジュール	230
15. MRM 委員会	184	11. 研修医募集の記録	231
16. 透析機器安全管理委員会	185	12. ファシリティ本部活動報告	233
17. 病院食サービス委員会	186	13. 表彰	234
情報管理ブロック		〔VIII〕医師部門および主要職員名簿	
18. 情報システム委員会	187	1. 医師名簿	238
19. 診療情報管理委員会	188	2. 医師異動	251
教育・研修ブロック		3. 看護師長・主任名簿	258
20. 研修管理委員会	189	4. 総合医療技術部門役職者名簿	259
21. 図書委員会	190	5. 経営管理部門等役職者名簿	260
22. クレデンシャル委員会	191	6. 主要委員会	261
23. 手術室業務改善委員会	192	①常設委員会	261
24. 特定行為管理委員会	193	②看護部常設委員会	262
25. 地域医療支援病院研修委員会	194	〔IX〕飯塚病院概況 他	
倫理ブロック		1. 飯塚病院組織図	264
26. 倫理委員会	195	2. 概要	269
27. 臨床研究管理委員会	196	3. 各学会の認定状況一覧	274
28. 治験審査委員会	197	4. 私たちの理念・方針	275
29. 脳死判定委員会	198		
30. 小児虐待防止委員会	199		
31. 患者行動制限最小化委員会	200		
32. 個人情報保護委員会	201		

編集後記

※2025年年報に掲載中の組織・役職名等については、
2025年12月31日時点のものです。

〔Ⅰ〕院 内 の 動 き

2025 年 この 1 年の歩み

1 月	がんゲノム医療連携病院に認定
1 月 16 日	院内成人式
2 月	近隣病院への医師派遣を開始
2 月 26 日	2024 年度 医師評価・ベスト指導医表彰式
3 月 17 日	2024 年度 初期研修医修了式 2024 年度 専攻医専門研修修了式
3 月 21 日	第 33 回 TQM 活動キックオフ大会
3 月 26 日	2025 年度 臨床研究助成金認可通知書授与式
4 月 1 日	副院長就任：藤崎毅一郎（腎臓内科） 部長就任：稲永慶太（循環器内科） 松川龍一（心不全科） 近藤琢也（小児外科） 中山隆弘（ペインクリニック科） 吉峯晃平（呼吸器腫瘍内科） 小出容平（感染症科）
4 月 1 日	麻生グループ入社式
4 月 11 日	看護師特定行為研修 第三期生開講式
5 月 13 日	Nurse of the Year 2024 表彰式
6 月 2 日	麻生グループ社員表彰式
7 月 1 日	学術奨励賞授賞式
7 月 2 日	HOME COMING LECTURE ー トップランナーから学ぶー
9 月 1 日	副院長就任：佐々木智成（放射線治療科）
9 月 6 日	大規模災害訓練セカンドステージ
9 月 10 日	第 1 回 飯塚病院まごころ医療協議会
9 月 20 日	大規模災害訓練ファーストステージ
10 月 1 日	部長就任：岡 壮一（呼吸器外科） 平川愛子（形成外科）
10 月 1 日	許可病床数の変更（1,040 床から 1,006 床へ）
10 月 4 日	第 33 回 飯塚病院 TQM 発表大会
10 月 18 日	第 7 回 セル看護推進研究会（～ 19）
11 月 12 日	第 19 回 飯塚病院地域医療支援病院報告会
11 月 15 日	第 34 回 飯塚病院慰霊祭
11 月 21 日	第 12 回 Conference for Health Care 開催（～ 22）
12 月 8 日	クラウドファンディングキックオフ大会

許可病床数の変更（1,040 床から 1,006 床へ）

経営企画室 室長 森 智 之

2025年10月から、飯塚病院の許可病床数が1,040床から1,006床へ変更されました。

これは、近年の医療政策や入院患者の動向変化などを背景に院内の病床再編を進めた結果です。近年の医療政策は、少子高齢化による医療費の増加を防ぐために、急性期病床の最適化を図る方向に動いています。診療報酬制度においても、急性期病床における重症度、医療・看護必要度の基準厳格化など、平均在院日数の短縮を促す施策が講じられています。加えて、医療の進歩も影響し、入院診療から外来診療へシフトするケースの増加、患者回復が早まり平均在院日数が自然と短縮しているケースも増えています。

飯塚病院も、2025年の新規入院患者数は増加傾向にあるものの、平均在院日数短縮の傾向を受けて、延べ入院患者数・病床稼働率は例年と比較して減少（低下）しています。こうした状況を鑑み、今後利用する可能性が極めて低い病床については、返還することを決定致しました。

2025年10月における許可病床数34床減少の内訳は、以下記載のとおりです。

ア) 許可精神病床：70床から43床へ（27床の減少）

イ) 東4階救急・HCU（一般許可病床）：27床から20床へ（7床の減少）

東4階救急の病床は一般病床へと変更。救急病床機能はハイケア2階救急病床へ集約

※ 対象は、いずれも休床或いは空床扱いとなっていた許可病床です。

※ 精神病床の返還のうち10床については、国が推進する「病床数適正化支援事業（厚生労働省）」の対象となり、補助金の交付を受けています。

政策や人口動態、近隣医療機関の動向、そして自院の人的資源の状況を総合的に判断すれば、飯塚病院の病床機能や規模を今後も柔軟に変化させていくことが必要です。飯塚病院の持続性を保つためには、変容する環境に適応するための進化が不可欠であり、今回の病床数の変更もその一環です。こうした変化は、職員の働き方にも影響し、対応への負担も少なからず生じさせますが、その対応（努力）こそが、基幹病院として地域医療を支えることにつながっています。職員一人ひとりの真摯な努力が病院運営を支えていることを深く胸に刻み、変化に対応する職員を大切にしながら、地域に貢献する飯塚病院としての進化をこれからも続けてまいります。

近隣病院への医師派遣を開始

連携医療・緩和ケア科 柏 木 秀 行

2025年度より近隣医療機関へ医師を派遣し、高度急性期病院である飯塚病院と地域包括ケア病棟や回復期病棟を有する近隣病院への診療支援を開始しました。これにより医師確保に難渋する近隣医療機関に対して直接的な支援を提供することはもちろん、転院などの連携が効率化され在院日数の短縮といった効果を期待しての取り組みです。従来、さまざまな診療科で特に専門分野における外来機能を提供するといったことは取り組まれていました。また、連携医療・緩和ケア科ではかねてより、訪問診療や共立病院へのアウトリーチ活動として医師派遣を行ってきました。しかし、今回の取り組みは飯塚病院と先方の医療機関の医療の質及び経営指標の改善を組織的に行っていくことを視野に入れた組織的な取り組みであることが大きく異なります。

済生会飯塚嘉穂病院へは総合診療科の医師が出向し、飯塚病院からの転院患者だけでなく外来からの緊急入院の入院患者の担当をしています。京都病院には連携医療・緩和ケア科から、そして稲築病院へは連携医療・緩和ケア科と颯田病院の医師が入院患者を担当しています。稲築病院とは毎月の運営会議を開催し、転院に関連した情報や手続きの煩雑さを解消し、転院までの期間の短縮だけでなくMSWや退院支援看護師、稲築病院の外来スタッフの業務負担も軽減しています。これらは飯塚病院が長く取り組んできたTQM活動を、稲築病院とともに取り組んでいるような光景であり、筑豊地域の医療機関が共に地域医療を支え合っている象徴的な光景です。

取り組みを通じて、診療を担当する若手医師にも良い変化がみられています。それは地域の医療機関の実情や、大変さ身をもって経験できたと言うものです。飯塚病院では当たり前のように実施できていた検査などが実施できない環境の中で、どのような診療をしながら飯塚病院に紹介しているかといったことの理解が進んでいます。加えて、地域包括ケア病棟や回復期病棟といったポストアキュートケア機能を有する病棟での診療経験は、彼らの診療の幅を広げることにつながっています。

飯塚病院はこれからも高度急性期病院として、急性期医療の中で高い専門性を発揮することを期待されます。それと同時に、地域医療機関と良好な関係を築き、支え合うことも大切な役割であることを忘れてはなりません。近年の地域医療におけるさまざまな困難さに対して、医師派遣が具体的な対策の一つとして機能できるよう、ジェネラリストの活躍の場としてしっかり取り組んで参ります。

“ホームカミングレクチャー”の開催について

教育推進本部 藤 崎 毅一郎
日 高 幸 彦

■教育研修施設としての歩みと「人財」

飯塚病院は1989年に独自の臨床研修を開始して以来、30年以上の長きにわたり若手医師の育成に注力してきた。2025年度には研修修了者が累計460名に達し、専門研修においても基幹施設として7つのプログラムを擁するなど、地域を代表する教育研修施設としての地歩を固めている。現在、当院には370名を超える医師が在籍しているが、毎年その約三分の一にあたる医師が入退職を迎える。この流動性は、当院が常に新しい知見を取り入れ、多様な医療ニーズに応え続けている証左でもある。

当院を巣立った医師たちは、現在、国内外の先進的医療機関や教育機関、あるいは地域医療の第一線において、各分野のトップランナーとして目覚ましい活躍を遂げている。当院の教育環境で研鑽を積んだ医師たちが、多方面で社会に貢献していることは、当院にとって最大の誇りであり、かけがえのない人的財産である。

■「ホームカミングレクチャー」創設の理念

教育推進本部では、これら卓越した人財を再び当院に招聘し、その知見を現役職員に還元していただく「ホームカミングレクチャー」を新たに企画した。本企画の主眼は、演者のキャリアを通じた学びを共有することで、若手医師が将来のロールモデルを具体化することにある。しかし、それだけにとどまらず、第一線で活躍するOB・OGに現在の当院の臨床・教育現場に触れていただくことで、施設を越えた「顔の見える連携」を再構築することも重要な狙いとしている。母校ならぬ「母校」としての絆を再確認し、学術的な交流を深めることは、結果として当院全体の診療レベルの向上や、組織の垣根を越えた良質な医療ネットワークの形成に寄与するものと考えている。演者の選定にあたっては、初期研修のOB・OGのみならず、当院に在籍歴のあるすべての医師を対象としており、優れた人物であれば幅広く推挙できることとなっている。

■2025年度の実施報告

本レクチャーは、教育推進本部が事務局を担い、卒後教育評議会による審議を経て実施する体制とした。2025年度は記念すべき第1回を以下の通り開催した。

- ・開催日時・場所：2025年7月2日(水) 18:00～19:00 飯塚病院 教育研修棟 百年ホール
- ・講師：清川寛文 先生（初期研修16期）

（所属：Boston University 専門：呼吸器内科・発生生物学・幹細胞生物学）

・講演テーマ：

1. これまでのキャリアから学んだ、研修医/専攻医のときに知っておきたかったこと
2. なぜ基礎研究？基礎研究の面白さ

- ・参加者：47名（医師38名、看護師4名、事務職5名）

清川先生からは、ボストンでの研究生活や世界を舞台にしたキャリア形成について、極めて示唆に富むご講演をいただいた。参加した若手医師からは「世界を身近に感じた」「現在の研修が将来にどう繋がるか明確になった」といった声が寄せられ、診療科の枠を超えた熱い質疑応答が行われた。

■おわりに

「ホームカミングレクチャー」は、当院の過去と現在、そして未来を繋ぐ架け橋である。当院を起点として他の医療業界に羽ばたいた医師の経験が、次世代を担う若手に注入されるという「教育の循環」を促すものである。良医を招くことで、地域医療の質的向上に貢献していきたい。

がんゲノム医療連携病院へ

乳腺外科部長 岡 本 正 博

当院は、2025年1月にがんゲノム医療連携病院に認定されました。

がんゲノム医療では、がん遺伝子パネル検査により、がん細胞に生じた遺伝子変異を網羅的に解析し、その結果をもとに患者さん一人ひとりに適した治療方針を検討します。従来の発生臓器別治療に加え、遺伝子変異という新たな視点から治療選択肢を広げることが可能になります。

九州大学病院で開催される専門家会議において、遺伝子変異の情報が総合的に評価され、最適な治療方針が提案されます。当院からは2025年には固形癌5例、白血病3例の検討をお願いしました。

日本全体のがんゲノム医療のデータを見ると、がん遺伝子パネル検査で治療候補となる遺伝子変異が見つかる割合はおよそ15%程度と報告されており、遺伝子変異を基に治療薬の選択肢が提示されても、実際に投与に至る症例は約9%前後にとどまっているとの報告もあります。しかし、治療に至った患者さんの経過は改善しているようです。こうした背景から、今後は臨床試験の拡充や検査時期の見直しなどが課題とされています。

検査で得られた遺伝子情報や臨床情報は、患者さんの同意のもと、C-CAT（がんゲノム情報管理センター）でデータベース化され、将来の新たな治療法の開発や創薬、がん医療全体の発展に役立てることが可能です。C-CATには2025年時点で10万例以上の情報が集積されています。

また、検査の過程で生殖細胞系列の遺伝子バリエーションが発見される場合には、遺伝カウンセリングを行い、患者さんご本人だけでなく血縁者のがん予防や健康管理に役立つ情報提供を行っています。遺伝的リスクに基づいた生活指導や検診計画の検討が可能になる点も、がんゲノム医療の大きな利点です。

現時点ではがんゲノム医療の対象は当院で治療を行っている患者さんに限らせていただいておりますが、今後は地域医療機関との連携強化や体制の充実を図り、より多くの患者さんが安心して最先端のがんゲノム医療を受けられるよう努めていきたいと考えています。

副院長就任にあたって

副院長 兼 腎臓内科部長 / 腎センター長 藤 崎 毅一郎

平素より飯塚病院の診療につきまして、格別のご支援とご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。この度2025年4月1日付で、100年以上の歴史を誇る飯塚病院 副院長を拝命致しました。大変な重責ではございますが、当院の更なる発展と地域医療へ貢献すべく、精一杯努めて参る所存です。

私と飯塚病院とのご縁は、1999年に鳥取大学を卒業後、当院初期研修医（11期生）として採用いただいたことに始まります。その後3年間（初期研修2年間＋腎臓内科専修医1年間）を当院で研鑽し、臨床の基礎のみならず、患者・ご家族に寄り添う姿勢、そして多職種で支えるチーム医療、臨床の礎を学びました。

その後、九州大学病態機能内科学（旧第二内科）腎臓研究室に入局し、九州大学病院および福岡赤十字病院での診療、さらに救命救急センター・矯正医療等の経験も重ね、2014年からは九州大学病院腎臓内科助教として臨床・教育・研究に従事して参りました。そして2019年に18年ぶりに当院に戻り、腎臓内科の診療体制の充実と、地域の先生方が築いてこられた医療の継承に努めて参りました。

腎臓内科・透析医療を取り巻く環境は、この20年で大きく変化しました。透析患者の高齢化に伴い、入院を要する患者の増加、医療資源の再配置や入院・外来透析の運用最適化が一層重要になっています。地域のご要望に応え続けるため、現場の負荷や安全性を可視化しながら、医療者配置、病床・透析ベッドの運用、連携体制を機動的に整備してまいりました。これらに関しましては、院内スタッフの協力なくして行えず、感謝の念に堪えません。また、2018年より飯塚地区でも行政と医療機関が一体となった糖尿病性腎症重症化予防プログラムが始まりました。当院としても、腎臓専門医、専門看護師、栄養士等によるチーム医療をさらに推進し、糖尿病性腎症のみならず慢性腎臓病全体の予後改善にこれからも貢献して参ります。

また、医療を取り巻く変化は腎臓領域に限りません。人口構造の変化、医療技術の進歩、働き方改革の推進など、医療機関に求められる役割は複層化しています。困難な局面に直面することもあります。私はこの変化を、次の医療・病院運営をより良くする機会と捉えています。地域の中核病院として、高度急性期医療の提供はもちろんのこと、地域包括ケアの中心としての役割、次世代人材の育成、そして多職種が誇りを持って働ける組織づくりに、柔軟かつ着実に取り組んで参ります。

副院長という職責は、臨床の質を守り高めることと同時に、現場が力を発揮できる環境を整えることでもあると認識しております。現場の声を丁寧に受け止め、データと対話の双方を軸に、部門横断で課題解決を進めて参ります。何より「患者中心の医療」という原点を決して忘れず、一歩一歩前進していく所存です。

皆様には、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

副院長就任のご挨拶

副院長 佐々木 智 成

2025年9月1日をもちまして、副院長を拝命いたしました。私は1992年に九州大学医学部を卒業後、同大学放射線科に入局し、福岡県内の基幹病院を中心に放射線治療医として研鑽を積んでまいりました。また、2016年からは6年間、九州大学医学部保健学科にて教鞭を執り、診療放射線技師の育成という教育・研究の現場にも身を置いておりました。当院には2022年より着任し、放射線治療科にて診療に従事しております。

飯塚病院は、長年にわたり国内有数の臨床研修指定病院として多くの良医を輩出してきました。着任して改めて実感したのは、当院が単なる「研修の場」にとどまらず、育成した人材が地域の医療機関で活躍することで、筑豊地域全体の医療基盤を支えているという事実です。当院の最大の特徴は、大学病院に匹敵する「高度急性期医療・高度救命救急」の機能と、地域の皆様に寄り添う中小病院やクリニックのような「身近な地域医療」の機能を併せ持っている点にあります。近年では、潁田病院や済生会嘉穂病院などとの連携を深め、急性期から回復期、そして在宅までをシームレスに繋ぐ、いわば「地域完結型」の医療体制を構築しています。副院長として、この「高度医療」と「地域連携」という二つの歯車をより力強く回し、拠点病院としての責務を果たしていく所存です。

また、院内では医学研究推進本部長を兼務し、職員の学術活動を統括いたします。当院は「教育と研究は医療の質を高める両輪である」という理念のもと、医師のみならずコ・メディカルの研究活動も極めて活発です。特にリハビリテーション部などは、他施設からの研修生を受け入れるほど高い実績を上げています。今後は、この研究の裾野を他の医療技術職や事務部門にまで広げることが目標です。職種の垣根を越えて「疑問を持ち、解決策を探求する」風土を醸成することが、ひいては患者さんへのより良い医療提供に繋がると確信しております。

微力ではございますが、地域医療の発展と当院のさらなる飛躍のために尽力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

循環器内科部長就任にあたって

循環器内科部長 稲 永 慶 太

このたび、循環器内科部長を拝命いたしました稲永です。私は2013年より当院循環器内科に在籍し、急性期循環器医療の現場に携わってまいりました。

これまで飯塚病院循環器内科を支え、築き上げてこられた多くの先輩方から、診療に向き合う姿勢や判断の重み、そしてチームで医療を行うことの大切さを学ばせていただきました。日々の診療の積み重ねが現在の当科を形づくっていることを、現場に身を置く中で強く実感しています。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

当院循環器内科は、急性心筋梗塞をはじめとする重症循環器疾患を数多く受け入れ、地域の急性期医療を担ってきました。急性心筋梗塞の受け入れ数は全国10位という診療実績を有しており、これは日々の現場で診療にあたる医師・看護師・臨床工学技士をはじめとする多職種が連携し、24時間体制で患者さんと向き合ってきた結果であると考えています。同時に、この数字は、地域において当院が担ってきた責任の大きさを示すものでもあります。

近年、循環器医療は治療技術やデバイスの進歩により大きく発展しています。一方で、医療を取り巻く環境は決して容易ではなく、安全で質の高い医療を持続的に提供するためには、診療体制やチーム医療の在り方がこれまで以上に重要になっています。部長として、診療の質の向上はもちろんのこと、若手医師が安心して成長できる環境づくりや、現場が無理なく力を発揮できる体制整備にも取り組んでいきたいと考えています。

循環器疾患は、患者さんやご家族にとって突然直面することも多く、大きな不安を伴います。その不安に真摯に向き合い、「ここで診てもらってよかった」と感じていただける医療を提供し続けることが、私たち循環器内科の使命です。

今後も地域医療の一端を担う診療科として、関係医療機関の先生方と連携しながら、飯塚病院循環器内科としての役割を果たしてまいります。引き続き、皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

心不全科部長就任にあたって

心不全科部長 松 川 龍 一

平素より飯塚病院の診療につきまして、格別のご支援をいただき誠にありがとうございます。このたび、2025年4月1日付けで、飯塚病院心不全科部長を拝命いたしました、松川龍一と申します。2004年に九州大学を卒業後、現在のスーパーローテート制度の一期生として初期研修後、九州大学循環器内科に入局しました。2007年より1年弱、飯塚病院でも研修をさせていただき、実に18年ぶりに飯塚病院に戻って参りました。循環器内科としての第一歩を踏み出したこの地に心不全科部長として戻ってこられたこと、大変うれしく思っております。

心不全は多くの循環器疾患の終末像であり、入院を繰り返し、増悪していく疾患です。再入院を抑制することは患者さんの予後を改善するだけでなく、医療経済的にも大きな意味を成します。

そのような状況の中、これまで循環器内科の中で「心不全ケア科」として心不全の緩和ケアを中心として活動してきたものを、2025年4月より「心不全科」としてより心不全に対する包括的な管理を行っていくこととしました。

再入院予防のためにはガイドラインに基づいた至適な薬物治療の導入、さらには個々の患者さんの病態に応じた非薬物治療による介入が重要です。当科ではすべての心不全患者さんにおいて最適化された治療が提供できるような取り組みを行っていく所存で、そのシステム作りを赴任直後より進めております。また、心臓リハビリテーションの充実に向けて遠隔心臓リハビリの導入も予定しております。

心不全はすでにcommon diseaseと呼ばれており、その発症予防の段階から地域の先生方との連携が非常に重要になります。心不全発症予防の緩和医療の段階まで地域で包括的に心不全患者さんを診ていく「心不全地域連携」に対してもしっかりと注力していければと思っております。

小児外科部長就任にあたって

小児外科部長 近 藤 琢 也

2025年4月1日付で小児外科部長に就任いたしました、近藤琢也と申します。北九州市の小倉高校出身で、2010年に九州大学を卒業し、九州大学小児外科に入局いたしました。初期研修の後、九州大学・愛媛大学・北九州市立医療センターで外科・小児外科の研修を行い、大学院入学とともに九州大学に戻りました。学位取得後も大学に残り臨床研鑽を継続し、この度当院に就任となりました。

大学での研鑽では、特に新生児外科を専門として勉強させていただき、出生前診断された外科疾患や、新生児期の手術・栄養管理などを中心に力を入れてまいりました。もちろん、日常疾患や急患対応なども勉強させていただきました。

小児外科はニッチな領域ではあるものの、幅広い疾患への対応が必要になります。鼠径ヘルニアや停留精巣、臍ヘルニアなどの比較的よく目する疾患から、様々な希少疾患、難病、先天性疾患、異物や消化管穿孔の急患対応など、様々な領域をカバーします。各患者さんに必要な検査や治療を、保護者への十分な説明を行ったうえで、安心・安全な医療を提供できるよう日々精進してまいります。

筑豊地区唯一の小児外科専門医常勤施設として、地域の需要にこたえられるよう努力してまいりますので、今後とも小児外科へのご指導・ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ペインクリニック科部長就任にあたって

ペインクリニック科部長 中山 隆 弘

2025年4月よりペインクリニック科部長に就任いたしました、中山隆弘と申します。私は福岡県久留米市出身で、2014年に山梨大学医学部を卒業後、同大学で初期研修を修了し麻酔科学講座に入局、専攻医2年目から緩和ケアに従事しました。2019年4月から当院の連携医療・緩和ケア科に在籍し、その間に佐賀県医療センター好生館で半年間、がん疼痛に対する神経ブロックの研修を積み、飯塚病院での実施体制を整えてきました。

痛みには、身体に生じた異常事態を知らせる警告反応として大切な役割があります。しかし、警告の役割を終えた痛みが長く存在すると、私たちの生活の質（Quality of life：QOL）を低下させてしまいます。ペインクリニックでは、薬物療法や神経ブロック療法などを用いて痛みを和らげ、QOLの維持と向上を目標に治療を行います。当院のペインクリニック科では、「あらゆる疾患で痛みを抱えている患者さんが、筑豊地域でも高度なペインクリニック診療を受けられる環境を作る」ことをビジョンとして取り組んでいきたいと考えています。まずは、がん疼痛に対する神経ブロックを中心に取り組み、少しずつ対象疾患を広げていく予定です。

がん疼痛の治療は薬物療法が基本とされていますが、十分な治療が難しい場合には神経ブロックが必要になります。2022年8月に『がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針』が発表され、がん診療連携拠点病院の要件に、がん疼痛に対する神経ブロックの自施設での実施もしくは他院との連携が加わりました。しかし、がん疼痛に対する神経ブロックの提供は全国的にも課題があり、必要な患者さんへ十分に行き届いていない状況です。当院では、要件に加わる前からこの課題に取り組んでおり、今では日本でも有数の実施件数を誇るようになりました。特に、膵がんによる内臓痛に対する内臓神経ブロックは、早期から積極的に実施するように努めています。

現状では、がん疼痛に対する神経ブロックが中心であり、一般的なペインクリニック科とは異なる状況です。しかし、9月に高周波熱凝固法とパルス高周波療法を行える器械が導入されたため、今後は対象疾患を広げていきたいと考えています。具体的には、帯状疱疹後神経痛や肋間神経痛、各椎間関節症、各神経根症などが対象となる予定です。ペインクリニック外来についても、今後の開設を検討しております。少しずつ環境を整備し安定して診療を提供できるよう努めて参りますので、よろしくお願いいたします。

呼吸器腫瘍内科部長就任にあたって

呼吸器腫瘍内科部長 吉 峯 晃 平

2025年4月1日付をもちまして、呼吸器腫瘍内科部長を拝命いたしました。私は佐賀の弘学館中学高等学校を卒業後、大阪の近畿大学医学部で学び、福岡大学病院での初期研修を経て、2014年より飯塚病院に着任いたしました。以来、一貫して呼吸器診療に携わり、医師としての研鑽の場は常にここ筑豊の地にありました。

私の父と祖父は、筑豊地区の田川で長年、地域医療に携わってまいりました。地域の方々に真摯に向き合う二人の背中を見て育った私にとって、この地域は幼い頃から身近に感じてきた、非常に縁の深い場所です。医師となっても、温かく受け入れてくれたこの地域に医療で恩返しをしたいという想いが、日々の診療の大きな原動力となっております。今回、部長という重責を担うにあたり、筑豊の医療の発展に一層貢献したいと、改めて身の引き締まる思いです。

現在、肺がん診療は新薬の登場により劇的な進化を遂げていますが、高齢化が進む筑豊地域においては、最新の知見を機械的に当てはめるだけでは十分とは言えません。ご高齢の患者さんには、それぞれ大切にされている生活背景や価値観があります。画一的な治療方針を提示するのではなく、ご本人やご家族がどのような生活を望まれているのか、どのような治療バランスがその方にとって最適なのかを、常に患者さんと共に向き合い、自問自答しながら診療にあたっております。

肺がんという大きな困難に立ち向かうには、迅速な診断と多職種によるきめ細かなサポートが欠かせません。当科では、地域の先生方からご紹介いただいた患者さんに対し、胸部CTなどの精密検査を迅速に行い、適切な治療へと滞りなく繋げるスピード感を大切にしています。また、看護師や薬剤師、MSWなどと密に連携し、患者さんが病を持ちながらも「自分らしい生活」を維持できるよう、チーム一丸となって支えてまいります。

部長就任にあたり、これまでの経験を活かし、患者さん一人ひとりに寄り添った質の高い医療を提供できるよう尽力してまいります。地域の先生方には、今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

呼吸器外科部長就任にあたって

呼吸器外科部長 岡 壮 一

2025年10月1日より、飯塚病院 呼吸器外科 部長を拝命いたしました岡 壮一と申します。出身は佐賀県で、佐賀県立佐賀西高等学校卒業であります。

2004年に産業医科大学を卒業後（学生時代はラグビー部に所属し、ポジションはフォワード：フッカー）、同大学第2外科（胸部・呼吸器外科）へ入局し、胸部・呼吸器外科疾患を中心に経験を重ねてまいりました。

2019年からは小倉記念病院 呼吸器外科に赴任し、小倉・門司・京築地域の患者さんを対象に、特に肺癌や縦隔腫瘍に対する外科治療や化学療法を含む集学的治療に取り組んでまいりました。

2021年にはロボット支援下手術（Da Vinci）を導入し、より低侵襲で患者さんの負担が少ない手術の提供に努めてまいりました。その後もロボット手術の経験を積み、日本呼吸器外科学会ロボット手術（呼吸器外科領域）プロクター（指導医）を取得しております。ロボット手術は、従来の手術と比べても繊細・安全・正確・低侵襲な治療が可能となる有用な術式です。

飯塚病院ではすでに多数のロボット手術が行われていますが、今後さらにその利点を生かし、より良い手術、そして患者さん第一の医療を実践してまいります。

また、進行した胸部悪性腫瘍（肺癌・縦隔腫瘍など）に対しては、呼吸器内科・放射線科の先生方と連携し、内科的治療・放射線治療・外科的治療（拡大手術など）を組み合わせた集学的治療により、根治を目指した診療を進めてまいります。

医療業界全体が変革期を迎える中、患者さんのための医療を提供するためには、まず医療を支える側の 知識・体力・精神 の安定と充実が不可欠です。当科では、働くスタッフの 健康・やりがい・チームワーク を大切にしながら、患者さんにより良い医療を提供できるよう、全力を尽くしてまいります。

感染症科部長就任にあたって

感染症科部長 小 出 容 平

この度、2025年4月1日より飯塚病院感染症科の部長（代行）に就任しました小出容平（こいで ようへい）と申します。突然のご挨拶となり恐縮ですが、日頃より地域の感染症診療にご尽力いただいている皆様に心より感謝申し上げます。

私は福岡県宗像市出身で、2016年に佐賀大学医学部を卒業後、医師としての道を歩み始めました。学生時代から呼吸器・感染症領域に興味があり、静岡県浜松市の聖隷三方原病院で初期研修を修了後、長崎大学第二内科（呼吸器内科）で後期研修を行いました。呼吸器疾患に携わる中で感染症診療の奥深さに魅力に感じ、2024年4月から飯塚病院感染症科に所属しております。

21世紀に入り、抗菌薬の濫用に伴う耐性化（AMR）が深刻になり、全世界的に抗菌薬の適正使用と感染対策が重要になってきています。日本においても、高齢化と医療の高度化が進み、長期入院や施設入所を要する患者さんが増加している影響で、抗菌薬の使用頻度が増え、結果的として薬剤耐性菌が増加してきています。この問題は筑豊地域にも影響を与えており、地域全体で薬剤耐性菌の抑制に取り組むことが重要だと考えています。

また、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新たな感染症の流行や、抗菌薬/ワクチンの開発など、感染症分野を取り巻く環境は日々変化しており、多様な時代に対応するために、常に新しい知識を取り入れる柔軟な姿勢を心がけたいと思います。

飯塚病院感染症科は、2019年に初代部長・的野先生によって開設され、院内での感染症診療に関する相談対応や血液培養陽性症例のサポート、広域抗菌薬の適正使用支援などを積極的に行ってきました。さらに外来診療では、一般的なワクチン外来や海外渡航者向けのトラベル外来、HIV感染症や抗酸菌感染症などの治療も担っています。特に新型コロナウイルス感染症が流行した2020年以降は、感染制御に力を入れ、地域の医療機関や介護福祉施設における感染対策も支援してきました。

現在、当科は人員不足の課題に直面していますが、感染管理認定看護師、専従薬剤師、微生物検査技師と協力して効率的に業務を進めています。また教育面でも各職種の専門知識や経験を活用することで、若手医師や新人スタッフのスキルを向上させ、ゆくゆくは感染症分野に明るい医療スタッフを育成し、飯塚地域全体の感染症診療の安定に貢献できるよう、邁進していく所存です。

今後も、地域の患者さんの安全と健康を守るため、抗菌薬の適正使用を推進し、患者さん一人ひとりに合わせた質の高い医療を提供して参ります。日常診療で感染性疾患にお困りの際は、当科までお気軽にご相談ください。まだまだ若輩者ですが、皆様のお役に立てるよう精進致しますので、引き続きご支援とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

形成外科部長就任にあたって

形成外科部長 平 川 愛 子

2025年10月より形成外科部長（代行）に就任いたしました、平川愛子と申します。

出身は福岡県柳川市で、2013年に佐賀大学医学部を卒業後に福岡県大川市の高木病院で研修し、その後久留米大学形成外科・顎顔面外科学講座へ入局しました。大学病院や大牟田市立病院、鹿島市の織田病院、宗像水光会総合病院などを経て2025年4月から飯塚病院に赴任いたしました。医師13年目でまだまだ未熟者ですが、赴任後半年で部長（代行）を務めさせていただくこととなりました。

形成外科は特定の臓器をもちません。疾患は多岐にわたります。外傷、顔面骨骨折、熱傷、瘢痕、皮膚皮下腫瘍、難治性潰瘍、先天疾患、悪性腫瘍切除後の再建、皮膚軟部組織感染症、加齢による眼瞼下垂、美容など様々です。形成外科は皆さまにとって最後の砦だと思っていますし、その覚悟で日々患者さんと寄り添っています。患者さんの中には未だに形成外科を知らない方が多くいますが、形成外科の役割をより多くの方に知っていただき、頼ってもらえる存在となるよう精一杯努力して参ります。

2025年度から常勤が3人となりました。今までは2人体制だったため、当日の紹介や緊急のご相談などがあってもお断りすることがあったかと思いますが、2025年度からはなるべくそのようなことがないよう務めて参りたいと思います。困った症例や急いで診た方が良いと判断された場合はお気軽にお問い合わせください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

〔Ⅱ〕各 部 門 業 績

1. 肝臓内科

肝臓内科部長 田中紘介

2025年は、近隣施設における肝臓専門医の撤退準備の影響もあり、昨年と比較して入院患者数は増加しました。肝臓内科にとって本年も、昨年同様に診療と学術活動を両立できた年であったと感じております。

具体的な診療面では、切除不能肝細胞癌（HCC）で、免疫チェックポイント阻害剤（ICI）併用療法がTKI療法に替わって第一選択肢となっていますが、2025年にはアテゾリズマブ・ベバシズマブ療法、デュルバルマブ・トレメリムマブ療法に加え、ニボルマブ・イピリムマブ療法が認可され、ICI療法の選択肢はさらに拡大しました。一方で、この3種のレジメンの使い分けについて、依然として課題が残されており、バイオマーカーの究明が急がれます。当院ではこの課題に対応すべく、バイオマーカー研究として2025年より大阪大学を中心とした国際多施設共同研究（LIORA）に参加しております。

HCCに対する局所療法に関しては、ラジオ波焼灼術（RFA）が減少傾向にある一方で、サイバーナイフによるSBRTの症例が著しく増加しました（2025年；23症例）。SBRTはRFAと比較して治療時の侵襲性が少なく、高齢患者に対しても選択可能な根治療法であり、患者高齢化を背景に無理のない治療法を選択する傾向が強まっているものと考えられます。

また、最近では胆道癌症例が増加傾向にある印象を受けます。胆道癌は治療法が少なく、非常に予後の厳しい癌腫として知られています。切除不能胆道癌に対しては、従来のゲムシタビン・シスプラチン・TS-1療法に加え、ゲムシタビン・シスプラチン・デュルバルマブ療法（GCD：2022年12月承認）とゲムシタビン・シスプラチン・ペムブロリズマブ療法（GCP：2024年5月承認）が使用可能となり、HCCと同様にICI療法が主流となりつつあります。しかしながら、これら3種のレジメンの使い分けの判断が難しいのが現状です。当院では胆道癌治療の最適化を目指し、2025年より三重大学及び九州がんセンターとの共同研究にも参加しております。

1) 疾患別内訳（重複あり）（2025年）

病名	件数	男	女	平均年齢		
肝細胞癌	286	207	79	75.3		
肝硬変	354	220	134	70.2		
アルコール性肝障害	6	5	1	55.0	総退院患者数	836人
胆管癌	67	42	25	76.5	男	481人
胆嚢癌	14	4	10	77.3	女	355人
胆管細胞癌（肝内胆管癌）	49	32	17	75.7	緊急入院患者数	336人
十二指腸乳頭部癌	8	3	5	79.8	（内救急車数）	79人
急性胆嚢炎・胆管炎	107	56	51	77.3	予約入院	500人
肝膿瘍	12	8	4	74.5	平均在科日数	13.3日
急性肝炎・急性肝不全	36	12	24	55.6	平均年齢	71.8歳
消化管出血	11	5	6	69.7		

2) 検査・治療件数

処置	患者数
経皮的ラジオ波・マイクロ波焼灼療法	53
肝動注塞栓術	71
進行肝癌に対する全身薬物療法新規導入	43
胆道癌に対する全身薬物療法新規導入	14
インターフェロンフリー治療新規導入	29
PTGBD、PTCD、膿瘍ドレナージ	105
腹水濃縮再静注法（CART）	36
ERCP・IDUS・胆道内視鏡	44
放射線治療	47
肝生検、肝腫瘍生検	65

3) 死亡例内訳

死因	患者数
原発性肝癌	15
（肝細胞癌 12）	
（肝内胆管癌 3）	
肝硬変	3
胆嚢癌	1
十二指腸乳頭部癌	2
その他	9
計	30

その他の内訳：多臓器不全 2、誤嚥性肺炎 2、特発性細菌性腹膜炎、重症アルコール性肝炎出血性脳梗塞など

2. 呼吸器病センター 呼吸器内科

呼吸器内科部長 飛野和則

1. 総括

2025年は、14名のスタッフと6名の専攻医で診療にあたりました。

2025年の外来初診（延べ）は1,922件でした。疾患内訳は、腫瘍性疾患 828件（48.3%：うち肺癌 816件）が最多で、次いで感染症 341件（19.9%）、間質性肺疾患 229件（13.3%）、気道疾患 139件（8.1%）の順でした（表1）。その他、気胸 72件（4.2%）、胸水 13件（0.8%）、咯血・血痰 16件（0.9%）、睡眠時無呼吸 18件（1.0%）、の順でした。紹介元については、院外紹介 1,122件（58.4%）、院内紹介 753件（39.2%）、紹介なし 47件（2.4%）でした（表2）。

入院（延べ2,040件）を要した疾患で最も多かったものは肺癌（971件）で、2番目は感染症（387件）、3番目が間質性肺疾患（229件）でした。外来初診（延べ1,716件）でも腫瘍性疾患（828件：うち肺癌816件）が最多で、感染症（341件）、間質性肺疾患（229件）が続きました（表3）。

肺癌については、新薬や新たな治療レジメンが使用可能となり、治療選択肢が拡大しています。その一方で治療方針の決定は年々難しくなっており、呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科・呼吸器外科・放射線治療科・画像診療科等とともに週2回合同カンファレンスを行い、個々の患者さんにとって最適な方針を協議しています。

間質性肺疾患については、昨年に引き続き二つ目の新薬の治験を行いました。福岡県内でも数施設しか行われていない治験であり、筑豊地区の患者さんに新たな治療機会をお届けできることを大変意義深く感じております。皆様のご協力のおかげであり、感謝申し上げます。

喘息については慢性呼吸器疾患看護認定看護師とともに生物学的製剤導入を積極的に進めております。また、喘息・COPD・気管支拡張症の領域で新規治験を計6件開始しており、診療と研究の両輪で治療選択肢の拡充に取り組んでおります。現在、国内で承認されている生物学的製剤は5剤で、当科でも導入・継続治療に対応しております。自己注射を指導し3か月の長期処方とすることで、通院負担や医療費負担の軽減にもつながりますので、管理に難渋されている患者さんがいらっしゃいましたら、いつでもご紹介ください。

これからも知識と技術のアップデートを日々行い、最新の診療を提供できるよう努力してまいります。学会発表、論文発表のアクティビティも保っており、2025年も当科のメンバーが関わった英語論文を20本発表することができました。また「筑豊呼吸器 RENKEI の会」も再開でき、先生方とお顔を合わせる機会を持てました。ますますの連携をお願い申し上げます。今後もこれらの活動を通じ、診療の質の向上、地域医療の発展、飯塚発のエビデンス構築につなげてまいります。

2. 数値実績

2.1 外来初診：疾患別内訳（表1）

区分	延べ症例数（人）	構成比
腫瘍性疾患	828	43.1%
感染症	341	17.7%
間質性肺疾患	229	11.9%
気道疾患（COPD、喘息）	139	7.2%
気胸	72	3.7%
胸水	13	0.7%
咯血・血痰	16	0.8%
睡眠時無呼吸	18	0.9%
その他	266	13.8%
総数	1,922	-

2.2 外来紹介元分析（表2）

区分	件数	全件比
紹介あり（院内＋院外）	1,875	97.6%
院内	753	39.2%
院外	1,122	58.4%
紹介なし	47	2.4%

2.3 入院：疾患別内訳（表3）

区分	延べ症例数（人）	構成比
腫瘍性疾患	982	48.1%
感染症	387	19.0%
間質性肺疾患	229	11.2%
気道疾患（COPD，喘息）	173	8.5%
気胸	76	3.7%
胸水	25	1.2%
喀血・血痰	34	1.7%
睡眠時無呼吸	17	0.8%
その他	117	5.7%
総数	2,040	-

3. 呼吸器病センター 呼吸器外科

呼吸器外科部長 岡 壮一

2025年1月呼吸器外科は安田先生・近石先生・西澤先生の3名でありました。4月からは定直先生が加わり、さらに10月からは、安田先生の異動に伴い、岡が呼吸器外科部長として赴任、小林先生、井上先生も加わり6人体制となりました。呼吸器外科手術総数は350例を超え、そのうち肺癌手術数も190例以上を達成しました。ロボット支援下手術も積極的に行っており、毎週水曜日が呼吸器外科で使用できる日ではありますが予定は常に埋まっている状態です。学会活動も積極的に行い、当科の定直先生は日本胸部外科学会のawardも受賞しております。2026年は呼吸器外科にとってさらなる飛躍の年にすべく、スタッフ一同尽力して参ります。

手術数（2025年1-12月）

疾患名		術式（カッコ内は胸腔鏡手術件数）
原発性肺癌	192	肺部分切除術 57(56) 肺区域切除術 41(39) 肺葉切除術（二葉切除も含む） 81(74) 気管支形成を伴う肺葉切除 3 肺全摘術 0 試験開胸 1(1) 審査開胸など 9(9)
転移性肺腫瘍	29	
縦隔腫瘍	19	
気胸	35	
膿胸	38	
その他	35	
総数	348	

4. 心療内科

心療内科部長 木附 康

2025年も常勤医は1名体制のままでしたが、橋口医師には非常勤医師として引き続き週2回の外来をご担当いただき、大学医局から須藤教授と大島医師にも引き続き月1回ずつ来ていただきました。新患数は、2024年が140名でしたが、2025年は162名と増加しました。疾患（第一病名のみ）の内訳は、狭義の心身症の割合が18%とここ数年は低めで推移しています。心身症であっても有効な薬が開発され、各専門科において心身症として診る傾向があるためと思われます。うつ病・うつ状態の割合が29%とここ数年は高めで推移しています。不安に伴う疾患の割合は14%と、2024年の18%から減少しています。今後も引き続きチーム医療・最適医療を推進し、診療の質の向上に努めたいと思います。

外来新患内訳 (2025年1月～2025年12月)

病 名	計	男性	女性
心身症	30	7	23
循環器心身症	1	0	1
呼吸器心身症	2	0	2
消化器心身症	10	4	6
内分泌系心身症	0	0	0
その他心身症	17	3	14
自律神経失調症	5	1	4
摂食障害	4	0	4
頭痛	2	1	1
その他	6	1	5
うつ病・うつ状態	47	13	34
不安に伴う疾患	23	10	13
パニック障害	5	3	2
不安障害	18	7	11
社交不安障害	0	0	0
強迫性障害	0	0	0
疼痛性障害	3	1	2
不眠症	13	4	9
その他	46	18	28
更年期症候群	1	0	1
適応障害	13	9	4
身体表現性障害	8	2	6
その他の精神疾患	20	7	13
その他の身体疾患	4	0	4
総計	162	53	109

5. 内分泌・糖尿病内科

内分泌・糖尿病内科部長 井上智彰

2025年は、常勤医師6名、非常勤医師1名の7人体制で糖尿病および内分泌疾患の診療を行いました。また、院内コンサルトは年間1,062件を受け、糖尿病・内分泌疾患を中心とした院内診療支援を行いました。

近年、SGLT2阻害薬、非ステロイド性ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬、GLP-1受容体作動薬などの登場により、糖尿病腎症の進展予防が可能となってきました。そこで2025年は、外来および入院患者の腎症評価を強化し、これらの薬剤を病態に応じて適切に使用することに注力しました。

さらに、透析予防指導を中心とした多職種による生活指導を積極的に実施しました。今後も、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師によるチーム医療を充実させ、総合病院の特性を活かした他科との連携を継続し、筑豊地区の医療貢献を目指していきます。

入院患者疾患別内訳（2025年）

病名	総 計	急 患	性別		年齢 (平均値)	在科日数 (平均値)
			男	女		
糖尿病	295	36	171	124	65.0	10.4
2型糖尿病	240	17	147	93	66.2	10.4
1型糖尿病	34	8	13	21	56.7	10.2
低血糖	14	10	8	6	65.4	9.2
ステロイド糖尿病	4	1	2	2	60.3	12.5
膵性糖尿病	3	0	1	2	74.0	14.3
内分泌疾患	70	2	36	34	61.5	6.1
副腎不全	21	1	12	9	60.2	6.0
副甲状腺機能亢進症	16	1	5	11	68.3	5.9
副腎腫瘍	7	0	4	3	73.7	5.7
褐色細胞腫	6	0	5	1	70.0	6.5
原発性アルドステロン症	6	0	3	3	43.3	5.0
下垂体腺腫	3	0	0	3	54.0	8.7
下垂体機能低下症	2	0	2	0	35.5	8.5
甲状腺機能低下症	2	0	1	1	63.0	3.5
中枢性尿崩症	2	0	1	1	45.5	6.5
クッシング症候群	2	0	1	1	70.0	12.0
高プロラクチン血症	2	0	1	1	58.0	4.0
甲状腺機能亢進症	1	0	1	0	48.0	4.0
その他	30	7	11	19	56.0	9.4
その他	13	5	6	7	43.5	8.2
本態性高血圧症	7	0	2	5	53.3	5.1
高カルシウム血症	7	0	1	6	78.0	4.7
低ナトリウム血症	2	1	1	1	67.0	38.0
高カリウム血症	1	1	1	0	61.0	29.0
総計	395	45	218	177	63.7	9.5

6. 消化器内科

消化器内科部長 久保川 賢

現在、消化器内科では、専攻医・非常勤医師を含むスタッフ16名で、内視鏡診療を中心に様々な消化管疾患に対する診療を行っています。筑豊地区随一の急性期病院として、消化管出血や急性胆管炎など、日々多くの急性期疾患に対応をしつつ、各種消化管疾患および胆膵疾患の診療を行っています。

専門的なところでは、早期消化管癌に対する内視鏡手術（切開剥離術：ESD）、高度な手技を要する胆膵内視鏡治療、専門医による静脈瘤治療といった各種内視鏡治療に加え、近年増加傾向にある潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患の診療では、新規治験にも参加しながら、日々診療を行っています。

近隣の開業医の先生方や筑豊地区の病院より日々多くの患者さんをご紹介いただいておりますが、外来や検査で待ち時間が発生することも多々あり、ご迷惑をおかけしております。

次年度は、スタッフの減員もあり、さらなるご迷惑をおかけする事があるかもしれませんが、引き続き安全でより充実した消化器診療を患者さんに提供できるよう、消化器内科・内視鏡センターのスタッフ全員で尽力してまいります。

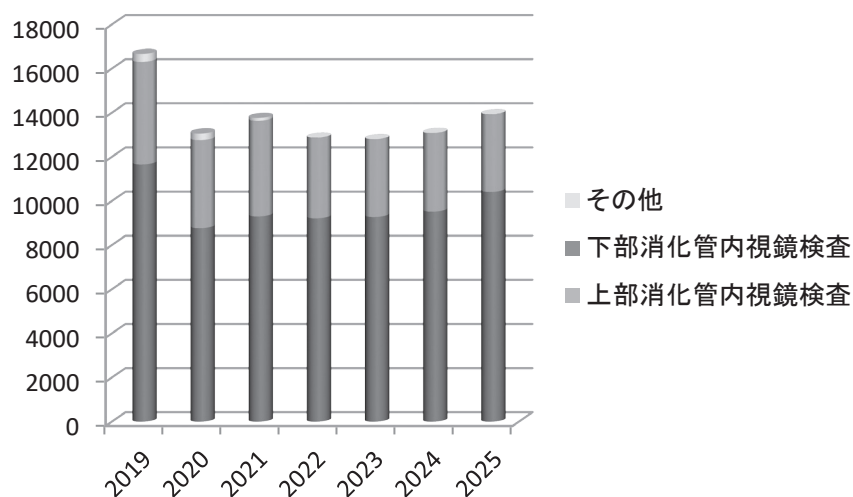
入院患者疾患別内訳（2025 年）

病 名	計	病 名	計
悪性腫瘍	485	良性腫瘍（ポリープ含む）	416
肝・胆・膵悪性腫瘍	241	大腸良性腫瘍	394
大腸悪性腫瘍	98	胃良性腫瘍	13
胃悪性腫瘍	94	小腸良性腫瘍	6
食道悪性腫瘍	31	その他の部位	3
悪性リンパ腫	9	その他	533
小腸悪性腫瘍	4	胆嚢・胆管結石	181
その他の部位	8	腸の憩室性疾患	99
静脈瘤	64	胆嚢・胆管炎	77
食道静脈瘤	43	胆管閉塞	38
胃静脈瘤	16	膵炎	24
その他の部位	5	消化管出血	27
腸炎	48	腸閉塞・狭窄	17
潰瘍性大腸炎	18	貧血	10
クローン病	13	肝・胆・膵その他の疾患	10
虚血性腸炎	10	胃・十二指腸その他の疾患	7
感染性腸炎	5	腸のその他の疾患	5
非感染性腸炎	1	マロリー・ワイス症候群	4
虫垂炎	1	毛細血管拡張	2
潰瘍	58	逆流性食道炎	1
胃潰瘍	24	食道のその他の疾患	1
十二指腸潰瘍	22	ヘルニア	1
その他の部位	12	その他	29
良悪不詳の腫瘍	13	総計	1617
胃腫瘍	5		
肝・胆・膵腫瘍	4		
小腸腫瘍	3		
その他の部位	1		

内視鏡検査件数

	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
上部消化管内視鏡検査	11658	8780	9312	9223	9286	9520	10422
下部消化管内視鏡検査	4656	3983	4335	3656	3522	3566	3516
その他	358	304	122	1	1	0	2
総件数	16767	13140	13672	12655	12879	13118	13985

最近 5 年間の内視鏡検査件数の推移



2025 年消化器内視鏡検査数 (内訳)

診療内容	件数
総数	13985
上部内視鏡検査 (総数)	10422
下部内視鏡検査 (総数)	3516
EUS (上部)	1231
EUS (下部)	196
EUS-FNA	152
EMR (上部)	6
EMR (下部)	343
ESD (上部)	99
ESD (下部)	51
ポリペクトミー (上部)	2
ポリペクトミー (下部)	517
緊急内視鏡検査	389
内視鏡的静脈瘤治療	155
内視鏡的止血術	186
内視鏡的異物摘出術	47
内視鏡的消化管狭窄拡張術	76
経皮内視鏡的胃瘻造設術	13
経皮内視鏡的胃瘻 交換 (抜去)	34
ERCP・EST	667
小腸内視鏡	23
カプセル内視鏡	22
経鼻内視鏡検査	770
その他の内視鏡	2

7. 血液内科

血液内科部長 白土基明

2025年は専攻医の澤邊医師が退職し、小磯医師が代わりに着任しました。また、時短勤務の高松医師の勤務日が増えて、常勤医8名体制（時短勤務含む）で診療を行いました。多発性骨髄腫の初回治療は4種類の薬剤を用いるレジメンに移行し、より深い寛解が得られるようになり、患者さんの長期生存に寄与するものと期待されています。

このような新規治療をいち早く取り入れて、治療成績の向上が得られるよう努めて参ります。

総退院患者数：596 件

外 来 新 患 数：754 件

診 断 名	新患 入院数	退院 患者数	平均 在院 日数	平均 年齢	男	女
急性骨髄性白血病	17	67	28.6	64.7	43	24
急性リンパ性白血病	3	10	33.0	68.6	2	8
骨髄異形成症候群（経過中に化学療法あり）	11	44	19.2	76.8	29	15
骨髄異形成症候群（経過中に化学療法なし）	14	24	12.2	77.0	20	4
慢性骨髄性白血病	8	17	24.5	61.2	11	6
その他の骨髄増殖性疾患	1	3	8.0	53.3	2	1
非ホジキンリンパ腫	72	245	17.9	71.0	115	130
ホジキンリンパ腫	6	17	14.4	59.9	3	14
多発性骨髄腫	15	77	18.7	71.8	46	31
成人T細胞性白血病・リンパ腫	3	20	17.0	79.1	15	5
その他のリンパ増殖性疾患（CLL など）	1	3	16.7	57.3	3	0
再生不良性貧血	4	9	21.6	68.2	5	4
溶血性貧血	6	7	18.7	70.4	3	4
免疫性血小板減少症	14	29	19.2	70.5	12	17
その他	16	24	11.0	63.6	13	11
合 計	191	596	19.2	70.2	322	274

骨髄穿刺件数（2025 年）：634 件

8. 総合診療科

総合診療科部長 小田浩之

1. 入院患者数：新入患者数は3,784名（内転科605名）であった（2024年は3,628名、内転科519名）。入院患者数は平均で130名/日（2024年は139人/日）に減少した。入院患者が増加した中で1日当たりの入院患者数の減少は、3. 地域連携の転院促進によるものである。
2. 対応疾患：高血圧、糖尿病は多くの患者に併存するため、入院病名での上位は肺炎関連593名、尿路感染関連331名、心不全262名と考えられる。
3. 地域連携：連携医療・緩和ケア科（以下、連ケア科）と連携しての稲築病院への出向や、当科の済生会飯塚嘉穂病院への出向と早期転院の取り組みにより、平均在院日数は、16.0日（2024年は18.1日）に減少した。出向を開始以降、済生会飯塚嘉穂病院への転院数は平均35名/月と倍増し、当科における連絡から転院までの期間は13日から5日へと低下した。当科の重症度目標は13.0%の中、平均14.3%となった。
4. 2次救急の受け入れ：地域の救急受け入れの需要に対応した。2025年5月からの開始で、平均32名/月の受け入れを行った。
5. 他科連携：当科からの転科総数は970名で、上位は連ケア科674名、集中治療科50名、外科41名だった。また、当科への転科は605名で、上位は集中治療科313名、整形外科181名、外科24名だった。これらは、重症複合疾患を引き受け、連ケア科に引き継いでゆく院内循環が行われていることを示している。
6. 重症チームの終了：集中治療科の増員に伴い、2009年より開始した重症チームを終了した。
7. 病院総合医コースに6名、家庭医コースに6名の新規専攻医・後期研修医が加わった。

外来初診における頻度の高い主訴

順位	コード	件数
1	A03 発熱	600
2	A04 全身脱力 / 倦怠感	406
3	L14 下腿 / 大腿部の症状 / 愁訴	357
4	A29 全身症状 / 愁訴、その他	313
5	N01 頭痛	273
6	T03 食欲不振	266
7	R05 咳	203
8	B29 血液と免疫機能の症状 / 愁訴	200
9	D09 嘔気	194
10	N17 めまい / めまい感	180
11	R02 息切れ / 呼吸困難	170
11	D01 腹部全体の疼痛 / 激痛	164
13	D06 その他の限局性腹痛	147
13	N06 その他の知覚障害	137
15	D10 嘔吐	133
15	L02 背部の症状 / 愁訴	131
17	L03 腰部の症状 / 愁訴	129
18	L09 上肢の症状 / 愁訴	125
19	L12 手と指の症状 / 愁訴	122
19	R21 咽喉の症状 / 愁訴	122

外来初診患者数 延べ人数 3,437 人

入院・最終診断名

順位	疾患名	合計
1	本態性高血圧症	450
2	インスリン非依存型糖尿病 (合併症を伴わない)	408
3	誤嚥性肺炎	271
4	慢性心不全・詳細不明	262
5	慢性腎不全（非透析状態）	216
6	低カリウム血症	207
7	心房細動	201
8	腎障害、詳細不明	186
9	慢性腎不全（透析状態）	174
10	肺炎、病原体不明、詳細不明	172
11	低ナトリウム血症	170
12	急性腎盂腎炎	169
13	尿路感染症、部位不明	162
14	脳梗塞後遺症・陳旧性脳梗塞	158
15	細菌性肺炎、詳細不明 (他に分類されてない)	150
16	敗血症性ショック	149
17	骨粗鬆症、詳細不明（部位不明）	115
18	詳細不明の認知症	114
19	索状物、癒着性イレウス・腸閉塞	104
20	大腿骨頸部骨折（閉鎖性）	99

入院患者 延べ患者数 3,784 人

9. 膠原病・リウマチ内科

膠原病・リウマチ内科部長 内野愛弓

当科では、前年同様、スタッフ3名・専攻医1名に加え、九州大学からの非常勤医師により診療を継続致しました。

2025年は、初診待機期間短縮を重要課題として取り組み、前年までを大きく上回る新患受け入れ実績を達成しました。通院患者数は2,600名を超え、リウマチ・膠原病診療に対する地域ニーズの高さを改めて実感しております。

当科診療対象領域の潜在的患者数は非常に多い一方、専門医不足と偏在の問題は深刻化の一途です。適切な時期に適切な治療を提供するためには、持続可能な医療体制の構築が不可欠であり、引き続き地域の先生方との連携を大切にしつつ診療に取り組む所存です。今後ともお力添えを賜りたくお願い申し上げます。

患者疾患別内訳（2025年）

外来		
疾患名	総数	新患
関節リウマチ	1211	116
結節性多発性動脈炎	3	0
成人発症スチル病	21	1
リウマチ性多発筋痛症	66	10
全身性エリテマトーデス	151	14
全身性強皮症	105	15
ベーチェット病	34	4
関節炎	7	7
多発性筋炎 / 皮膚筋炎	65	7
ANCA 関連血管炎	80	15
巨細胞性動脈炎	30	1
シェーグレン症候群	256	34
混合性結合組織病	30	3
高安動脈炎	11	3
その他	651	314
総計	2721	544

入院	
疾患名	総数
ANCA 関連血管炎	84
関節リウマチ	28
多発性筋炎 / 皮膚筋炎	21
全身性エリテマトーデス	12
混合性結合組織病	8
リウマチ性多発筋痛症	5
成人発症スチル病	5
全身性強皮症	5
高安動脈炎	3
結節性多発性動脈炎	2
シェーグレン症候群	1
ベーチェット病	1
その他	58
総計	233

10. 連携医療・緩和ケア科

連携医療・緩和ケア科部長 柏木秀行

2025年度も新たなメンバーを迎え、より多様な疾患を有する患者さんの移行期ケアや終末期ケアに尽力しました。事業規模の拡大に伴い、院内外から期待される役割が一層多様化し、専門職間の連携がさらに重要となっています。院内でポストアキュートケアを通じて築いてきた近隣医療機関との連携体制に基づき、医師派遣も開始しました。これらの経験を活かし、「病気になっても過ごしたい過ごし方を、過ごしたい場所でできる地域づくりに貢献する」というミッションのもと、今後も院内外の関係各所と連携しながら、より良い医療の提供を目指してまいります。

< 2025年1月～12月 依頼状況 >

診療科	疾患	症例数	診療科	疾患	症例数
救急外来	膵癌	26	消化器内科	膵癌	71
	胃癌	16		十二指腸乳頭部癌	9
	直腸癌	12		胆管癌	7
	乳癌	8		胃癌	4
	食道癌	8		原発不明癌	2
	肝癌	8		S状結腸癌	2
	肺癌	7		食道癌	2
	前立腺癌	6		肺癌	1
	甲状腺癌	6		乳癌	1
	中咽頭癌	5		食道胃接合部癌	1
	腎癌	5		非がん疾患	6
	悪性リンパ腫	5		合計	106
	下行結腸癌	5	外科	食道癌	25
	骨髄異形成症候群	4		胃癌	23
	盲腸癌	4		横行結腸癌	10
	S状結腸癌	4		乳癌	9
	膀胱癌	3		直腸癌	7
	胆管癌	3		S状結腸癌	7
	白血病	3		上行結腸癌	6
	尿管癌	2		胆のう癌	4
	卵巣癌	2		十二指腸乳頭部癌	3
	子宮頸癌	2		盲腸癌	2
	下咽頭癌	2		膵癌	2
	横行結腸癌	2		食道胃接合部癌	2
	舌癌	2		肛門癌	1
	上行結腸癌	2		下行結腸癌	1
	副腎癌	1		原発不明癌	1
脳神経外科	胆のう癌	1		肝癌	1
	十二指腸乳頭部癌	1		胆管癌	1
	上咽頭癌	1		非がん疾患	3
	脊髄腫瘍	1		合計	108
	骨肉腫	1	呼吸器外科	肺癌	8
	樹状細胞腫瘍	1		合計	8
	原発不明癌	1	呼吸器内科	肺癌	50
	肛門癌	1		膵癌	1
	子宮体癌	1		尿管癌	1
	縦隔悪性腫瘍	1		悪性中皮腫	1
	脂肪肉腫	1		悪性リンパ腫	1
	食道胃接合部癌	1		脂肪肉腫	1
	合計	165		合計	55
脳神経内科	肺癌	2	循環器内科	悪性リンパ腫	4
	尿管癌	1		乳癌	2
	直腸癌	1		骨髄異形成症候群	2
	軟骨肉腫	1		心不全	2
	合計	5		非がん疾患	3
集中治療科	胆管癌	1		合計	13
	咽頭癌	1	泌尿器科	腎癌	10
	S状結腸癌	1		膀胱癌	6
	悪性リンパ腫	1		前立腺癌	5
	合計	4		尿管癌	2
皮膚科	有棘細胞癌	1	腎臓内科	非がん疾患	1
	悪性黒色腫	1		食道癌	1
	合計	2		悪性リンパ腫	1
				横行結腸癌	1
			心臓血管外科	非がん疾患	2
				合計	5
			放射線治療科	非がん疾患	1
				合計	1
				原発不明癌	1
				合計	1

診療科	疾 患	症例数	診療科	疾 患	症例数
総合診療科	胃癌	17	血液内科	悪性リンパ腫	102
	乳癌	15		白血病	33
	悪性リンパ腫	8		多発性骨髄腫	22
	肺癌	7		骨髄異形成症候群	20
	前立腺癌	7		膀胱癌	2
	食道癌	7		樹状細胞腫瘍	1
	直腸癌	6		縦隔悪性腫瘍	1
	膀胱癌	5		非がん疾患	6
	脾癌	5	合計		187
	骨髄異形成症候群	5	婦人科	子宮頸癌	25
	S状結腸癌	5		卵巣癌	15
	上行結腸癌	4		子宮体癌	10
	尿管癌	3		子宮癌	9
	下咽頭癌	3		子宮癌肉腫	4
	十二指腸乳頭部癌	3		骨盤腫瘍	1
	腎癌	3	合計		64
	脊髄腫瘍	2	ペインクリニック科	脾癌	1
	原発不明癌	2	合計		1
	悪性黒色腫	2	連携医療・緩和ケア科	脾癌	28
	多発性骨髄腫	2		肺癌	25
	盲腸癌	1		乳癌	14
	中咽頭癌	1		直腸癌	13
	膠芽腫	1		子宮体癌	12
	肝癌	1		S状結腸癌	12
	下行結腸癌	1		悪性リンパ腫	7
	横行結腸癌	1		卵巣癌	6
	回盲部癌	1		膀胱癌	6
	子宮癌	1		子宮頸癌	6
	胆管癌	1		腎癌	6
	歯肉癌	1		多発性骨髄腫	5
	白血病	1		前立腺癌	5
	非がん疾患	9		胃癌	5
	合計	131		脂肪肉腫	4
				甲状腺癌	4
				十二指腸乳頭部癌	4
				肝癌	4
				横行結腸癌	3
				食道癌	3
				顎下腺癌	3
				下行結腸癌	3
				胆のう癌	2
				中咽頭癌	2
				胆管癌	2
				下咽頭癌	2
				外陰部癌	2
				尿管癌	2
				原発不明癌	2
				上顎洞癌	2
				耳下腺癌	1
				虫垂癌	1
				乳房外パジェット病	1
				陰茎癌	1
				軟骨肉腫	1
				外耳道癌	1
				声門上癌	1
				舌癌	1
				膠芽腫	1
				上行結腸癌	1
				上皮肉腫	1
			合計		205
肝臓内科	肝癌	14			
	胆管癌	13			
	胆のう癌	3			
	十二指腸乳頭部癌	3			
	多発性骨髄腫	1			
	胃癌	1			
	腎癌	1			
	非がん疾患	1			
	合計	37			
耳鼻咽喉科	中咽頭癌	3			
	舌癌	2			
	声門上癌	1			
	上顎洞癌	1			
	下咽頭癌	1			
	顎下腺癌	1			
	悪性リンパ腫	1			
	原発不明癌	1			
	合計	11			
整形外科	白血病	1			
	乳癌	1			
	合計	2			
歯科口腔外科	頬粘膜癌	3			
	合計	3			
膠原病・リウマチ内科	非がん疾患	1			
	合計	1			
リエゾン精神科	乳癌	1			
	合計	1			

★病棟

入棟患者数 486 人（新規：426 人）

< 平均在院日数 >

死亡	全体
16.1	15.9

< 転帰 >

死亡	在宅	転院	継続
259	152	55	20

< 自宅退院後転帰 >

死亡	再入院	療養中
44	52	56

★チーム

介入患者数 1148 人（新規：693 人）

< 平均在院日数 >

死亡	全体
10.3	13.3

< 転帰 >

死亡	自宅退院	継続	転院	緩和ケア病棟	施設入所	介入終了
93	589	26	94	303	38	5

< 在宅診療導入数 >

62

11. ペインクリニック科

ペインクリニック科部長 中山隆弘

2025年は当科が新設された年であり、これまで連携医療・緩和ケア科で行ってきた取り組みの継続だけでなく、新たな取り組みを行いました。がん性疼痛に対する神経ブロックについては引き続き全国的に高い水準を保つことができました。慢性疼痛に対する神経ブロックについても実施可能な種類を拡大し少しずつ件数を増やしました。それ以外には、無痛分娩開始の準備にも関わらせていただき主にマニュアルやフローの作成を行いました。現在は外来が整っていないため紹介受診を制限していますが、可能な範囲で相談に乗りたいと考えています。安定して提供できるように今後も関係各所と連携して取り組んで参ります。

< 2025 年 1 月～ 12 月の実施状況 >

がん性疼痛に対する神経ブロック

内臓神経ブロック	19 件
不対神経節	2 件
サドルブロック	2 件
末梢神経ブロック	1 件

慢性疼痛に対する神経ブロック

星状神経節ブロック	1 件
神経根ブロック	1 件
腕神経叢ブロック	1 件
末梢神経ブロック	多数
トリガーポイント注射	多数

その他

CV ポート造設術	69 件
-----------	------

12. 放射線科

放射線科統括部長 佐々木智成

飯塚病院における放射線診療（画像診断・IVR・放射線治療）を画像診療科と放射線治療科が一体となって担うようになって5年目となりました。引き続き10以上の診療科の先生方と定期的にカンファランスを実施し、多くの症例について検討を行い、迅速かつ的確な画像診断とIVR/放射線治療を提供しています。また、カンファランスでは診断や治療の結果について可能な限り各科からフィードバックを受けることで、スタッフそれぞれの診断・治療のレベルの向上につなげています。

13. 画像診療科

画像診療科部長 三浦亘智

帝国データバンクの調査によると民間が経営する「病院」約900法人のうち、2024年度の損益動向を調査した結果、本業である医療活動の利益を示す「営業損益」で、「赤字」経営だった病院の割合は61.0%だった。前年度（54.8%）に比べて6.2pt上昇し、過去20年で最悪水準となりました。開業医などの「診療所」（対象：約700法人）での割合は38.4%だったのに対し、病院経営の赤字割合は約1.6倍となっています。2024年度は診療報酬が+0.88%のプラス改定となった一方、新型コロナウイルス感染症関連補助金の終了、人件費や光熱費、医療材料費などのコスト上昇ペースが上回り、結果的に収益は増えても利益が減る「増収減益」に陥った病院が多く見られました。

飯塚病院画像診療科が行う検査（CT、MRI、RI、PET-CT）の件数は増加していますが、放射線科医のマンパワー不足や診断機器の老朽化が問題になっています。検査の精度やレポートの質を維持するためにも新しい機械、技術の導入が必要です。CTやMRIなど必要な台数は所有できていますが、古い機器も多く検査の精度を上げるためにも新しい機器への定期的な更新は必須です。また画像診断支援AIを活用し医師の読影・解析作業を効率化することも必要です。いずれも多額の費用がかかり、苦しい病院経営状況では簡単には改善できませんが、筑豊40万医療圏に質の高い検査を提供する事は飯塚病院画像診療科の使命であり何とか努力していきたいと考えています。

1) 診療実績

（画像診療科で検査、報告書作成、及び治療を施行した件数・症例数）

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
C T	41,151	38,811	41,813	43,538	46,370
M R I	10,690	10,656	11,324	11,701	12,118
マンモグラフィ総検査件数	3,731	3,617	4,113	4,324	4,498
マンモグラフィ検査件数（ドック以外）	1,225	1,118	1,410	1,582	1,629
尿路造影検査	151	159	144	122	94
P E T－C T	953	804	899	831	886
核医学検査（P E T－C T以外）	1,142	935	732	710	633
I V R・血管造影	374	339	355	338	383

2) IVR・血管造影の内訳

	2025年
肝細胞癌の肝動脈化学塞栓術	68
出血性病変の止血術	72
気管支動脈塞栓術（BAE）	16
リンパ管造影	1
CTガイド下生検・ドレナージ※ ¹	13
頭部血管造影※ ²	147
肝ラジオ波焼灼術（RFA）※ ³	55
その他	11
合計	383
緊急血管造影※ ⁴	71(18.5%)

※¹ 当科施行分

※² 脳神経外科施行

※³ 肝臓内科施行

※⁴ 当科施行分

14. 放射線治療科

主任部長 佐々木智成

今年度から診療体制は常勤放射線治療医2名となり、待望の強度変調放射線治療（IMRT）を開始しました。根治的治療を主体にあらゆる部位を適応としていますが、一部の症例では緩和照射にも導入しています。昨年に引き続き2名の非常勤医、および診療放射線技師・看護師との多職種連携のもと、年間約600症例に対応しています。

院内紹介については「依頼から1週間以内の初診」を目標とし、高精度な治療を早期に提供できるよう努めています。他院からのご紹介は原則として該当診療科経由をお願いしておりますが、乳房術後照射については可能な限り当科で直接お引き受けしています。しかしながら、現状の診療体制は稼働の上限に達しており、他院からのご紹介に関しては受け入れを制限せざるを得ない状況です。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

定位放射線治療専用装置“サイバーナイフ”は稼働4年目を迎えました。頭部・頭頸部および体幹部に対する定位放射線治療を年間100-110件程度行っています。脳転移、原発性・転移性肺癌、前立腺癌、肝臓癌などに加え、近年はオリゴ転移・脊椎転移なども治療対象としています。

診療実績

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
放射線治療件数（照射件数）	7,908	8,330	8,499	9,308	9,449
放射線治療					
新規患者数（新患実人数）	295	359	390	459	521
患者実人数（新患＋再患）	336	408	450	529	593
高精度放射線治療					
定位放射線治療患者数（頭頸部に対する）	0	16	33	31	28
（体幹部に対する）	2	20	54	72	87
原発巣別新規患者数（新患実人数）					
脳・脊髄	11	4	9	8	12
頭頸部（甲状腺を含む）	27	28	21	26	26
食道	20	19	21	18	12
肺・気管・縦隔	74	92	91	104	107
（うち肺）	74	91	89	100	102
乳腺	43	55	87	74	116
肝・胆・膵	28	31	38	51	53
胃・小腸・結腸・大腸	14	30	27	40	33
婦人科	22	32	21	25	19
泌尿器系	36	37	49	78	92
（うち前立腺）	21	17	32	50	70
造血器リンパ系	15	22	17	24	30
皮膚・骨・軟骨	2	0	1	2	3
その他（悪性）	3	4	1	2	4
良性	0	5	6	7	8
（15歳以下の小児例）	0	0	0	0	0

15. リエゾン精神科

リエゾン精神科部長 猪狩圭介

リエゾン精神科は、飯塚病院に通院中および入院中の患者さんが抱える精神症状や心理社会的問題に対し、身体科と連携しながら精神科医療を提供しています。せん妄、認知症、抑うつ、不安、不眠、自殺企図後対応などを主な対象とし、身体疾患の治療が円滑に進むよう支援しています。

リエゾン・コンサルテーション活動を通じて一般病棟入院患者さんへの診療を行い、薬物療法に加えて環境調整や非薬物的介入も重視しています。また、認知症ケアチームと連動し、院内におけるせん妄・認知症対応の質向上に取り組んでいます。

精神科閉鎖病棟（西1階）では、自殺企図後の患者さんや身体疾患を合併する精神疾患患者さんの入院診療を行い、身体科との共同管理にも対応しています。なお、西三階の心身合併症センターは、病院全体の病床機能再編の一環として2025年4月に閉鎖され、以降は一般病棟を中心としたリエゾン診療体制へ移行しています。

外来診療に加えて、デイケアおよび訪問看護を運営し、退院後や外来通院中の患者さんに対して、生活背景を踏まえた継続的な支援を行っています。また、院内外の関係部署や地域機関と連携し、自殺未遂者支援や周産期メンタルヘルスなど、地域特性を踏まえた取り組みも行っています。

初期研修医や専攻医、コメディカルを対象とした教育活動や院内研修を通じて、総合病院における精神科医療の理解促進に努めています。今後も、筑豊地域における総合病院精神科としての役割を意識し、多職種・多診療科との連携を基盤に、安全で質の高い医療の提供を目指していきます。

（１）2025 年 1 月～ 12 月のリエゾン紹介新患数

1) 精神医学的診断別

ICD Fコード	件数
F 0 器質性精神障害	215
F 1 精神作用物質使用障害	12
F 2 統合失調症	45
F 3 気分障害	50
F 4 神経症性障害	99
F 5 生理的障害	24
F 6 パーソナリティ障害	9
F 7 知的障害	21
F 8 心理的発達の障害	4
F 9 小児・青年期の行動・情緒障害	8
G 2 アカシジア、レストレスレッグス症候群	0
G 3 レビー小体型認知症	0
G 4 睡眠障害	0
R 4 意識障害、精神運動興奮、昏迷状態	5
なし	0
総計	492

2) 依頼診療科別

診療科	件数
総合診療科	177
連携医療・緩和ケア科	44
外科	42
呼吸器内科	36
集中治療科	24
循環器内科	21
脳神経外科	20
整形外科	16
脳神経内科	15
肝臓内科	15
救急科	11
血液内科	10
腎臓内科	9
消化器内科	7
耳鼻咽喉科	7
心臓血管外科	6
呼吸器外科	5
内分泌・糖尿病内科	5
産科	5
婦人科	4
泌尿器科	4
小児科	4
眼科	3
皮膚科	1
膠原病・リウマチ内科	1
漢方診療科	0
歯科口腔外科	0
形成外科	0
感染症科	0
総計	492

（２）2025 年 1 月～ 12 月外来新患数内訳

ICD Fコード	件数
F0 器質性精神障害	6
F1 精神作用物質使用障害	2
F2 統合失調症	10
F3 気分障害	11
F4 神経症性障害	16
F5 生理的傷害	2
F6 パーソナリティ障害	1
F7 知的障害	7
F8 心理的発達の障害	2
F9 小児・青年期の行動・情緒障害	3
G4 睡眠障害	0
F99 他に特定できないもの	0
総計	60

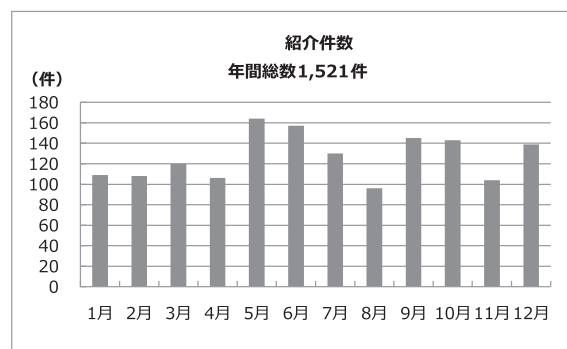
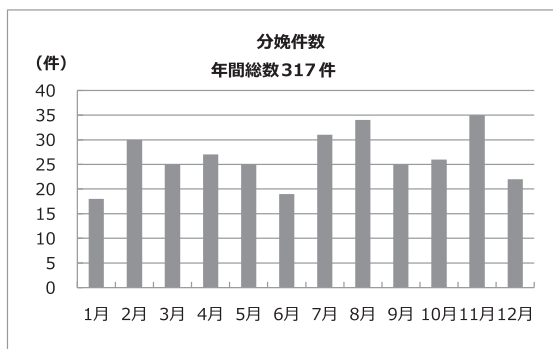
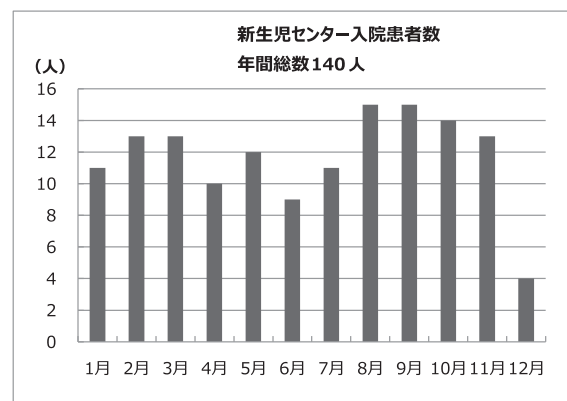
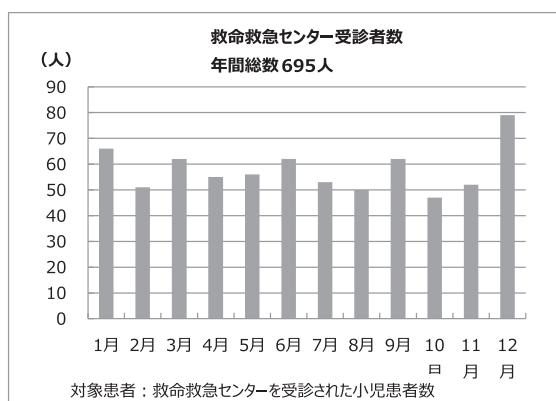
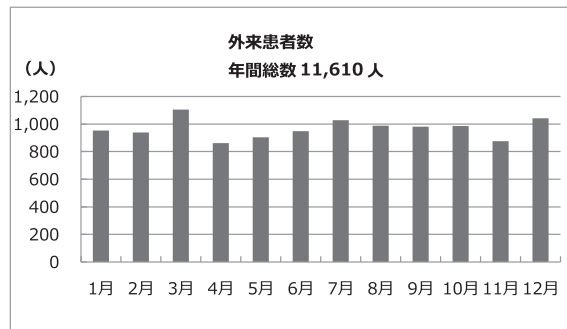
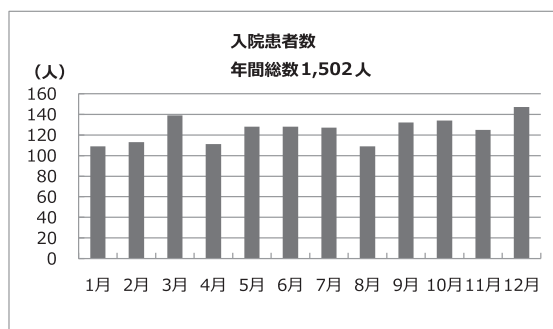
(3) 西 1 階病棟退院患者疾患別内訳 (2025 年 1 月～ 12 月)

病 名	統計	急患	性別		年齢	在科日数
			男	女	(平均)	(平均)
F0 症状性を含む器質性精神障害	13	4	4	9	72.8	89.6
アルツハイマー病の認知症, 詳細不明	3	0	1	2	83.0	140.3
器質性精神障害, 詳細不明	3	1	1	2	53.0	74.0
詳細不明の認知症	3	1	1	2	83.3	69.7
軽度認知障害	2	1	0	2	65.5	53.5
ピック病の認知症	1	1	0	1	87.0	183.0
高次機能障害	1	0	1	0	71.0	23.0
F1 精神作用物質使用による精神 および行動の障害	5	2	3	2	56.4	105.0
アルコール依存, 神経症	2	0	0	2	46.5	55.5
アルコール性コルサコフ症候群	1	1	1	0	48.0	383.0
アルコール離脱せん妄	1	1	1	0	81.0	8.0
揮発性溶剤による精神及び 行動の障害・精神病性障害	1	0	1	0	60.0	23.0
F2 統合失調症、統合失調型障害 および妄想性障害	29	13	7	22	63.2	191.8
統合失調症, 詳細不明	19	8	7	12	57.1	86.8
妄想性障害	4	2	0	4	77.5	80.3
統合失調感情障害, 詳細不明	3	0	0	3	68.7	1146.0
その他の非器質性精神病性障害	2	2	0	2	78.0	73.0
急性一過性精神病性障害, 詳細不明	1	1	0	1	75.0	8.0
F3 気分障害	23	7	6	17	61.5	53.3
双極性感状障害・躁うつ病・詳細不明	12	6	4	8	51.4	36.4
うつ病エピソード, 詳細不明	8	1	2	6	74.8	87.3
抑うつ状態, 詳細不明	3	0	0	3	66.3	30.7
F4 神経症性障害、ストレス関連障害 および身体表現性障害	17	3	7	10	58.2	66.5
適応障害	11	2	6	5	54.7	53.5
恐慌性パニック障害・発作性不安神経症	4	1	1	3	58.0	112.8
身体表現障害, 詳細不明	1	0	0	1	71.0	25.0
全般性不安神経症	1	0	0	1	84.0	66.0
F7 知的障害 (精神遅滞)	4	1	4	0	50.5	9.5
重度精神遅滞 (行動面の機能障害不明)	2	1	2	0	48.5	10.0
軽度精神遅滞・行動面の機能障害が不明	1	0	1	0	56.0	14.0
精神遅滞, 詳細不明 (行動面の機能障害不明)	1	0	1	0	49.0	4.0
F8 心理的発達障害	1	0	0	1	17.0	24.0
広汎性発達障害, 詳細不明	1	0	0	1	17.0	24.0
総計	92	30	31	61	61.8	105.1

16. 小児科

小児科部長 岡松由記

小児混合病床と母子総合医療センターの新生児部門を、北第五病棟ワンフロアに併設しています。病棟には保育士を配置し入院生活のサポート向上を図っております。小児科・小児外科外来を統合した小児センターでは、一般診療とともに、神経、内分泌、アレルギー、循環器、腎臓、新生児の専門外来を設置しております。中学を卒業する慢性疾患の患者さんの、成人科へのトランジションを支援いたします。小児医療の課題である在宅医療、虐待予防のために、拠点病院として多職種・多機関と連携して取り組んでおります。これからも筑豊地域のすべての子どもたちと、かかりつけ医療機関のご要望に応じていきます。



17. 腎臓内科

腎臓内科部長 藤崎毅一郎

近年、当科への新患紹介患者数が漸増しておりましたが、2025年もその傾向は持続しております。これに伴い2025年は入院患者数、手術件数、腎生検件数はやや増加しました。これは地域の医療機関の皆様が当科を信頼してご紹介して下さるお陰であり、感謝の念に堪えません。2023年～2024年のPTA件数は過去最高件数でしたが、2025年もほぼ同等でありました。筑豊地域からのシャントトラブルのご紹介が増加していることが要因の一つと考えております。今後も近隣施設との連携をより一層深める診療を進める方針です。

日本全体に言えることではありますが、透析導入原疾患は糖尿病性腎症が依然として4割を超える状況です。このことは当院含め筑豊地域も同様であります。これまで通り糖尿病からの透析導入を抑止することが喫緊の課題と考えております。CKD患者紹介の地域連携システムの整備・拡充を2023年から再開しております。本年もより一層行政機関・地域医療施設の皆様と協力して、慢性腎臓病増悪、末期腎不全を抑制すべく、日々の診療連携に力を注ぐ所存です。

◆腎臓内科 診療実績データ（2025年1～12月）

	項 目	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
1	外来実患者数	12,842	12,580	13,058	11,316	10,941	10,794	10,947	11,347	11,256
2	入院患者数	600	639	609	713	826	815	878	910	919
3	新患紹介数	200	249	262	220	237	253	261	291	333
4	入院透析実患者数（腎臓内科）	165	219	195	229	250	228	208	236	246
	”（他科依頼）	288	318	314	335	377	360	372	401	423
5	入院透析延べ件数（腎臓内科）	1,257	1,672	2,227	2,227	2,460	2,096	2,267	2,146	2,490
	”（他科依頼）	3,189	3,284	3,278	3,787	3,919	3,397	3,954	4,098	4,186
6	院内新患紹介数（紹介状があるもの）	255	263	273	280	292	254	217	218	269
7	内シャント術、PD カテーテル留置術	123	175	142	125	152	120	120	118	132
8	PTA（血管内形成術）	109	159	191	233	368	418	472	519	497
9	年間死亡患者数	6	15	12	23	15	10	14	12	19
10	腎生検	50	43	39	41	50	33	38	24	34

◆新規透析導入患者数推移

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
腹膜透析	6	7	12	14	12	9	10	7	11	9	12	10	11
血液透析	75	62	65	58	67	98	85	102	106	79	74	90	78
合 計	81	69	77	72	79	107	95	109	117	88	86	100	89

◆専門医、認定の修得件数

- 1 日本内科学会認定内科医 3
- 2 日本内科学会総合内科専門医 2
- 3 内科専門医 1
- 4 日本透析医学会専門医 3
- 5 日本透析医学会指導医 1
- 6 日本腎臓学会腎臓専門医 3
- 7 日本腎臓学会指導医 1
- 8 日本腹膜透析医学会認定医 1
- 9 VAIVT 認定専門医 1
- 10 アクセス学会 VA 血管内治療認定医 1

◆新規透析導入患者 原疾患、平均年齢推移

		2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2023 年	2024 年
導入患者 主要 原疾患	糖尿病性腎症	47.7%	55.6%	46.5%	48.8%	44.0%	33.7%
	慢性糸球体腎炎	21.1%	13.7%	22.7%	19.8%	27.0%	30.3%
	腎硬化症	21.1%	14.5%	21.5%	20.9%	18.0%	27.0%
	多発性嚢胞腎	0.9%	1.7%	0.1%	2.3%	4.0%	3.4%
	慢性腎盂腎炎・間質性腎炎	0.0%	1.7%	0.2%	0.2%	1.0%	1.1%
	急速進行性糸球体腎炎	3.7%	3.4%	0.3%	0.3%	2.0%	3.4%
	自己免疫性疾患に伴う腎炎	0.9%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
	不明	1.8%	0.9%	0.2%	0.2%	4.0%	0.0%
全体	導入時年齢平均値	72.9	70.3	70.4	71.5	70.8	73.4
	最高齢（歳）	94	93	92	93	92	91
	最年少（歳）	34	41	20	33	38	33
男性	年間導入患者数	68	75	52	55	83	44
	導入時年齢平均値	72.9	68.7	69.4	70.3	69.6	71.9
	最高齢（歳）	94	93	92	93	92	91
	最年少（歳）	34	41	38	33	38	33
女性	年間導入患者数	41	42	36	31	17	45
	導入時年齢平均値	73	73	71.8	74	76.4	74.8
	最高齢（歳）	91	92	90	90	90	89
	最年少（歳）	37	50	20	49	57	49

◆腎生検症例の診断疾患

	原疾患名	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
1	IgA 腎症	13	10	16	6	5
2	ANCA 関連血管炎					
	MPO-ANCA 型	7	5	3	5	6
	PR3-ANCA 型	0	2	0	0	0
3	抗 GBM 型糸球体腎炎	1	0	0	0	0
4	微小変化型ネフローゼ症候群（MCNS）	7	1	4	5	7
5	特発性膜性腎症（MN）	7	5	3	0	4
6	巣状分節性糸球硬化症（FSGS）	2	0	3	1	1
7	膜性増殖性糸球体腎炎（MPGN）（C3 腎症含む）	1	0	0	1	0
8	紫斑病性腎炎	0	1	0	0	0
9	その他					
	糖尿病性腎症	4	1	1	0	3
	腎硬化症	2	2	1	1	2
	尿細管間質性腎炎	3	3	1	0	3
	ループス腎炎	1	0	1	2	0
	アミロイドーシス	1	1	0	1	1
	非ネフローゼの一次性 MPGN（C3 腎症含む）	0	0	0	0	0
	非 Ig A, メサングウム増殖性腎炎	0	0	1	1	0
	IgG4 関連腎臓病	0	0	1	0	0
	妊娠性高血圧	0	0	1	0	0
	その他	1	2	2	1	2
	腎生検合计数	50	33	38	24	34

18. 循環器内科

循環器内科統括部長 西 淳一郎

循環器医療技術の高度化や診療領域の多角化、また包括的心不全診療の社会的ニーズの高まりを受け、2025年より、「心不全ケア科」を「心不全科」に改編するとともに、統括部長下、循環器内科部長および心不全科部長を配し、循環器診療を地域医療圏内で完結できるよう体制の強化を図りました。

そのうえで、2024年より開始した補助人工心臓装置（VAD）の入院受入れを拡大し、2025年は3症例となりました。さらにVAD管理施設認定を取得できたため、2026年より定期外来通院までサポートを広げる予定です。

また医療技術においては、不整脈カテーテル治療分野で新規治療技術（パルス電場焼灼療法 PFA: 短いパルスの強い電場により、ターゲット領域の大切な細胞は保護しながら、心筋細胞のみを選択的に不可逆的電気穿孔を生じさせて死滅に導く）を100例以上に適応し、心臓周辺の組織（血管・神経・消化管）への障害を回避してより安全に治療ができるようになりました。

循環器医療技術の高度化や診療領域の多角化と社会的ニーズの高まりに答えるべく、関係各部署の方々にもタスクシフトや体制改善を通じてたくさんのサポートを頂いております。今後も引き続き当科をご支援頂きますと幸いです。

「2025 年循環器内科診療実績」

総入院数 1,660 件，急患 739 件（45%），死亡数 35 件（2%），
平均年齢 73.0 歳，平均在院日数 8.9 日

「2025 年疾患別主な入院症例数」

心不全 (DPC 050130)	376
急性心筋梗塞 (DPC 050030)	248
心房細動	278
無症候性心筋虚血	121

「心臓カテーテル検査・治療総数」：1,698 件

- 冠動脈造影：589 件
- 冠動脈インターベンション（PCI）：461 件　うち緊急 PCI：218（47%）
- 末梢血管インターベンション（EVT）：64 件
- カテーテルアブレーション：309 件
 - 心室頻拍 4 心室期外収縮 4
 - 心房細動 250（うちクライオバルーン 71）
 - 発作性上室性頻拍 16 心房粗動・心房頻拍 71
- デバイス埋め込み術：133 件（新規）
 - 永久ペースメーカー埋め込み術 89
 - 埋め込み型除細動器埋め込み術 8
 - 両心室ペースメーカー埋め込み術 5
 - 除細動機能付き両親室ペースメーカー埋め込み術 3
- 構造的な疾患インターベンション：37 件
 - 経皮的中隔心筋焼灼術（PTSMA）：1
 - 経皮的経静脈的僧帽弁交連裂開術（PTMC）：3
 - 経皮的大動脈弁形成術（PTAV）：0
 - 経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）：17（＊循環器病センター成績）
 - 経皮的僧帽弁接合不全修復術（MitraClip）：7（＊循環器病センター成績）
- その他 下大静脈フィルター：3

19. 心不全科

心不全科部長 松川龍一

1. 概況と多科連携の深化

「心不全パンデミック」と称される時代背景の中、当院の心不全入院総数は増加の一途を辿っています。

2025年は、循環器専門医による高度な介入を要する症例の診療にあたる一方で、高齢多疾患併存心不全や侵襲的治療を希望されない症例については、総合診療科や緩和ケア科との強固な連携により、病院全体で心不全診療の質を支える体制を継続・発展させました。

2. 重症心不全診療とLVAD体制の整備

補助人工心臓装置（VAD）の技術進歩により、かつては救命困難であった重症心不全への対応が可能となっています。2024年から開始した九州大学病院とのshared care（共同管理）をさらに前進させるべく、2025年はVAD外来の設立準備（管理施設の認定取得およびVAD管理医の資格取得を完了）、症例の蓄積を行い、九州大学病院での植込術後の転院受け入れから、外来心臓リハビリテーションまでの一連のケアをチームで実践し、複数の新規VAD装着症例を経験しており、「地元完結型」の高度心不全医療に向けた基盤を整備しました。

3. 心不全多職種チームの再編成と患者教育

「地域で診る、地域で看取る」体制の質を向上させるため、心不全多職種チームを再編成し、以下のツールを刷新しました。

- ・心不全手帳の全面改訂：患者自身が病態を把握し、自己管理を徹底できるよう内容を充実させました。
- ・「心不全患者教育プログラム」の作成：看護師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士などの多職種が共通の指標で指導を行える体制を構築しました。

4. 診療の質の向上とDX（デジタルトランスフォーメーション）

医療の標準化と効率化（働き方改革への対応）を両立するため、電子カルテを活用した新たな取り組みを開始しました。Simple GDMT scoreの導入（心不全標準治療の実施内容を「見える化」するためのスコアを電子カルテに実装し、適切な薬物療法の提供を推進しています）、診療サマリーの全面改訂（必要な情報の漏れを防ぐとともに、データの自動挿入機能を活用することで、作成時間の短縮と情報の精度向上を両立させました）

5. 地域連携とアウトリーチ活動

飯塚市内の循環器疾患在宅診療拠点病院との連携に加え、出向先である潁田病院との連携による地域医療体制を強化しています。

- ・緩和ケア連携の強化：潁田病院に出向し、緩和ケア科とともに定期的な症例カンファレンスを実施することで、心不全の緩和ケアおよび終末期医療の質を高めています。
- ・トランジションチームの活動：慢性心不全看護認定看護師らによる週1回の出向教育指導（アウトリーチ活動）を継続し、急性期から療養・在宅へと円滑に移行できる体制を推進しました。

6. 2025年 診療実績

- ・心不全入院（DPCコード 050130）：397件

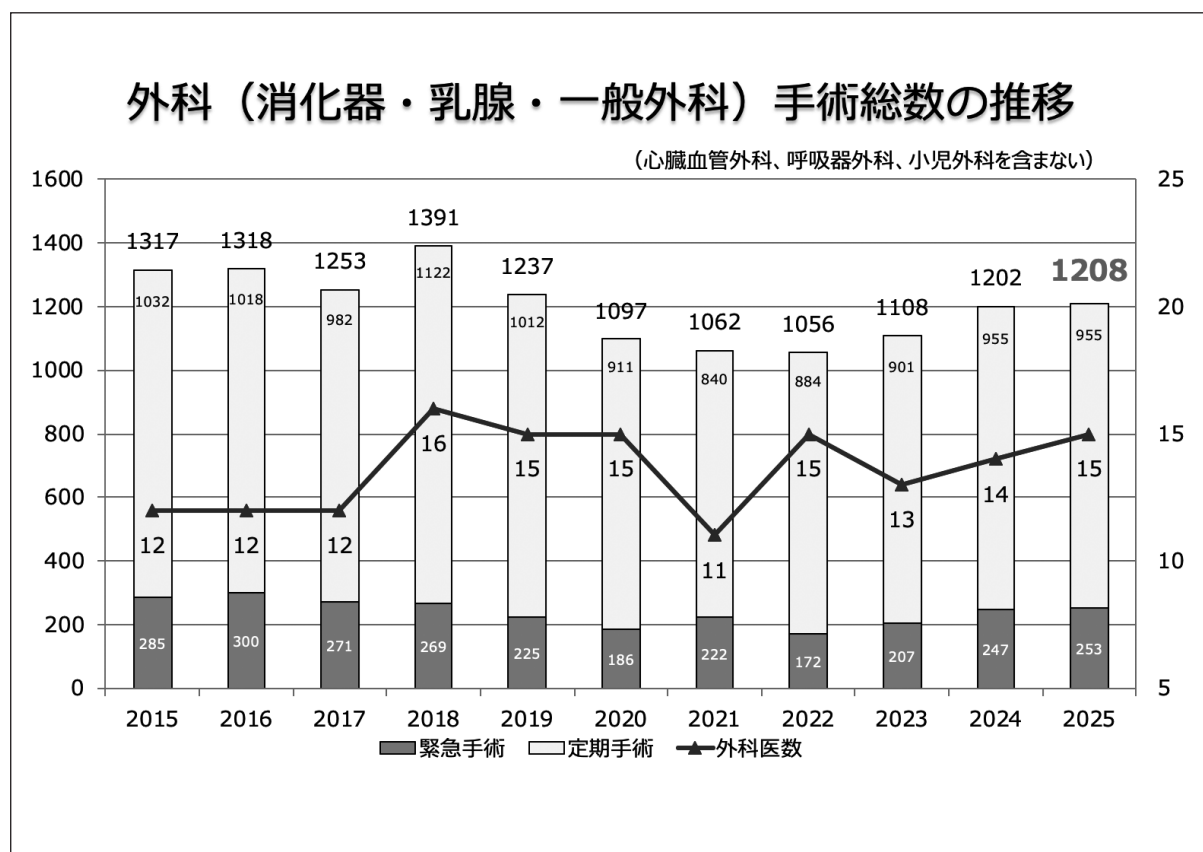
今後の展望 筑豊医療圏における開業医の高齢化という課題に対し、当科の「病病連携・病診連携」のシステムをさらに円滑化し、病院の枠を超えて「当科の指示を在宅まで届ける」体制の完成を目指します。

20. 外科

外科統括部長 二宮瑞樹

2025年は外科総手術数1,208例、うち緊急手術数253例と漸増し、胃切除、肝・膵切除、乳腺手術数が増加しました。ロボット手術は5月から新たに肝切除へ適応を拡大し、外科全体で113例と手術枠をフル稼働している状態です。当院の特徴である低侵襲手術実施率は消化管領域で97%、肝切除90%、膵切除71%と全国でも有数の低侵襲手術施設といえます。学会発表は39件、うちシンポジウム等の上級演題も8件で、全国に飯塚病院外科の存在感を示すことができました。また昨今の全国的な消化器外科医不足の中で、若手外科医のリクルートを目的に外科インスタグラム立ち上げ、広報誌発行、外科ホームページ更新等の外科ブランディング活動にも取り組みました。

継続して質の高い医療を提供できるよう若手外科医の指導にも注力し、筑豊地区の外科の要として尽力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

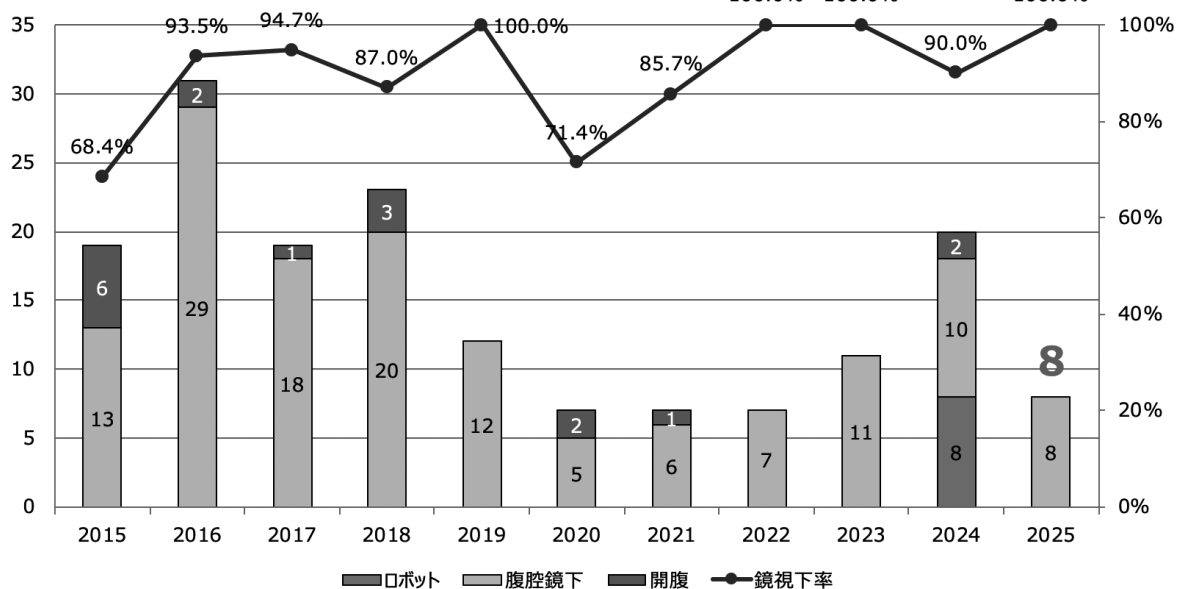


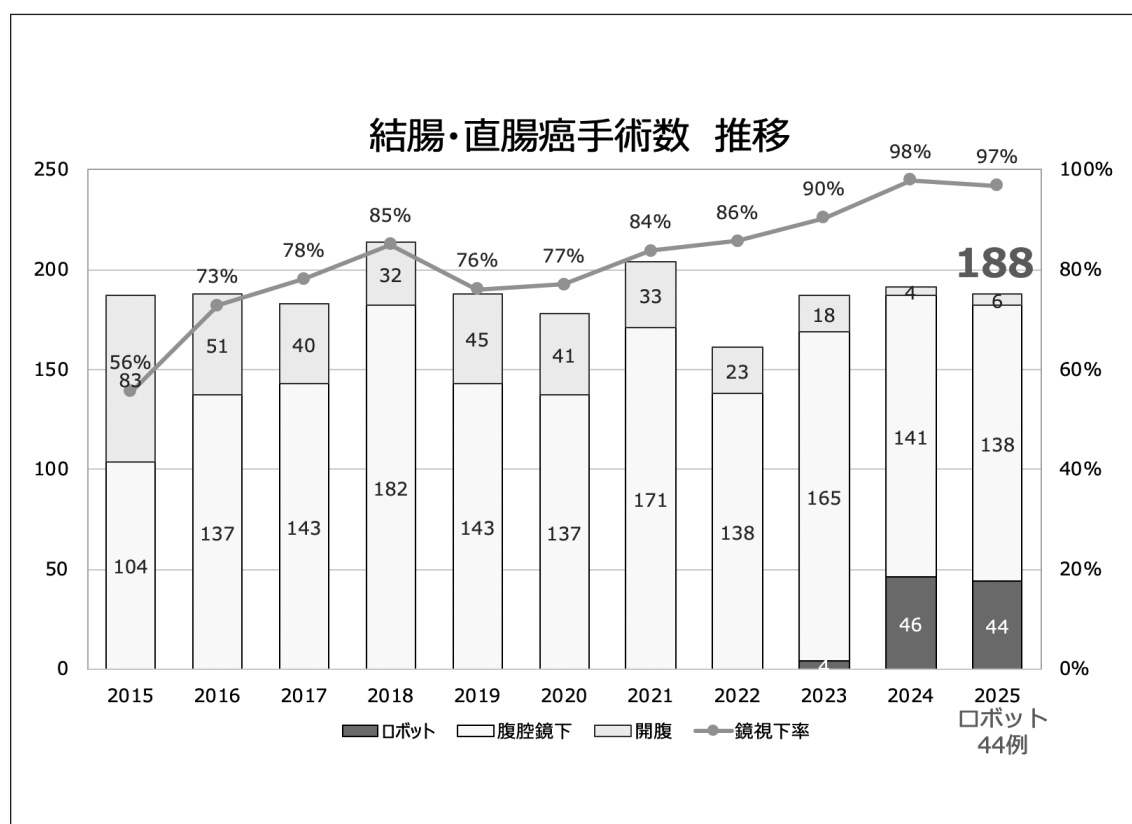
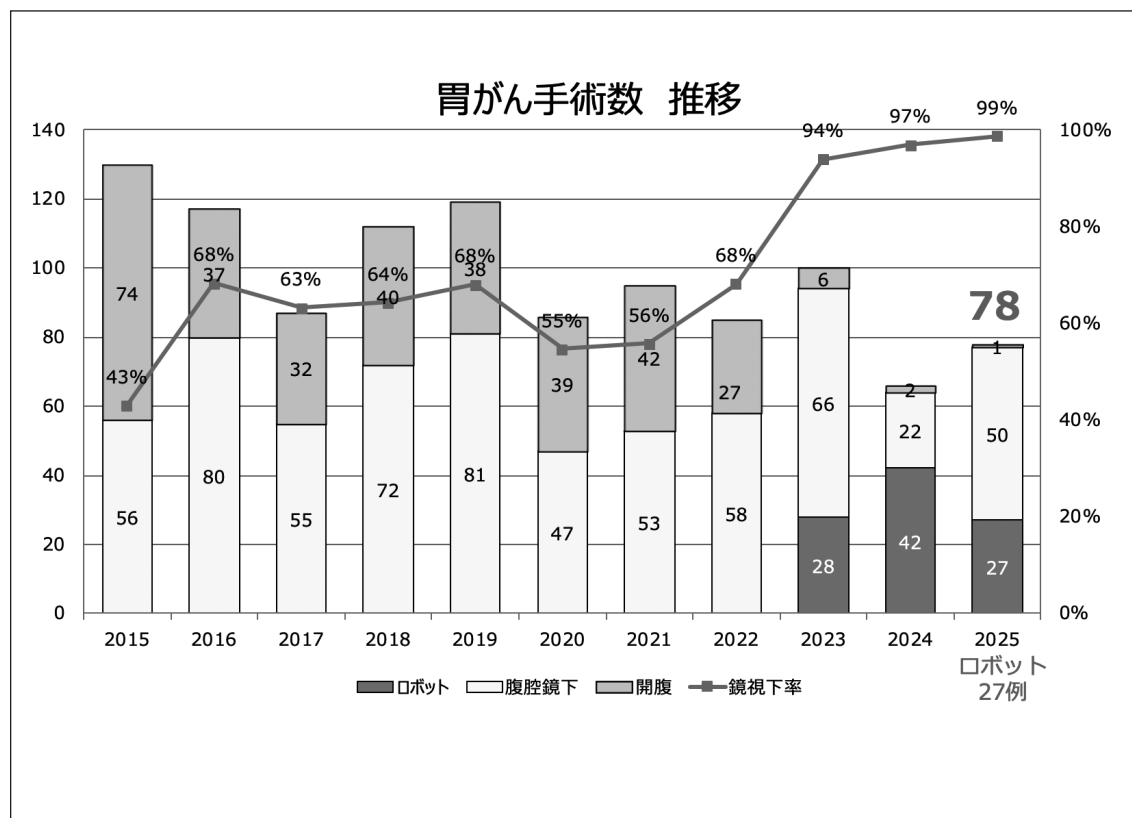
2025年 消化器・乳腺・一般外科 手術内容(抜粋)

総手術数(手術室内施行) 1209例 ↗ うち急患手術 253例 ↗ (20.9%) ロボット手術 113例

手術術式	症例数	疾患	症例数	術式	症例数	[鏡視下]
乳腺手術	190	乳がん	178	乳房全切除	108	
				乳房部分切除	67	
食道手術	10	食道がん	8	食道切除	8	[8]
胃十二指腸手術	110	胃がん	78	胃全摘	23	[22]
				胃部分切除	55	[55]
				その他	32	
小腸・大腸・直腸手術	367	結腸がん	161	結腸切除術	135	[129]
		直腸がん	27	直腸切除術	45	[45]
				腹会陰式切断術	7	[7]
				虫垂切除術	50	[50]
肝臓手術	72	原発性肝がん	47	肝切除術	76	[70]
		転移性肝がん	21	拡大胆嚢摘出術	4	
胆道手術	29	胆道腫瘍	29	膵切除	56	[40]
		胆嚢結石症	183	PD	40	[29]
膵切除	56	膵がん	42	体尾部切除	16	[11]
				胆嚢摘出術	188	[186]
脾	1			脾臓摘出術	3	[1]
ヘルニア手術	139	鼠径ヘルニア	101	鼠径ヘルニア根治術	101	[64]

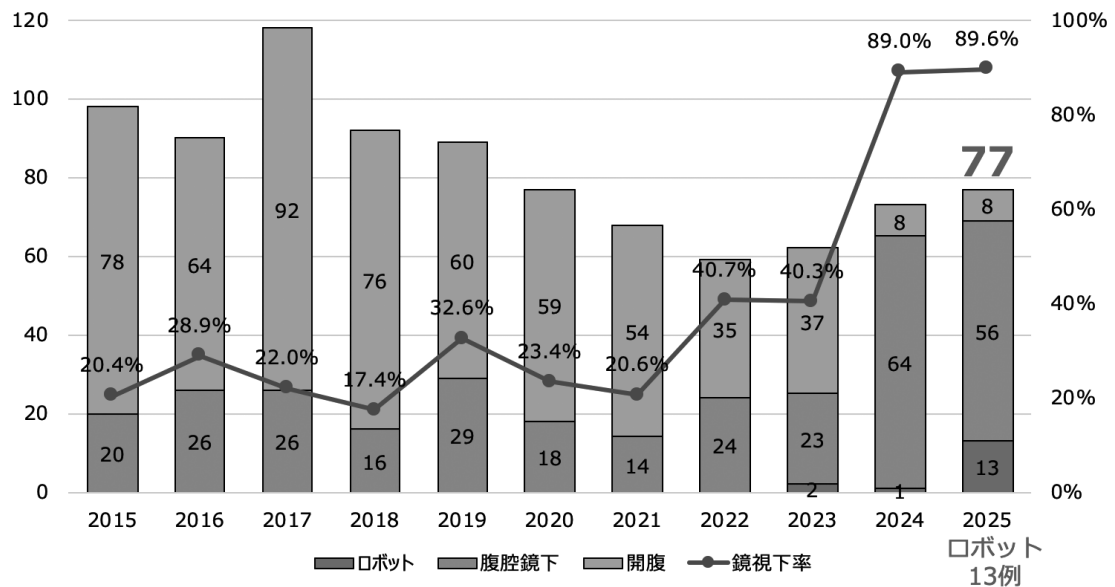
食道切除術数 推移



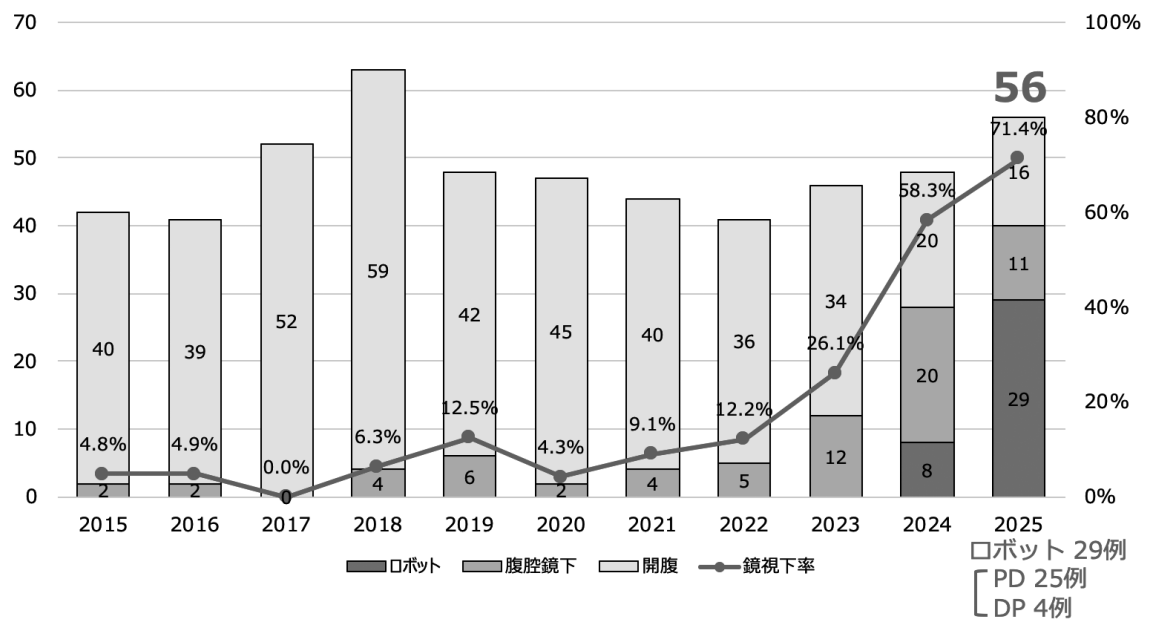


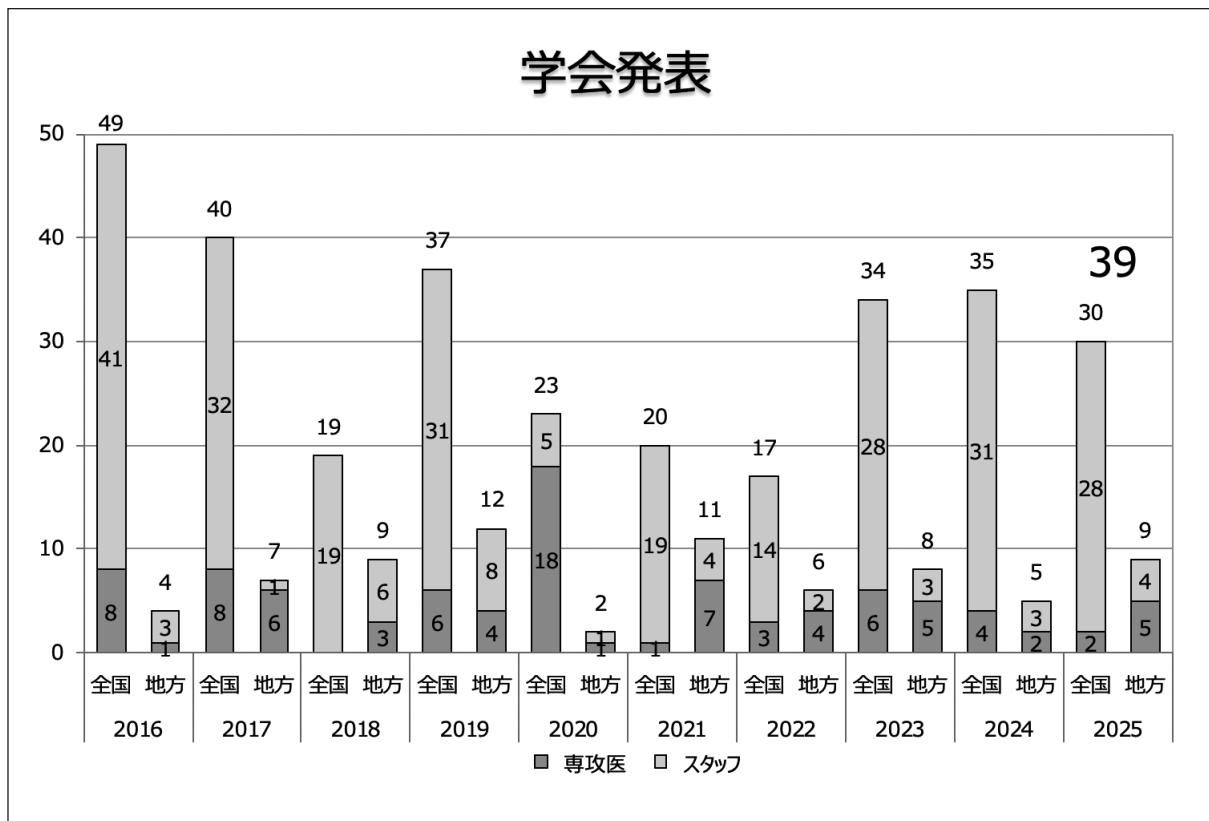
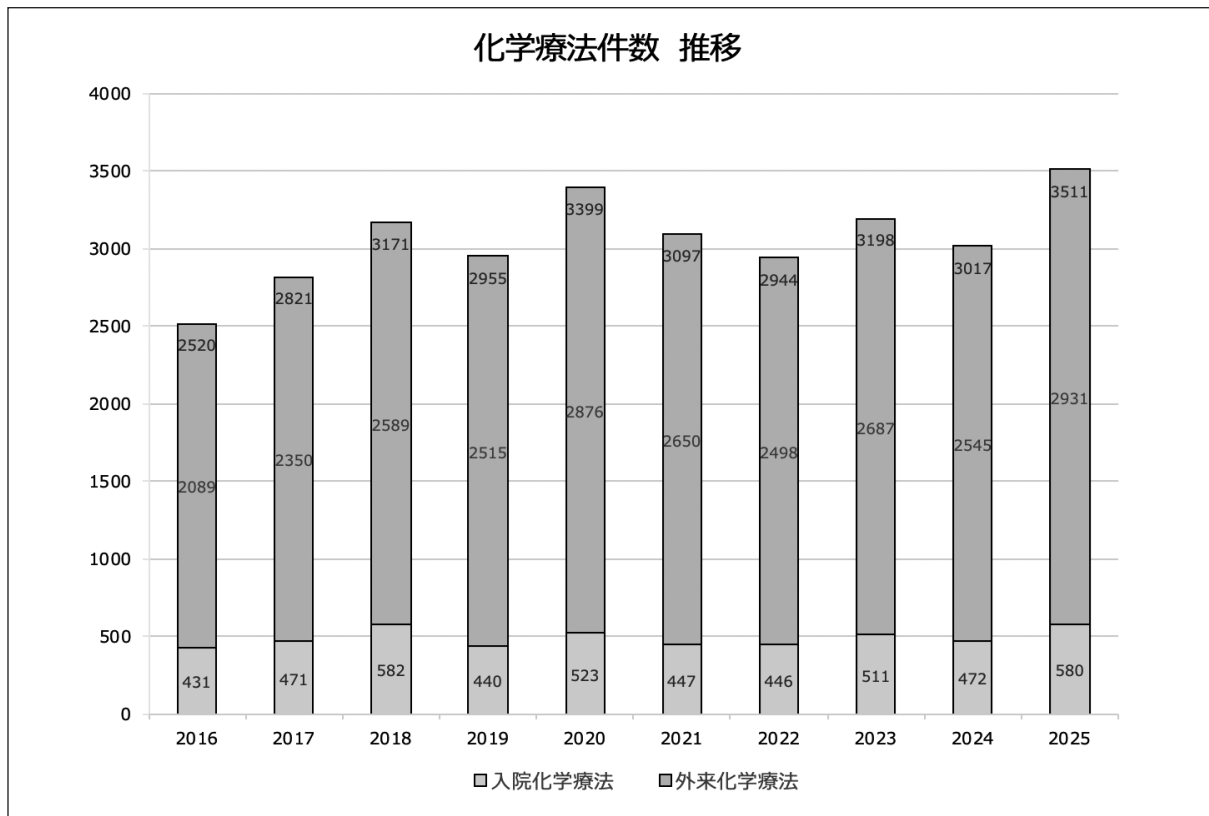
- 肝胆膵高難度手術 99例
- 肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設A

肝切除数 推移

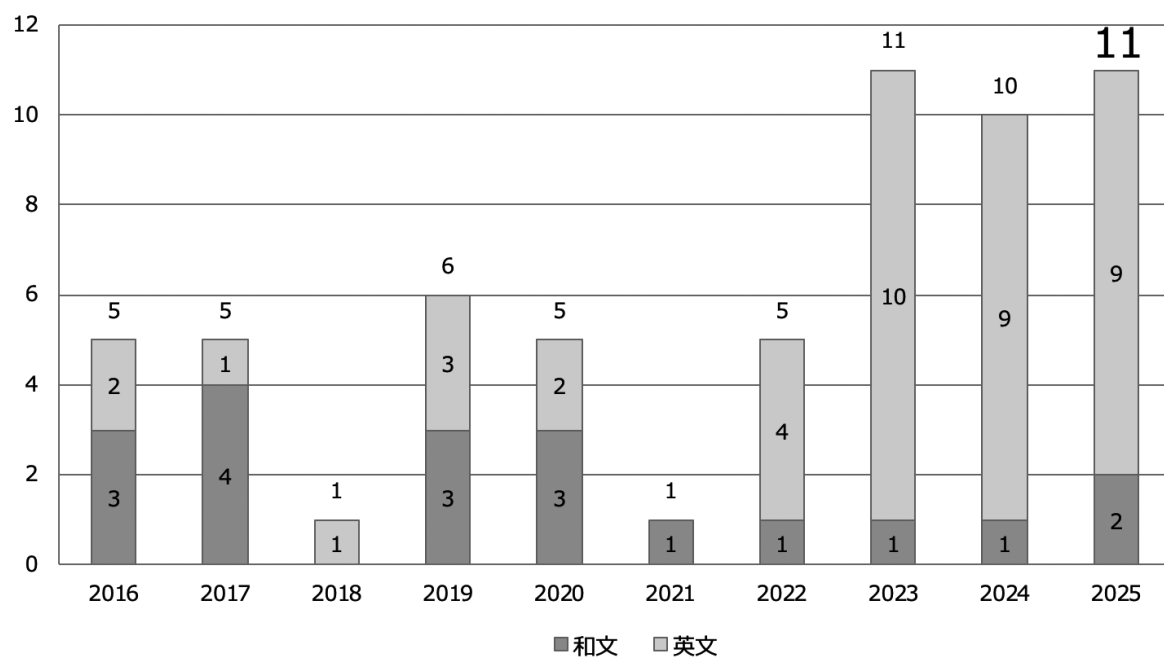


膵切除数 推移





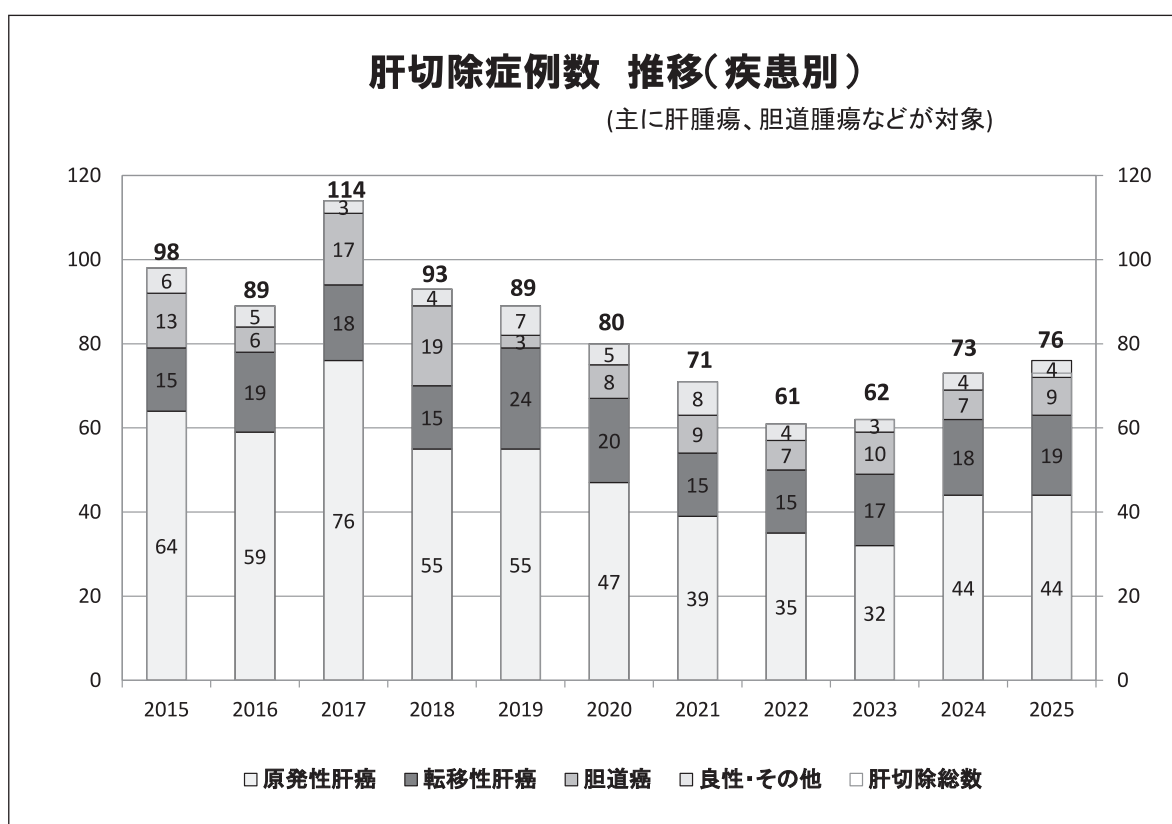
論文



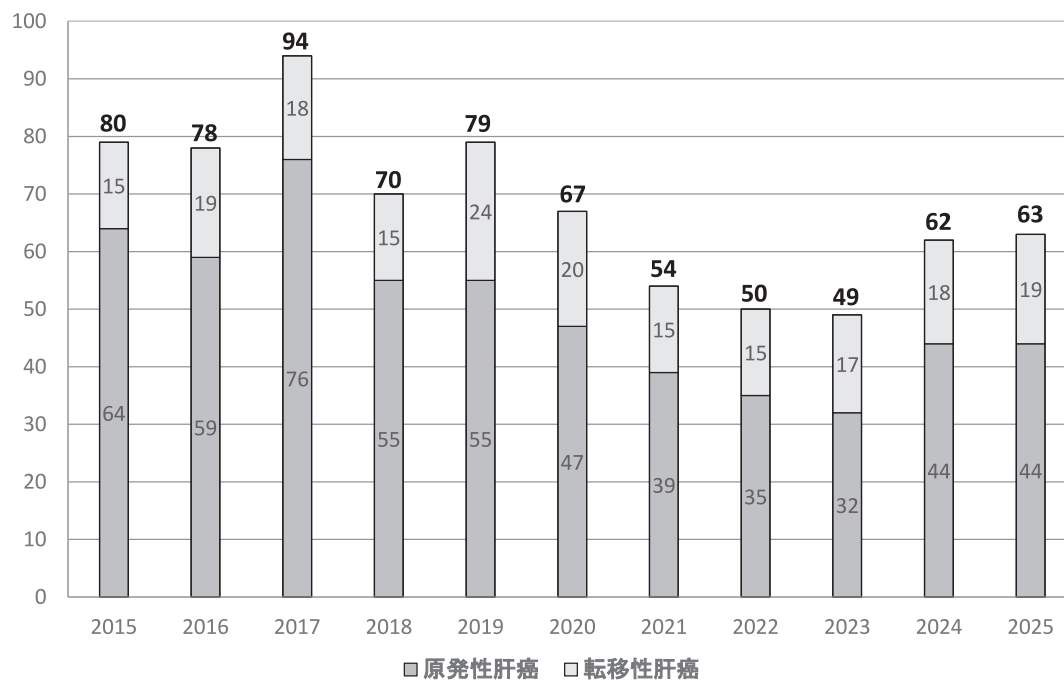
21. 肝胆膵外科

肝胆膵外科部長 萱島寛人

2025年の肝胆膵外科領域の主要手術症例は2024年に引き続き増加傾向でした。2024年と比較して、肝切除術件数は3例増加して76例、膵切除術件数は8例増加して56例となりました。肝臓内科や消化器内科の先生方のご尽力もあり、その多くはやはりがんに対する手術でした。低侵襲である鏡視下手術（ロボット支援下手術を含む）の割合も経時的に増加傾向で、2025年は肝切除66例（92.1%）、膵切除42例（75.0%）を鏡視下に行っています。2024年11月に開始したロボット支援下膵切除術に引き続き、2025年5月からはロボット支援下肝切除術も導入し、2025年は肝切除13例、膵切除29例をロボット支援下で行うことができました。2024年同様、NCDのフィードバック機能を利用した当院における肝胆膵外科の術後合併症発生率は依然として全国の予測発生率よりも良い結果を維持しており、今後も安全性と根治性を担保しながらさらに症例数を伸ばしていきたいと考えています。

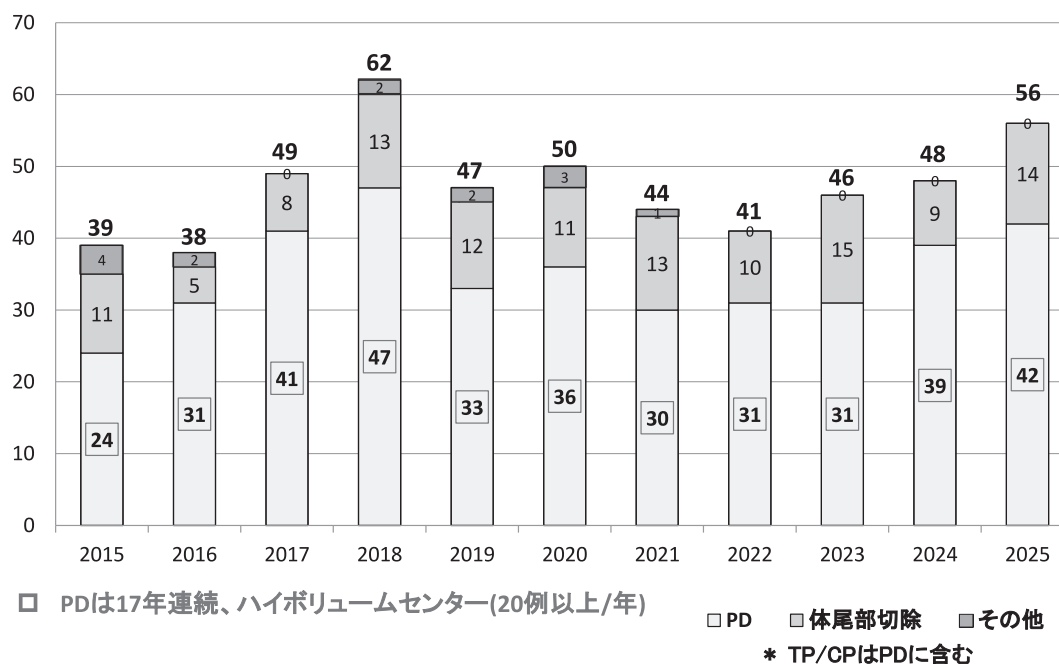


肝がん切除数 推移

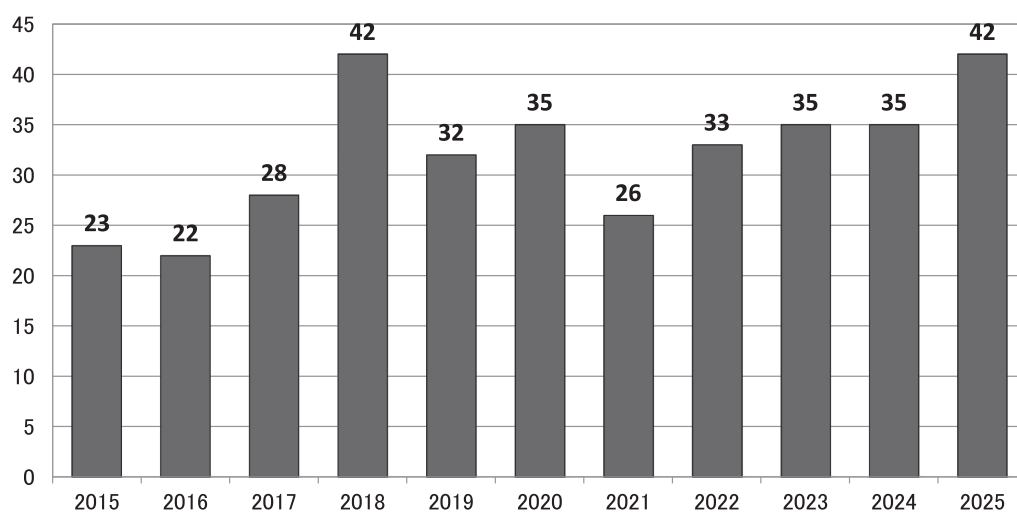


膵切除症例数 推移（術式別）

(膵腫瘍、胆道腫瘍などが対象)

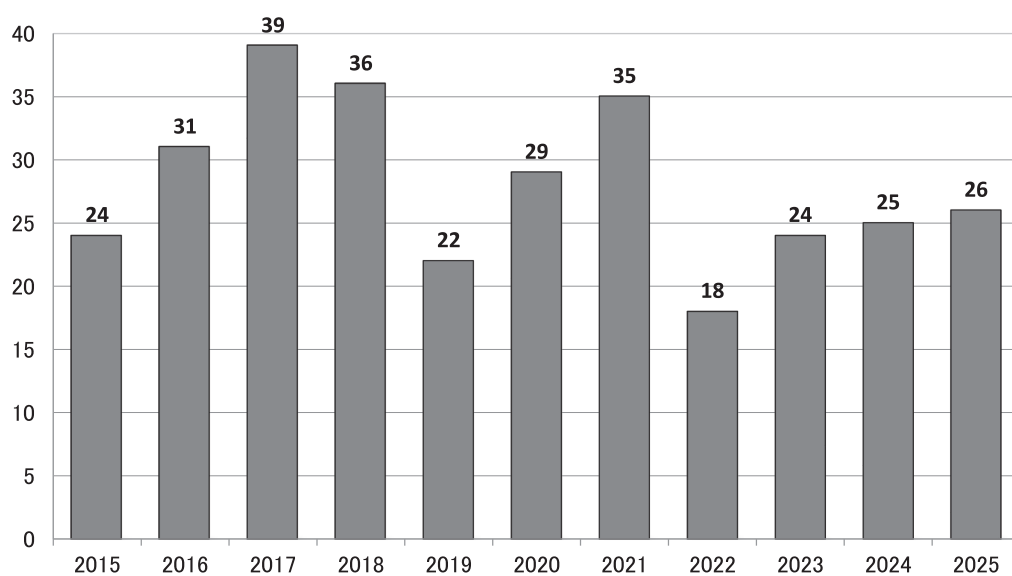


膵臓がん切除数 推移



* 膵がん:通常型膵癌、IPMN等の悪性腫瘍

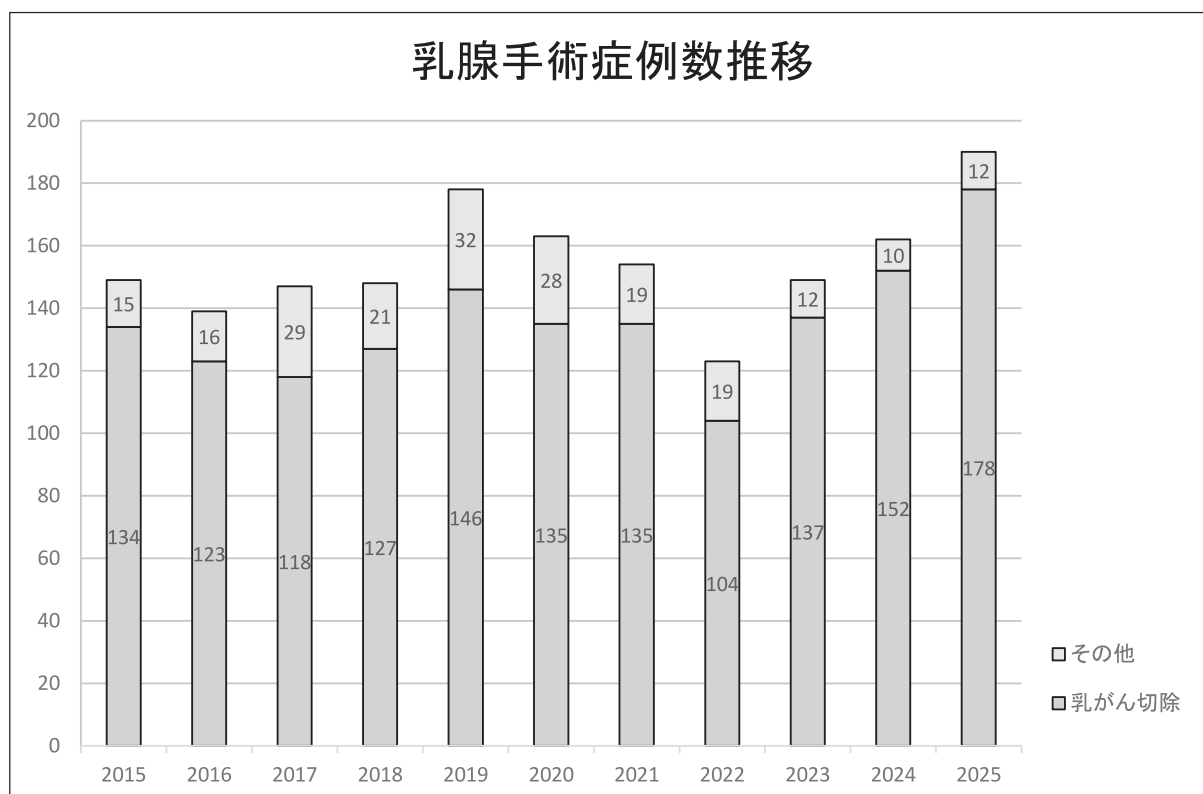
胆道腫瘍切除症例数 推移



22. 乳腺外科

乳腺外科部長 岡本正博

近隣の先生から多くの患者さんをご紹介いただき、乳癌手術症例数は過去最高となりました。がん遺伝医療では、婦人科にご協力いただき、卵巣卵管および乳房の予防的切除を導入しました。がんゲノム医療連携施設として認定されたため、遺伝子パネル検査を開始し、5件の検査を行いました。個人的には、以前から取り組んできたコミュニケーションスキルトレーニングに対して、日本サイコオンコロジー学会から教育功労賞をいただきました。トレーニングの経験を活かして、患者さんに満足して治療に取り組んでいただけるように、心がけていきたいと思います。今後も新たな薬剤の承認が予定されており、最新の動向に目を向けながら、標準的な治療は飯塚病院で完結できるよう努めてまいります。



23. 小児外科

小児外科部長 近藤琢也

2025年の手術数、入院数は2024年と比較し、若干の減少となりました。これは、2025年2月と12月の感冒による手術・入院の延期が10例程度発生した影響と考えられます。外来患者数や新患紹介数は2024年以上を維持しており、今後手術件数は維持～微増になると思われます。また、小児外科学会の定める小児外科指導医取得に必要な必須手術と準じる手術の症例数は8例でした。今後も手術症例数・内容を充実させていきたいと思ひます。

入院・手術症例の年齢・性別内訳

		男			女			計		
		入院	手術	(緊急)	入院	手術	(緊急)	入院	手術	(緊急)
新生児	(0-30 生日)	0	3	1	0	3	3	0	6	4
乳児	(1-11 生月)	3	3	2	5	3	0	8	6	2
幼児	(1-5 歳)	40	37	3	12	13	3	52	50	6
学童	(6-12 歳)	22	16	3	11	8	1	33	24	4
思春期	(13-15 歳)	8	6	1	2	2	1	10	8	2
成人	(16 歳-)	1	1	0	0	0	0	1	1	0
計		74	66	10	30	29	8	104	95	18

主要手術症例

症 例			疾 患	手 術
1	0 生日	女児	胎便性腹膜炎・回腸閉鎖症	洗浄ドレナージ、一期的吻合
2	1 生日	男児	空将閉鎖症	一期的吻合
3	1 生日	女児	回腸閉鎖症	一期的吻合
4	5 生日	女児	壊死性腸炎	壊死腸管切除、洗浄ドレナージ、人工肛門造設
5	27 生日	男児	肥厚性幽門狭窄症	粘膜外幽門筋切開術 (Ramstedt)
6	27 生日	男児	肥厚性幽門狭窄症	粘膜外幽門筋切開術 (Ramstedt)
7	13 歳	男児	漏斗胸	腹腔鏡下胸骨挙上術 (Nuss 法)
8	16 歳	男児	漏斗胸	腹腔鏡下胸骨挙上術 (Nuss 法)

24. 整形外科

整形外科部長 原 俊彦

2025年の飯塚病院整形外科では1,301件の手術が行われました。その内325件は急患手術でした。2025年は7月に2名の整形外科医師が退職する事態となりました。高回転で様々な手術症例に対処しておりましたが、従来の体制を変えて新しい体制にすることを余儀なくされました。そこでベテランスタッフ2名が手術枠の状況などを考慮して新患・急患をトリアージする体制としました。10月からは1名補充、田川市立病院、九州大学からの応援連携もありマンパワーも回復してきました。

飯塚病院整形外科には、大きく分けて「外傷グループ」「股関節グループ」「膝関節グループ」「手外科グループ」があり、互いに連携を取りながら一丸となって診療に取り組んでおります。外傷グループは脊椎以外のすべての外傷に対応しており、全員参加のカンファレンスで専門分野と連携しつつ質の高い手術を提供しております。大腿骨近位部骨折症例に対する早期手術、総合診療科との連携、二次骨折予防など全国の整形外科のモデルとなる先進的な取り組みも行っております。股関節グループは関節温存、人工関節術、再置換術など股関節分野で先進的な治療を数多く行っております。膝関節グループはロボット支援人工股関節術、関節温存術、靱帯再建術を積極的に行っております。手外科グループは、最も手術件数が多い分野でありマイクロサージャリー、鏡視下手術など先端技術を取り入れて進化しております。当整形外科の弱点だった脊椎外科への対応に関しては、数年来取り組んでいる総合せき損センターとの連携を深化させつつ対応しております。今後も筑豊地域唯一の三次救急病院として全ての整形外科疾患に対応すべく、システム構築の継続と見直しを行っていかうと考えております。

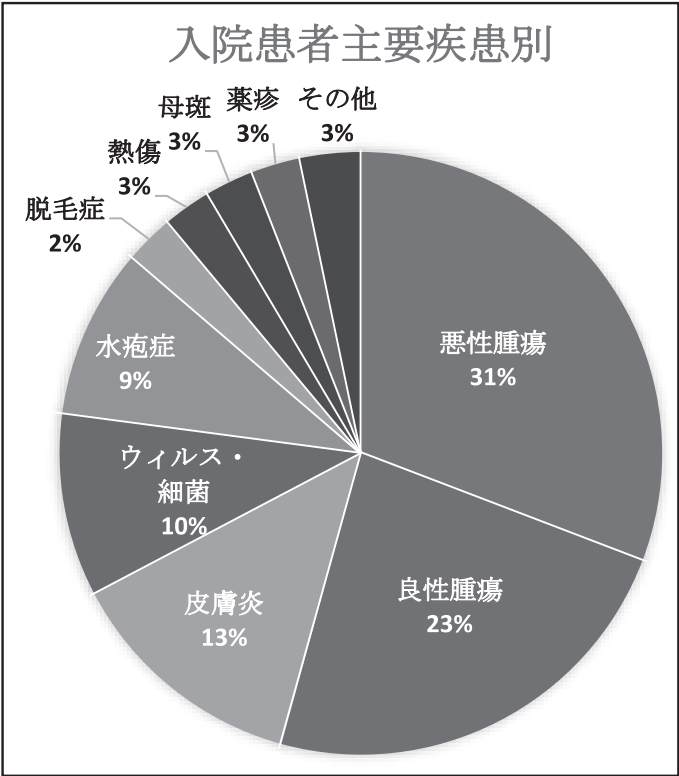
【手術実績】

	当科分類	2025 年	2024 年	2023 年	2022 年
1	頸部骨折 - 骨接合	149	130	119	99
2	人工骨頭	57	54	38	35
3	人工膝関節置換術	106	120	87	69
4	人工股関節 / その他の人工関節	228	193	153	134
5	関節鏡視下手術	25	42	37	33
6	脊椎手術	6	12	16	6
7	手の外科（頰部以下の骨折含む）	407	461	365	313
8	骨折・脱臼	133	136	140	139
9	抜釘	75	57	49	73
10	関節形成術（骨切り他）	32	56	36	33
11	切断	3	6	12	12
12	骨・軟部腫瘍	11	11	13	6
13	外傷（その他）アキレス腱含む	9	9	16	7
14	関節外科（その他）	18	34	35	20
15	神経・骨軟部組織	0	0	0	0
16	その他	42	42	38	30
	合計	1301	1363	1154	1009
	内急患手術	325	332	342	255

25. 皮膚科

皮膚科部長 井手豪俊

2025年は当科に大きな変化がありました。2025年末に2番手であります永井貴子先生が産休に入られました。この少子化の世の中、大変おめでたいことです。そのため、現在は4人で何とか診療体制を維持しています。とはいえ経験と能力を兼備した彼女の穴を埋めるのはやはり容易ではなく、残りのメンバー（ほとんど若い！）で四苦八苦しながら頑張っています。どの診療科でも妊娠・出産に伴う欠員は悩ましいところだと思いますが、特に皮膚科は女性医師が多く、今後も同様の事態が生じうると考えます。その際にどのように対応するのか、普段から考えておくことは重要なことです。上記の理由により、以前と全く同様の診療体制の質を担保することは現時点では困難であり、近隣の医療機関ならびに他診療科の先生方をはじめ多くの皆様にご迷惑をおかけすることになると思いますが、どうか事情をご理解頂き、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



外来手術件数

1月	44	7月	74
2月	49	8月	59
3月	61	9月	58
4月	45	10月	81
5月	62	11月	75
6月	66	12月	47

計 721 件

うち、バイオプシー件数

1月	22	7月	31
2月	21	8月	31
3月	29	9月	22
4月	23	10月	33
5月	30	11月	33
6月	27	12月	30

計 332 件

手術室手術件数

1月	15	7月	24
2月	18	8月	22
3月	22	9月	17
4月	15	10月	29
5月	20	11月	24
6月	27	12月	10

計 243 件

うち

日帰り手術	140
入院	103

うち、悪性腫瘍手術

基底細胞癌	31
有棘細胞癌	21
ボーエン病	8
隆起性皮膚線維肉腫	1
日光角化症	1
乳房外 Paget 病	1
汗孔癌	1
原発不明癌	1

計 65 件

26. 泌尿器科

泌尿器科部長 入江慎一郎

2025年は実働4人での診療となりました。非常勤医師は火曜・木曜に各1名（結石破碎・透視下処置）、金曜に排尿障害外来1名で変わりはありません。

昨年7月より開始したフュージョンバイオプシー（MRI画像融合前立腺針生検）は2泊3日の入院が必要ですが、感染のリスクが低く穿刺の精度も高い事が利点です。実施件数はフュージョンバイオプシー：71件、経直腸的前立腺針生検：83件で年間154件の前立腺生検を行いました。前立腺癌と診断された方には根治療法が適応となる場合、ロボット手術と放射線治療（IMRT、サイバーナイフ、重粒子線^注）の選択肢の中で治療法を選択いただいています。腎細胞癌に対する手術は腫瘍サイズや全身状態により適応を決めていますが、2025年は腹腔鏡下腎摘除術：15例にたいしロボット支援腎部分切除術：23例とロボット手術が上回る結果となりました。今後も適応範囲の中でご希望に添う治療法を提供していきたいと考えています。

泌尿器科悪性腫瘍治療薬は毎年新規薬剤が増え、腎細胞癌、尿路上皮癌、前立腺癌それぞれ治療選択肢が多様となり予後延長に寄与しています。当院でもほぼ全ての治療薬を適切に安全に使用できる体制で診療にあたっています。今後も筑豊地域の中核病院としての役割を全うすべく、適切な標準治療が提供できる環境を整えていきたいと考えています。

注：重粒子線は九州国際重粒子線がん治療センター紹介

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
手術総実施件数	374	328	333	402	433
腹腔鏡下腎摘除術	21	15	16	22	15
後腹膜鏡下尿管全摘除術	8	11	10	20	11
ロボット腎部分切除術	6	16	19	14	23
ロボット前立腺全摘除術	20	27	21	31	24
腹腔鏡下副腎摘除術	5	4	2	5	13
TURBT	110	106	104	109	89
TUL	77	57	71	44	65
HoLEP		6	6	12	12
SpaceOAR			12	16	28
フュージョンバイオプシー				31	71
その他検査・治療					
ESWL	107	66	68	67	83
前立腺生検	138	113	103	105	83
透視室処置件数	517	424	406	377	334
尿管ステント挿入・交換	400	308	304	308	265
腎瘻挿入・交換	117	116	102	69	69

SpaceOAR：サイバーナイフ施行前の処置

フュージョンバイオプシー：MRI画像融合前立腺生検

27. 産婦人科

産婦人科部長 辻岡 寛

本邦の出生数の減少は顕著であり、予想をはるかに上回る勢いで悪化しています。少子化は国の問題であり一施設の努力でなんとかなるものではありません。しかしながら、このような中でも筑豊地域の総合周産期センターとしてその機能を維持するために、なんとか分娩数の減少を抑えるための方策が必要と考えています。一つは無痛分娩の導入であり、2025年は準備段階としてのトライアルにとどまりましたが、麻酔科およびペインクリニック科から多大なる協力をいただき、2026年より本格導入する目処がつけました。もう一点は子育て支援としての産後ケアの拡充です。子育て支援、産後ケアは国の推奨する国策でもあり、当院でも助産師の助力により重点的に対応しており、利用者からの高評価をいただいています。これらの取り組みが次の出産を促す結果につながるものと信じて、今後も対象を拡大していきたいと考えています。

婦人科領域においてはロボット支援手術の増加をはじめとし、低侵襲手術の割合が大きくなっています。また骨盤臓器脱に対する仙骨固定など新規に導入した手術も好評となっており、手術件数の増加に大きくつながりました。婦人科領域では、症例数も増加しており、今後も良性手術から悪性腫瘍手術まで幅広く対応して行きたいと思っています。

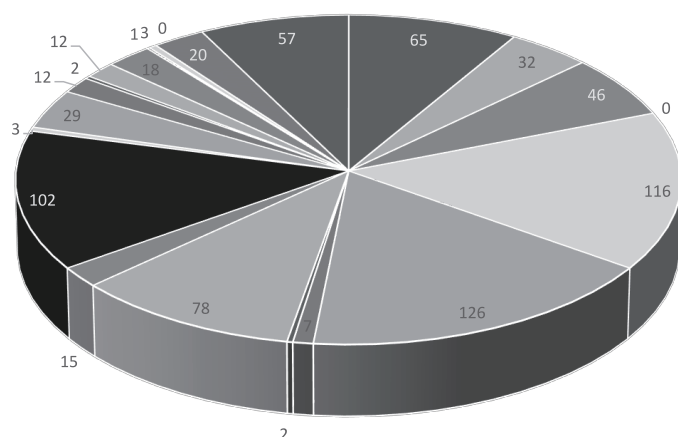
周産期領域、婦人科領域を問わず、24時間体制で対応するだけの体制と機能の維持は、産婦人科医師の人材不足の中では困難な部分もありますが、今後も地域の中核病院としての役割を果たしていくように努力してまいります。

婦人科入院統計

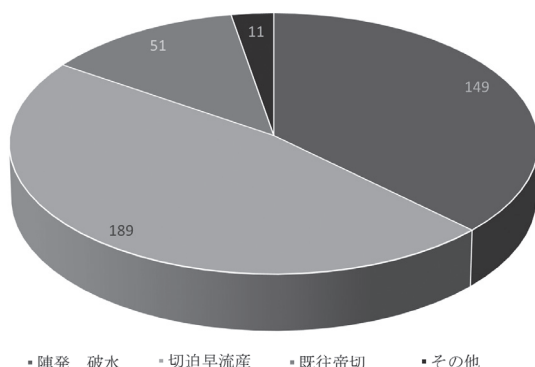
疾患	数
子宮頸癌	65
子宮頸部中等度異形成（CIN2）	32
子宮頸部高度異形成（CIN3、CIS）	46
子宮頸部上皮内腺癌（AIS）	0
子宮体癌	116
卵巣癌	126
その他の癌	7
絨毛性疾患	2
子宮筋腫	78
子宮腺筋症	15
卵巣腫瘍	102
子宮内膜症のう胞	3
骨盤内臓器脱	29
異所性妊娠	12
子宮頸管ポリープ	2
子宮内膜ポリープ	12
子宮内膜増殖症	18
月経異常	1
PID	3
STD	0
流産・中絶（妊娠12周末満）	20
その他	57
計	746

- 子宮頸癌
- 子宮頸部中等度異形成（CIN2）
- 子宮頸部高度異形成（CIN3、CIS）
- 子宮頸部上皮内腺癌（AIS）
- 子宮体癌
- 卵巣癌
- その他の癌
- 絨毛性疾患
- 子宮筋腫
- 子宮腺筋症
- 卵巣腫瘍
- 子宮内膜症のう胞
- 骨盤内臓器脱
- 異所性妊娠
- 子宮頸管ポリープ
- 子宮内膜ポリープ
- 子宮内膜増殖症
- 月経異常
- PID
- STD
- 流産・中絶（妊娠12周末満）
- その他

婦人科疾患別入院患者数（746名）



産科疾患別入院患者数（400 名）



産科入院統計

疾患	数
陣発 破水	149
切迫早流産	189
既往帝切	51
その他	11
計	400

産科統計

疾患	数
総分娩数	318
経膈分娩	162
帝王切開	136
多胎妊娠	18
中期分娩	20
早産症例	46
NICU 入院	79
母体搬送受け入れ	84
母体搬送依頼	2

産婦人科手術統計

疾患	数
腹式子宮頸癌根治術（準・広汎子宮全摘）	1
腹式子宮頸癌手術（単純）	0
腹腔鏡下子宮頸癌手術（うち、準広汎、広汎）	3
腹腔鏡下子宮頸癌手術（単純）	4
腹式子宮体癌根治術	28
腹腔鏡下子宮体癌根治術	8
卵巣癌手術（境界悪性・腹膜癌・卵管癌含、附切のみ含）	30
試験開腹	1
審査腹腔鏡	5
腹式リンパ節郭清術 / 摘出術	2
腹腔鏡下リンパ節郭清術 / 摘出術	1
良性 腹式単純子宮全摘術 (ATH)	27
良性 全腹腔鏡下子宮全摘術 (TLH)	47
良性 腔式腹腔鏡下子宮全摘術 (vNOTES)	1
腔式子宮全摘術 (VTH)	1
腹腔鏡補助下腔式子宮全摘術 (LAVH)	0
ロボット支援下子宮全摘術	29
腹式子宮筋腫核出術	8
腹腔鏡下子宮筋腫核出術 (LM)	3
腔式腹腔鏡下子宮筋腫核出術 (vNOTES)	0
腹式付属器手術（付切、核出術含む）	22
腹腔鏡下付属器手術（付切、核出術含む）	75
リスク低減卵巣卵管摘出術 (RRSO)	3
腔式腹腔鏡下付属器手術 (vNOTES)	5
骨盤臓器脱手術（子宮摘出なし）	1
腹腔鏡下仙骨腔固定術	6
ロボット支援下仙骨腔固定術	24
腹式異所性妊娠手術	0
腹腔鏡下異所性妊娠手術	8
選択的帝王切開	69
緊急帝王切開	67
子宮鏡下切除（子宮筋腫）	4
子宮鏡下切除（子宮内膜ポリープ）	23
子宮鏡下切除（子宮頸管ポリープ）	2
子宮鏡下子宮内膜焼灼術 (MEA)	0
LASER 蒸散術 (CIN、コンジローマ)	14
子宮頸部円錐切除術	58
子宮内膜全面搔爬術（±子宮鏡検査）	17
頸管縫縮術	8
流産手術（胎状奇胎含む）	18
中絶手術	3
その他	12
計	638

産後ケア事業（2025 / 4 ~ 2025 / 12）

	飯塚市	田川市	桂川町	小竹町	嘉麻市	直方市	宮若市	計
ショート	64	1	0	0	2	7	0	
デイ	29	3	0	0	1	2	0	
母乳	27	2	0	0	1	0	0	
訪問	9		0	0	2	0	0	
料金								
案内対象	107	16	3	0	20	12	11	

【利用理由】 ①休息 62 ②直母練習・相談 39 ③体重増加 33 ④乳房チェック 14 ⑤育児不安 9 ⑥その他 3(行政から依頼、家庭の送迎の都合、メンタル不調) 66 名中、内 17 名が特定妊婦（精神疾患、双胎、経済不安）初産 37 名 経産婦 29 名

28. 眼科

眼科部長 中間崇仁

2025年も引き続き常勤医5名体制での診療でしたが、8月に私が休むこととなり、当院への紹介を一時制限させていただくなどご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。幸い年間手術数は前年とほぼ同様とすることが出来ました。

手術に関しては、組み方を変えたことで硝子体手術や緑内障手術の待機期間が改善されましたが、入院での白内障手術に関しては、待機期間の短縮は未だ達成出来ておらず、引き続き大きな課題と考えております。

外来診療に関しては、初診のオンライン予約のトライアルを行わせていただき、今後の課題が見えてきました。

引き続き筑豊地区の眼科診療レベルを高めるために策を講じていく所存です。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

入院患者疾患別内訳（2025 年）

病名	総数	急患	性別		年齢 (平均)	在科日数 (平均)
			男	女		
白内障	258	1	106	152	75.8	3.4
緑内障疾患	145	11	61	84	75.2	5.8
網膜絡疾患	135	44	75	60	62.8	7.0
硝子体疾患	31	7	15	16	68.2	6.5
眼窩・眼瞼障害	23	1	8	15	63.1	4.8
眼内レンズトラブル	19	1	12	7	68.9	6.4
外傷性疾患	12	9	8	4	50.6	7.5
水晶体疾患	8	0	6	2	66.9	5.9
視神経炎	5	0	0	5	58.0	12.6
翼状片	2	0	2	0	74.0	2.0
処置後障害	2	2	0	2	81.5	12.0
その他	7	0	1	6	77.6	8.3
総計	647	76	294	353	71.2	5.2

手術室での総手術件数 [1161 件]

手術（内訳）	件数
水晶体再建術	724
緑内障手術	134
硝子体手術（網膜剥離）	247 (58)
その他	56

（重複を含む）

29. 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長 深堀光緒子

頭頸部癌を含めた各疾患に対し包括的治療を可能な限り筑豊地域で実施できるよう、また安心して医療を受けて頂けるよう他科診療連携を図り診療を行っています。入院手術に加え、外来日帰り手術として慢性中耳炎に対する鼓膜穿孔閉鎖術や声帯麻痺に対する声帯内コラーゲン注入術などの機能改善手術を行っています。また音声および嚥下障害、顔面神経麻痺に対し言語聴覚士とともに機能評価を行い、日常生活に汎化し実践できるよう指導や訓練を行っています。

入院患者疾患別内訳（2025 年）

病 名	総数	急患	手術件数
悪性腫瘍	64	2	27
喉頭	14	1	4
唾液腺	13	0	5
中咽頭	9	0	2
口腔	9	0	4
下咽頭	7	1	3
転移性リンパ節	5	0	5
甲状腺	4	0	3
原発不明	2	0	0
鼻腔、副鼻腔	1	0	1
咽頭、扁桃、喉頭疾患	173	49	120
慢性扁桃炎	65	1	66
扁桃肥大	49	1	49
扁桃周囲膿瘍	18	17	0
急性扁桃炎	16	13	0
急性喉頭蓋炎	9	8	0
扁桃周囲炎	7	6	0
声帯及び喉頭のポリープ	1	0	1
急性咽頭炎	1	1	0
急性喉頭咽頭炎	1	1	0
その他	6	1	4
外耳・中耳・内耳疾患	20	0	20
中耳炎	9	0	9
真珠腫	5	0	5
その他	6	0	6
口腔・唾液腺・顎	6	2	4
唾液腺炎	2	1	1
唾石症	1	0	1
その他	3	1	2
神経麻痺	7	4	0
顔面神経麻痺	7	4	0
鼻・副鼻腔疾患	56	3	55
慢性副鼻腔炎	27	2	26
鼻中隔彎曲症	16	0	16
嚢胞	4	0	4
副鼻腔真菌症	3	0	3
アレルギー性鼻炎	1	0	1
急性副鼻腔炎	1	0	1
その他	4	1	4
良性腫瘍	31	1	30
唾液腺	13	0	13
鼻腔・副鼻腔	7	0	7
甲状腺	6	1	5
中咽頭	2	0	2
喉頭	2	0	2
口腔	1	0	1
その他	97	31	61
悪性リンパ腫	24	1	24
気管切開術	17	2	17
深頸部膿瘍	11	9	10
突発性難聴	22	8	0
皮膚膿瘍	1	0	1
感音性難聴	1	1	0
その他	21	10	9
総計	454	92	317

30. 脳神経外科

脳神経外科部長 名取良弘

年間手術総数は、379件で、過去5年間で最多であった昨年を20件上回りました。そのうち、血管内手術は104件でした。

くも膜下出血の原因である破裂脳動脈瘤の治療では、開頭術を行ったのが13例、血管内手術を行ったのが27例で、昨年まではほぼ同数でしたが、血管内治療が2/3を占めるようになりました。

人事では、3月末に井上大輔先生が北九州市立医療センターへ移動され、4月1日より麦田史仁先生が蜂須賀病院から赴任されました。8月31日には溝邊真由先生が新古賀病院に移動されましたが、補充が無かったため欠員となりました。9月1日以降は、当科所属は、専門医4名、専攻医1名の構成となりました。

当院は、脳神経外科専門医5名、脳血管内治療専門医2名、脳卒中の外科学会技術指導医2名、脳神経外傷学会認定指導医2名と脳神経外科領域を網羅する専門医・指導医を複数名擁する体制で運営しております。今後とも、地域に貢献する脳神経外科医療の実践に励む所存です。

総退院患者数 616 名 急患者数 376 名

1. 日本脳神経外科学会 研修施設
2. 脳神経外科の病床数：30～60床
3. 年間入院症例数：645 名
4. 専従脳神経外科医数：専門医6名 専修医2名
5. 年間手術総数：379 件

脳腫瘍	a. 脳腫瘍摘出術	24
	b. 脳腫瘍生検術	10
	c. 経蝶形骨洞手術	7
脳血管障害	a. 破裂動脈瘤	13
	b. 未破裂動脈瘤	3
	c. 脳動静脈奇形	2
	d. 血管吻合術	1
	e. C E A	1
	f. 高血圧性脳出血 開頭血腫除去術	21
	定位（穿頭・内視鏡）手術	6
外傷	穿頭ドレナージ術	11
	その他	2
	a. 急性硬膜外血腫	1
	b. 急性硬膜下血腫	19
	c. 減圧開頭術	5
	d. 慢性硬膜下血腫	89
水頭症	e. その他	1
	a. 脳室シャント術	6
	b. 内視鏡手術	1
	c. 腰椎シャント術	10
奇形	d. その他	6
	a. 頭蓋・脳	0
機能的手術	a. 脳神経血管減圧術	1
血管内手術	a. 動脈瘤塞栓術（破裂動脈瘤）	27
	（未破裂動脈瘤）	8
	b. 動脈静脈奇形（脳）	8
	（脊髄）	4
	c. 閉塞性脳血管障害の総数	52
	（上記の内ステント使用例）	17
その他	d. その他	18
		22

31. 歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 石井広太郎

顎関節治療においては、医療圏内外からの患者数および手術件数はいずれも維持されており、診療体制は安定して推移していると考えられる。さらに顎関節学会において認定歯科衛生士制度が発足し、第1回認定歯科衛生士試験が実施された。当院からも2名の歯科衛生士が受験し、いずれも合格した。今後も顎関節治療ならびに患者サポートにおいて、質の高い医療を提供できるよう継続的に取り組んでいきたい。

また、本年はもう一つ大きな変化があり、麻酔科（歯科麻酔科医）の協力を得て、2025年8月より外来における鎮静下治療を開始した。主に智歯抜歯時に推奨しており、術前検査を必要とせず、処置後約30分間の安静後に覚醒が確認できれば帰宅可能な方法である。患者の身体的・心理的負担を大きく軽減できる麻酔法であり、患者の多様なニーズに応じた安全な医療の提供に寄与するものと考えられる。

2025 年 診療実績

手術症例	件数
抜歯（正中埋伏過剰歯、埋伏智歯等）	188
嚢胞（含歯性嚢胞、歯根嚢胞等）	39
外傷	14
良性腫瘍	13
悪性腫瘍	8
炎症（顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎等）	49
骨整形・サイナスリフト	11
インプラント埋入	17
全麻 / 静脈鎮静下歯科治療	27
唾液腺	4
顎関節疾患	13
その他	14
計	397

32. 心臓血管外科

心臓血管外科部長 内田孝之

2025年心臓血管外科は、昨年に引き続き3人体制（血管外科1人と合わせて4人）ですが、大学人事の影響で両部長以外の若手2名が一気に交代となりました。若手両名は小児心臓外科志望とのことで、前任施設での小児、新生児対象の臨床から、正反対の高齢者の多い当施設で戸惑うことも多いかと心配しましたが若さ故の吸収力のためか、すぐに慣れてくれ日々頑張っています。

この一年としては昨年度ほど新しいこと、大きなイベントはなく比較的静かな一年であったようには思います。

ただし診療報酬改訂の影響で病院全体の経営状態がかなり厳しい状況となり、病床の削減（より高度急性期へ集中）、各科が看護必要度、限界利益について細かく取り組みが求められるなど、院内全体が大きな変革期にあるようには感じます。2026年度の改定の短冊からもこの流れは更に加速が予想されますので今後もしっかり対応して行くべく不断の技術向上がさらに求められつつあるように思います。

ただし厳しい中でも、収益のために救急症例をしっかりと受け入れるとの方針へ変更となったおかげで、当科での緊急手術症例の受け入れ環境がやや改善したことはありがたい変化だと考えます。

もちろん当科のマンパワー的に常に何でも、というわけにはいきませんが、筑豊唯一の心臓血管外科としての使命をしっかりと果たせるよう今後も尽力していきたいと思っています。

臨床としては、呼吸器外科の協力で開始した心房細動症例に対する胸腔鏡下左心耳閉鎖術の症例が10例と徐々にですが増加、現在両側胸腔鏡下アプローチでの不整脈治療までも進めるべく準備中です。

大動脈ステントに関しては、本年より保険適応となった弓部、胸腹部の大動脈ステント治療が一部保険適応となり、これまでsurgeon's modificationとして取り組んできた弓部、胸腹部の分枝型ステントがより施行しやすくなる可能性が高まっています。開胸困難ながら解剖学的に難易度の高い大動脈瘤への対応も今後よりスムーズになりそうで大きな期待を抱いているところです。

さらに弁膜症を中心とした低侵襲心臓手術も将来のロボット心臓手術の導入を目標に一例一例丁寧に症例を重ねています。TAVIについても2機種めのデバイス指導医資格を取得、今年は3機種めの使用開始にむけ準備中でより広い選択肢から最適な方法を選べるように進化できればと考えています。

当院は高齢化の進んだ、さらに人口の減少しつつある医療圏でもあり、心臓外科としては集約化の大きな波に対して、既存術式の質向上はもちろんですが、それに加え高齢者、超高齢者に対して、上記のような新規術式の導入、患者獲得を行うことで、ぎりぎりながらも将来への生き残りを目指す必要があると考えます。

昔も今もどんな時代にあっても、心臓血管外科の常に変わらぬ大きな目標は、患者さん一人一人に応じたよりよい手術、治療の提供ができるような質の向上です。今年も『選ばれる高度急性期病院』の『選ばれる心臓血管外科』を目指して先ずは生き残り、さらに常に前へ、精進を続ける覚悟です。

今年もまた一年宜しくお願い致します。

33. 血管外科

血管外科部長 松元 崇

2025年に当科で行った手術の症例数は以下の通りで、ほぼ例年通りでした。

末梢動脈疾患においては、従来通り包括的下肢慢性虚血の患者様を中心に、個々の患者様の下肢の血管病変などにあわせて血行再建術（バイパス手術・血管内治療・ハイブリッドなど）を選択しています。本年からは、急性動脈閉塞に対する血栓吸引デバイスでの血栓除去も開始しました。

下肢静脈瘤については、血管内レーザー焼灼術に加え接着剤による血管内治療（グルー治療）も導入しており、患者様のご希望で日帰りないし1泊2日での治療を選択して頂いております。

腹部大動脈・腸骨動脈瘤に関しても、患者様の全身状態や解剖学的要因およびご希望にあわせて開腹手術やステントグラフトでの治療を行っています。

今後も一層のご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

2025 年診療実績

手術症例数

末梢動脈疾患

バイパス移植術：22、 EVT：16（含むハイブリッド手術 4）

動脈血栓内膜摘出術：12、 動脈塞栓除去：11（うち血栓吸引 2 例）

末梢動脈瘤手術：7、 血管吻合術：18

静脈疾患

下肢静脈瘤血管内焼灼術：84

腹部大動脈瘤・腸骨動脈瘤（心臓血管外科と重複あり）

人工血管置換：11、 EVAR：55

その他：4

総手術数 240 例

34. 脳神経内科

脳神経内科部長 高瀬敬一郎

飯塚病院脳神経内科は例年脳神経救急疾患が診療の主軸であり、この1年もその傾向は同様です。脳神経内科では入院患者の8割が急患入院です。なかでも最も多いのが脳梗塞で、2025年度は約442人が脳梗塞で入院されました。2025年は2024年に比べ7人増加に転じました。超急性期血栓溶解療法（t-PA療法）も積極的に行っています。2024年には計32人に行い、2024年度より4人多い成績でした。脳神経外科の協力の下、カテーテルを用いた超急性期血栓回収療法も計31人に行っております。また脳梗塞、てんかん重積状態、髄膜炎・脳炎などの救急神経疾患以外にも、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病などの神経変性疾患や、多発性硬化症、重症筋無力症などの神経免疫疾患なども、筑豊地域唯一の神経難病専門病院として、引き続き数多く診療しております。認知症は外来で「物忘れ外来」として診断を中心とした診療をしており、抗アミロイドβ抗体薬による治療も開始しました。てんかん専門外来や片側顔面けいれん等へのボトックス治療も行っております。

2025 年 入院患者内訳

総退院患者数	680 件
急患数	592 件
死亡数	25 件
剖検数	1 件

疾患名	件数	疾患名	件数
脳血管障害	465	多発性硬化症／急性散在性脳脊髄	0
脳梗塞	442	重症筋無力症	22
脳出血	1	筋疾患	5
TIA	22	脊髄疾患	8
意識障害	3	脊髄炎	4
脳症	1	頸椎症・腰椎症	3
感染症・炎症	17	脊髄血管障害	0
髄膜炎	7	痙性脊髄麻痺	0
脳炎	9	その他の脊髄症	1
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	末梢神経障害	12
神経梅毒	0	てんかん／けいれん	76
変性疾患	38	認知症／健忘症	3
パーキンソン病	14	中毒	0
パーキンソン症候群	0	代謝性疾患	1
脊髄小脳変性症	7	腫瘍性疾患	3
筋萎縮性側索硬化症	10	心因性疾患	3
その他の変性疾患	7	その他	21

35. 漢方診療科

漢方診療科部長 井上博喜

2025年の漢方診療科では、小児から高齢者まで幅広い年齢層の患者に対し、西洋医学と漢方医学を統合した診療を行った。とくに小児・思春期の起立性調節障害を中心とした自律神経関連症状の受診が引き続き多く、外来治療に加え、難治例に対しては入院による漢方治療を実施した。これらの取り組みは全国的にも特徴的であり、診療実績の集積と情報発信を進めている。また、学生・研修医実習やeラーニングを活用した教育活動も継続し、次世代医療者の育成に努めた。さらに、学会発表やWeb講演会を通じて、漢方医学の有用性を広く発信した。

2025 年診療実績

入院患者疾患別内訳

病 名	総数	急患	性別		年齢 (中央値)	在科日数 (中央値)
			男	女		
循環器疾患	25	4	11	14	14	14.5
起立性調節障害	25	4	11	14	14	14.5
神経系疾患	6	1	1	5	26.5	18
ギラン・バレー症候群／A I D P	1	0	0	1	29	22
睡眠障害・詳細不明	1	1	1	0	18	17
疲労症候群（ウイルス感染後）	3	0	0	3	45	19
片麻痺・詳細不明	1	0	0	1	24	17
筋骨格・結合組織疾患	2	2	1	1	79	12
リウマチ性多発筋痛症	1	1	1	0	85	7
関節痛（多部位）	1	1	0	1	73	17
精神疾患	1	0	0	1	17	16
神経性無食欲症・摂食障害	1	0	0	1	17	16
悪性疾患	1	0	1	0	73	12
食道癌（胸部）	1	0	1	0	73	12
眼疾患	1	1	0	1	66	22
末梢性めまいN O S	1	1	0	1	66	22
呼吸器疾患	1	0	0	1	76	6
肺炎，病原体不明，詳細不明	1	0	0	1	76	6
内分泌疾患	1	0	0	1	24	25
慢性甲状腺炎／橋本病	1	0	0	1	24	25
その他	1	1	0	1	47	24
更年期症候群	1	1	0	1	47	24
総計	39	9	14	25	16	15

36. 救急科

救急科部長 山田哲久

当院は、人口およそ40万人の筑豊地域唯一の三次救急施設です。筑豊地域最後の砦としての役割を担うために、救急科医師（スタッフ・後期研修医・専攻医）が365日24時間救急患者に対応しています。従って、一次二次症例は積極的に受け入れをお断りしています。一次二次医療機関からの紹介や救急隊からの受け入れも、三次症例でなければ基本的にお断りしています。当院でなければ受け入れが困難な症例を厳選して受け入れることを目指しています。2025年は救急搬送患者の入院率は66.5%（当院入院4,833例/救急搬送7,264例）でした。

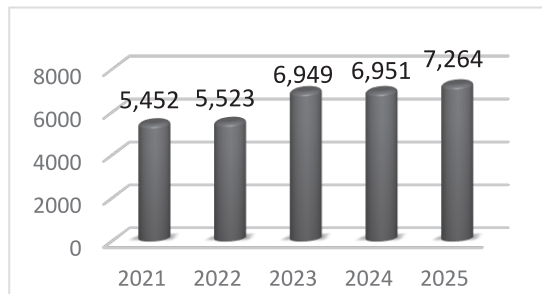
救急科医師は搬送患者の状態を迅速に安定化させ、各専門科医師に引き継ぐ役割を担っております。当科の特色の一つに、病院車運用方式でラピッドレスポンスカーによるドクターカーの運用があります。現場から傷病者に対する診断、処置を開始します。心肺停止患者においてドクターカー症例は統計学的に有意に心拍再開率が高い結果となっています。けいれん発作やアナフィラキシショックは救急隊だけでは処置できません。ドクターカーは筑豊地域の救命体制の中心的役割を果たしていると考えています。

教育面では、当院は臨床研修指定病院であり、初期研修医は救急科をローテーションすることを必須としています。救命救急センターでは、救急科医師（スタッフ・後期研修医・専攻医）のバックアップのもと、研修医が初期診療を行います。当院の救命救急センターは、症例数が豊富であり、研修医にとって修練の場として最適な環境となっています。従って初期診療は専門科ではなく研修医が行います。

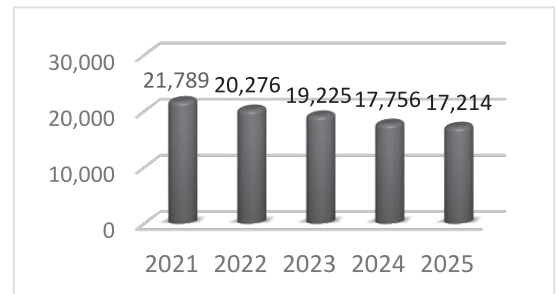
以上、今後も筑豊地域の救急医療に貢献させていただくことができましたら幸いです。

1) 救命救急センター統計

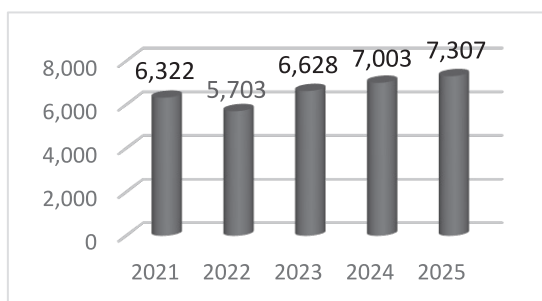
①救急車受入件数推移



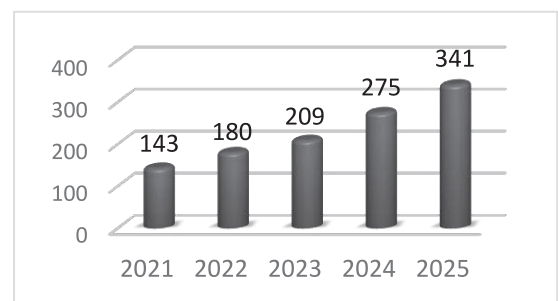
②センター受診患者数推移



③センター経由入院患者数推移（全診療科）



④ドクターカー出動件数



2) 主な症例別件数

・ 外傷		357例
	AIS ≥ 3	243例
	ISS ≥ 16	114例
・ CPA		293例
	救外死亡	224例
	入院	67例
	転医	2例
	帰宅	0例
	(入院後転帰)	
	死亡	47例
	帰宅	13例
	転医	7例
	入院中	0例

・ 脳卒中		509例
	脳梗塞	298例
	くも膜下出血	50例
	脳出血	161例
・ 急性冠症候群		249例
	心筋梗塞	194例
	狭心症	55例
・ 急性大動脈解離		67例
・ 敗血症		191例

37. 集中治療科

集中治療科部長 吉野俊平

12床で構成されるICUは、集中治療を専門とするスタッフにより院内急変や救急搬送された重症患者に対する集中治療管理、および外科系患者の周術期管理などを行っています。現在、集中治療専門医3名と急性・重症患者看護専門看護師1名、集中ケア認定看護師1名、特定行為看護師1名、クリティカルケア特定認定看護師1名を含む多職種が、主科と密に連携を取りながらhigh intensity ICU mode（すべてのICU患者に対して集中治療医が診療に携わり、他の主治医がいたとしてもその主治医とともに患者さんに対して責任を共有しているICU）として運営しています。

2025年の入院患者数は876名、疾患別順位は心血管疾患、消化器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患で、同年の生命維持装置の装着患者は人工呼吸器426名、血液浄化療法184名、機械的補助循環は経皮的心補助装置（PCPS）22件、大動脈内バルーンパンピング（IABP）44件、IMPELLA14件の計80件でした。人事関連では専攻医20名、初期研修医10名がローテイトしてくれました。今後とも診療の質や安全性の更なる向上を目指して努力して参ります。

2025 年 ICU 入室患者

全入室患者数	876 名
平均年齢	69.7（4～96）歳

性別	
男性	541 名（61.8%）
女性	335 名（38.2%）

入院経路	
緊急	675 名（77.0%）
予定	201 名（23.0%）

平均在室日数	4.3 日
ICU 内死亡	48 名（5.5%）

疾患別		
心血管	計	271
	予定術後	106
	心停止	48
	急性心筋梗塞	33
	その他	84
消化器	計	182
	手術後	122
	消化器の炎症 / 感染	31
	消化管出血	26
	その他	3
呼吸器	計	170
	肺炎	59
	ARDS	30
	誤嚥性肺炎	19
	その他	62
代謝性	計	118
	電解質異常	53
	薬物中毒	17
	糖尿病性ケトアシドーシス	16
	その他	32
敗血症	計	67
	尿路感染症による敗血症性ショック	45
	敗血症性ショック *臓器分類不明	22

神経系	計	27
	てんかん / 痙攣	12
	手術後	8
	その他	7
筋骨皮膚	計	18
	蜂窩織炎 / 軟部組織感染症	6
	手術後	6
	その他	6
外傷	計	15
	手術後	8
	頭部を含まない外傷	2
	頭部を含む外傷	1
	熱傷	4
泌尿生殖器	計	4
	手術後	1
	その他	3
血液疾患	計	2
	血液関連疾患	2
小児	計	2
	小児疾患	2

38. 形成外科

形成外科部長 平川愛子

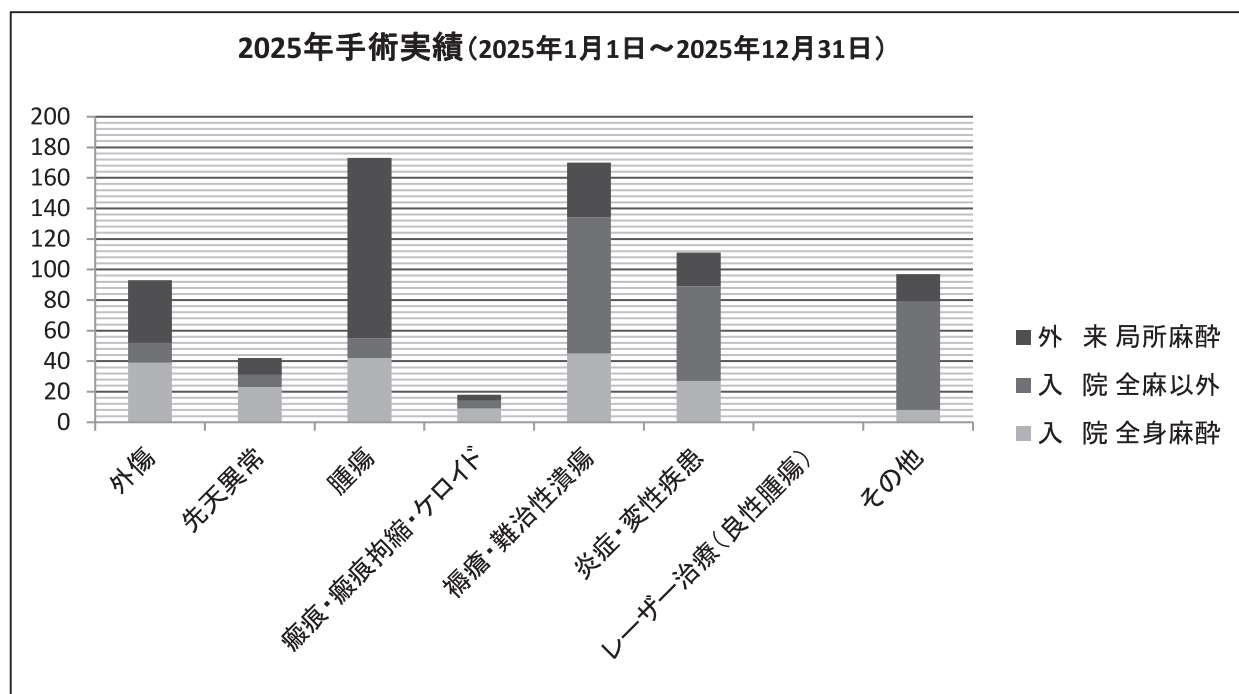
現在、飯塚病院形成外科は平川愛子、市川宗近、井川怜美の常勤3名と、非常勤として力丸英明教授（久留米大学形成外科・顎顔面外科講座）の、常勤3名・非常勤1名体制で診療を行っています。

顔面骨骨折などの外傷や、熱傷、皮膚腫瘍、睫毛内反症、眼瞼下垂症、瘢痕の修正などの患者さんを主体に診療を行っています。また、糖尿病足病変を始めとして、重症下肢虚血に対しては、総合診療科、血管外科や循環器内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓内科、リハビリテーション科と連携した診療を行い、頭頸部腫瘍では、耳鼻咽喉科・歯科口腔外科と連携した頭頸部再建手術などのチーム医療を積極的に行っています。

今後も筑豊地区の基幹病院に所属する一員として、より一層充実した医療を地域の皆様に、ご提供できればと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

2025 年 手術件数内訳（2025 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日）

区 分	入院		外来		計
	全身麻酔	全麻以外	全身麻酔	局所麻酔	
外傷	39	13		41	93
先天異常	23	8		11	42
腫瘍	42	13		118	173
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	9	5		4	18
褥瘡・難治性潰瘍	45	89		36	170
炎症・変性疾患	27	62		22	111
レーザー治療（良性腫瘍）					0
その他	8	71		18	97
合計	193	261	0	250	704



39. リハビリテーション科

リハビリテーション科部長 松本弥一郎

2025年は、大きな問題なく業績を積み上げてまいりました。脳卒中後遺症による上下肢痙縮患者に対するボツリヌス療法+集中的リハビリテーション治療の治療効果、患者満足度をあげることができました。急性期の治療適応患者の拾い上げを行い、早期の施注も行いました。

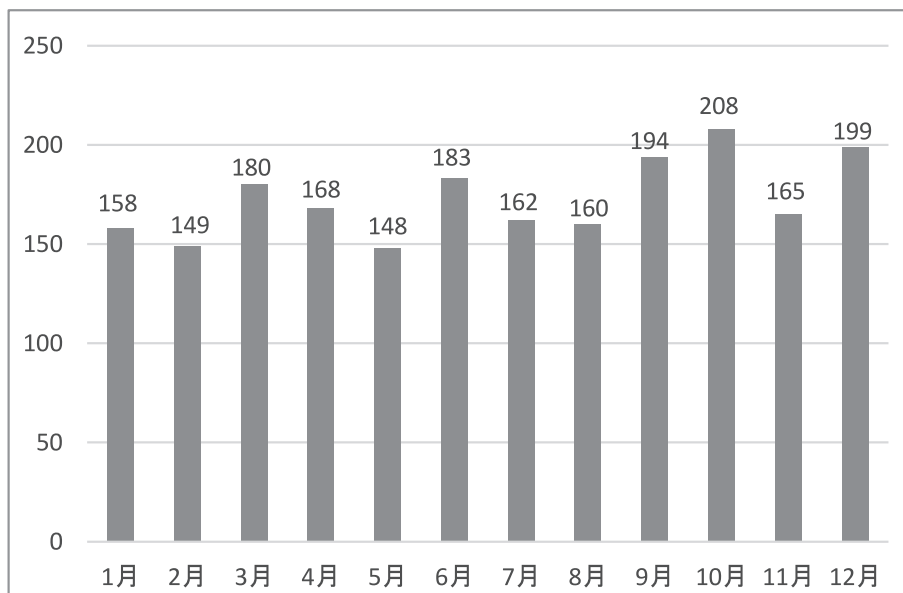
従来から取り組んでいる呼吸器外科、乳腺外科、肝臓外科の周術期リハビリテーションは継続して行う事ができました。特に乳腺外科では、続発性リンパ浮腫に対し早期発見・早期ドレナージ指導・治療により、患者さんの仕事復帰の一助となりました。また、呼吸器外科ではロボット支援手術が導入され、患者さんへの手術侵襲の低減により術後の早期離床が全ての患者さんで均一となりました。侵襲の低減によりリハビリテーションも順調に進み、入院期間の短縮に繋がっています。

嚥下困難患者さんに対する嚥下内視鏡検査を再開し、適切な食事形態や嚥下機能の状態の確認を行っております。

2026年もこれまでの取り組みの継続、新たな取り組みを行っていききたいと存じます。

診療実績（2025年1月～12月）

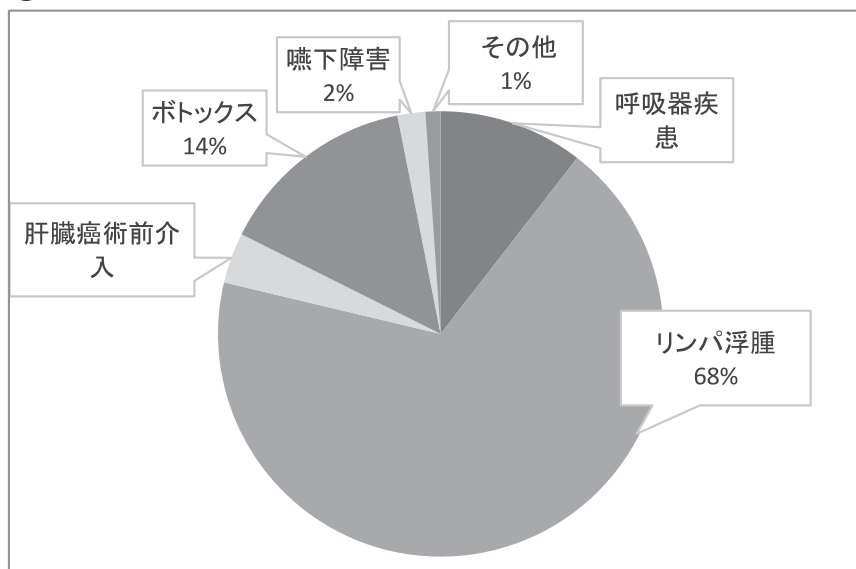
①月別延べ患者数



③ボトックス月別施注件数

	実施件数
1月	11
2月	11
3月	11
4月	10
5月	15
6月	9
7月	6
8月	16
9月	9
10月	11
11月	13
12月	9
	131

②年間外来患者疾患別内訳



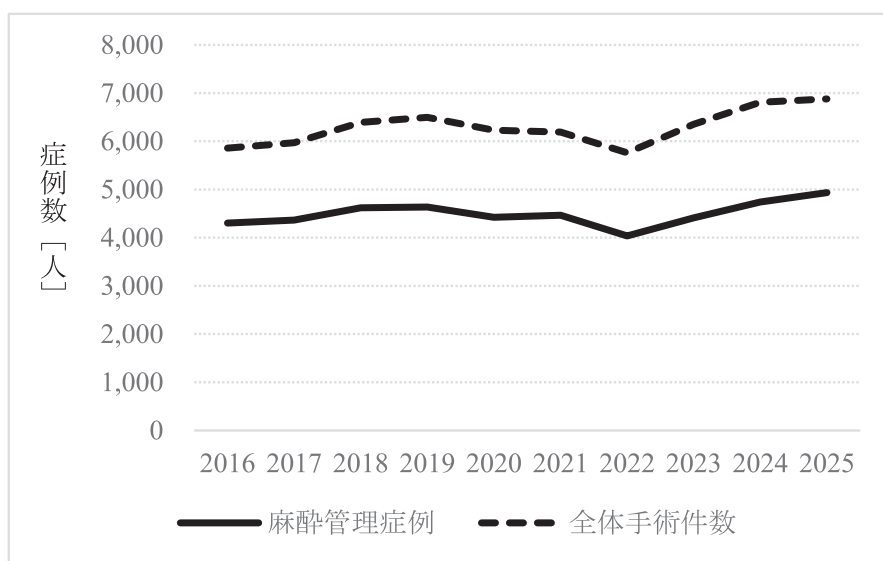
40. 麻酔科

麻酔科部長 内藤智孝

2025年度、当科で4年間の研修を積んで参りました専攻医が麻酔科専門医試験に合格しました。来年度からは、当科スタッフとして新たな道を歩み始めます。また、新たに専攻医1名が加わり、麻酔科専門医5名、専攻医3名と歯科麻酔科専門医1名の9人体制となります。しかしながら、年間5,000例近い麻酔科管理手術を遂行するには、依然としてマンパワー不足です。研修の見直しにより初期研修医のローテーション希望者も増えました。また、院内外向けの麻酔科セミナーを開催し、麻酔科志望者を増やす取り組みも続けています。院内においては、救急科や集中治療科との連携を強め、院内麻酔科支援医師構想を進めています。マンパワー問題解決には、人材確保のみならず、効率的な手術室運営も必要です。2025年度から、歯科手術を歯科外来で行えるよう、手術室新設の準備を進めており、周術期管理の最適化とあわせ、中央手術室の効率的な運用を目指します。また、歯科麻酔についても、2024年度歯科麻酔学会研修機関の認定を受け、歯科麻酔科専攻医の受け入れ、教育にも力を入れています。飯塚病院麻酔科が総合麻酔科として、活気あるコミュニティを築いていきたいと考えております。手術を受ける患者さんの安心、安全を提供できるよう一丸となって努力して参ります。

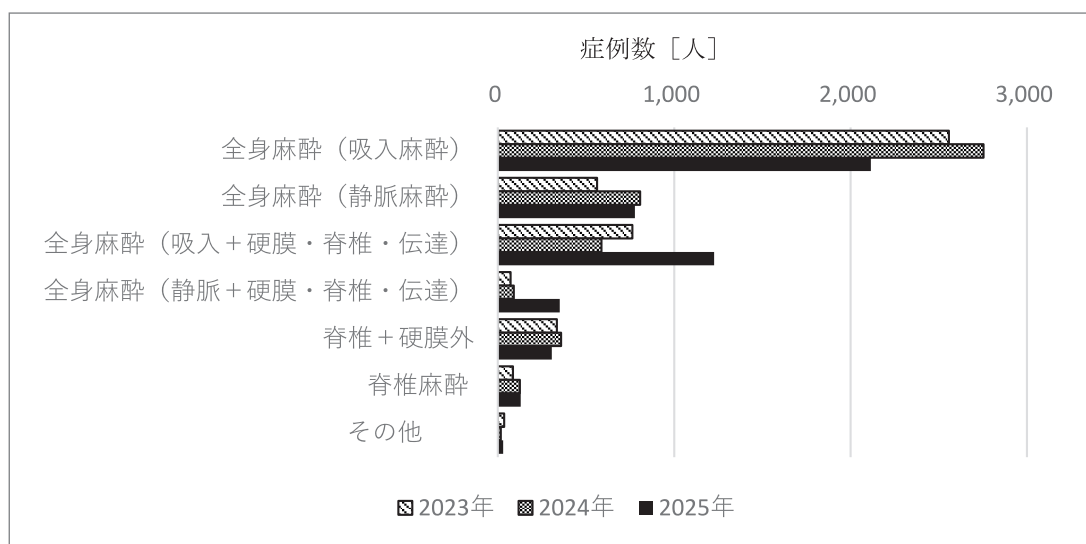
1) 手術件数の推移

2019年まで、手術件数は年々増加していましたが、2020年以降コロナの影響により減少に転じました。2023年から回復の兆しが見られるようになり、2024年にはコロナ以前の手術件数を上回りました。その後も順調に手術件数を伸ばし、2025年には、手術件数は7,000件近くに達しました。



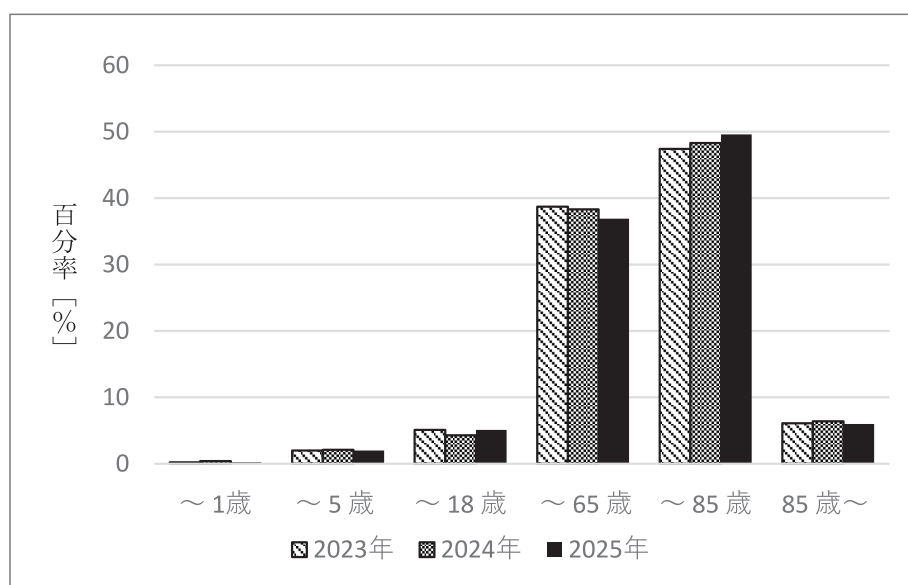
2) 麻酔法による症例数の内訳

2025年の麻酔科管理症例数は4,935例で、2024年の4,741例と比べ194例の増加、2023年をベースとしても症例数は年々増加しています。日本麻酔科学会の分類法に基づく麻酔方法の内訳、及び2023年から2025年にかけてのその変遷を示します。内視鏡下手術や、ロボット支援下手術など低侵襲手術の増加により、2024年は硬膜外麻酔が減少し、術後鎮痛はオピオイドによる静脈鎮痛に移行しました。その結果、オピオイドの副作用である嘔気の軽減を目的とした静脈麻酔が増えました。2025年に入ると次世代鎮痛としての末梢神経ブロック(伝達麻酔)が浸透してきたため、分類的には吸入/静脈を問わず(+硬膜・脊椎・伝達)が急速にその数を増やしました。



3) 手術症例の年齢分布

年齢分布（学会による分類法に基づく）は次のようになっています。2020年に66歳以上の高齢患者さんが全体の50%を超えましたが、以降も上昇傾向は変わらず、2025年は55%に達しました。



4) 偶発症

麻酔学会の定義する偶発症とは、原因（麻酔、手術、患者さんの病態による理由）の如何を問わず、手術中に起きた危機的状態とされます。偶発症は1. 危機的偶発症（心停止、高度低血圧、高度低酸素血症、高度不整脈、その他）2. 神経系偶発症（脳・脊髄）3. 神経系偶発症（その他）4. その他、と4つに分類されています。2025年に当院で報告した偶発症は1例です。その内訳は次の通りです。（）内は、偶発症の発生頻度で、1万人当たりの発生人数を示しています。麻酔を1万件施行した際、2人に麻酔偶発症が発生する可能性があることを意味しています。本年度は危機的偶発症として、高度低酸素血症を来した症例を報告いたしましたが、適切な対処により、程なく回復、後遺症も認められませんでした。今後もより安全な麻酔を目指して努力してまいります。

	2025	2024	2023
1. 危機的偶発症	1例 (2.0)：高度低酸素血症	0例 (0.0)	2例 (4.5)：心停止 1例 (2.3)：高度低血圧
2. 神経学的偶発症（脳・脊髄）	0例 (0.0)	0例 (0.0)	0例 (0.0)
3. 神経学的偶発症（その他）	0例 (0.0)	1例 (2.1)	0例 (0.0)
4. その他	0例 (0.0)	2例 (4.2)	0例 (0.0)

41. 周術期管理科

周術期管理科部長 尾崎実展

今期、麻酔科術前外来機能の効率化と拡充を目指し3つの目標を掲げました。

- ①術前口腔ケア向上に向けた歯科口腔外科との連携は、人員不足のため来年度に持ち越しとなりました
- ②外来診療前情報収集効率化のためのDS教育を行いました
- ③薬剤師の麻酔外来への参画は薬剤師人員不足のため、来年度に持ち越しとなりましたが、麻酔管理表に持参薬参照機能が追加されたため、術前患者の服薬状況の情報収集が改善されました

今後も麻酔科術前外来機能の効率化と麻酔科医の負担軽減に努めていきます。

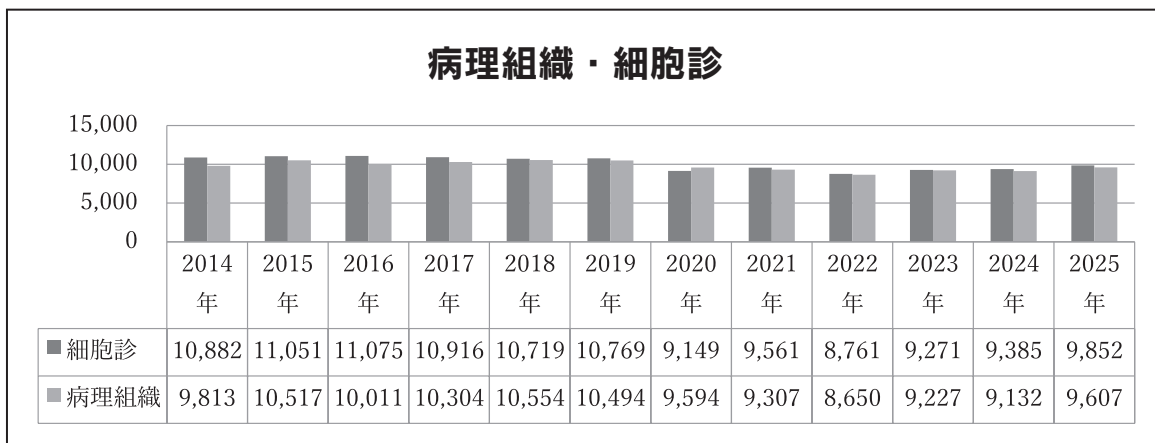
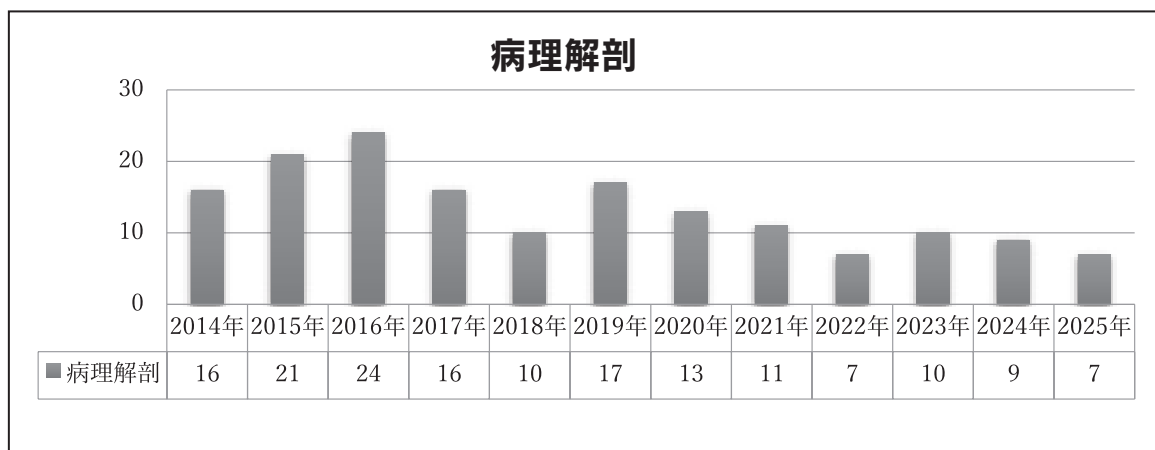
42. 病理科

病理科部長 大石善丈

大石善丈、平木由佳医師、谷口緑医師の3人体制で生検、組織診、術中迅速診断、細胞診、病理解剖、CPC等のカンファランスに対応した。九州大学病理学教室員や、福岡山王病院の大屋前部長に週1回ずつ診断応援をいただいた。血液疾患は引き続き大島孝一先生に御高診いただいた。他院からのコンサルテーション症例への対応、JGOGによる婦人科腫瘍臨床研究への協力を行った。

< 2025 年中央検査部病理 診療業績 >

1. 病理組織診断 9,607 件 (特染 2,612 件、免疫染色 2,561 件)
(癌 2,073 件 悪性疑い 922 件 肉腫 4 件
リンパ腫 109 件 黒色腫 6 件)
2. 術中迅速診断 562 件
3. 細胞診 9,852 件
4. 遺伝子診断 60 件
ISH 法による EBER-1 の解析
(検体は胃切除標本など)
5. 血球細胞機能検査 896 件
(フローサイトメトリーによる造血器腫瘍の診断など)
検体は末梢血、骨髓、リンパ節等の新鮮材料
6. 腎生検 31 件
7. 蛍光抗体検査 70 件
8. 剖検 7 件



43. 感染症科

感染症科部長（代行） 小出容平

感染症科は、筑豊地域唯一の感染症専門科として、2019年4月に開設されました。

2025年も、病棟業務として、①感染症診療コンサルテーション、②血液培養陽性患者のフォローアップ、③抗菌薬の適正使用支援活動を重点的に実施しました。

また、結核などの抗酸菌感染症やHIV/性感染症を中心とする保険診療に加えて、2019年7月からは、完全予約制の専門外来として、ワクチン・トラベル外来を開設しており、今年も30名程度の海外渡航者にご利用いただきました。さらに感染症の専門家として、公衆衛生に寄与するべく、ワクチンなどの治験にも積極的に参加しました。

今年も様々な感染症が流行しましたが、一方で新型コロナウイルス感染症は落ち着きを見せており、当院では今年から面会制限を緩和しました。今後も、院内の感染制御や感染症教育を継続しつつ、筑豊地域の医療機関や介護福祉施設と連携して、感染対策の向上を推進することで、地域住民の健康維持に貢献して参ります。

外来延べ患者数：922 名

自由診療	613	保険診療	284	針刺し	8
新規	235	新規	87	新規	6
再診	378	再診	197	再診	2

治験	17
新規	1
再診	16

抗菌薬適正使用支援	339	血液培養	1,098
-----------	-----	------	-------

1) 入院患者疾患別内訳

病名	計
総計	0 ※

※ 2025 年入院患者は 0 名

2) 新規外来患者（保険診療）疾患別内訳

病名	計
性感染症	91
抗酸菌感染症	52
ワクチン接種（保険適応）	51
その他（非感染症）	36
骨関節感染症	19
その他感染症	17
皮膚軟部組織感染症	7
腸管感染症	6
呼吸器感染症	2
耳鼻科感染症	1
腹腔内感染症	1
尿路感染症	1
総計	284

3) 感染症コンサルト疾患別内訳

病名	計
呼吸器感染症	137
血流感染症	100
皮膚軟部組織感染症	56
尿路感染症	47
骨・関節感染症	44
腹腔内感染症	41
その他感染症	38
肝・胆道系感染症	29
その他（非感染症）	24
中枢神経系感染症	16
腸管感染症	15
感染性心内膜炎	13
耳鼻科感染症	7
性器・性感染症	6
眼感染症	1
総計	574

44. 予防医学センター

予防医学センター長 矢野博美

2025年は、予防医学本部長 本村健太院長、予防医学センター長 矢野博美（医師：漢方診療科診療部長）、川野綾子医師（内視鏡検査担当）、竹内肇医師（婦人科検診担当）、マネージャー 1 名、保健師 3 名、看護師 6 名、事務 5 名、DS 1 名で業務をおこなって参りました。

今年は運営において大きく3つの改善を実施しました。1) センター内に内視鏡検査室を開設、2) 専属の婦人科検診担当医師を配置、3) AI電話による受付・変更・お問い合わせを開始しました。これらの改善の結果、内視鏡検査枠が約1.5倍となり内視鏡検査ご希望の多くの方にご提供ができるようになりました。また専属の婦人科検診医の配置により、従来の受診スケジュールで健診同日の午後もしくは後日になっていた婦人科検診が同日の午前中で終了できるようになり、利用者から大変好評を得ることができました。3つめの改善のAI電話とは、AIが受付担当者に代りご用件をお聞きするシステムで、電話をおかけいただいた時に話し中になることはなく、24時間365日営業時間外でもご利用可能となり、利用者のみなさまが予約や変更をしたい時にご連絡いただいております。まだまだご紹介が十分でないため、来年は更にご利用いただけるように周知していききたいと思います。

収益は15年ぶりに価格改定に着手し、4月から新価格にて健診をご提供しています。また新しいオプション検査として、9月より骨密度測定検査を開始しました。その他今年は、ご利用者のみなさまにアンケートにご協力いただき、結果を分析、ご希望の多かった検査や待ち時間の改善を来年の目標として掲げ、今後も利用者からの声に耳を傾けながら、地域の皆様や利用者の方々の健康管理の一翼を担えますよう、スタッフ一同これからも努力して参ります。

1) 受診件数（のべ件数）

健診区分	受診者数
日帰りドック	3,077
全国健康保険協会	2,170
健診（企業）	1,362
特定健診	373
レディースドック	445
乳がん検診	2,885
脳ドック	258
婦人検診	2,416
消化器がんドック	20
膵臓がんドック	124
がん PET 検診	52
婦人検診（協会けんぽ）	50
心臓・肺がんドック	21
骨ドック	58
被爆検診	6
計	13,317

2) 紹介状発行件数（件）

紹介目的	総件数	院外	院内
上部消化管内視鏡	635	68	567
眼科疾患	258	165	93
婦人科	230	163	67
便検査	216	65	151
上部消化管 X 線	163	31	132
肝機能異常	122	70	52
腹部超音波検査	167	27	140
乳腺	269	150	119
心電図	104	47	57
脂質異常	84	65	19
診察異常所見	48	17	31
高血圧	120	82	38
胸部 X 線	116	11	105
糖尿病	50	30	20
貧血	65	34	31
尿検査異常	29	15	14
耳鼻咽喉疾患	13	5	8
腫瘍マーカー	12	1	11
PET-CT 検査	13	2	11
MR 検査（脳ドック）	10	0	10
ピロリ・除菌治療	79	38	41
高尿酸血症	8	2	6
腎機能異常	19	12	7
下部内視鏡	13	0	13
動脈硬化	4	2	2
その他	243	98	145
計	3,090	1,200	1,890

45. 看護部門

看護部門長 森山由香

2024年に能登半島地震への被災地支援を通じて再確認した「繋がる力」を基盤に、2025年度の看護部はさらなる専門性の追求と組織の進化に挑戦し続けています。特定行為研修の拡充による高度な実践力の育成、セル看護提供方式[®]の全国的な普及、そしてデジタル技術による業務改善の推進。一人ひとりの患者さんに寄り添う“まごころケア”の質を一層高めるため、一丸となって取り組んだ2025年の主要な活動をご報告いたします。

1. セル看護提供方式[®]の価値創造と全国への発信

当院が推進する「セル看護提供方式[®]」は、今や全国の看護現場が注目する革新的なモデルへと進化を遂げています。2025年10月には、のがみプレジデントホテルにて「第7回セル看護推進研究会」を開催いたしました。全国から400名近い志を同じくする方々にご参加いただき、熱気あふれる議論を通じて、この方式が持つ真の価値を再確認することができました。

また、10月には新たに「セル看護推進担当マネージャー」を配置いたしました。これにより支援体制が一段と強固になり、全国の現場から多くのご要望をいただいていた研修がついに始動しました。11月に実施した「セル看護提供方式[®]研修3日間コース」では、外部からの研修生を受け入れ、実践に即した濃密な学びの場を提供することができました。私たちの取り組みが、自院のみならず日本の看護の未来を切り拓く原動力となっている事実は、スタッフ全員にとって大きな誇りと自信につながっています。さらに、全国からの施設見学受け入れ、講演会や学会発表、医療・看護系雑誌での連載や事例集の刊行を通じて、当院の知見を広く社会に還元しています。

2. 高度な専門性と次世代を担う人材の育成

専門性の向上においては、2024年12月時点で計14名の特定行為・特定認定看護師が、修得した技能を活かし当院の看護に新たな息吹を吹き込んでいます。加えて2026年3月には新たに7名のスペシャリストも誕生いたします。今般、力量評価システムも完成しました。これにより確実なスキル保証のもと、更なる医師部門との連携により迅速且つ質の高い看護提供を確約いたします。

3. DX推進と業務改善によるケアの質向上

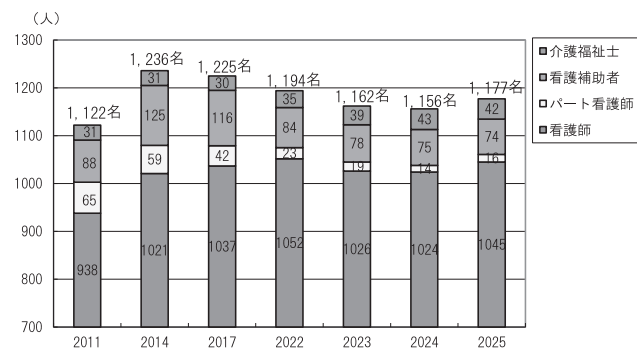
DXの推進は、現場の課題解決と業務負担軽減の大きな柱となっています。2025年7月からはYouTubeチャンネル『飯塚病院DX「中の人」チャンネル』を開設し、現場の創意工夫を外部へ発信し始めました。また、数理最適化を用いた看護師配置の最適化や看護師の勤務表作成システムなど、最新技術をケアの現場へ還元する挑戦を続けています。

4. 地域連携と組織の活性化

組織運営においては、定年退職者を再雇用する“e-nurse”が、業務支援や後輩指導において欠かせない存在として定着しています。地域支援では、他施設への褥瘡看護ケア指導や施設訪問を継続し、地域医療全体の底上げに貢献しました。加えて、看護補助者の業務を可視化・チーム化するプロジェクトを進め、障害者雇用への寄与も含めた、多様な人材が輝ける職場環境の整備に邁進しています。

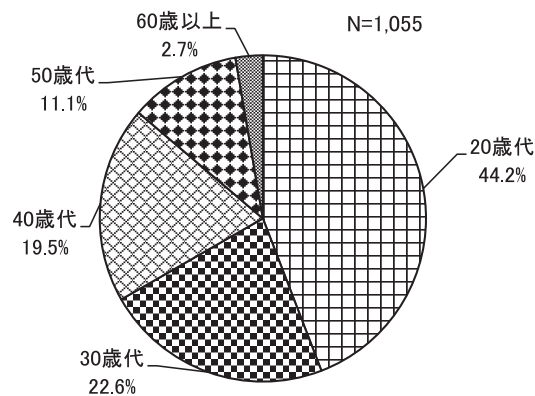
私たちは今後も、変化を恐れず、患者さんとともに歩む看護部として、一人ひとりの情熱を力に変えて挑戦し続けます。

看護スタッフ数（2025 年 4 月 30 日現在）



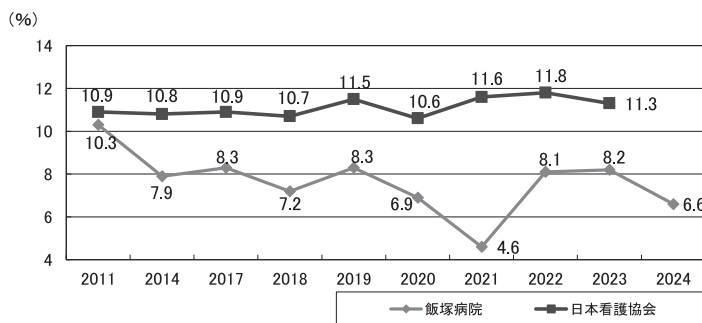
* 看護部長室「月間看護職員動向」より
産休育休者含む、退職者・出向者除く
2021 年より中央材料室除く

看護師の年齢構成（2025 年 4 月 30 日現在）



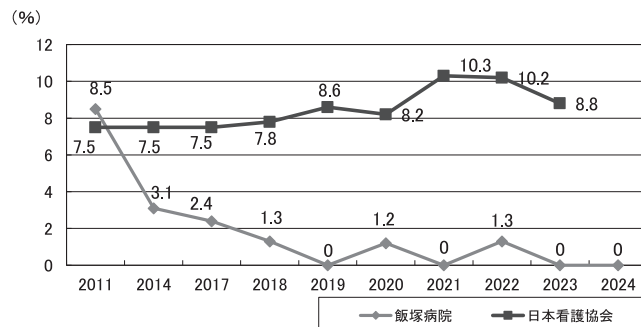
* 産休・育休：約 60 名 / 月
* 看護師平均年齢：34.6 才
* 勤続年数：10.8 年

常勤看護職員離職率の推移



※定年退職者含む（パートを除く）

新人看護職員離職率の推移



資格取得者数（2025 年 12 月 31 日現在）

【認定看護管理者】 7 名

専門分野	人数
認定看護管理者	7

【専門看護師】 4 名

専門分野	人数
慢性疾患看護専門看護師	1
精神看護専門看護師	1
急性・重症患者看護専門看護師	1
がん看護専門看護師	1

【特定認定看護師】 5 名

専門分野	人数
脳卒中看護特定認定看護師	1
感染管理特定認定看護師	1
クリティカルケア特定認定看護師	1
認知症看護特定認定看護師	2

【特定行為看護師】 10 名

特定行為区分	人数
術中麻酔管理領域 (6 区分 8 行為)	6
救急領域 (5 区分 9 行為)	3
区分別	1

【認定看護師】 21 名

専門分野	人数
集中ケア認定看護師	2
感染管理認定看護師	2
皮膚・排泄ケア認定看護師	2
糖尿病看護認定看護師	1
救急看護認定看護師	1
乳がん看護認定看護師	1
摂食・嚥下障害看護認定看護師	1
緩和ケア認定看護師	4
慢性呼吸器疾患看護認定看護師	1
小児救急看護認定看護師	1
がん化学療法看護認定看護師	2
慢性心不全看護認定看護師	1
透析看護認定看護師	1
手術看護認定看護師	1

【WOCN】 1 名（海外で取得）

専門分野	人数
WOCN	1

46. 医療技術部門

医療技術部門長 井本俊之

医療技術部門では、2025年度、スタッフがコア業務に専念できる環境を整えるため、医療DXの取り組みを部門全体へ拡大した。これにより業務効率を向上させるとともに、健全経営の実現に向けてタスクシフト・タスクシェアを積極的に推進した。

事業目標としては、①健全経営の強化、②「専門医療・質と安全・地域連携・人材力・健全経営」の視点を中心とした取り組みの実施、③コア業務の強化および業務プロセス改善のためのKW活動・TQM活動・EK活動の推進、という3項目を掲げた。今年度は、改善人材の裾野を広げるため、入職5年以内のスタッフによる積極的なEK活動の推進を目標とした。また、中堅スタッフにおいても、改善文化の醸成を目的にTQM活動やKW活動へ参加しており、日々の業務を見直す重要なきっかけとなった。

なお、各部署の活動については概略を下記に示す。

【中央放射線部】 2025年は目標の一つとして「タスク・シフト／シェアの推進」を掲げ取り組んだ。告示研修の受講率は98.6%（68名）に達し、部門全体の法的基盤を整えた。特に血管造影部門では、PCI後の患者への被ばく説明に関する新たな運用を9月より開始した。技師と看護師からなる活動チームを組織し、ピーク線量2Gy超過時の線量報告書作成、および皮膚経過記録の仕組みを整備した。運用にあたっては、放射線技師が作成した線量報告書とパンフレットを基に、看護師と合同で患者への直接説明を行う体制を確立した。現在までに11例の実施に至っている。また、MRI部門では静脈路確保の実践に向け、部内オリジナルテストに加え、ファントム研修の段階から看護師の指導を仰ぎ、その後実際の患者に対する実技研修へと段階的に移行した。資格面ではX線CT認定技師2名、災害支援認定診療放射線技師1名が新たに誕生した。今後多職種連携を深め、専門技術をもって質の高い診療を支え、地域医療と患者安全の向上に寄与していく。

【臨床工学部】 2025年も昨年に引き続き、「医師業務のタスクシフト推進」を事業目標とし、医師の業務負担軽減につながる2項目について重点的に取り組んだ。

1つ目の取組として、腎臓内科医が実施していた「PTA前シャント血流量測定」を一部の臨床工学技士が担った。2025年は全測定件数497件のうち450件を技士が実施し、実施割合は90.6%となった。これは、前年の実績（521件中330件、63.3%）と比較して、技士の実施件数・割合ともに大幅な増加であり、医師の業務負担軽減に大きく寄与した。2つ目の取組として、鏡視下手術における医師のスコップ操作業務について、タスクシフトを推進するため、操作業務に対応可能な技士の育成を開始した。業務マニュアルおよび育成マニュアルを整備し、体系的な育成体制を確立した。これらのタスクシフトを継続的かつ安全に推進する基盤として、臨床工学部では昨年に引き続き、厚生労働省が示す告示研修の受講を積極的に推進した。2025年12月までに対象スタッフ71名のうち66名が研修を修了し、修了率は93.0%に達した。研修修了者の着実な増加により、臨床工学技士の専門性が強化され、医療現場におけるタスクシフト推進を支える体制整備が進展した。

【リハビリテーション部】 今年、「リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算」の取得に向けた部会を立ち上げた。診療支援室、看護部、栄養部、歯科口腔外科との緊密な連携・調整を重ねた結果、10月より算定を開始するに至った。この連携体制の構築により、患者様への包括的なケアが可能となっただけでなく、毎月安定した増収を実現しており、病院経営への大きな貢献を果たしている。

また、地域ニーズに応えるため、心臓リハビリテーション外来の体制を大幅に強化した。

平日の午前中1クール7名での実施から2クール10名へ拡大。この運用改善により、待機期間の短縮と患者満足度の向上を図るとともに、外来リハビリ収益の着実なアップに繋げることができた。言語聴覚療法部門では、リハビリテーション科医師との連携を強化し、ベッドサイドでの嚥下内視鏡検査（VE）および嚥下エコーを積極的に導入した。現場での迅速な嚥下評価が可能になったことで、早期経口摂取の判断、適切な食形態の決定の迅速化、誤嚥防止と言ったエビデンスに基づいた評価による成果を上げている。

【栄養部】 2025年は、2024年からの継続で給食部門の慢性的な人員不足と食材の値上げに対し、管理栄養士も加わり作業性の改善とコスト削減できる献立を検討し、2025年2月から全献立をリニューアルした。2025年4月からは、抗がん剤治療中の患者専用メニュー（こすもす食）を見直すために対象患者へのアンケート及び摂取量調査を行い、2026年1月よりメニューをリニューアルする予定。臨床栄養部門では、管理栄養士が臨床現場に出る時間を増やすために、新人管理栄養士が独り立ちする期間の短縮化を目的に、2025年6月26日、27日で「調理と栄養管理の二刀流を目指して～業務の掛け持ち負担を強みにかえたい～」と題して、改善ワークショップを行い、教える側、教わる側双方の時間短縮が可能となった。その後、学んだ改善手法を活用し、スタッフの高齢化が著明で人手を要していた洗浄と配膳業務の改善ワークショップを自部署スタッフのみで行い、業務の標準化が可能となり、即戦力となる他部署からの応援を受け入れやすくなった。今後も、改善活動を積極的に行いピンチを乗り越えていきたい。

【薬剤部】 2025年は、2026年4月からの院外処方化を見据えた準備の年であった。業務フローやシステムの見直し、他部門との調整など、基盤整備に注力した。一方で、新人薬剤師9名を迎え入れたものの、中堅・ベテランを含む8名の薬剤師が退職し、人員体制の変化は大きかった。限られた人員の中で外来調剤を含む日常業務を維持することに苦慮し、現場には大きな負担をかけたが、現場スタッフが上手く人員のフォロー体制を構築してくれたため、互いに支え合いながら一年を乗り切ることができた。今後は、業務を対物業務から対人業務メインに切替え、入院患者への服薬指導や服薬支援により多くの時間を割き、入院中の薬の安全管理やチーム医療の質を高め、患者さん全体の安心に繋げていきたい。

【中央検査部】 2025年は事業目標として健全経営への貢献に対し、予防医学センター増収に向けての検査体制の整備に取り組んだ。予防医学センターの売上に貢献すべく、検査技師1名を増員させることになったが、12C超音波検査室における外来・病棟患者の検査対応の水準も維持するために、QC手法を用いて無駄のないより効率的な運用を確立させた。また、今年度のTQM活動では、微生物部門における検査前プロセスの改善として血液培養検体採取の改善に取り組んだ。検査技師が外来や病棟に出向き、検体採取をサポートすることで、血液培養検査の質改善に大きく寄与することができ、最優秀賞という評価をいただくことができた。その他、微生物部門においては皮膚科医のタスクシフトとして皮膚白癬菌検査の検体採取～検査～結果報告を実施し特定の診療科において入院期間の短縮にも大きく貢献することができている。2025年は、検査技師として積極的に臨床の現場に出向くことでチーム医療の一員としての活動を推進できた一年となった。

【医療福祉室】 2025年度は、従来の協力関係から一歩踏み込んだ「戦略的提携」に着手した。具体的には、医師の出向を行っている済生会飯塚嘉穂病院および社会保険稲築病院との間で定期協議の場を設け、転院待機期間の短縮や転院患者数の推移など、数値に基づく具体的な目標設定を実施した。これらにより連携の効率化を大幅に推進した。また、ITツール「MCS（メディカルケアステーション）」を導入し、施設間におけるリアルタイムな情報共有体制を構築。デジタルと人的交流の両面から、地域完結型医療の質の向上に努めた。

【歯科衛生室】 2025年は、乳腺外科および消化器外科との連携を強化し、術後感染性合併症の予防を目的として、周術期口腔機能管理の介入拡大に取り組んだ。歯科を併設する当院の特性を活かし、周術期における口腔管理体制の充実を図ることで、患者の安全性向上および医療の質の確保に寄与した。今後も、より多くの診療科および患者を対象に、介入のさらなる拡大を目指していく。また、「リハビリテーション・栄養・口腔連携加算」の算定開始に向け、看護師が日常的に実施する口腔内観察の標準化を支援するとともに、多職種カンファレンスを通じて口腔ケアの重要性に関する共通理解の促進を図った。さらに、OLS委員会に歯科衛生士が委員として参画したことで、院内の多方面において口腔衛生および口腔機能管理の重要性を発信する機会が拡大し、歯科の役割と重要性を改めて確認する一年となった。加えて、顎関節専門医療機関としての診療体制の充実を目的に、顎関節学会認定歯科衛生士の育成を推進し、2名の歯科衛生士が資格試験に合格した。

【臨床心理室】 2025年は、医師の診断補助である心理検査の体制整備に努めた。成人の知能検査や人格検査を十分に行えるよう、リエゾン精神科・心療内科専用検査枠を作成、検査体制の最適化を行った。対応できる検査を拡充し、認知症の重症度判定を行う臨床認知症尺度CDR等を追加、軽度認知障害（MCI）の治療開始に貢献した。また小児の発達・知能検査については、新人教育ツールを作成、指導の標準化を図った。さらに、子どもたちの適切な診断及び処遇につながるよう、WISCを最新のVに更新。各小児科医へ変更点等の説明や、保護者向けリーフレット及び所見フォーマットを改訂し、患者家族にわかりやすく結果・方針が伝わるよう心がけた。面接では、ICUなど救急での対応力向上を目的に、入院時重症患者メディエーターを2名増員、多職種チームの一員として家族ケアを行った。

【救急救命室】 救急救命室は、救命救急センターにおいて医師・看護師とともにチーム医療を支える専門職として、24時間365日交代勤務で救急医療に携わっている。2010年8月にER-Aideとして発足し、2023年4月より救急救命士室として体制を整えてきた。急性期病院である飯塚病院の救命救急センターでは、多様かつ緊急性の高い状況への対応が求められる。その中で救急救命室は、ドクターカーや病院救急車の運行・乗務、救急車患者の受付、診療材料の管理、初療から重症患者対応まで幅広い役割を担っている。さらに2025年10月には同じ医療技術部門である臨床検査部より臨床検査技師1名を迎え、多職種連携を一層強化し、円滑で質の高い救急医療の提供に貢献している。

47. 経営管理部門

経営管理部門 副院長 岩佐紀輝

1月20日ドナルド・トランプ氏が、アメリカ合衆国第47代大統領に就任しました。相互関税の導入など、その後、世界が大きく揺すぶられていくことになる2025年の幕が開きました。

日本では10月21日、自民党の高市早苗総裁が国会の首相指名選挙で第104代首相に選出、史上初の女性首相が誕生しました。高市首相は2026年度診療報酬改定について本体3.09%のアップを決めました。3%以上のアップは実に30年ぶりのこととなります。

2025年の日本は、統計がある1898年以降でもっとも暑い夏となりました。気象庁によると、全国の平均気温は平年より2.36度高くなりました。5～9月の全国の熱中症による救急搬送人員は初めて10万人を超えました。その57%は高齢者で、発生場所の約4割は住居です。地球温暖化による気候変動の影響は、高齢者や基礎疾患を抱える人などにとって、日常的な災害となっています。

各国の温室効果ガス排出削減目標をもとにした予測では、世界平均気温は今世紀中に産業革命前より2.3～2.5度上がるとされています。採択から10年となった「パリ協定」は1.5度以内を目標としていましたが、達成はほぼ絶望的となっています。

医療の分野が温室効果ガス排出の一因になっていることを自覚する向きは少ないかも知れませんが、世界全体では医療・医薬関連の排出が全産業の約4～5%を占め、日本の保健医療システムも国内排出量の約6%を占めるとの国際的な推計があります。

気候変動は、もはや環境問題にとどまらず、公衆衛生や社会保障、経済、国際安全保障にも直結する総合的なリスクです。医療界も、政治、行政、一般産業界と同じく、責務の一端を負っているものと言えます。

飯塚病院は引き続き多難な経営環境が続いています。経営管理部門では、「企画管理課」を「経営企画室」と名称を改め、「方針管理」とプロジェクト推進をより強力に進めていくことになりました。従来、企画管理課が担っていた診療部門への支援機能は、「診療支援課」に移し、それを担当するスタッフを配置しました。

2040年に向けて、地域医療構想の見直しが始まりました。当院がこの地域における急性期の拠点病院であることに変わりありません。引き続き、働き手を惹きつけ、医療を通じて地域に安心を提供することを継続できるよう、また、それを次世代にも継承していくことを2026年はさらに強固に取り組んでいきたいと考えます。

〔Ⅲ〕 診 療 統 計

1. 退院患者統計

総退院 患者数	性 別		入院年齢（平均値）				在科 日数 （平均値）	入院手順		入院経路			搬送 数	（手術 者数）	主病名転帰						死亡状況		紹介 患者数	救外 CPA 患者数			
	男	女	全体	男	女	外来	救命	転科	急患	予約	検査 終了	死亡			治癒	増悪	中止	不変	術後30 日以内の 死亡：A	術後48 時間内の 死亡：B							
全診療科 総数	24,525	12,857	11,668	65.7	65.4	66.0	12.4	11,715	12,810	14,337	7,616	2,572	5,138	5,987	16,447	1,164	1,257	1,214	279	9	4,155	29	415	8	9,451	226	
肝臓内科	836	481	355	71.8	71.8	71.8	13.3	336	500	652	142	42	79	0	456	86	35	18	16	1	224	1	5	0	229	0	
呼吸器内科	2,013	1,332	681	72.7	72.5	73.2	14.3	835	1,178	1,525	417	71	273	39	761	358	122	19	45	1	707	2	5	1	557	0	
内分泌・糖尿病内科	396	219	177	63.7	63.6	63.9	9.5	46	350	346	21	29	13	0	210	36	1	3	0	0	146	0	0	0	179	0	
消化器内科	1,617	941	676	71.4	70.1	73.1	7.0	582	1,035	1,193	383	41	210	48	1,114	120	5	105	13	1	259	0	1	0	735	0	
血液内科	599	325	274	70.1	71.2	68.9	19.0	145	454	518	47	34	21	3	317	5	4	1	17	3	252	0	1	0	115	0	
総合診療科	3,784	1,861	1,923	73.2	71.4	75.0	13.0	3,116	668	655	2,502	627	1,566	116	2,679	2	152	543	69	0	339	3	23	0	1,254	0	
膠原病リウマチ内科	233	80	153	69.1	69.6	68.9	13.7	45	188	189	16	28	5	0	128	0	4	5	7	0	89	0	0	0	24	0	
連携医療・緩和ケア科	1,744	914	830	79.1	77.3	81.0	19.2	674	1,070	317	463	964	332	34	581	0	543	182	48	0	390	5	103	1	196	1	
リエゾン精神科	92	31	61	61.8	58.9	63.2	105.1	30	62	41	0	51	0	0	57	1	0	1	0	0	33	0	0	0	10	0	
小児科	1,305	720	585	4.5	4.3	4.7	8.3	1,082	223	722	582	1	288	11	1,020	103	3	14	5	0	160	0	3	0	715	3	
腎臓内科	923	493	430	72.9	71.3	74.6	12.7	696	227	774	107	42	69	133	671	37	19	11	6	0	179	0	3	0	538	0	
循環器内科	1,673	1,063	610	73.0	71.1	76.3	10.0	823	850	970	648	55	522	139	1,427	132	37	0	1	0	76	4	11	0	791	0	
外科	1,845	883	962	68.0	69.6	66.6	9.7	322	1,523	1,484	191	170	112	1,130	1,126	15	4	70	5	1	624	1	0	1	628	0	
整形外科	973	351	622	64.5	53.0	71.0	14.8	374	599	757	181	35	99	905	962	0	0	0	0	0	11	0	0	0	533	0	
皮膚科	154	76	78	64.6	62.6	66.5	12.1	26	128	141	3	10	1	95	125	3	0	11	0	0	15	0	0	0	102	0	
泌尿器科	632	511	121	72.5	72.1	74.1	6.7	41	591	599	11	22	5	398	298	164	0	11	6	1	152	0	0	0	252	0	
婦人科	764	0	764	53.6	0.0	53.6	6.6	95	669	709	36	19	12	490	504	4	0	63	3	1	189	0	0	0	344	0	
産科	399	0	399	31.4	0.0	31.4	10.0	294	105	203	195	1	82	146	308	0	0	71	0	0	20	0	0	0	274	0	
眼科	647	294	353	71.2	68.4	73.6	5.2	76	571	634	2	11	1	628	640	1	0	2	0	0	4	0	0	0	454	0	
耳鼻咽喉科	429	265	164	45.7	45.4	46.1	10.3	83	346	384	26	19	5	283	364	13	1	1	0	0	50	1	0	0	288	0	
小児外科	104	75	29	5.7	6.0	4.9	4.8	20	84	96	3	5	0	80	84	7	0	7	0	0	6	0	0	0	72	0	
脳神経外科	650	368	282	69.8	68.1	72.0	23.5	499	151	188	438	24	391	267	524	48	46	0	3	0	29	9	23	0	205	3	
歯科口腔外科	281	122	159	44.6	38.6	49.3	5.1	12	269	277	4	0	0	234	248	0	0	21	0	0	12	0	0	0	217	0	
呼吸器外科	315	205	110	69.7	69.2	70.7	9.7	19	296	270	2	43	0	282	268	9	0	6	2	0	30	0	0	0	80	0	
心臓血管外科	434	267	167	74.0	72.7	76.1	16.9	87	347	332	47	55	38	378	392	12	5	13	0	0	12	2	0	3	148	0	
脳神経内科	679	393	286	73.0	70.1	76.9	20.9	548	131	154	465	60	363	8	501	7	25	24	29	0	93	0	3	0	210	0	
漢方診療科	39	14	25	25.6	23.3	26.8	15.3	9	30	39	0	0	0	0	28	1	0	0	0	0	10	0	0	0	24	0	
感染症科	1	0	1	71.0	0.0	71.0	2.0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科	312	185	127	72.2	69.4	76.1	4.8	312	0	0	312	0	309	17	78	0	222	0	0	0	12	1	219	1	18	219	
形成外科	174	101	73	48.0	46.1	50.6	11.2	21	153	164	1	9	1	94	167	0	0	4	2	0	1	0	0	0	106	0	
集中治療科	478	287	191	68.7	67.0	71.1	4.9	466	12	4	370	104	340	29	408	0	29	8	2	0	31	0	15	1	153	0	

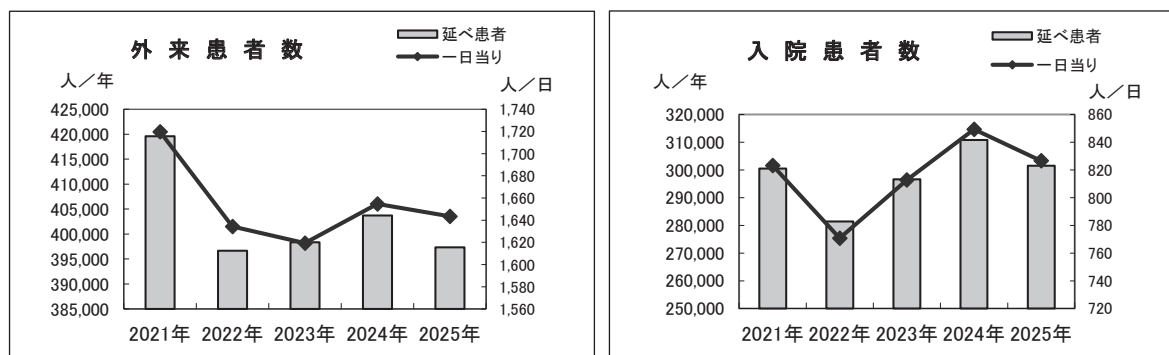
2. 科別統計表

2025年1月～12月

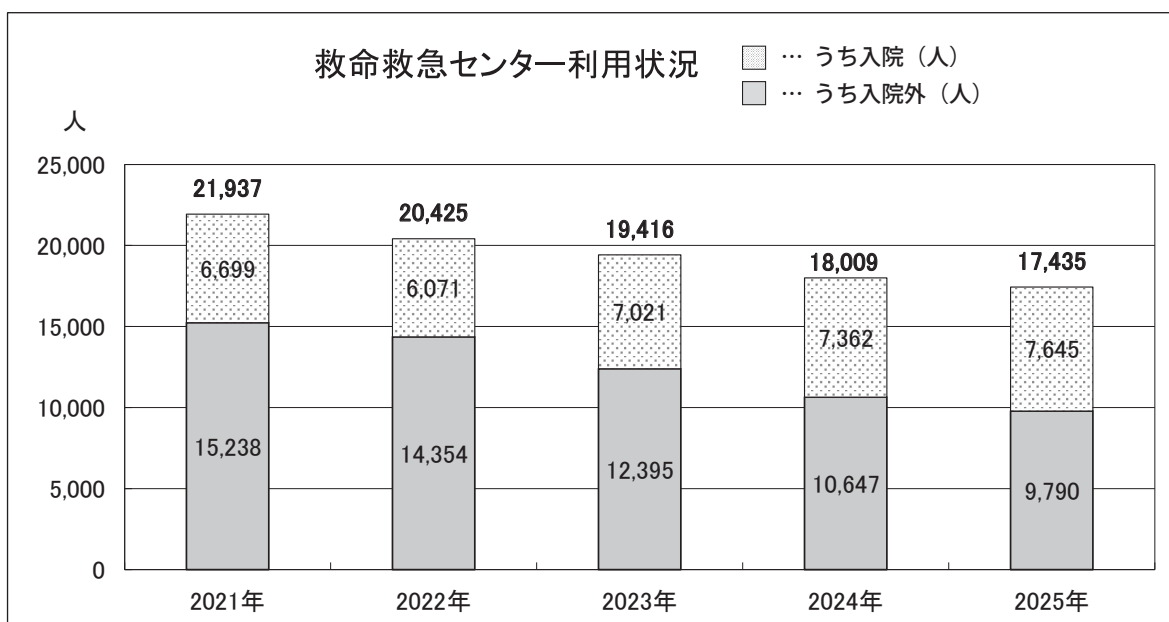
診療科	外来患者		入院患者		新入患者数（入院経路別）				手術件数 (件/年) ※2	紹介率	平均在院日数 (日) ※3
	延べ患者数※1	実患者数	延べ患者数※1	実患者数	予約	救急外来	外来緊急	合計			
肝臓内科	17,017 70.3	4,441	11,082 30.4	529	466	153	177	796		96.7%	14.2
呼吸器内科	24,384 100.8	4,874	28,588 78.3	1,260	1,119	419	402	1,940		95.2%	14.8
心療内科	6,806 28.1	784								83.1%	
内分泌・糖尿病内科	20,878 86.3	3,915	3,706 10.2	386	326	20	23	369		97.6%	11.7
消化器内科	19,461 80.4	5,422	11,231 30.8	1,351	991	387	197	1,575	48	95.3%	7.2
血液内科	13,370 55.2	2,176	11,394 31.2	317	410	53	100	563		96.7%	20.3
総合診療科	14,167 58.5	4,622	47,462 130.0	3,374	120	2,513	491	3,124		81.7%	16.0
膠原病・リウマチ内科	16,034 66.3	2,608	3,161 8.7	135	156	15	31	202		96.5%	14.9
連携医療・緩和ケア科	3,285 13.6	778	32,722 89.6	1,578	120	468	190	778	65	58.3%	26.5
救急科	24 0.1	20	1,643 4.5	319	1	317	0	318	2		5.4
循環器内科	17,161 70.9	5,334	16,458 45.1	1,458	813	627	157	1,597	6	95.2%	10.4
脳神経内科	8,893 36.7	2,326	14,267 39.1	645	78	464	72	614		90.8%	22.6
腎臓内科	25,688 106.1	2,614	11,709 32.1	507	583	109	189	881	147	94.6%	13.1
漢方診療科	14,910 61.6	1,747	595 1.6	38	36	0	3	39		60.0%	15.7
画像診療科	1,259 5.2	1,076								98.3%	
放射線治療科	9,251 38.2	660								97.2%	
小児科	14,672 60.6	3,788	10,177 27.9	1,053	237	558	506	1,301		85.8%	7.8
リエゾン精神科	6,112 25.3	786	9,687 26.5	90	2	2	41	45		20.8%	152.6
外科	21,900 90.5	5,018	17,821 48.8	1,343	1,365	202	100	1,667	1,200	94.8%	10.4
呼吸器外科	4,742 19.6	1,222	3,019 8.3	296	252	3	17	272	341	90.5%	10.6
小児外科	1,787 7.4	557	501 1.4	92	82	3	14	99	89	97.1%	5.0
産婦人科	19,647 81.2	4,511	9,084 24.9	909	749	194	204	1,147	634	74.6%	7.9
整形外科	20,293 83.9	4,635	14,133 38.7	911	558	198	179	935	1,191	90.8%	16.5
リハビリテーション科	2,029 8.4	624								24.2%	
脳神経外科	5,688 23.5	2,163	15,544 42.6	621	135	435	54	624	337	85.0%	25.8
心臓血管外科	5,216 21.6	2,780	7,580 20.8	406	316	53	20	389	562	97.0%	19.2
皮膚科	12,558 51.9	3,216	1,962 5.4	146	116	6	26	148	243	87.9%	13.3
形成外科	4,959 20.5	981	2,402 6.6	171	146	1	20	167	145	94.0%	14.3
泌尿器科	15,281 63.1	3,517	4,223 11.6	507	566	15	29	610	439	98.1%	6.9
眼科	13,746 56.8	3,336	3,410 9.3	574	562	5	72	639	815	94.6%	5.3
耳鼻咽喉科	10,288 42.5	2,994	4,613 12.6	401	327	35	54	416	315	92.5%	11.0
集中治療科	20 0.1	14	1,921 5.3	463	2	382	4	388	1	16.7%	9.0
救急外来	9,314 38.5	7,815								34.2%	
感染症科	1,074 4.4	647	4 0.0	2	0	2	0	2		4.7%	2.7
歯科口腔外科	15,393 63.6	4,283	1,432 3.9	264	259	6	16	281	297	48.7%	5.1
麻酔科									2		
診療科合計	397,319 1,641.8	96,284	301,531 826.1	20,146	10,893	7,645	3,388	21,926	6,879	81.2%	13.7

予防医学センター	8,877 36.7	病床稼働率	全体	2025年 83.7%	※1 患者数：上段は年間延べ患者数、下段は1日当たり患者数。
従業員健診	3,600		精神科除く	85.4%	※2 手術件数：手術室で行われた件数。
				※3 平均在院日数＝延べ患者数 / (新規入院患者数 + 退院患者数) / 2	

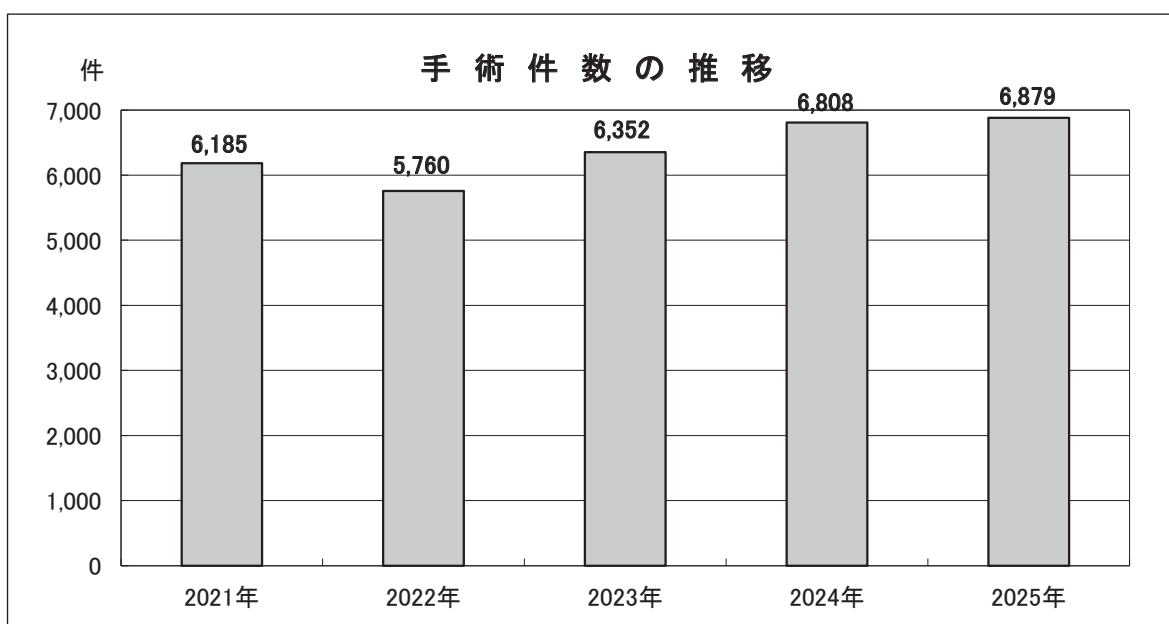
3. 最近 5 年間の患者数推移



4. 最近 5 年間の救命救急センター利用状況の推移



5. 最近 5 年間の年間手術件数の推移



6. 科別・年齢別・性別 退院患者数

退 院 科	性別	0 ～ 9	10 ～ 19	20 ～ 29	30 ～ 39	40 ～ 49	50 ～ 59	60 ～ 69	70 ～ 79	80 ～ 89	90 歳 ～	合計	75 歳以上 (再掲)
		1,282	586	610	767	1,170	1,938	3,582	7,760	5,361	1,469	24,525	
肝臓内科	男	0	2	3	5	10	47	73	232	103	6	481	237
	女	0	2	0	10	15	27	56	159	73	13	355	180
呼吸器内科	男	0	9	9	15	24	81	208	653	299	34	1,332	685
	女	0	3	5	9	22	22	129	290	171	30	681	370
内分泌・糖尿病内 科	男	0	7	3	15	19	26	47	73	25	4	219	75
	女	0	3	5	11	13	27	32	61	22	3	177	59
消化器内科	男	0	4	7	12	41	100	200	387	169	21	941	397
	女	0	3	4	8	26	55	118	227	193	42	676	353
血液内科	男	0	3	4	1	11	33	57	133	78	5	325	163
	女	0	0	6	3	15	34	52	103	57	4	274	113
総合診療科	男	0	14	54	34	98	164	274	566	506	151	1,861	966
	女	0	13	67	48	76	116	193	438	620	352	1,923	1231
膠原病・リウマチ 内科	男	0	0	0	0	2	18	12	30	18	0	80	36
	女	0	2	0	4	5	29	23	49	40	1	153	64
連携医療・緩和ケ ア科	男	0	0	0	1	14	49	98	343	311	98	914	600
	女	0	1	3	3	12	19	86	178	317	211	830	632
リエゾン精神科	男	0	0	2	1	6	8	4	7	3	0	31	7
	女	0	1	5	2	7	7	11	12	12	4	61	18
小児科	男	594	126	0	0	0	0	0	0	0	0	720	0
	女	465	120	0	0	0	0	0	0	0	0	585	0
腎臓内科	男	0	1	3	9	17	49	109	179	98	28	493	225
	女	0	4	1	2	10	25	47	186	138	17	430	268
循環器内科	男	0	2	5	14	48	112	198	424	228	32	1,063	485
	女	0	1	4	5	10	27	78	219	214	52	610	404
外科	男	0	5	9	18	47	62	198	383	148	13	883	349
	女	0	3	19	26	98	117	190	344	145	20	962	331
整形外科	男	16	54	12	19	28	49	44	85	39	5	351	78
	女	7	7	8	7	15	67	121	203	140	47	622	301
皮膚科	男	1	4	5	3	6	7	12	20	16	2	76	27
	女	0	3	6	3	6	1	11	22	19	7	78	35
泌尿器科	男	1	1	0	10	7	29	103	243	105	12	511	231
	女	0	0	2	2	5	8	13	41	43	7	121	72
婦人科	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	0	5	49	109	176	145	119	105	53	3	764	101
産科	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	0	16	140	198	45	0	0	0	0	0	399	0

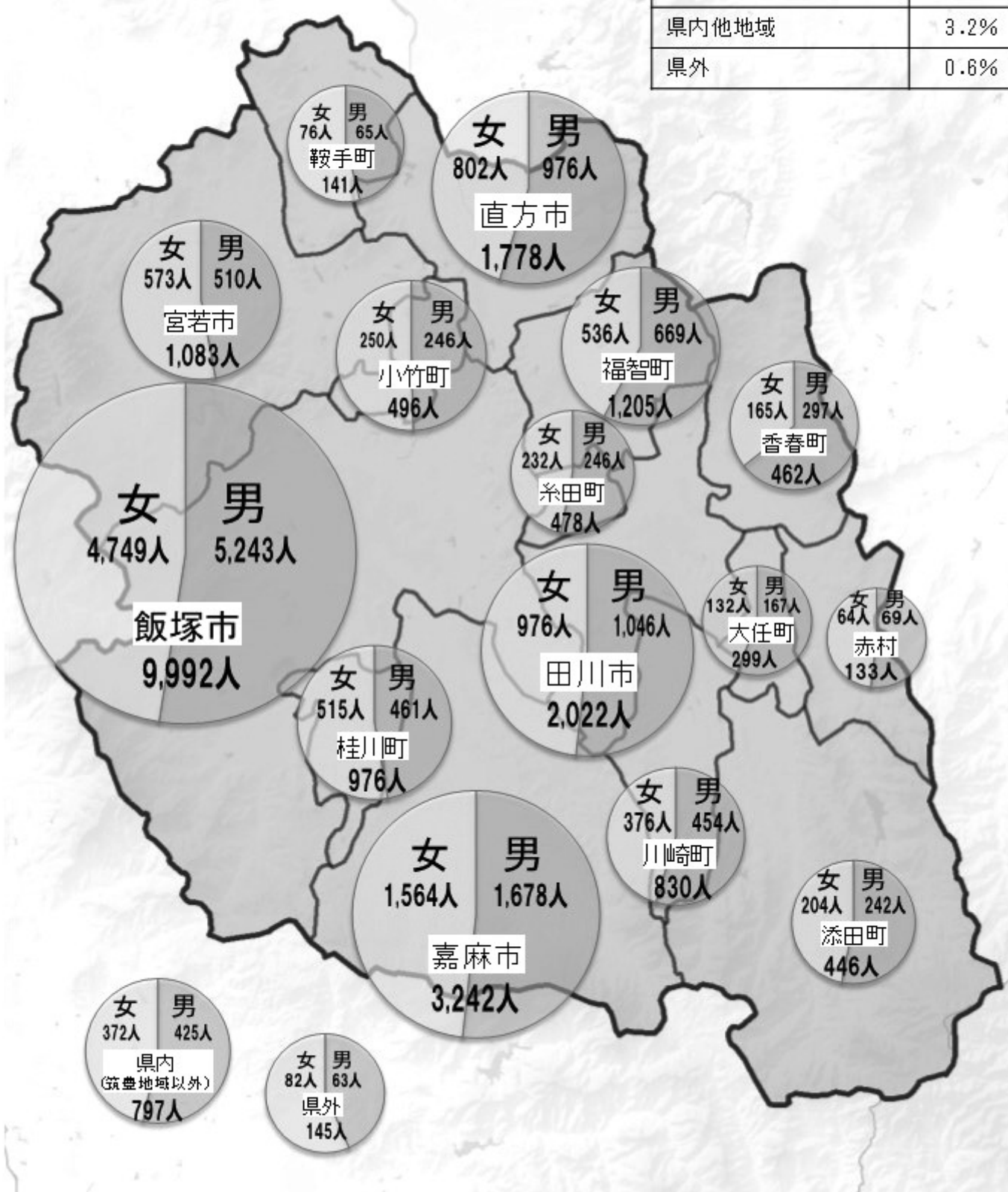
退 院 科	性別	0 ～ 9	10 ～ 19	20 ～ 29	30 ～ 39	40 ～ 49	50 ～ 59	60 ～ 69	70 ～ 79	80 ～ 89	90 歳 ～	合計	75 歳以上 (再掲)
眼科	男	2	2	6	9	16	32	51	103	66	7	294	123
	女	0	1	1	5	11	20	56	132	108	19	353	187
耳鼻咽喉科	男	33	17	34	33	23	25	41	36	23	0	265	42
	女	24	14	15	11	21	18	15	30	14	2	164	32
小児外科	男	55	20	0	0	0	0	0	0	0	0	75	0
	女	25	4	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0
脳神経外科	男	6	8	8	3	16	46	76	104	81	20	368	164
	女	3	3	5	3	16	19	38	86	80	29	282	152
歯科口腔外科	男	20	12	16	20	17	7	10	12	7	1	122	12
	女	7	14	26	23	20	11	9	12	26	11	159	44
呼吸器外科	男	0	4	5	1	5	24	25	111	30	0	205	96
	女	0	1	2	1	7	3	18	54	23	1	110	50
心臓血管外科	男	0	0	0	4	7	18	55	114	62	7	267	143
	女	0	0	1	2	4	8	14	74	49	15	167	105
脳神経内科	男	0	2	10	13	17	28	80	137	85	21	393	179
	女	0	6	2	5	7	15	28	71	96	56	286	198
漢方診療科	男	0	12	0	0	0	0	0	1	1	0	14	1
	女	0	16	3	0	3	0	1	2	0	0	25	1
感染症科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
救急科	男	0	3	6	6	5	20	26	61	49	9	185	83
	女	0	3	3	3	0	10	10	30	41	27	127	87
形成外科	男	14	13	8	4	8	13	14	15	12	0	101	24
	女	8	10	9	2	0	5	8	20	7	4	73	19
集中治療科	男	1	0	7	10	20	39	62	92	49	7	287	103
	女	0	2	3	2	13	17	29	67	49	9	191	102

7. 地域別・年齢別・性別 退院患者数

住 所	性別	0 ～ 9	10 ～ 19	20 ～ 29	30 ～ 39	40 ～ 49	50 ～ 59	60 ～ 69	70 ～ 79	80 ～ 89	90 歳 ～	合計	75 歳以上 (再掲)	
		1,282	586	610	767	1,170	1,938	3,582	7,760	5,361	1,469	24,525	11,040	
飯塚市	男	379	141	83	98	232	460	761	1,773	1,117	199	5,243	2,261	
	女	260	87	160	226	271	352	582	1,219	1,155	437	4,749	2,247	
嘉麻市	男	76	37	21	48	49	118	284	634	332	79	1,678	761	
	女	58	24	28	63	72	101	228	451	389	150	1,564	787	
田川郡	福智町	男	33	16	9	5	22	37	93	285	140	29	669	307
		女	17	18	18	15	23	33	88	189	107	28	536	245
	川崎町	男	24	8	5	4	15	40	91	192	63	12	454	166
		女	17	7	14	11	34	27	69	108	68	21	376	145
	糸田町	男	12	11	7	5	4	22	31	99	48	7	246	111
		女	11	4	5	6	10	19	14	74	68	21	232	123
	香春町	男	8	3	1	4	10	21	48	131	66	5	297	148
		女	11	6	3	2	4	6	26	38	47	22	165	87
	添田町	男	12	11	3	2	4	17	52	79	50	12	242	110
		女	2	2	2	3	8	12	25	72	59	19	204	120
	大任町	男	8	3	0	2	7	8	40	59	36	4	167	84
		女	10	7	3	3	5	14	10	33	28	19	132	68
	赤村	男	1	2	0	1	3	8	14	26	9	5	69	36
		女	0	1	5	1	3	4	8	17	17	8	64	35
	田川市	男	65	26	17	24	42	90	165	357	217	43	1,046	460
		女	55	34	30	42	49	86	123	265	241	51	976	445
	直方市	男	33	21	15	22	39	74	175	359	216	22	976	422
		女	19	14	40	30	54	76	79	235	189	66	802	396
	宮若市	男	26	10	10	5	18	58	89	162	107	25	510	221
		女	18	4	18	23	43	35	66	178	133	55	573	274
嘉穂郡 桂川町	男	25	9	8	9	11	26	89	168	95	21	461	197	
	女	25	26	13	20	29	19	71	151	110	51	515	254	
鞍手郡 小竹町	男	3	1	3	5	13	17	44	95	54	11	246	123	
	女	6	7	0	3	11	14	46	83	57	23	250	131	
	鞍手町	男	2	0	2	5	6	2	6	23	19	0	65	24
		女	1	2	6	1	6	2	7	23	26	2	76	39
福岡県（筑豊以外）	男	28	21	30	18	33	79	82	92	34	8	425	88	
	女	19	17	35	47	31	45	55	60	53	10	372	101	
福岡県外	男	8	5	2	3	4	9	13	10	8	1	63	12	
	女	10	1	14	11	5	7	8	20	3	3	82	12	

地域別退院患者割合

筑豊地域	96.2%
(飯塚市)	40.7%
県内他地域	3.2%
県外	0.6%



8. 市町村別診療科別紹介件数

市町村名	合計	内科	肝臓内	呼吸器	心療内	内分泌	消化器	血液内	総合診	膠原内	連携・	循環器	腎内科	脳内科	産婦人	整形外科	リハ科	整形外科	心外科	皮膚科	形成	泌尿科	眼科	耳鼻科	リ精神	歯口外	救急科	集中治	救急外	放台療	ペイン	感染症				
飯塚市	13366	324	499	26	303	717	144	1215	133	44	655	686	318	29	806	823	330	100	35	499	565	6	186	100	488	244	324	558	526	4	1107	1549	19	4		
嘉麻市	2159	57	91	6	47	114	32	216	24	7	172	62	44	3	56	155	87	29	4	92	100	1	37	22	38	16	47	72	51	1	163	313				
桂川町	615	45	20	2	16	73	3	79	3	9	33	128	6	25	2	11	4	17	5	4	17	3	6	9	1	14	6	9	37			49				
〔飯塚地区小計〕	16140	426	610	34	366	904	179	1510	160	60	860	876	368	32	887	980	428	129	44	595	682	7	226	128	535	261	385	636	586	5	1307	1911	19	4		
宮若市	855	33	48	5	22	33	14	90	4	2	77	28	27	1	23	29	4	1	16	27	4	1	17	17	33	10	20	9	44	1	72	148				
小竹町	282	8	13		11	28	9	33		4	18	3	16		1	9	3	2	3	1	38		1	3	9	3	2	3	4	12		45				
飯手町	98	4	8		2	3		6		7	11	3			1	6		4		4				3				1		15		17	1			
直方市	2278	78	83	4	52	135	48	238	16	9	85	38	65	7	13	49	74	21	6	191	40	35	35	64	41	41	190	191		160	262	6	1			
〔直方地区小計〕	3513	123	152	9	87	199	71	367	21	15	187	80	111	8	14	82	112	27	14	208	109	53	58	106	54	63	203	240	1	259	472	7	1			
田川市	3241	87	189	7	87	221	107	331	89	14	195	116	77	2	8	230	102	33	34	71	144	1	44	70	114	25	92	159	113	1	60	413	5			
香春町	53	2	1		2	4	1	3	2	1	4	1	2	2	2	4	1	4				1	1	2		1		2		10		2				
添田町	231	3	5		5	10	7	34	3	1	7	2	2	2	2	50	6	20	1	2	9	2	5	6	2	3	7	2	10		27		27			
香田町	179	4	11		7	9	3	34	4	13	4	7	1	2	5	6	2	2	19		6	5	1	5		1	5	23		7		23				
川崎町	434	13	32	1	9	30	9	38	12	2	26	5	19	2	1	41	8	2	2	3	21	6	13	10	1	5	25	10	1	17		70				
大任町	173	15	20		5	23	11	15	2	18	3	6			4	4	1	2	5	1	2	1	2	1		1		2		3		29				
赤村	13				2	2		2		1																					4					
蒲智町	459	27	25	4	14	32	11	39	8	4	41	11	12	2	16	13	12	6	1	6	40	4	14	5	6	3	8	6	1	21		67				
〔田川地区小計〕	4783	151	284	12	129	331	151	486	120	22	305	140	125	11	27	347	139	68	40	89	234	1	59	111	142	35	110	192	141	5	126		635	5		
〔診療圏小計〕	24436	700	1046	55	582	1434	401	2373	301	97	1352	1096	604	51	928	1409	679	224	98	892	1025	8	338	297	783	350	568	1031	967	11	1692	3018	31	5		
北九州市	471	24	30	4	16	41	11	38	13	7	22	9	8	17	1	17	25		7	50	29	7	9	10	8	10	13	17	3	10		15				
福岡市	1109	52	60	6	73	100	42	125	16	51	58	23	10	31	17	16	70	6	91	26	2	23	6	14	12	36	36	29	1	48		17	10	2		
大牟田市	5				1			1							1	1																				
久留米市	404	14	39		7	26	12	25	5	2	11	13	2	3	27	136	1	1	33	7		4		2	20	4	4		1		4	1				
甘木市	1			1				1																												
八女市	1			1																																
筑後市	1																																			
大川市	5	2			1	5		1										2		6	6				1	1	2	1					7			
行橋市	62	8	1																																	
豊前市	4							2	1						1																		2			
中間市	24					1		1	1					2												3			1							
小都市	11		1			1			1						1	4	1																1			
筑紫野市	23		1	2			1		2		1				1				3	2	1												2			
春日市	15		1		2	1				1					2	1																	1			
大野城市	10		1	1			1		1						1																					
宗像市	43		2				1		1	1	3		1	5		2	1			5	5				2								3			
太宰府市	6				3																															
福津市	22	1	1	1	3			1		1	1		2	2		1			1	1					2								1			
朝倉市	11					1			3																		2							1		
糸島市	1													1																						
那珂川市	1							1																												
宇美町	16					1	1				3		3		1	2				1																
篠栗町	76			1		1		9			3	2			19	3	2			4													2			
志免町	12		1			1	1		3							2				3																
須恵町	3		1							1																										
新宮町	13		1	1																																
古賀市	8							1		1						1			1																	
久山町	18		1			1	1		2	1					1																					
粕屋町	3									1																										
戸屋町	47	5	4		2	4		4		1	1	1	1	1	5	6		1		2													2			
水巻町	7			1				1							4																					
阿垣町	10				1			3							1				1																	
速賀町	1																																			
前原市	1							1																												
大刀洗町	1																																			
刈田町	18		1	1		1		2						1		2				8																
豊津町	1																																			
筑前町	4															1																				
東峰村	3																																			
築上町	1																																			
みやこ町	20			3		3			5							1			1																	
〔その他県内小計〕	2497	115	150	12	114	191	67	236	43	64	109	54	31	75	20	96	255	12	10	219	97	2	46	24	35	34	74	70	63	6	80		80	11		2
〔福岡県小計〕	26933	815	1196	67	696	1625	468	2609	344	161	1461	1150	635	126	948	1505	934	236	108	1111	1122	10	384	321	818	384	632	1101	1030	17	1772		3098	42		7
〔県外〕	139	4	9	3	7	7	3	9	3		9																									

9. 病理解剖件数内訳

	死亡数	解剖数	剖検率
肝 臓 内 科	35	0	0,0%
呼 吸 器 内 科	122	3	2,5%
心 療 内 科	0	0	0,0%
内分泌・糖尿病内科	1	0	0,0%
消 化 器 内 科	5	0	0,0%
血 液 内 科	4	0	0,0%
総 合 診 療 科	153	2	1,3%
膠原病・リウマチ内科	4	1	25%
緩 和 ケ ア 科	544	0	0,0%
腎 臓 内 科	19	0	0,0%
漢 方 診 療 科	0	0	0,0%
循 環 器 内 科	37	0	0,0%
画 像 診 療 科	0	0	0,0%
放 射 線 治 療 科	0	0	0,0%
精 神 神 経 科	0	0	0,0%
小 児 科	3	0	0,0%
外 科	4	1	25%
小 児 外 科	0	0	0,0%
呼 吸 器 外 科	0	0	0,0%
婦 人 科	0	0	0,0%
脳 神 経 外 科	45	0	0,0%
脳 神 経 内 科	25	0	0,0%
整 形 外 科	0	0	0,0%
リハビリテーション科	0	0	0,0%
皮 膚 科	0	0	0,0%
形 成 外 科	0	0	0,0%
泌 尿 器 科	0	0	0,0%
眼 科	0	0	0,0%
耳 鼻 咽 喉 科	1	0	0,0%
心 臓 血 管 外 科	6	0	0,0%
ペインクリニック科	0	0	0,0%
救 急 部	222	0	0,0%
集 中 治 療 部	29	0	0,0%
救 急 外 来	0	0	0,0%
感 染 症 科	0	0	0,0%
歯 科 口 腔 外 科	0	0	0,0%
合 計	1259	7	0,5%
院 外	0	0	0,0%

※合計の剖検率には院外症例および死後の針組織検査症例は含まれていません。

10. 手術に関する施設基準および手術件数

医科点数表第2章第10部手術通則5号及び6号並びに歯科点数表第2章第9部通則第4号に掲げる手術の術式別手術件数（2025年1月～12月）

区分・手術名称	手術件数
(1) 区分1に分類される手術	
ア 頭蓋内腫瘍摘出術等	40
イ 黄斑下手術等	184
ウ 鼓室形成手術等	4
エ 肺悪性腫瘍手術等	188
オ 経皮的カテーテル心筋焼灼術・肺静脈隔離術	308
(2) 区分2に分類される手術	
ア 靱帯断裂形成手術等	14
イ 水頭症手術等	71
ウ 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	1
エ 尿道形成手術等	0
オ 角膜移植術	0
カ 肝切除術等	92
キ 子宮附属器悪性腫瘍手術等	30
(3) 区分3に分類される手術	
ア 上顎骨形成術等	5
イ 上顎骨悪性腫瘍手術等	11
ウ バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）	1
エ 母指化手術等	0
オ 内反足手術等	0
カ 食道切除再建術等	4
キ 同種腎移植術等	0
(4) 区分4に分類される手術	986
(5) その他の区分	
ア 人工関節置換術に関する手術	330
イ 乳児外科施設基準対象手術	0
ウ ペースメーカー移植術およびペースメーカー交換術に関する手術	115
エ 冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを含む） および体外循環を要する手術	163
オ 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈 ステント留置術	411

〔Ⅳ〕学 術 業 績

【学術業績掲載ルール】

1. 対象期間は 1 月 1 日～ 12 月 31 日とする。
 2. 掲載対象は以下の通りである。
 - 飯塚病院で行われた学術業績
 - 当院研究業績システムに登録された学術業績
(論文については、PubMed・医中誌に施設名が飯塚病院で登録されたものを含む)
 - 著者名・発表者名の上位 3 人以内に、対象期間内に当院に在籍した職員がいる
-

1. 発表論文・著書

肝臓内科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-1	Suzuki H, Kuwano A, Takahira J, et al.	Prognostic Significance of Lymphocyte-to-Monocyte Ratio in Patients With Unresectable Biliary Tract Cancer Undergoing Systemic Chemotherapy	Cancer diagnosis & prognosis 5(1):132-137
2025-1	本村健太、栗野哲史、田中紘介、他	デュルバルマブ・トレメリムマブの使用経験から	デュルバルマブ・トレメリムマブ併用療法による肝細胞癌治療:228-235
2025-2	Furuse J, Izumi N, Motomura K, et al.	Long-Term Survival of Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma Treated with Lenvatinib in Real-World Clinical Practice	Cancers 17(3):1703-1709
2025-2	高平順朗、栗野哲史、鈴木秀生、他	感染性肝嚢胞 31 例の検討	肝臓 66(2):31-38
2025-4	Kuwano A, Yada M, Tanaka K, et al.	Tumor-infiltrating CD8+ T-cell numbers and serum C-reactive protein levels as a prognostic biomarker in hepatocellular carcinoma patients receiving atezolizumab plus bevacizumab	Hepatology Research 55(4):600-610
2025-4	Kuwano A, Yada M, Tanaka K, et al.	Mid-term Combination Immunotherapy and its Effect on the Albumin-Bilirubin Score in Unresectable Hepatocellular Carcinoma	Anticancer Research 45(4):1713-1721
2025-10	Kuwano A, Yada M, Tanaka K, et al.	Cost-effectiveness Analysis of Atezolizumab Plus Bevacizumab Versus Lenvatinib in Intermediate-stage Hepatocellular Carcinoma: A Real-world Retrospective Study	Anticancer Research 45(10):4627-4636
2025-10	Kuwano A, Yada M, Tanaka K, et al.	Prediction of Hepatocellular Carcinoma After Direct-Acting Antiviral Therapy Using Agile3+ and End-of-Treatment Alpha-Fetoprotein Levels in Patients With Hepatitis C	JGHO 9(10):e70296
2025-12	Kuwano A, Tanaka K, Hamamoto T, et al.	Prior Radiotherapy Improves Progression-free Survival in Patients With Advanced Hepatocellular Carcinoma Treated With Tremelimumab-Durvalumab	Anticancer Research 45(12):5697-5708

呼吸器内科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-5	Yousuke Murakami, Kazunori Tobino	A Case of Late-Onset Acute Pulmonary Sarcoidosis Exacerbation After 26 Years of Clinical Stability	Cureus 17:e85111
2025-10	Yuri Hiramatsu, Mizuki Muranaka, Shouta Sogabe, et al.	Fatal Postoperative Pulmonary Tumor Thrombotic Microangiopathy: A Rare and Fulminant Complication of Large Cell Lung Carcinoma	Cureus 17:e93892
2025-10	Hiroaki Ota, Hiroya Kawasaki, Mitsukuni Sakabe, et al.	Bronchoscopic diagnosis of pulmonary sarcoidosis using EBUS-TBNA and TBLC: a safe and high-yield dual approach	Cureus 17:e95356
2025-10	Kohei Yoshimine, Kazunori Tobino, Hiroaki Ota, et al.	Sarcomatoid Lung Carcinoma Successfully Treated With Combined Cytotoxic Chemotherapy and Anti-Programmed Death-Ligand 1 (Anti-PD-L1) Antibodies	Cureus 17:e95482

消化器内科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-11	久保川 賢	直腸静脈瘤出血	救急医学 49(11):1341-1344

血液内科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-5	帆足公佑、喜安純一、白土基明、他	Machine Learning Model to Guide Empirical Antimicrobial Therapy in Febrile Neutropenic Patients With Hematologic Malignancies	Anticancer Research vol.45no.6:2629-2642
2025-10	Fujioka E, Kiyasu J, Choi I, et al.	Efficacy and safety of Rituximab plus modified EPOCH(Etoposide,Vincristine,Doxorubicin, Carboplatin,and Prednisolone) for transplant-ineligible relapsed/refractory diffuse large B-cell lymphoma	Internal Medicine :2953-2959

総合診療科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-1	山口裕崇、川上将司	連載飯塚総診心不全カンファレンス突撃！！ 循環器診療についてショウジ先生に聞いてみた！～第4回心筋虚血の診かたを深める～	治療 第107巻1号 :116-121
2025-1	井上三四郎	高齢者上腕骨遠位骨幹部骨折に対するエンダー釘固定	Monthly Book Orthopaedics 38 (1) :53-60
2025-2	山口裕崇、川上将司	連載飯塚総診心不全カンファレンス突撃！！ 循環器診療についてショウジ先生に聞いてみた！～第5回心不全が先？虚血が先？～	治療 第107巻3号 :376-379
2025-2	Kudo M	Predicting 30-day mortality in older patients with suspected infections by adding performance status to quick sequential organ failure assessment	Journal of General and Family Medicine 00:1-8
2025-3	山口裕崇、川上将司	連載飯塚総診心不全カンファレンス突撃！！ 循環器診療についてショウジ先生に聞いてみた！～第6回強心薬が先か、利尿薬が先か？そしてニトロとNPPVの使い時はいつ？～	治療 第107巻4号 :504-508
2025-3	清田雅智	消化器内視鏡の検査後に必ず自分の診察予約を入れる	診療ハック～知って得する臨床スキル125 :269-271
2025-3	清田雅智	再診外来では必ず予習をする	診療ハック～知って得する臨床スキル125 :11-13
2025-3	清田雅智	他職種には決して尊大な態度を取らない	診療ハック～知って得する臨床スキル125 :262-264
2025-4	山口裕崇、川上将司	連載飯塚総診心不全カンファレンス突撃！！ 循環器診療についてショウジ先生に聞いてみた！～第7回「目に見える」治療と「目に見えない」治療～	治療 第107巻5号 :664-668
2025-5	山口裕崇、川上将司	連載飯塚総診心不全カンファレンス突撃！！ 循環器診療についてショウジ先生に聞いてみた！～第8回「目に見える」治療と「目に見えない」治療-その(2) テッパンのβ遮断薬～	治療 第107巻6号 :818-822
2025-5	大内田良真	目でみるトレーニング問題 1126	medicina 62 (6) :918
2025-5	Taro Sawabe, Shunsuke Kosugi, Takashi Matono	Infective Endocarditis Caused by Fusobacterium nucleatum and Slackiaexigua Secondary to Poor Oral Health	Annals of Internal Medicine :1-4
2025-6	山口裕崇、川上将司	連載飯塚総診心不全カンファレンス突撃！！ 循環器診療についてショウジ先生に聞いてみた！～第9回「目に見える」治療と「目に見えない」治療-その(3) β遮断薬の続きと忘れちゃいけないMRA！～	治療 第107巻7号 :948-951
2025-6	大内田良真	目でみるトレーニング問題 1130	medicina 62 (7) :1107

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-6	Sonoda K, Kubo Y, Sanshiro I, et al.	"Is selective hospitalist? Orthopedic surgery on co-management based on the Charlson comorbidity index useful in peri-operative care of total hip arthroplasty?"	Joint Surgery and Research :128-131
2025-7	井上三四郎	整形×内科＝大腿骨近位部骨折 - ジェネラリストにならざるをえない整形外科医のための内科読本 -	整形×内科＝大腿骨近位部骨折 - ジェネラリストにならざるをえない整形外科医のための内科読本 - :000
2025-7	山口裕崇、川上将司	連載飯塚総診心不全カンファレンス突撃！！循環器診療についてショウジ先生に聞いてみた！～第10回「目に見える」治療と「目に見えない」治療 - その(4) ACE 阻害薬の牙城を崩した ARNI ～	治療 第107巻8号 :1060-1064
2025-7	大内田良真	目でみるトレーニング問題 1132	medicina 62 (8) :1278
2025-8	山口裕崇、川上将司	連載飯塚総診心不全カンファレンス突撃！！循環器診療についてショウジ先生に聞いてみた！～最終回「目に見える」治療と「目に見えない」治療 - その(5) 糖尿病治療だけじゃない！ SGLT2 阻害薬、その光と影～	治療 第107巻9号 :1214-1218
2025-8	大内田良真	目でみるトレーニング問題 1136	medicina 62 (9) :1494-1495,1498
2025-8	木村浩史、清田雅智	高齢者の歩行障害	日本臨牀別冊 :440-445
2025-10	井上三四郎、能美康彦	腰の病気で足首が挙がらないんですね？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト :118-129
2025-10	井上三四郎、松永 諭	入院中に病室で転んだだけですね？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト :36-47
2025-10	井上三四郎、山口裕崇	これってただの肋骨骨折ですね？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト :176-185
2025-10	井上三四郎、能美康彦	オッカム？ヒッカム？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト :164-175
2025-10	井上三四郎、能美康彦	腰が痛くない腰痛であるんですか？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト :152-163
2025-10	井上三四郎、大塚陽平	大腿骨近位部骨折後の骨粗鬆症にはどの薬を出したらいいんですか？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト :72-83
2025-10	井上三四郎、山口裕崇	これって化膿性関節炎・・・・・・？休日に来られたらどうしたらよいですか？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト :142-151
2025-10	井上三四郎、古田 京	足が黒いけど、どうしたらよいですか？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト :130-141
2025-10	井上三四郎、能美康彦	溶けてる・・・・・・、ただの骨折じゃないんですね？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト :22-35
2025-10	井上三四郎、松永 諭	本当に術後すぐに遠方へ移動ができるんですか？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト :108-117
2025-10	井上三四郎、古田 京	圧迫骨折って、いつまで寝てもらえばよいですか？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト :96-107

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-10	井上三四郎、大塚陽平	抗凝固薬内服中の患者さん、整形外科の手術はできますか？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト:84-95
2025-10	井上三四郎、松永 諭	骨折で入院・・・、術前に発熱したんですね？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト:60-71
2025-10	井上三四郎、松永 諭	膝が腫れて ACPA が高いってあれですよね？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト:48-59
2025-10	井上三四郎	飯塚病院で行われている朝カンファについて	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト:1-9
2025-10	井上三四郎、山口裕崇	画像で膿はなさそうだけど、これって今すぐ切開を頼まないダメですか？	飯塚病院流！総合診療科“朝カンファ”運動器疾患×ホスピタリスト:10-21
2025-10	柴田真志	Regional Disparities in Home-Based Medical CareUtilization in Japan:Ecological Study of Nationwide Claim Data	Journal of General Internal Medicine XX:XXX
2025-11	Takai S, Todaka T	Acute liver failure as a rare presentation of miliary tuberculosis with clinical improvement following pre-diagnostic corticosteroid therapy:A case report	International Journal of Infectious Diseases :1-16
2025-11	Kudo M, Sada K, Sasaki S, et al.	Low dietary fiber diet doesnot reduce risk for adhesive small bowel obstruction development:self-controlledstudy	BMCNutrition 11:208-215
2025-12	Ouchida R, Kudo M	Gastrointestinal Beriberi Presenting With Chronic Diarrhea:A Case Report	Cureus 17(12):e99095

連携医療・緩和ケア科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-7	石上雄一郎	ペースメーカーの除去	飯塚病院発！7steps で学ぶ緩和ケア必須手技:157-158
2025-7	柏木秀行	緩和ケアでの手技習得のススメ～手技が苦手な人へのメッセージ～	飯塚病院発！7steps で学ぶ緩和ケア必須手技:1-3
2025-7	柏木秀行	緩和ケア・在宅医療での手技の特殊性	飯塚病院発！7steps で学ぶ緩和ケア必須手技:4-10
2025-7	柏木秀行	手技の際に書面の同意は必要？	飯塚病院発！7steps で学ぶ緩和ケア必須手技:11-12
2025-7	石上雄一郎	顎関節脱臼整復	飯塚病院発！7steps で学ぶ緩和ケア必須手技:24-25
2025-7	石上雄一郎	コミュニケーションも手技と同じくスキルの1つである	飯塚病院発！7steps で学ぶ緩和ケア必須手技:46-47
2025-7	石上雄一郎	尿道カテーテル挿入	飯塚病院発！7steps で学ぶ緩和ケア必須手技:67-78
2025-7	石上雄一郎	緩和ケアにおける POCUS	飯塚病院発！7steps で学ぶ緩和ケア必須手技:79-90
2025-7	柏木秀行	胸腔穿刺	飯塚病院発！7steps で学ぶ緩和ケア必須手技:26-35
2025-7	柏木秀行	腹腔穿刺	飯塚病院発！7steps で学ぶ緩和ケア必須手技:37-45

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-7	柏木秀行	気管カニューレ交換	飯塚病院発！7stepsで学ぶ緩和ケア必須手技:48-55
2025-7	中山隆弘	経鼻胃管挿入	飯塚病院発！7stepsで学ぶ緩和ケア必須手技:56-66
2025-7	中山隆弘	PCA（自己調節鎮痛法）	飯塚病院発！7stepsで学ぶ緩和ケア必須手技:137-146
2025-7	中山隆弘	持続脊髄くも膜下鎮痛法	飯塚病院発！7stepsで学ぶ緩和ケア必須手技:147-156
2025-7	松坂 俊	胃瘻管理	飯塚病院発！7stepsで学ぶ緩和ケア必須手技:91-102
2025-7	柏木秀行	PICC（末梢挿入型中心静脈カテーテル）	飯塚病院発！7stepsで学ぶ緩和ケア必須手技:132-136
2025-7	松坂 俊	膀胱瘻管理	飯塚病院発！7stepsで学ぶ緩和ケア必須手技:111-119
2025-7	石上雄一郎	腎瘻管理	飯塚病院発！7stepsで学ぶ緩和ケア必須手技:103-110
2025-12	松坂 俊、柏木秀行、原田恵美	終末期がん患者に対する生成 AI を活用した「感謝の歌」レガシーメイキング	Palliative Care Research 20 巻（2025）4 号 :259-263

循環器科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-1	山口裕崇、川上将司	循環器診療についてショウジ先生に聞いてみた！第4回心筋虚血の診かたを深める	治療 107(1):116-121
2025-1	縄田英吾、川上将司、大石善文、他	Isolated Right Ventricular Myocardial Infarction Due to Coronary Artery Embolism	Annals of Internal Medicine Clinical Cases Volume 4: Number 1
2025-2	山口裕崇、川上将司	循環器診療についてショウジ先生に聞いてみた！第5回心不全が先？虚血が先？	治療 107(3):94-97
2025-2	児島啓介、田中敬士、北出 希、他	Single snare pushing technique: A new bailout technique for retrieving Micra fixed in the tricuspid valve annulus.	Journal of Arrhythmia :41(1):e70027
2025-3	山口裕崇、川上将司	循環器診療についてショウジ先生に聞いてみた！第6回強心薬が先か、利尿薬が先か？そしてニトロとNPPVの使い時はいつ？	治療 107(4):94-98
2025-3	桐原志保美、川上将司、西 淳一郎	A Case of Neurally Mediated Syncope and Sick Sinus Syndrome Associated with Lung Cancer	Annals of Internal Medicine: Clinical Cases : Volume 4, Number 3
2025-3	児島啓介、大賀泰寛、西 淳一郎	Caseous calcification of the mitral annulus associated with a complete atrioventricular block: a case report	Eur Heart J Case Rep volume9: issue3, ytaf079
2025-3	川上将司	2. 経皮的冠動脈インターベンション (PCI)	ALL in one! 循環器救急・集中治療 :130-131
2025-3	川上将司	9. 経皮的僧帽弁交連切開術 (PTMC)	ALL in one! 循環器救急・集中治療 :164-165

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-6	川上将司、古賀秀信、山田哲久、他	Association between prehospital adrenaline administration and short-term outcomes in patients with shockable out-of-hospital cardiac arrest undergoing extracorporeal cardiopulmonary resuscitation: a propensity-score matched analysis.	International Journal of Cardiol Heart Vasc 59:101735
2025-10	松本洋典、川上将司、西 淳一郎	Usefulness of intervention using interlesion pressure ratio in renal artery stenosis due to multifocal fibromuscular dysplasia: a case report	European Heart Journal-Case Report 9(10):ytaf506
2025-12	桐原志保美、川上将司、古賀秀信、他	Clinical characteristics and outcomes of acute type A aortic dissection in out-of-hospital cardiac arrest patients: A retrospective study.	International Journal of Cardiology 440:133708

心不全科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-6	松川龍一	心不全治療の現在地	あなたも名医！ Jmed98 :1-187
2025-10	松川龍一	心不全療養支援を極める！	心不全療養支援を極める！ :1-231

腎臓内科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-1	Nakamata Y, Nagao E, Fujisaki K	Pseudo-acute kidney injury caused by postprocedure bladder perforation	Kidney International 107:192
2025-1	藤崎毅一郎	透析患者の糖尿病治療合併症の予防と治療：心血管合併症	臨牀透析 41 :70-75
2025-5	藤崎毅一郎	保存期 CKD 患者	腎と透析第 98 巻第 5 号 :648-652
2025-7	藤崎毅一郎	尿毒症性心筋症	臨牀透析 41 :749-751
2025-12	藤崎毅一郎	Dialysis therapy, 2024 year in review. 心血管領域	日本透析学会誌 58 :607-609

漢方診療科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-1	吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方！家族をみるための FamilyKampo ⑫－疲れている人に補中益気湯－	プライマリ・ケア 10 (1) :20-24
2025-1	中尾桂子、川野綾子、竹内 肇、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 156]『最近の治験・知見・事件！?』パートⅡ 141 Cronkhite-Canada 症候群に漢方治療を行った 1 症例	漢方の臨床 72 (1) :135-139
2025-2	竹内 肇、井上博喜、矢野博美、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 157]『最近の治験・知見・事件！?』パートⅡ 142 手掌発汗に柴胡桂枝乾姜湯を用いた 1 例	漢方の臨床 72 (2) :207-211
2025-4	吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方！家族をみるための FamilyKampo ⑬－不安な人に半夏厚朴湯－	プライマリ・ケア 10 (2) :31-35
2025-4	井上博喜、竹内 肇、川野綾子、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 159]『最近の治験・知見・事件！?』パートⅡ 144 下腹部痛と裏急後重を伴う下痢に柴胡桂枝湯が著効した自験例	漢方の臨床 72 (4) :429-433

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-5	中尾桂子、井上博喜、矢野博美、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より〔通算 160〕『最近の治験・知見・事件!?!』パートⅡ 145 皮膚掻痒に加味逍遙散と香蘇散の併用が奏効した 1 症例	漢方の臨床 72 (5) :503-508
2025-6	吉永 亮、井上博喜、矢野博美、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より〔通算 161〕『最近の治験・知見・事件!?!』パートⅡ 146 不登校を伴う起立性調節障害の思春期患者にとっての「避難場所」になり得た 2 症例	漢方の臨床 72 (6) :665-670
2025-7	吉永 亮、井上博喜、矢野博美、他	高度の全身倦怠感が持続した COVID-19 罹患後症状に対して茯苓四逆湯による温補治療が奏効した 4 例	日本東洋医学雑誌 76 (3) :211-219
2025-7	竹内肇、井上博喜、矢野博美、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より〔通算 162〕『最近の治験・知見・事件!?!』パートⅡ 147 柴胡桂枝乾姜湯合当帰芍薬散と桂枝加竜骨牡蛎湯の頓服で妊娠に至った 1 例	漢方の臨床 72 (7) :765-771
2025-8	井上博喜、松山 圭、川野綾子、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より〔通算 164〕『最近の治験・知見・事件!?!』パートⅡ 149 機能的な高体温症に柴胡剤と利水剤を含む方剤が有効であった 2 症例	漢方の臨床 72 (9) :963-967
2025-10	吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方! 家族をみるための FamilyKampo ⑤ー過緊張な人に四逆散ー	プライマリ・ケア 10 (4) :25-30
2025-10	矢野博美、井上博喜、吉永 亮、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より〔通算 165〕『最近の治験・知見・事件!?!』パートⅡ 150 舌痛症に八味地黄丸が著効した高齢女性の 1 例	漢方の臨床 72 (10) :1129-1132
2025-11	中尾桂子、井上博喜、矢野博美、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より〔通算 166〕『最近の治験・知見・事件!?!』パートⅡ 151 倦怠感に対して茯苓四逆湯から八味丸に移行し、「勝ち戦」に持ち込めた 1 例	漢方の臨床 72 (11) :1233-1239

外科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-3	Ninomiya M, Shinji Itoh, Kazuki Takeishi, et al.	Proposal of “borderlineresectable” colorectal liver metastases based on analysis of riskfactors for early surgical failure	Surgery Today 55:425-433
2025-4	Iseda N, Itoh S, Toshima T, et al.	Outcome of hepatectomy after systemic therapy for hepatocellular carcinoma:a Japanese multicenter study	Surgery Today 55(4):510-517
2025-4	二宮瑞樹、泉 琢磨、本村貴志、他	腹側体外牽引による視野展開と 3-stepdorsalapproach による腹腔鏡下肝 S7 亜区域切除	手術 79(5):853-858
2025-5	Yoshiya S, Itoh S, 二宮瑞樹、et al.	Feasibility of non-routine abdominal drainage for minimally invasive liver surgery:study protocol for a multicenter randomized controlled clinical trial.	International Journal of Surgical Protocol 29(3):88-92
2025-5	西野一輝、二宮瑞樹、栗山直剛、他	Laparoscopic surgery via an inferior pancreatic border approach for median arcuate ligament syndrome after distal gastrectomy:a case report	Surgical Case Reports 11:25-0173
2025-8	二宮瑞樹、泉 琢磨、本村貴志、他	胆のう癌に対する腹腔鏡下肝床部切除における hilarcystic plate-first approach	手術 79(9):1455-1459
2025-8	Kudoh K, Kawazoe T, Nakanoko T, et al.	A novel predictive scoring system for irreversible intestinal ischemia in patients with strangulated bowel obstruction	SurgeryToday :doi:10.1007/s005
2025-8	Kudoh K, 梶原脩平、Motomura T, et al.	Novel prognostic score for colorectal necrosis requiring emergency surgery	Surgery Today 55(8):1095-1106
2025-10	Iseda N, Itoh S, 二宮瑞樹、et al.	Survival impact and recurrence prediction using oncologic resectability classification in hepatocellular carcinoma following hepatic resection:a Japanese multi-center study	International Journal of Clinical Oncology 30(10):2063-2071
2025-11	Kudoh K, Ota M, Ogaki K, et al.	Risk Factors and Prognostic Significance of Severe Postoperative Complications After Curative Resection for Remnant Gastric Cancer:A Multicenter Retrospective Study	Journal of Surgical Oncology 132(6):1155-1162

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-11	Kudoh K, Ota M, Ogaki K, et al.	Prognostic Significance of Platelet-Lymphocyte Ratio(PLR) and Prognostic Nutritional Index(PNI) in Remnant Gastric Cancer:A Multicenter Retrospective Study	World Journal of Surgery 49(11):3195-3204
2025-11	Tomonori Nakanoko, Tetsuro Kawazoe, Kosuke Hirose, et al.	Prediction of Tracheobronchial Invasion in ycT3E sophageal Cancer Using Contact Angleon Preoperative CT Images A Multicenter Analysis	Annals of Surgical Oncology :https://doi.org/1
2025-12	Nakanoko T, Kawazoe , Hirose K, et al.	ASO Author Reflections:Refining Borderline Resectability in ycT3E sophageal Cancer with Tracheobronchial Contact:Clinical Utility of the Contact Angle	Annals of Surgical Oncology :doi:10.1245/s104

呼吸器外科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-9	金山雅俊、安田 学、大崎敏弘、他	Feasibility and outcomes of curative-intentsurgery for clinically node-positive nonsmall cell cancer with interstitial lung disease	Surgery today Online first:999
2025-10	杉本 有、金山雅俊、小林美苑、他	Intraoperative asystole during thoracoscopic left lung upper lobectomy:A case report	Surgical case reports Online first:999

産婦人科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-1	安部直希、後藤麻木、吉良さちの、他	Malignant brain tumor in early pregnant mistaken for hyperemesis gravidarum	Taiwanese Journal of Obstetrics & Gynecology :128-130
2025-7	徳永奈穂、林 宗太郎、飯藤依里子、他	Laparoscopic treatment of anovariantumor with perforation of the small bowel:a case report	Case Reports in Women's Health :e00728
2025-7	徳永奈穂、林 宗太郎、飯藤依里子、他	Laparoscopic treatment of an ovarian teratoma with perforation of the smallbowel:A case report	Case Reports in Women's Health 47:e00728
2025-10	飯藤依里子、李 理華、媚山友仁、他	Salmonella-induced ovarian abscess developing in bilateral ovarian endometriomas:A case report	Case Reports in Women's Health e00758:1-4
2025-12	林 宗太郎、西山 哲、飯藤依里子、他	Early Return to Competition After vNOTES Ovarian Cystectomy in a Professional Athlete:A Case Report	Cureus Journal of Medical Science 17:e100078

整形外科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-3	Kubo Y, Sonoda K, Ushijima T, et al.	"Gouty finger flexor tenosynovitis with urate milk remarkably similar to infection:a case-based review"	Rheumatology International :1-7
2025-3	Sonoda K, Kubo Y, Hara T	A novel patient-specific free-hand method using fluoroscopic templating for accurate cup placement in supine position total hip arthroplasty	Archives of Orthopaedic and TraumaSurgery :1-9
2025-6	Sonoda K, Kubo Y, Sanshiro I, et al.	"Is selective hospitalist? Orthopedic surgeon co-management based on the Charlson comorbidity index useful inperi-operative care of total hip arthroplasty?"	Joint Surgery and Research :128-131
2025-7	Sonoda K, Kubo Y, Hara T	Challenges in the Removal of Circular Cross-Section Lag Screw Following Compression Hip Screw Fixation:A Report of Two Cases	cureus :1-4

脳神経外科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-7	山田哲久、名取良弘	受傷7時間後の頭部CT検査でも検出されなかった遅発性挫傷性脳内血腫の1症例	Journal of Japan Society of Neurological Emergencies & Critical Care 37:63-66
2025-7	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔	くも膜下出血術後管理に対するクラゾセンタ ンナトリウム投与による肺水腫に漢方薬を併 用した1症例	日本脳神経漢方医学会誌 10:61-66
2025-7	山田哲久、名取良弘	器質化慢性硬膜下血腫に対する治打撲一方と トラネキサム酸の併用の効果の検討	日本脳神経漢方医学会誌 10:7-10

血管外科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-1	松元崇、内田孝之、松尾彰信、他	Deep circumflex iliac artery aneurysm-related retroperitoneal hemorrhage mimicking a ruptured abdominal aortic aneurysm	Journal of Case Reports and Images in Surgery :1-4

皮膚科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-4	田中宏治、永井貴子、塩道泰子、他	放射線療法が奏功した破壊型基底細胞癌の1 例	臨床皮膚科 :304-308

リエゾン精神科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-1	猪狩圭介	強迫症，不安症群	公認心理師カリキュラム準拠 ・精神疾患とその治療第2版 :115-130
2025-6	猪狩圭介	研修医のための精神科ハンドブック第2版	研修医のための精神科ハンドブ ック第2版 :84-87
2025-12	猪狩圭介	市中総合病院精神科の危機と立ち直り	日本精神科病院協会雑誌 第44巻第12号 :1271

ペインクリニック科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-6	中山隆弘	がん疼痛に対する侵襲的鎮痛法の研修の取り 組みー自身の研修経験を含めて	ペインクリニック :159-168

感染症科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-5	長谷川雄一	TSS/TSLs	治療 107(6):26-30
2025-5	長谷川雄一	見逃したくない感染症リスト TSS/TSLs	治療 107(6):26-30
2025-5	小出容平、的野多加志	PROFESSIONALS 総合内科×感染症科 file:13 無症状のリンパ節腫脹の正体	J-IDEO 9(3):476-481

救急科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-3	香月洋紀、山田哲久、他	Prolonged QRS duration in patients with acute poisoning occurs both xenobiotics and with low level of potassium a single-center retrospective case control study	The Journal of Toxicological Sciences 50(3):117-123
2025-10	山田哲久	救急で知っておくべき外傷まるとファイル【メジャー外傷編】急性硬膜下血腫	Emer-Log エマログ 38:570-574
2025-10	伊賀健一郎、香月洋紀、山田哲久、他	Levomopromazine and paroxetine poisoning with wide QRS complex	Clinical Toxicology :1-2
2025-11	香月洋紀	催眠・鎮静薬	臨床雑誌内科 :1019-1022
2025-11	伊賀健一郎、山内素直	蛇咬傷	臨床雑誌内科 :1108-1111
2025-12	山田哲久、名取良弘	頭部外傷を含む多発外傷症例での治療方針に難渋した一例	Neurosurgical Emergency 30(2):106-112
2025-12	伊賀健一郎	リフィーディング症候群	当直ハンドブック 2026 :279-282

集中治療科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-1	桑野公輔、川上大裕	【特集酸塩基平衡，電解質異常に挑む】低ナトリウム血症、実際どうやって補正する？最近の研究結果をふまえた適切な治療方法	INTENSIVIST 17 (1) :3-13
2025-1	桑野公輔、川上大裕	特集酸塩基平衡，電解質異常に挑む【スペシャリストが答える困った電解質異常一問一答	INTENSIVIST 17(1):51-52
2025-1	Yamada T, Minami T, Shinohara T, et al.	The Impact of Ageing on Diaphragm Function and Maximal Inspiratory Pressure:A Cross-Sectional Ultrasound Study.	Diagnostics(Basel) 15(2):163
2025-2	川上大裕	Ⅲ章特有の病態と治療 11. 集中治療後症候群 (PICS) の病態と治療	集中治療医学レビュー 2025 - '26 :286-291
2025-2	川上大裕	Ⅲ章特有の病態と治療 11. 集中治療後症候群 (PICS) の病態と治療	集中治療医学レビュー 2025 - '26 :286-291
2025-2	川上大裕	Ⅲ章特有の病態と治療 11. 集中治療後症候群 (PICS) の病態と治療	集中治療医学レビュー 2025 - '26 :286-291
2025-7	山崎陽平、川上大裕	【わかる・深める指標・パラメータのいろは】CO,SV,SVV,PPV	救急医学 49(7):817-822
2025-8	Kawakami D, Niimoto T	Considerations for the Use of CO2-O2-Derived Indices in Shock Resuscitation	Chest 168-2:e53-e54
2025-8	Tanaka K, Nakanishi N, Liu K, et al.	Optimal timing for assessing post? intensive care syndrome in clinical research:a scoping review and expert survey	J Intensive Care Med 13(1):45
2025-9	Arita Y, Kawakami D, Koga H, et al.	What Is the Optimal Reintubation Rate?:A Multicenter Retrospective Study	CHEST Critical Care Volume3,Issue4:100210
2025-10	Sakuraya M, Sugimoto T, Kikutani K, et al.	Association of Medical Burden and Capacity Changes With Clinical Outcomes Among Patients Without COVID-19 During the Pandemic:A Multicenter Retrospective Cohort Study	Crit Care Med :e1918-e1929

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-10	Takaba A, Sakuraya M, Kawakami D, et al.	Incidence rate of post-intensive care syndrome-family in Japan:A post-hoc analysis of a prospective observational study	J Intensive Care Med 11(4):399-408
2025-11	米村 拓、川上大裕	気管挿管をためらうな！適切な人工呼吸管理が患者を救う	Heart View 29 (12) :84-89

リハビリセンター

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-2	木戸孝史、奥野将太、白土健吾、他	肺癌手術患者における手術関連骨格筋量減少と術後1ヶ月の運動耐容能との関連	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 34(1):64-69
2025-3	木戸孝史、奥野将太、白土健吾、他	肺癌手術患者における術後2日間の歩行プロトコル遵守が歩行自立日数および術後在院日数に与える影響	呼吸理学療法学 4(1):21-31
2025-4	大西悠太郎、横手 翼、大神汰一、他	心臓外科術後に縦隔炎を合併した患者に対して運動療法と栄養療法の併用が奏功した一例	心臓リハビリテーション :36-40
2025-5	白土健吾、内八重勇哉、久保田彩音、他	Effect of exercise and nutrition therapy on a patient with glottic cancer cachexia during chemoradiotherapy treatment:A Case Report	Cureus 17(5):e84455
2025-5	大西悠太郎、横手 翼、白土健吾、他	Effect of Number of Days to Ambulation on Postoperative Daily Activities in Patients with Type A Aortic Dissection	Physical Therapy Research :000
2025-5	横手 翼、西村天利、大西悠太郎、他	経口オビオイドとの併用により運動療法の効果が得られた重症心不全の一例	心臓リハビリテーション :148-152
2025-9	井上慎太郎、長溝耕平、高宮 章、他	サルコペニアを有する造血管腫瘍患者の臨床的特徴	日本がん・リンパ浮腫理学療法学会誌 3:1-6
2025-10	奥野将太、白土健吾、川満謙太、他	Early Postoperative Atelectasis After Liver Cancer Surgery Affects Exercise Tolerance One Month Post-surgery:A Retrospective Cohort Study	Cureus 17:e95121
2025-10	奥野将太、川満謙太	Implementation and Educational Impact of a Story-Centered Curriculum Using a Large Language Model:A Class on Internal Disorders for Physiotherapy Students.	Cureus 17:e94390
2025-10	井上慎太郎、大神汰一、大西悠太郎、他	Disparity of Predictors for Participation in Phase 2 Cardiac Rehabilitation Between Younger and Older Patients with Cardiovascular Diseases	Cureus :95281
2025-11	白土健吾、奥野将太、川満謙太、他	Effect of preoperative cancer cachexia on postoperative sarcopenia in patients with non-small cell lung cancer	Supportive Care in Cancer :33(1027)
2025-11	白土健吾、木戸孝史、川端直人、他	Inter-and intra-examiner reliability of quantitative assessment of respiratory muscle Cross-Sectional Areas on preoperative chest CT images:A pilot study.	Cureus :17(11)

薬剤科

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-7	進 健司	統合失調症治療薬の投与管理	月刊薬事 :216-226

予防医学センター

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-1	赤星和也	胃 SMT/SEL の EUS/EUS-FNA 診断	日本消化器内視鏡学会ビデオライブラリー :JGES Homepage

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-6	赤星和也、田村慎一、赤星和明、他	直視型ラジアル超音波内視鏡を用いた膵臓胃癌検診の有用性～腹部超音波膵臓検診との比較を中心に～	日本消化器がん検診学会雑誌 オンライン早期公開 :1-13

看護部

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-12	岡 佳子、藤村賢宏、大場裕司	専門領域を超えた専門看護師・認定看護師の協働を促すキャリアデザイン支援	看護人材育成 ,22(5),2-6. :2-6

改善推進本部

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-9	立石奈々、福村文雄	病院だから TQM デミング賞を通して見えたもの	病院だから TQM デミング賞を通して見えたもの :1-183

臨床心理室

発行年月	著者名	表題名	著書・雑誌名
2025-10	松尾純子	重なり合う支援のかたち～周産期心理士のメッセージ～：A ちゃんが開いた新しいとびら～3世代の葛藤と再構築を多職種で抱える～	with NEO vol.38no.5:716-718

2. 学会発表

肝臓内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-1-17 ~ 2025-1-18	栗野哲史、高平順朗、鈴木秀生、他	デュルバルマブ・トレメリムマブにおける WNT/ β -catenin・CD8 + TILs の関与と放射線治療併用療法の有用性の検討	第 31 回日本肝がん分子標的治療研究会
2025-1-28	本村健太	進行肝細胞癌に対する全身薬物療法の奏効予測バイオマーカーの探索、他	薬物 Sequence Seminar in 東邦
2025-2-8	田中紘介、高平順朗、長澤滋裕、他	当院における肝細胞癌に対する RFA の局所再発に関わる risk factor の検討	第 3 回日本アブレーション研究会
2025-2-27	栗野哲史	GCD 療法の使用経験	CCC seminar for Hepatologist
2025-3-19	栗野哲史	肝細胞がん初回薬物治療の最適解を見つける	HCC 免疫治療ゼミナール
2025-5-14	栗野哲史	当院における胆道癌薬物治療の現状と課題～内科の立場から～	MSD Biliary Tract Cancer Web Seminar
2025-5-16 ~ 2025-5-17	鈴木秀生、瀧本太寛、黒坂一輝、他	切除不能肝細胞癌患者における複合免疫療法中の ALBI スコアの変化の検討	第 125 回日本消化器病学会九州支部例会
2025-6-5 ~ 2025-6-6	田中紘介、瀧本太寛、黒坂一輝、他	当院における肝細胞癌に対する RFA 後の局所再発の関連因子の検討	第 61 回日本肝臓学会総会
	栗野哲史、瀧本太寛、黒坂一輝、他	CD8 + TILs と血清 CRP を用いた切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ、ベバシズマブ併用療法の新たなバイオマーカー	
	鈴木秀生、瀧本太寛、黒坂一輝、他	切除不能肝細胞癌に対する Durvalumab + Tremelimumab 併用療法の治療成績～多施設共同研究～	
2025-6-27 ~ 2025-6-28	栗野哲史、瀧本太寛、黒坂一輝、他	切除不能肝細胞癌患者における複合免疫療法中の ALBI スコアの変化の検討	第 32 回日本肝がん分子標的治療研究会
	山本修平、小玉尚宏、栗野哲史、他	肝細胞癌において NRF2 経路活性化は免疫枯渇型腫瘍を形成しアテゾリズマブ/ベバシズマブ療法に抵抗性を惹起する	
	小笠原定久、池田公史、伊藤心二、他	切除不能肝細胞癌における薬物療法に関する前向き観察研究 (PRISM 試験): 1000 例までの update 解析	
2025-7-8	栗野哲史	多方面からみた STRIDE レジメンの価値～免疫微小環境と肝予備能から見た可能性～	Astrazeneca HCC Web Seminar
2025-7-10 ~ 2025-7-11	田中紘介、瀧本太寛、黒坂一輝、他	脈管に近接した肝細胞癌に対する放射線治療と経皮的ラジオ波焼灼術との比較検討	第 61 回日本肝癌研究会
2025-9-18	栗野哲史	複合免疫療法時代におけるレンバチニブの役割	HCC Meet The Expert
2025-9-25	鈴木秀生	胆道癌における GC + ICI の臨床的意義と解析	胆道癌 uptodate セミナー
2025-9-29	栗野哲史	多方面からみた STRIDE レジメンの価値～免疫微小環境と肝予備能から見た可能性～	肝細胞癌治療 up to date 2025
2025-10-10	栗野哲史	多方面からみた STRIDE レジメンの価値～免疫微小環境と肝予備能から見た可能性～	HCC Real World STRIDE

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-10-30 ～ 2025-11-1	栗野哲史、鈴木秀生、本村健太、他	切除不能肝細胞癌患者における複合免疫療法中の ALBI スコアの変化の検討	第 67 回日本消化器病学会大会
2025-11-28 ～ 2025-11-29	瀧本太寛、黒坂一輝、鈴木秀生、他	切除不能肝細胞癌におけるデュルバルマブ・トレメリムマブ療法の治療効果に対する放射線治療の影響	第 126 回日本消化器病学会九州支部例会
2025-12-4 ～ 2025-12-5	黒坂一輝、瀧本太寛、鈴木秀生、他	Agile3 スコアと治療終了時 AFP 値を用いた C 型肝炎 DAA 治療後の発癌リスク因子の解析	第 46 回日本肝臓学会西部会
	栗野哲史、瀧本太寛、黒坂一輝、他	Intermediate stage 肝癌におけるアテゾリズマブ＋ベバシズマブとレンバチニブの費用対効果分析	

呼吸器内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-2-8 ～ 2025-2-9	吉峯晃平、飛野和則	当院における PD-L1 TPS 1% 未満の非小細胞肺癌の一次治療の現状	第 65 回日本肺癌学会九州支部学術講演会
	山本英彦	君たちはどう生きるのか ～飯塚病院の生き残り戦略～	
2025-2-8 ～ 2025-2-9	大田裕晃、村上陽亮、内田和紀、他	気管支鏡検査による肺サルコイドーシスの診断方法の検討	第 65 回日本肺癌学会九州支部学術集会 第 48 回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会
2025-3-8	大田裕晃	よもぎ蒸しによる急性肺障害の一例	第 94 回日本呼吸器学会・日本結核病学会 九州支部春季学術講演会
	平松由莉	結核性胸膜炎の治療開始後に IgA 血管炎発症した症例	
	飛野和則	IPF の CT 画像における特徴所見の検出：5mm slice vs thin-slice	
	坂部光邦	重症喘息治療でベンラリズマブ投与中に発症した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の一例	
2025-4-11 ～ 2025-4-13	坂部光邦、飛野和則、小畑有未、他	放射線照射と免疫療法後にサイトカイン放出症候群を生じた進行肺扁平上皮癌の一例	第 65 回日本呼吸器学会学術講演会
	村上陽亮、小畑有未、曾我部翔大、他	COPD 増悪前後の末梢血好酸球数変化と再増悪リスクの関連性	
	大田裕晃、小畑有未、齋藤 紫、他	特発性肺線維症の急性増悪と脊柱起立筋断面積の関係	
	西澤早織、飛野和則、小畑有未、他	初回治療として免疫チェックポイント阻害薬を使用した非小細胞肺癌患者の治療効果と虫垂切除の関連性についての検討	
2025-6-6 ～ 2025-6-7	花香未奈子、飛野和則	ALIS 吸入療法中に定着緑膿菌がアミノグリコシドおよびキノロン耐性を示した難治性肺 MAC 症の 2 症例	第 100 回日本結核・非結核抗酸菌症学会学術講演会
2025-6-12 ～ 2025-6-13	平松由莉、飛野和則、村上陽亮、他	経気管支肺生検で診断に至った気管支結石に合併した肺アスペルギルス症の 1 例	第 48 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会
	大田裕晃、村上陽亮、内田和紀、他	気管支鏡下生検法の組み合わせによる肺サルコイドーシスの診断精度の検討	
2025-9-5 ～ 2025-9-6	飛野和則	原発性自然気胸における早期再虚脱の決定因子としての虚脱率 -ERS 2024 ガイドラインの空白	第 29 回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-9-5 ～ 2025-9-6	大井隆之介	原発性自然気胸に対する Thopaz+ を用いた脱気の意義に関する検討	第 29 回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会
2025-10-31 ～ 2025-11-1	曾我部翔大、大井隆之介、村中瑞旗、他	急性下肢麻痺を契機に診断された胸膜原発悪性リンパ腫の一例	第 95 回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部秋季学術講演会
	内田和紀、飛野和則	関西象眼を背景に発症した非チフス性サルモネラ膿胸の一例	
	村上陽亮、飛野和則	自然気胸と気象要因の関連に関する当院での後方視的検討	
	川崎裕哉、清末 響、郡 日菜子、他	原発性自然気胸の短期的経過予測因子に関する後方視的検討	
	郡 日菜子、飛野和則	当院における慢性肺アスペルギルス症 42 例の臨床像と死因	
	村中瑞旗、川崎裕哉、郡日菜子、他	急性増悪期に HOT を開始した COPD 患者の 1 年再入院率：心腎機能と低栄養の影響	
	清末 響、飛野和則、村中瑞旗、他	血算・自己抗体で評価する IPF と IPF+ 気腫（CPFE－UIP）の予後：単施設コホート研究	
	湯浅幹己、飛野和則、村上陽亮、他	肺扁平上皮癌に対してベムプロリズマブ併用化学療法中に Sweet 病を発症した一例	
2025-11-6 ～ 2025-11-8	川畑隆史、飛野和則、内田和紀、他	オシメルチニブメシル開始後たこつぼ型心筋症を発症した症例	第 66 回日本肺癌学会学術集会
	山元隆太、飛野和則、内田和紀、他	複数の併存疾患を有する Performance status 良好な進行非小細胞肺癌患者における免疫チェックポイント阻害薬治療の有効性と安全性の検討	
	坂部光邦、飛野和則、内田和紀、他	初回免疫併用化学療法を受けた進展小細胞肺癌における奏効深度と無増悪生存期間および全生存期間の関連性	
	吉峯晃平、飛野和則	腎機能低下 NSCLC に対する CBDCA+nab-PTX+Atezo の第 2 相試験：LOGIK2002	
	大田裕晃、川崎裕哉、郡 日菜子、他	化学放射線療法後の腫瘍空洞化が Durvalumab 維持療法を受ける非小細胞肺癌患者の予後に与える影響	
	内田和紀、飛野和則	非小細胞肺癌患者における免疫チェックポイント阻害薬投与開始時刻と臨床転帰の関連性	
	吉峯晃平、飛野和則	限局型小細胞肺癌に対する CBDCA 併用の同時化学放射線療法の有効性・安全性	

内分泌・糖尿病内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-10-31 ～ 2025-11-1	北岡 優	在宅復帰後すぐに糖尿病性舞踏病を発症した 1 例	第 63 回日本糖尿病学会九州地方会

消化器内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-5-9 ～ 2025-5-11	久保川 賢、長田繁樹、大崎智絵、他	胃切除術後食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法 (EIS) の有用性について	第 109 回日本消化器内視鏡学会総会
	小副川 敬、久保川 賢、淀江賢太郎、他	Clutch Cutter 及び PDS 縫合糸付き PGA シート・フィブリン糊併用法を用いた胃 ESD 合併症に対する対策	
2025-5-16 ～ 2025-5-17	空閑亮太、淀江賢太郎、小副川 敬、他	当院における内視鏡的食道ステント留置術の検討～ CRT 後症例に関するガイドラインの変遷を受けて～	第 119 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
	若杉晃伸、宜保淳也、野崎哲史、他	胆道狭窄に対する 11.5FrTannenbaum 型 plastic stent の有用性	
2025-7-25 ～ 2025-7-26	野崎哲史、宜保淳也、木村弥成子、他	臍頭十二指腸切除後の仮性嚢胞に対し直視コンベックス型 EUS を用い経腔腸的に内嚢化した 1 例	第 56 回日本膵臓学会大会
2025-9-11 ～ 2025-9-12	久保川 賢、長田繁樹、大崎智絵、他	当院における直腸静脈瘤に対する内視鏡治療の現状	第 32 回日本門脈圧亢進症学会総会
	大崎智絵、空閑亮太、長田繁樹、他	特発性肝外門脈閉塞症に伴う直腸静脈瘤破裂に対してヒストアクリル (HA) を用いた内視鏡治療が有効であった一例	
	空閑亮太、大崎智絵、長田繁樹、他	胃全摘術後食道空腸吻合部静脈瘤に対し内視鏡的静脈瘤硬化療法が奏効した 1 例	
2025-10-2 ～ 2025-10-3	若杉晃伸、野崎哲史	急速な転帰を辿った AFP 産生十二指腸乳頭部癌の 1 例	第 61 回日本胆道学会学術集会
2025-10-30 ～ 2025-11-1	若杉晃伸	術後再建腸管における胆管結石に対する新型経口胆道鏡 eyeMAX の使用経験	JDDW2025
	久保川 賢、淀江賢太郎、宜保 淳、他	当院での消化器診療における放射線被曝の現状と問題点 (シンポジウム)	
2025-11-28 ～ 2025-11-29	徳田祐也、淀江賢太郎、空閑亮太、他	虫垂原発悪性リンパ腫の一例	第 126 回日本消化器病学会九州支部例会
	石坂浩貴、徳田祐也、空閑亮太、他	潰瘍性大腸炎に合併した脳静脈洞血栓症の 1 例	
2025-11-28 ～ 2025-11-29	大前瞭太、淀江賢太郎、石坂浩貴、他	電気メス用環流液滴下イリゲーションポンプを併用し Underwater ESD を行った大腸腫瘍の 1 例	第 120 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
	小副川 敬、久保川 賢、淀江賢太郎	Clutch Cutter ESD 及び PDS 縫合糸付き PGA シート・フィブリン糊併用法を用いた胃腫瘍性病変に対する低侵襲治療の工夫	

血液内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-10-10 ～ 2025-10-12	澤邊太郎、喜安純一、大山 真、他	子宮筋腫と卵巣線維種に合併したフィブリン関連大細胞 B 細胞性リンパ腫の 2 症例	第 87 回日本血液学会学術集会
	帆足公佑、大山 真、津田麻理子、他	DLBCL に対する Pola-R-CHP 療法中に発症したニューモシスチス肺炎の当院での疫学	
	津田麻理子、喜安純一、澤邊太郎、他	MRI が診断に有用であった関節アミロイドーシス合併多発性骨髄腫	

総合診療科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-1-11 ～ 2025-1-12	山本幸近	世代を超えて語ろう！！しくじり経験談から学ぶ未来	第 19 回九州支部総会・学術大会
	土田紗愛	世代を超えて語ろう！！しくじり経験談から学ぶ未来	
	吉岡志保	世代を超えて語ろう！！しくじり経験談から学ぶ未来	
	高橋啓悟	インタラクティブセッション1 集まれ！福岡診断道場ッ。	
	吉田 伸	災害時の亜急性期以降におけるプライマリケア医療者の役割と PCAT の活性化に向けて	
	安田雄一	災害時の亜急性期以降におけるプライマリケア医療者の役割と PCAT の活性化に向けて	
	大内田良真	集まれ！福岡診断道場ッ。インタラクティブセッション1	
2025-2-1 ～ 2025-2-2	赤岩 喬	主介護者の負担を考慮したコロナウイルス感染症後のリハビリテーションの調整を行った一事例	第 1 回日本生活期リハビリテーション医学会学術集会
2025-2-14 ～ 2025-2-15	松永 諭、宍戸諒平、白土健吾、他	当院における医師から直接 NST 介入の依頼があった 4 例の検討	第 40 回日本栄養治療学会学術集会
	宍戸諒平、松永 諭	短腸症候群に対して大量の中心静脈栄養を投与することで栄養状態が改善した一例	
2025-2-16 ～ 2025-2-16	中野公介、土師陽一郎、渡辺 充、他	結核性腹膜炎との鑑別に難渋し、審査腹腔鏡腹膜生検で診断確定した癌性腹膜炎の 1 例	第 255 回日本内科学会東海地方会
2025-2-22 ～ 2025-2-24	井上三四郎	コマネジメントの実際：入院から退院までのケアプロセスを徹底解説！	第 30 回日本病院総合診療医学会学術総会
	高井咲弥	病院総合診療医の働き方～現在地と理想をウェルビーイングとバーンアウトの側面から”さらに”深める～	
	北野峻介	若手総合診療医が医療の質・安全領域で活躍するための方策と展望	
	中安一夫	血液悪性腫瘍の在宅導入患者の転帰と在宅導入期間の後方視的調査	
	大塚陽平	成人 Still 病様の症状を呈したヒトアジュバンド病の症例	
	溝口朋実	緊急退院同日に訪問診療を導入し在宅看取りへとつながられた 1 例	
	中安一夫	血液悪性腫瘍の在宅導入患者の転帰と在宅導入期間の後方視的調査	
	鶴木友都	MBA が総合診療医のキャリアを変える：意思決定力とリーダーシップの新境地	
	鶴木友都	多職種で挑む！診断の新しいカタチ	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-3-7 ~ 2025-3-8	井上三四郎	整形外科医・総合診療科医からみた脆弱性骨折のコマネジメント	第12回日本脆弱性骨折ネットワーク学術集会
2025-3-15 ~ 2025-3-16	赤岩 喬	中小医療機関における安全上の課題	第11回日本医療安全学会学術総会
2025-4-19	木野裕磨	免疫能正常患者の虚血性腸炎加療後に続発したサイトメガロウイルス腸炎 (CMV) の一例	日本内科学会ことはじめ 2025 大阪
2025-4-22 ~ 2025-4-25	Unoki Y	A Rare Case Of Zolmitriptan-Induced Angioedema With Atypical Presentations	The Society Hospital Medicine Converge Conference 2025
2025-4-23 ~ 2025-4-26	Tsuchida S, Nakayasu K, Kashiwagi H	Factors Associated with Home-Based End-of-Life Care in Terminal Cancer Patients Transitioning to Home Care	The 16th Asia Pacific Hospice Palliative Care Conference
2025-4-24 ~ 2025-4-27	Yoshioka S	A Preventive Medicine Checklist Annually Revised by Japanese Family Medicine Residency Program	WONCA Asia Pacific Region Conference 2025
2025-4-24 ~ 2025-4-26	井上三四郎	既存疾患に膠原病を有する上腕骨近位部骨折に対して保存治療を行った2例	第69回日本リウマチ学会総会・学術集会
2025-6-7 ~ 2025-6-8	井上三四郎	敗血症を合併した化膿性胸鎖関節炎の1例：人工知能の可能性	第149回西日本整形・災害外科学会学術集会
2025-6-14 ~ 2025-6-15	柴田真志	へき地尺度と在宅医療サービス利用には負の相関がある：NDB オープンデータをを用いた生態学的研究	第7回日本在宅医療連合学会大会
	中安一夫	救急搬送となった在宅療養患者の背景と対応における違いについての後方視的調査	
	山本幸近	総合診療専攻医に対する「在宅研修チェックシート」を利用した教育活動報告	
	新谷あん	通所リハビリテーションから訪問リハビリテーションへの移行支援を行った在宅心不全患者の1事例	
2025-6-20 ~ 2025-6-22	二宮辰光	慢性副鼻腔炎、高カルシウム血症から、副鼻腔悪性腫瘍の診断に繋がった一例	第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
	山本幸近	専攻医による専攻医のための会議 in 学術大会：違う道、同じ志、ともに切り拓く研修とその先へ	
	吉田 伸	多職種連携（専門職連携）の教育とその実践 Education and Activity of Interprofessional Collaboration	
	大谷 昂	ヒドロモルフォン 1mg でナロキソン投与が必要な意識障害を来した一例	
	丸山淳也	慢性疾患ケアモデルを基にした生活習慣病管理料算定に対する多職種での取り組み	
	土田紗愛	専攻医部会研修支援部門プレゼンツ！ポートフォリオ作成への道	
	土田紗愛	日英短期交換留学～日英プライマリケアの比較とこれからに向けて～	
	山本幸近	老衰診断の不確実性を乗り越えるために家族・多職種との対話が有用であった在宅看取りの1例	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-6-20 ～ 2025-6-22	桑野克久	Successful Treatment of Normal Pressure Hydrocephalus in a Hemodialysis Patient:Importance of Timely Diagnosis and Shunt Surgery Effectiveness	第 16 回日本プライマリ・ケア 連合学会学術大会
	中安一夫	胃がん在宅患者における疼痛緩和にオピオイド注の add on 法を行い、当院病棟と連携し調整した 1 例	
	土田紗愛	研修支援事業の活動報告と今後の展望	
	吉岡志保	発熱、多発関節炎、非定型皮疹を呈した高齢女性の成人 Still 病の一例	
	丸山淳也	専門医育成（総合診療・在宅医療）を行う小病院での在宅医療	
	時岡 悠	ワクチン接種歴の確認とキャッチアップの重要性を再認識した麻疹の輸入感染の 1 例	
	山田隆斗	グラム染色が狭域抗菌薬への変更に役立った培養陰性の右腋窩膿瘍の一例	
2025-6-27 ～ 2025-6-28	井上三四郎	飯塚病院における大腿骨近位部骨折患者に対する整形外科老年医療	第 51 回日本整形外傷学会学術集会
2025-6-28 ～ 2025-6-29	清田雅智	Mycoplasma pneumoniae 肺炎の臨床診断とマネジメント	ACP（米国内科学会）日本支部年次総会・講演会 2025
2025-7-25 ～ 2025-7-27	工藤仁隆	Save,Select,Schedule を指導する疑問の解決トレーニングによって、研修医が作る疑問の数や質が向上するか	第 57 回日本医学教育学会大会
	山本幸近	スライド改革～生成 AI で実現する医学教育の新たなステージ～	
	山本幸近	Aiming to Present at AMEE Workshop for Japan-based Medical Educators	
2025-9-17 ～ 2025-9-21	Yoshida S	Incidence of Hospitalisation for Ambulatory Care Sensitive Conditions (ACSCs) Among Elderly Japanese Patients Receiving Physician-Led Home Visits	The 25th WONCA World Conference 2025
2025-9-27 ～ 2025-9-28	高井咲弥	～若手病院総合診療医としてのアイデンティティを育むには～	第 31 回日本病院総合診療医学会学術総会
	鶴木友都、堀内茅加、小田浩之	後方支援病院への総合診療医派遣による転院支援の取り組み	
	小田浩之	地域の中核病院の病院総合診療医として挑む患者安全	
	井上三四郎	飯塚病院における大腿骨近位部骨折に対するコマネジメント	
	大向功祐、松永 諭、井上三四郎、他	外科的ドレナージの担当診療科の決定に難渋した化膿性胸鎖関節炎の一例	
2025-11-8	松永 諭	当院の NST 回診におけるモバイルワークステーション導入の効果（NST コアメンバーへのアンケート調査より）	第 36 回北部福岡 NST 研究会
2025-11-9	吉田 伸	在宅医療を支える病診連携と人材育成～急性病棟とも慢性病棟とも有床診療所でも～	第 2 回日本在宅医療連合学会九州ブロック会

膠原病リウマチ内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-3-15 ～ 2025-3-16	中山恭兵、日浦惇貴、山内雄介、他	初発の病変として肺動脈炎、心膜炎を呈した高安静脈炎の一例	第 69 回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術集会
	山内雄介、中山恭兵、西田知也、他	キャッスルマン病様リンパ節を伴う自己免疫性骨髄線維症合併全身性エリテマトーデスの一例	
	日浦惇貴、中山恭兵、山内雄介、他	全身性アミロイドーシスを契機に全身性エリテマトーデスの診断に至った一例	
2025-9-13 ～ 2025-9-14	内野愛弓	高齢発症関節リウマチ治療における IL-6 阻害療法	第 70 回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術集会

連携医療・緩和ケア科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-2-21 ～ 2025-2-22	柏木秀行	正解・不正解と言えない治療選択肢との向き合い方	第 17 回植込みデバイス関連冬季大会
2025-2-23	石上雄一郎	どこまで治療するべきかの考え型と話し方 家庭医編	第 20 回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー
2025-4-23 ～ 2025-4-26	竹下隼人、柏木秀行	Ethical issues in palliative care for a patient with esophagotracheal fistula and advanced sigmoid colon cancer : a case report on the balance between autonomy and beneficence	第 16 回 Asia Pacific Hospice Palliative Care Conference
2025-6-14 ～ 2025-6-15	石上雄一郎	高齢者の救急現場での ACP とその対策 - 高齢者救急問題の現状とその対応についての提言 2024 を踏まえて -	第 7 回日本在宅医療連合学会大会
2025-6-20 ～ 2025-6-22	柏木秀行	プライマリ・ケアで緩和ケアを提供できる家庭医・総合診療医を育てる	第 16 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
	柏木秀行	在宅医療を支える看護管理者の役割	
	鈴木雅文	それぞれの場で、ふさわしくあるための臨床倫理	
2025-6-21 ～ 2025-6-22	石上雄一郎	救急認定におけるソーシャルワーカーのつとめ	第 73 回日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会
2025-7-4 ～ 2025-7-5	大塚友貴	胃癌に対する画像下治療（IVR）について、倫理的ジレンマを多職種で共有し意思決定支援を行った一例	第 30 回日本緩和医療学会学術大会
	柏木秀行	VUCA の時代をマネジメント視点で考える	
	柏木秀行	日本緩和医療学会における Faculty Development プログラムの開発	
	柏木秀行	日韓台国際セッション：東アジアの緩和ケアの質を高める新時代のリーダー育成とその戦略	
	中山隆弘	難治性がん疼痛の専門的治療～適応を知って繋げよう～	
	高橋佑輔	心不全緩和ケアのこれまでとこれからを考える	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-7-4 ～ 2025-7-5	山端裕貴	抗癌化学療法後に不完全腸閉塞が疑われた4 型胃癌の一例	第30回日本緩和医療学会学 術大会
2025-7-10 ～ 2025-7-12	中山隆弘	皮下ポート法でのくも膜下鎮痛法の手技の習 得と維持を目的とした当科の取り組み	第59回日本ペインクリニック 学会 学術集会
2025-8-9 ～ 2025-8-10	石上雄一郎	「今ここ」の価値観に迫る～家庭医だからこ そできる ACP ～	第37回学生・若手医療者の ための家庭医療学夏期セミ ナー
2025-9-6 ～ 2025-9-7	石上雄一郎	緩和ケアの進歩と実際	第33回日本意識障害学会 総会・学術集会
2025-10-19	山端裕貴	救急・集中治療医における緩和ケア教育の現 状と課題 - 単施設 Web 調査 -	第7回日本緩和医療学会 第 7回九州支部学術大会
	河内 咲	癌性胸水のドレナージに伴い発生した Ex Vacuo Pneumothorax の経験	
	大塚友貴	十二指腸乳頭部癌肝転移との鑑別が必要で あった肝膿瘍に対して、意思決定支援を行い経 皮経肝膿瘍ドレナージ (PTAD) を施行し、確 定診断及び治療が出来、自立退院を得た一例	
2025-10-28 ～ 2025-10-30	石上雄一郎	高齢者救急の問題点に対する取り組み	第53回日本救急医学会総会・ 学術集会

循環器内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-1-11 ～ 2025-1-12	太田宜宏、大内田良真、川上将司、 他	集まれ！福岡診断道場ッ。	第19回日本プライマリ・ケ ア連合学会学術大会
2025-1-23	竹井雅人	左主幹部の安定狭心症に対する PCI 後に急性 ステント血栓症となった1例	第2回 CAESAR 研究会
2025-2-1	縄田英吾	Torsades de Pointes を併発した低心拍出症候 群の一例	第21回心不全梁山泊
2025-2-21 ～ 2025-2-22	太田宜宏、川上将司、西淳一郎	上行大動脈解離を合併した急性心筋梗塞に補 助循環用ポンプカテーテルを使用した一例	中国四国ライブ
2025-3-14 ～ 2025-3-16	縄田英吾、川上将司、松本洋典、他	搬送経路の違いによる ST 上昇型心筋梗塞患 者の臨床的特徴と予後に関する検討	第52回日本集中治療医学会 学術集会
	松本洋典、川上将司、西淳一郎	ST 上昇型心筋梗塞における呼吸数と乳酸値を 用いた Quick Forrester Classification による心 機能予測の検討	
	川上将司	循環器系集中治療の現場で直面する医療の決 定プロセスを考える	
	桐原志保美、川上将司、山田哲久、 他	院外心停止をきたした StanfordA 型急性大動 脈解離の臨床的特徴	
2025-3-28 ～ 2025-3-30	桐原志保美、川上将司、縄田英吾、 他	Clinical Features of Out-of-Hospital Cardiac Arrest Patients with TypeA Aortic Dissection	第89回日本循環器学会学術 集会
	縄田英吾、川上将司、松本洋典、他	Characteristics and Prognosis of ST-elevation Myocardial Infarction with Different Transfer Pathways	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-3-28 ~ 2025-3-30	松本洋典、川上将司、縄田英吾、他	The Quick Forrester Classification with Respiratory Rate and Serum Lactate Levels for Predicting Heart Function in ST-elevation Myocardial Infarction Patients	第 89 回日本循環器学会学術集会
	川上将司	Management of Post-Cardiac Arrest Syndrome: Critical Care and Multidisciplinary Collaboration in Out-of-Hospital Cardiac Arrest	
	川上将司	心停止後症候群の管理と問題点	
	川上将司	Expert Consensus Statement: Management at the CVICU	
2025-5-20 ~ 2025-5-23	稲永慶太	Sudden Haemodynamic collapse after self-expanding TAVI	EuroPCR2025
2025-5-21	稲永慶太、内田孝之、西 淳一郎	Sudden haemodynamic collapse after self-expanding Transcatheter Aortic Valve Implantation	EuroPCR
2025-7-17 ~ 2025-7-19	児島啓介、稲永慶太、西 淳一郎	A case of right ventricular infarction with a diagnostic challenge due to the atypical change of the electrocardiogram	第 33 回日本心臓血管インターベンション治療学会
	児島啓介	非典型的な心電図で診断に難渋した右室梗塞の症例	
2025-8-1 ~ 2025-8-2	児島啓介	機能性心室性僧帽弁逆流に対する MitraClip での僧帽弁接合修復術 (TEER) で、術前に予測できなかった僧帽弁狭窄 (MS) をきたし撤退を余儀なくされた 1 例	第 15 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会 JTVT2025
	児島啓介、大賀泰寛、高原勇介、他	機能性心室性僧帽弁逆流に対する MitraClip での僧帽弁接合修復術 (TEER) で、術前に予測できなかった僧帽弁狭窄 (MS) をきたし撤退を余儀なくされた 1 例	
2025-10-10 ~ 2025-10-12	佐藤 祐	前負荷低下時に ST 上昇所見を呈した閉塞性肥大型心筋症 (HOCM) の一例	第 29 回日本心不全学会学術集会
2025-12-6	児島啓介、平木由佳、吉野俊平、他	膿瘍様的心筋病変を伴った急性心筋炎の一部例	第 139 回日本循環器学会九州地方会

心不全科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-6-28	松川龍一	心不全診療の包括的管理の重要性	第 138 回日本循環器学会九州地方会

脳神経内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-3-15 ~ 2025-3-15	寺師綾子、姜 裕貴、吉村 基、他	全身型重症筋無力症の経過中に筋炎を合併した一例	第 247 回日本神経学会九州地方会
2025-8-30 ~ 2025-9-3	Takase K, Yoshimura M, Shimmura M	A study of characteristics of acute symptomatic seizure related to acute ischemic stroke compared to poststroke epilepsy	The 36th International Epilepsy Congress
2025-8-30 ~ 2025-9-3	吉村 基、進村光規	A study of characteristics of acute symptomatic seizure related to acute ischemic stroke compared to poststroke epilepsy.	第 36 回 European Epilepsy Congress

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-10-2 ～ 2025-10-4	進村光規、古賀裕朗、姜 裕貴、他	筑豊地域基幹病院での高齢者てんかん患者の診療実態	第 58 回日本てんかん学会学術集会
2025-12-20 ～ 2025-12-21	司城昌大	前頭側頭型認知症の臨床神経病理	第 25 回日本早期認知症学会学術大会

腎臓内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-2-14 ～ 2025-2-16	藤崎毅一郎	透析患者における心臓弁膜症 - 弁膜症治療の内科的薬物療法に関して -	第 4 回日本腎不全合併症医学会学術集会・総会
2025-5-29	福満研人	飯塚診療圏における地域連携に向けた取り組み	第 4 回田川飯塚 PD セミナー
2025-6-27 ～ 2025-6-29	藤崎毅一郎	心血管疾患	第 70 回日本透析医学会学術集会・総会
	藤崎毅一郎、藤井直彦	骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂の意図を読み解く	
2025-8-30	福満研人	SMAP 前後の腎機能低下速度の変化と、適切な手術時期についての検討	第 40 回九州 CAPD 検討会
2025-10-11 ～ 2025-10-12	岡村のぞみ、萱島寛人、大谷 昂、他	悪性腫瘍関連の高 Ca 血症に対しゾレドロン酸を減量投与した血液透析患者の一例	第 55 回日本西部腎臓学会学術大会
	西田明弘、島子佑斗、末次駿一、他	帯状疱疹に対するバラシクロビル投与によりアシクロビル関連脳症と急性腎障害を生じた一例	
2025-11-22 ～ 2025-11-23	岡村のぞみ、松本英展、白江惇人、他	高齢の腹膜透析患者に発症した結核性腹膜炎の一例	第 31 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会
2025-11-29 ～ 2025-11-30	西田明弘、島子佑斗、末次駿一、他	ネフローゼ症候群に対して LDL アフェレーシスを施行した最近 5 年間延べ 9 症例のまとめ	第 57 回九州人工透析研究会総会

漢方診療科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-2-22 ～ 2025-2-24	吉永 亮	総合診療医が知っておきたい便秘	第 30 回日本病院総合診療医学会 学術総会
2025-6-6 ～ 2025-6-8	川野綾子、井上博喜、矢野博美、他	小児の起立性調節障害に対する入院での漢方治療の報告	第 75 回日本東洋医学会学術総会
	竹内 肇、井上博喜、矢野博美、他	異臭症に挑核承気湯と柴胡加竜骨牡蛎湯が奏功した 1 例	
	井上博喜、矢野博美、吉永 亮、他	下痢することで軽快した木防已湯の二症例	
	吉永 亮	日本病院総合診療医学会とのジョイントプログラムについて、COVID-19 罹患後症状に対して柴胡剤が奏効した 3 例	
	中尾桂子、井上博喜、矢野博美、他	特発性浮腫に赤丸料が奏効した一例	
	矢野博美、井上博喜、吉永 亮、他	稀少な自己炎症性疾患 ROSAH 症候群の漢方治療経験	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-6-20 ～ 2025-6-22	川野綾子、吉永 亮	起立性調節障害と過敏性腸症候群の小児に漢方治療を併用し不登校が改善した一例	第 16 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
2025-7-6	吉永 亮	悩める思春期に漢方を～外来・入院での治療経験～	第 8 回日本小児漢方懇話会フォーラム
2025-8-23 ～ 2025-8-24	吉永 亮	漢方医学における「血」の異常とその臨床的意義	第 42 回和漢医薬学会学術大会
2025-9-7	竹内 肇、川野綾子、中尾桂子、他	ホットフラッシュを呈した 2 症例の比較（黄連解毒湯と柴胡桂枝乾姜湯）	第 44 回産婦人科漢方研究会学術集会
2025-9-27 ～ 2025-9-28	吉永 亮	利尿剤の解説と急性期病棟における活用	第 31 回日本病院総合診療医学会 学術総会

画像診療科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-2-1 ～ 2025-2-2	馬場勇介、三浦亘智、鳥井芳邦、他	後腹膜神経膠腫の一例	第 200 回日本医学放射線学会九州地方会
2025-3-1	三浦亘智、大矢崇志、山野淳子、他	乳幼児虐待における画像診断の役割	第 27 回法医画像勉強会
2025-6-7 ～ 2025-6-8	白石貴大、三浦亘智、永尾英毅、他	IPNB の一例	第 201 回日本医学放射線学会九州地方会
2025-7-3 ～ 2025-7-5	大塚 徹	小児頭蓋底髄膜腫の 1 例	第 45 回神経放射線ワークショップ
2025-9-27	三浦亘智、岡松由記、笹栗 誠、他	福岡県児童虐待事件カンファレンス事業における AHT 乳児の画像診断	第 28 回法医画像勉強会

小児科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-3-8	本間一樹、笹栗 誠、荒木潤一郎、他	急性膿胸の診断後速やかに胸腔鏡下膿胸腔搔爬術を行った 1 例	第 528 回日本小児科学会福岡地方会例会
2025-4-18 ～ 2025-4-20	笹栗 誠、岡松由記、齊木玲央、他	当院で在宅人工呼吸器管理している患者の加湿用精製水の使用状況についてのまとめ	第 128 回日本小児科学会学術集会
2025-5-24	笹栗 誠、齊木玲央、大矢崇志、他	当院で在宅人工呼吸器管理している患者の加湿用精製水の使用状況についてのまとめ	第 9 回 Young Investigator Meeting
2025-6-14	兵頭梨沙、笹栗 誠、嘉村拓朗、他	神経症状を伴う副鼻腔炎に対して早期の造影 CT 検査で硬膜外膿瘍の合併が診断できた 1 歳女児例	第 529 回日本小児科学会福岡地方会例会
2025-11-22 ～ 2025-11-23	岡松由記	小児膿胸に対して胸腔鏡下膿胸腔搔爬術を行った 1 例と行わなかった 1 例の経過の報告	第 57 回日本小児呼吸器学会学術集会

外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-2-14 ～ 2025-2-15	永田茂行	臍切除術後における血糖スパイクと合併症に関する検討	第 40 回日本栄養治療学会学術集会
2025-3-7 ～ 2025-3-8	藤中良彦、中西良太、新井貴大、他	結腸癌に対するロボット支援下手術の導入と短期成績	第 17 回日本ロボット外科学会学術集会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-3-7 ~ 2025-3-8	梶原脩平、中西良太、藤中良彦、他	ロボット支援下胃切除におけるエネルギーデバイスの選択	第 17 回日本ロボット外科学会学術集会
2025-3-12 ~ 2025-3-15	西野一輝、衛藤 剛、板井勇介、他	術後孤立性胸鎖乳突筋転移を来した胃癌の 1 例	第 97 回日本胃癌学会総会
	梶原脩平、川下知英、中江信明、他	ロボット手術拡大による若手教育の変化	
2025-4-10 ~ 2025-4-12	梶原脩平、若杉絢子、泉 琢磨、	当院における腹壁癒痕ヘルニアに対する術式選択・治療成績	第 125 回日本外科学会定期学術集会
	二宮瑞樹、泉琢磨、萱島寛人、他	胆嚢癌に対する腹腔鏡下肝床部切除における Hilay cystic plate-first approach	
2025-5-23 ~ 2025-5-24	梶原脩平、西野一輝	当院での ePauli 法の導入・治療成績	第 23 回日本ヘルニア学会
	西野一輝、梶原脩平	当院での腹壁癒痕ヘルニアに対する手術選択・治療成績	
2025-6-13 ~ 2025-6-14	二宮瑞樹、萱島寛人、永田茂行、他	Standardization of highly difficult laparoscopic liver resection by using extracorporeal ventral traction method and Inside-out transection	第 37 回日本肝胆膵外科学会学術集会
	萱島寛人、泉 琢磨、永田茂行、他	A case of a giant hepatic hemangioma could not be controlled by endovascular treatment alone and was resected by a combination of endovascular treatment and surgery	
2025-6-26 ~ 2025-6-27	梶原脩平、栗山直剛、中西良太、他	胸腔内吻合における modified SO-EG 法の経験	第 79 回日本食道学会学術集会
	吉田倫太郎、蓮田博文、田尻裕臣、他	切除不能進行食道癌に対する 5-FU/シスプラチン/ペムプロリズマブ療法後の conversionsurgery の当院での現状	
2025-7-10 ~ 2025-7-12	若杉絢子、岡本正博、舩石創子、他	センチネルリンパ節転移陽性の浸潤性小葉癌における腋窩リンパ節転移進行度と腋窩郭清省略の妥当性の検討	第 33 回日本乳癌学会
	岡本正博、若杉絢子、舩石創子	HER2 陽性乳癌の多発脳転移に対して、トラスツズマブ デルクステカン治療後に定位照射が可能となった一例	
2025-7-16 ~ 2025-7-18	萱島寛人、泉 琢磨、川下知英、他	術前選択的肝動脈塞栓術を併用することで安全に肝切除可能であった 30cm 超の巨大肝血管腫の 1 例	第 80 回日本消化器外科学会総会
	二宮瑞樹、泉 琢磨、萱島寛人、他	腹側体外牽引による視野展開と Inside-out transection による腹腔鏡下系統的肝切除	
2025-7-19	塗木海斗、吉田倫太郎、永田茂行、他	救命しえた頭部外傷合併の腹部外傷の一例	第 262 回福岡外科集談会
	橘 佑亮、藤中良彦、塗木海斗、他	膀胱全摘・回腸導管造設後の S 状結腸癌に対して蛍光尿管ステント留置後に腹腔鏡下手術を施行した一例	
	米野正識、高橋郁雄、沖 英次、他	腹腔鏡下結腸右半切除においてアノテーションを用いた遠隔手術指導が手術操作の判断に有用であった 1 例	
	宮崎智也、永田茂行、塗木海斗、他	膵体部インスリノーマに対して腹腔鏡下膵中央切除を施行した 1 例	
2025-7-24 ~ 2025-7-25	中江信明、中ノ子智徳、梶原脩平、他	乳び胸に対して ICG 皮下注により胸管損傷部位を特定し胸管結紮術を行った 1 例	第 58 回日本胸部外科学会九州地方会総会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-7-24 ～ 2025-7-25	梶原脩平	胸腔内吻合における Side Overlap 法の有用性	第 58 回日本胸部外科学会九州地方会総会
2025-7-26	二宮瑞樹	肝胆膵手術における AESCULAP Titanium Clip の有用性～ Challenger & DS 特徴に応じた使い分け～	Next Stage Seminar
2025-8-30	藤中良彦	株式会社立病院でロボット手術教育とコスト削減をどう実践していくか	第 35 回九州内視鏡・ロボット外科手術研究会
2025-10-23 ～ 2025-10-25	梶原脩平、吉田倫太郎	So-EG 法による胸腔内吻合の導入	第 78 回日本胸部外科学会定期学術集会
2025-10-30 ～ 2025-11-1	萱島寛人、中江信明、新井貴大、他	当科における急性胆嚢炎に対する治療戦略の変遷と治療成績の検討	第 33 回日本消化器関連学会週間（JDDW）
	二宮瑞樹、永田茂行、萱島寛人、他	腹腔鏡下解剖学的肝切除における胆道合併症予防のための肝門部 Glisson 鞘への Outer-Laennec approach	
2025-11-12	二宮瑞樹	新しい飯塚病院外科～体にやさしい医療を筑豊の患者さんへ～	飯塚病院地域医療支援病院報告会
2025-11-19	二宮瑞樹、中山湧貴、永田茂行、他	腹側体外牽引と Inside-out swipe technique による低侵襲系統的肝切除の定型化	第 19 回肝臓内視鏡外科研究会
2025-11-20 ～ 2025-11-22	二宮瑞樹、岩崎 恒、中江信明、他	難治性胃食道静脈瘤に対する Hassab 手術の代替としての用手補助腹腔鏡下脾臓摘出＋胃脾ヒダ離断術の方法と成績	第 87 回日本臨床外科学会学術集会
2025-12-11 ～ 2025-12-13	橘 佑亮、梶原脩平、田中 康、他	当院における腹壁ヘルニアに対する治療術式	第 38 回日本内視鏡外科学会総会
	二宮瑞樹、田中 康、梶原脩平、他	腹腔鏡下再肝切除術における工夫と適応拡大	
	梶原脩平、田中 康、藤中良彦、他	“ 腹腔鏡下噴門側胃切除後の至適再建法の探究～食道残胃吻合法の比較～ ”	
	藤中良彦、栗山直剛、梶原脩平、他	完全内臓逆位を伴う S 状結腸癌に対してロボット支援下 S 状結腸切除を施行した 1 例	
	萱島寛人、田中 康、栗山直剛、他	Grade II / III 急性胆嚢炎に対する当科の治療戦略の有用性の検討	

呼吸器外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-3-7 ～ 2025-3-8	近石泰弘、安田 学、西澤夏將、他	IC タグ (SuReFlInDTM) を併用したロボット支援下肺区域切除	第 17 回日本ロボット外科学会
2025-5-14 ～ 2025-5-15	西澤夏將、近石泰弘、金山雅俊、他	若年原発性自然気胸における肺嚢胞切離線へのポリグルコン酸シート縫着に関する検討	第 42 回日本呼吸器外科学会学術集会
	近石泰弘、安田 学、西澤夏將、他	当科での術中 Cone beam CT の使用状況の検討	
2025-6-12 ～ 2025-6-13	近石泰弘、安田 学、西澤夏將、他	周術期管理におけるポータブル気管支鏡有用性の検討	第 48 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会
	金山雅俊、定直日菜、西澤夏將、他	当院における気管・気管支形成を伴う肺切除術の治療成績と安全性	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-7-24 ～ 2025-7-25	定直日菜、近石泰弘、西澤夏將、他	術後局所再発に対し再切除を施行した中縦隔発生孤立性線維性腫瘍の1例	第58回日本胸部外科学会九州地方会総会
2025-9-5 ～ 2025-9-6	定直日菜、安田 学、西澤夏將、他	自然気胸手術での分離ラインへのポリグリコール酸シート縫着に関する検討	第29回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会
2025-10-14	定直日菜、近石泰弘、西澤夏將、他	両側肺すりガラス影を伴った右中葉肺癌の1切除例	第16回北部九州肺縦隔研究会
2025-10-23 ～ 2025-10-25	金山雅俊、定直日菜、西澤夏將、他	間質性肺炎合併cN陽性肺癌に対する根治的切除の有効性と安全性の検討	第78回日本胸部外科学会定期学術集会
	定直日菜、近石泰弘、西澤夏將、他	術後局所再発に対し再切除を施行した中縦隔発生孤立性線維性腫瘍の1例	
2025-11-6 ～ 2025-11-8	近石泰弘、安田 学、定直日菜、他	IV期非小細胞肺癌治療中のオリゴ進行に対するサルベージ手術の検討	第66回日本肺癌学会総会

小児外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-1-11	竜田恭介	「異時性に対側発生した卵巣成熟奇形腫の1例」	第30回九州山口小児血液・免疫・腫瘍研究会

産婦人科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-5-23 ～ 2025-5-25	飯藤依里子、李 理華、八木光生、他	Salmonella感染による卵巣膿瘍を呈した両側内膜症性嚢胞の一例	第77回日本産科婦人科学会
	媚山友仁、辻岡 寛、西山 哲、他	帝王切開術後の創部感染および子宮内膜炎でMycoplasma hominisが検出された症例	
	飯藤依里子、辻岡 寛、西山 哲、他	Salmonella感染による卵巣膿瘍を呈した、両側内膜症性嚢胞の一例	
2025-9-18 ～ 2025-9-20	吉良さちの、辻岡 寛、西山 哲、他	腹腔鏡手術で診断した卵管境界悪性腫瘍の1例	第65回日本産科婦人科内視鏡学会
	林 宗太郎、辻岡 寛、李 理華、他	当科におけるvNOTESを選択したことが有効であった2例	
	西山 哲、辻岡 寛、倉員正光、	当科におけるロボット支援手術の現状と課題	
2025-9-30	媚山友仁、辻岡 寛、西山 哲、他	当院における若年妊婦の現状と周産期リスク	第171回福岡産科婦人科学会
2025-11-2 ～ 2025-11-3	西山 哲	女性アスリートの骨盤内腫瘍に対する新規手術アプローチの提案～腔式腹腔鏡手術（Vaginal Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery ; vNOTES）を施行し、早期に競技復帰し得たプロアスリートの一例～	第36回日本臨床スポーツ医学会
2025-11-29 ～ 2025-11-30	西山 哲、平木由佳、大石善丈	子宮頸部・腔細胞診の継続が診断に寄与した腔原発類内膜癌の症例	第64回日本臨床細胞学会秋期大会

整形外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-3-8	浜崎晶彦、藤村謙次郎、原 俊彦	膝関節外科における術前後の骨粗鬆症補助治療の重要性	第 50 回九州膝関節研究会
2025-4-10 ~ 2025-4-11	久保祐介、園田和彦、美浦辰彦、他	有鉤骨体部骨折診断における手 X 線正面像での CM 関節裂隙所見：背側骨片型と剪断型の特徴の違い	第 68 回日本手外科学会
2025-5-22 ~ 2025-5-25	園田和彦、原 俊彦	Fluoroscopic templating 法 - 仰臥位人工股関節全置換術におけるカップ設置精度向上の工夫 -	第 98 回日本整形外科学会学術総会
	久保祐介、園田和彦、美浦辰彦、他	有鉤骨体部骨折における手 X 線正面像での CM 関節裂隙幅 4 の特徴	
2025-6-27 ~ 2025-6-28	久保祐介、園田和彦	橈骨遠位端骨折変形癒合後に生じた非外傷性尺骨頭掌側脱臼の 1 例	第 51 回日本整形外傷学会学術集会
	園田和彦、原 俊彦	当科において Compression Hip Screw の抜釘が困難であった 2 例	
2025-9-12 ~ 2025-9-14	久保祐介、園田和彦	中年期以降の女性橈骨遠位端骨折患者における Trabecular bone score(TBS) の検討	第 27 回日本骨粗鬆症学会
2025-10-2 ~ 2025-10-4	Sonoda K, Hara T	Patient-specific guide for setting of osteotomy line in curved varus osteotomy	ISHA2025
2025-10-16 ~ 2025-10-17	園田和彦、久保祐介、原 俊彦	人工股関節全置換術において、大腿骨頸部骨切り断面は stem 前捻角の指標になり得るか：大腿骨頸部骨形態の検討	第 40 回日本整形外科学会基礎学術集会
	久保祐介、園田和彦	中高年女性園医橈骨骨折患者の Trabecular bone score(TBS) に影響を与える要因の検討	
2025-10-24 ~ 2025-10-25	園田和彦、久保祐介、原 俊彦	Fluoroscopic templating 法：人工股関節全置換術の透視下カップ設置における、C アーム 3 次元調整の重要性	第 52 回日本股関節学会学術集会
2025-11-15 ~ 2025-11-16	久保祐介、福満研人、園田和彦、他	Steal 症候群による広範囲壊死で前腕切断を要した 1 例	第 150 回西日本整形・災害外科学会
	園田和彦、酒井 鴻、沖崎優一朗、他	人工股関節全置換術における、大腿骨頸部骨切り断面を指標とした stem 前捻角の精度	

リハビリテーション科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-6-20 ~ 2025-6-22	松本弥一郎	急性期病院におけるセラピストのがんリハビリテーションに対する意識調査	第 16 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

脳神経外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-2-21 ~ 2025-2-22	名取良弘、山田哲久	テラーメイドの神経外傷手術－穿通外傷を中心に－	第 48 回日本脳神経外傷学会
	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	慢性硬膜下血腫穿頭術後のトラネキサム酸内服の効果および合併症の検討	
2025-3-6 ~ 2025-3-8	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔	クラゾセンタン投与でくも膜下出血術後管理はどう変化したか？	第 54 回日本脳卒中の外科学会
2025-3-14 ~ 2025-3-16	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔	クラゾセンタン投与によるくも膜下出血術後脳血管攣縮管理の変化の検討	第 52 回日本集中治療医学会学術集会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-4-11 ~ 2025-4-12	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	若年者と比較した高齢者の慢性硬膜下血腫穿頭術症例の特徴の検討	第 38 回日本老年脳神経外科学会
2025-5-15 ~ 2025-5-16	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	重症頭部外傷に対するトラネキサム酸投与の副作用であるけいれん発症の検討	第 39 回日本外傷学会
2025-5-26	安部啓介、甲斐康稔、西本裕亮、他	8Fr Roadmaster α を用いた CAS の一例	第 7 回筑豊脳血管内治療症例検討会
2025-7-6	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	繰り返す頭部打撲後に遅発性に急性硬膜下血腫が増大した 1 症例	第 39 回日本神経救急学会
2025-7-11 ~ 2025-7-12	名取良弘	医師の技量評価と医療安全	第 1 回日本脳神経外科 M&M 学会
2025-7-19 ~ 2025-7-20	名取良弘	死亡退院後調査から見たコロナ禍の影響	第 28 回日本臨床脳神経外科学会
2025-7-28	安部啓介、甲斐康稔、西本裕亮、他	最近経験した合併症症例	第 8 回筑豊脳血管内治療症例検討会
2025-9-29	麦田史仁、甲斐康稔、西本裕亮、他	ATBI の血栓回収術における TIGERTRIEVER の使用難渋例	第 9 回筑豊脳血管内治療症例検討会
2025-10-7	安部啓介	OPTIMA coil の使用経験	GOLD in 九州
2025-10-18	麦田史仁	骨潤滑した髄膜腫の 2 例	第 2 回九州大学脳神経外科手術手技セミナー
2025-10-29 ~ 2025-11-1	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	慢性硬膜下血腫穿頭術後にトラネキサム酸の内服による再発予防	第 84 回日本脳神経外科学会総会
2025-11-13	安部啓介、甲斐康稔、西本裕亮、他	内頸動脈解離に対して stent retriever による血管形成術を施行した 2 症例	第 41 回日本脳神経血管内治療学会学術総会
2025-11-17	安部啓介、甲斐康稔、西本裕亮、他	急性期 CAS を施行した血栓回収症例	第 10 回筑豊脳血管内治療症例検討会
2025-12-4 ~ 2025-12-6	Natori Y	Should the orbital periosteum be widely opened during orbital tumor surgery?	The 16th Congress of the European Skull Base Society

心臓血管外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-2-7 ~ 2025-2-8	幾島栄悟、内田孝之、松尾彰信、他	左化膿性胸鎖関節炎および深頸部膿瘍を合併した感染性心内膜炎に対して大動脈弁置換術を施行した 1 例	第 61 回九州外科学会
2025-2-20 ~ 2025-2-22	松尾彰信	当院における腹部大動脈ステントグラフト内挿術後 late open conversion 症例の検討	第 55 回日本心臓血管外科学会総会
2025-7-24 ~ 2025-7-25	鹿子島成充、弘中裕士、松元 崇、他	破裂性胸部大動脈瘤に対して Total debranch TEVAR を行い、救命し得た 1 例	第 58 回日本胸部外科学会九州地方会
	弘中裕士、鹿子島成充、松元 崇、他	J Graft FROZENIX 4 Branched を用いた大動脈弓部置換術の 3 例に関する初期使用経験と考察	
2025-10-23 ~ 2025-10-25	鹿子島成充、弘中裕士、松元 崇、他	破裂性胸部大動脈瘤に対して Total debranch TEVAR を行い、救命し得た 1 例	第 78 回日本胸部外科学会定期学術集会

血管外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-5-21 ~ 2025-5-23	松元 崇、内田孝之、松尾彰信、他	胸腔鏡下に切除しえた特発性奇静脈瘤の1例	第50回日本外科系連合学会
2025-7-17 ~ 2025-7-18	田中二郎、内田孝之、幾島栄悟、他	静脈性皮膚潰瘍合併した下肢静脈瘤症例に対する治療成績	第45回日本静脈学会

皮膚科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-9-23	利谷理沙子、永井貴子、他	Edwardsiella tarda による劇症型壊死性筋膜炎の1例	第414回日本皮膚科学会福岡地方会
2025-10-25 ~ 2025-10-26	武智晴紀、利谷理沙子、宮崎万里奈、他	塩酸プソイドエフェドリンが原因物質と考えた急性汎発性発疹性膿疱症（AGEP）の1例	第76回日本皮膚科学会中部支部学術大会
2025-11-23	宮崎万里奈、井手豪俊、武智晴紀、他	肩甲骨筋内に発症した褐色脂肪腫の一例	第415回日本皮膚科学会福岡地方会
	利谷理沙子、大野麻衣子、今嶋真緒、他	Aneurysmal fibrous histiocytoma の一例	

形成外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-4-16 ~ 2025-4-18	井野 康、中村薫乃	PAT（perifascial areolar tissue）を用いた四肢の難治性皮膚潰瘍の治療に対する考察	第68回日本形成外科学会総会・学術集会

泌尿器科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-7-26	山崎史裕、麻生信太郎、宮嶋哲匡、他	赴任治療の採卵後に膀胱タンポナーデを来した1例	第316回日本泌尿器科学会福岡地方会
2025-11-13 ~ 2025-11-16	麻生信太郎、山崎史裕、宮嶋哲匡、他	当院における前立腺癌定位放射線治療の初期経験 - 強度変調放射線 / 重粒子線治療との比較 -	第77回西日本泌尿器科学会総会

リエゾン精神科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-7-25 ~ 2025-7-27	猪狩圭介	精神科リエゾンチームを活用した初期研修医指導ー市中総合病院精神科での持続可能な教育システムの構築ー	第57回日本医学教育学会大会
2025-10-16 ~ 2025-10-17	嘉陽宗臣、猪狩圭介、白玉 桜、他	自殺企図対応における有床総合病院精神科の役割と課題	第33回日本精神科救急学会
2025-11-21 ~ 2025-11-22	濱田公一郎、猪狩圭介、嘉陽宗臣、他	リエゾンチームによる精神科作業療法の実践ーせん妄、認知症以外の精神疾患への適応ー	第38回日本総合病院精神医学会
	嘉陽宗臣、猪狩圭介、白玉桜、他	自殺企図対応における総合病院精神科の限界と課題 - 精神科急性期医療への橋渡し -	
	猪狩圭介	初期研修医を精神科リエゾンチームに組み込む試みー市中総合病院における教育的工夫ー	
	濱田公一郎、猪狩圭介、嘉陽宗臣、他	リエゾンチームによる精神科作業療法の実践 - せん妄、認知症以外の精神疾患への適応 -	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-11-27 ～ 2025-11-28	朝枝 翼、猪狩圭介、嘉陽宗臣、他	抗精神病薬中止後もパーキンソン病が遷延しパーキンソン病が疑われた統合失調症の一例	第 77 回九州精神神経学会

麻酔科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-4-18 ～ 2025-4-19	田平暢恵、添田浩史、添田亜友、他	透析患者に硬膜外麻酔施行後発症した脊髄硬膜外血腫を保存的加療した一例	第 12 回日本区域麻酔学会
2025-9-19 ～ 2025-9-21	星合亮尚、瀧井優輔、添田浩史、他	冠動脈バイパス術の周術期管理中に SGLT2 阻害薬を休薬しなかったことによるケトアシドーシスの発症を疑った 2 例	第 30 回日本心臓血管麻酔学会
	添田亜友、瀧井優輔、星合亮尚、他	ヘパリン起因性血小板減少症患者に免疫グロブリン製剤投与下でヘパリンを投与した下肢バイパス術の一例	
2025-12-4 ～ 2025-12-6	馬場玲奈、瀧井優輔、内藤智孝	再発性の挿管性反回神経麻痺が疑われた症例	第 45 回日本臨床麻酔学会
	吉積智也、瀧井優輔、内藤智孝	ベプリジル等の複数の誘因によって全身麻酔中に Torsade de Pointes を認めた一例	
	大庭優実子、瀧井優輔、内藤智孝	心不全に対して加療されたが手術までの 1 ヶ月で心不全が再発した甲状腺全摘術の一例	
	牛場大祐、大野 幸、瀧井優輔、他	腹腔鏡下胆嚢摘出術後に倦怠感が遷延し動眼神経麻痺を契機に下垂体卒中による副腎不全と診断された一例	

感染症科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-2-23	長谷川雄一	医療現場における Joy in Medicine- 患者・医療者の関係性の再構築	第 30 回日本病院総合診療医学会学術総会
2025-6-20 ～ 2025-6-22	浅沼 翼	シンポジウム 16 北海道 GIM から贈る クリニカルパルこぼれ盛り～歴代世話人と紡ぐ診断のエッセンス～	第 16 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
2025-9-27 ～ 2025-9-28	浅沼 翼	若手部会企画 2 深読み病院総合診療医が読みたい最新論文	第 31 回日本病院総合診療医学会学術総会
2025-11-28 ～ 2025-11-30	上杉優佳、小出容平、的野多加志	大腸癌が疑われ外科手術の方針となっていたが、腸管切除を回避できた HTLV-1 キャリアの腸管アメーバ症の 1 例	第 95 回感染症学会西日本地方会学術総会
2025-11-28 ～ 2025-11-30	浅沼 翼、小出容平、笠井雅大、他	侵襲性肺炎球菌感染症の影に潜む栄養要求性レンサ球菌による感染性心内膜炎：グラム染色が導いた迅速な正確診断	第 95 回日本感染症学会西日本地方会学術集会
	遠藤優輝、的野多加志、小出容平、他	ダブトマイシン投与中に最小発育阻止濃度が上昇した MRSA による腸腰筋膿瘍の 1 例	

歯科口腔外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-5-10 ～ 2025-5-11	石井広太郎、南部孝樹、田尻姿穂、他	High perimandibular approach にて抜歯した異所性下顎埋伏智歯の 2 例	第 3 回若手口腔外科医交流会
2025-7-4 ～ 2025-7-5	中松耕治	緩和医療と周術期口腔機能管理～口腔カンジダの新しい治療について	第 30 回日本緩和医療学会学術大会
2025-7-11 ～ 2025-7-13	石井広太郎	顎関節症に対する外科治療の適応と周術期管理	第 38 回日本顎関節学会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-11-2 ～ 2025-11-3	五十嵐菜月	尋常性天疱瘡患者に対して口腔衛生管理を行った1例	第20回日本歯科衛生学会
	河野真由美	歯科衛生士と看護師による口腔管理の看護業務改善の効果	
2025-11-14	石井広太郎	異時両側性に発生した側頭骨髄炎と感染性顎関節炎の1例～悪性外耳道炎 or not：耳鼻科との連携～	第16回顎関節外科研究会
2025-11-14 ～ 2025-11-16	竹田早希	悪性外耳道炎消炎後に対側に発症した類似症例を呈する感染性顎関節炎の1例	第70回日本口腔外科学会総会
2025-11-29 ～ 2025-11-30	鈴木大智、石井広太郎、田尻姿穂、他	下顎骨骨折後の顎欠損に対し骨移植を行い咬合再建した1例	第29回日本顎顔面インプラント学会

救急科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-2-6 ～ 2025-2-7	山田哲久、名取良弘	災害時の脳神経外科患者への対応の検討 - 災害訓練の振り返りから -	第30回日本脳神経外科救急学会
	山田哲久、名取良弘	災害訓練から浮かび上がった問題点の検討	
2025-3-14 ～ 2025-3-16	谷 昌憲、有田雄紀、浅田紘輔、他	自己免疫性溶血性貧血の溶血発作治療中に発症した全身性血栓塞栓症の一例	第52回日本集中治療医学会学術集会
2025-3-15	小高聡子、長崎一哉（水戸協同病院）	研修医の Well-being をどう高めるか？ - チーフレジデントができること	チーフレジデントミーティング
2025-4-25	香月洋紀	オレキシシン受容体拮抗薬中毒の疫学ならびに臨床的特徴に関する多機関共同研究	第10回日本臨床・分析中毒学会総会・学術集会
2025-5-15 ～ 2025-5-16	井上 聡、山田哲久、川下知英、他	外傷性直腸穿孔から小腸脱出を来した1例	第39回日本外傷学会総会・学術集会
2025-6-14	山田哲久、井上 聡、片桐 欧、他	腸間膜動脈損傷でIVR後に外科的介入を要した一症例	第9回日本集中治療医学会九州支部会
2025-6-19 ～ 2025-6-21	山田哲久、鮎川勝彦	AEDパッドが逆に貼られた事によってST上昇と判断された一症例	第28回日本臨床救急医学会総会・学術集会
2025-6-27 ～ 2025-6-28	田村彰浩、香月洋紀、山田哲久、他	Acetaminophenの高リスク摂取では胃洗浄にまだ価値がある	第29回日本救急医学会九州地方会
2025-6-28	山田哲久、鮎川勝彦、香月洋紀、他	医師の働き方改革の導入で心停止患者の心拍再開率に変化が生じたのか？	第37回日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会
2025-9-20	石橋大樹、香月洋紀、山田哲久	アシクロビル脳症に帯状疱疹ウイルス髄膜炎を合併した症例	第11回日本臨床・分析中毒学会学術集会
2025-10-28 ～ 2025-10-30	有吉 慧、柿原光貴、川合喬之、他	尿道カテーテルの誤留置により子宮穿孔しショックを呈した一例	第53回日本救急医学会総会・学術集会
	伊賀健一郎、香月洋紀、山田哲久	Levomopromazineの持つナトリウムイオンチャネル遮断作用の可能性	
	吉岡大輔、香月洋紀、山田哲久	救急科専攻医による気管挿管の初回成功率と教育との関連	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-10-28 ～ 2025-10-30	石橋大樹、山田哲久、吉永 亮、他	院外心停止 (OHCA: out-of-hospital cardiac arrest) を疾患別に分析した観察研究	第 53 回日本救急医学会総会・ 学術集会
	山田哲久、名取良弘、鮎川勝彦	医師の働き方改革の導入で医師の勤務時間、 救急搬送患者数、救急医療の質に変化が生じたのか？	
	井上 聡、山田哲久、高場章宏	巨大食道裂孔ヘルニア嵌頓による心肺停止の 1 例	
2025-12-12 ～ 2025-12-13	山田哲久、香月洋紀、片桐 欧、他	ドクターカーの運用拡大における課題の検討	第 20 回日本病院前救急診療 医学会総会・学術集会

集中治療科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-3-14 ～ 2025-3-16	有田雄紀、川上大裕、古賀秀信、他	再挿管率の至適範囲についての多施設後方的 研究	第 52 回日本集中治療医学会
	桑野公輔、吉野俊平	医療現場におけるチェックリストの有効性と 実践的活用法の検討	
2025-5-24 ～ 2025-5-25	吉野俊平	レクチャー：肺・下肢血管エコー・腹部エコー	第 26 回 POCUS (Point of Care Ultrasound) 高槻病院 コース
2025-5-31 ～ 2025-6-1	河内 章	呼吸状態悪化の枢勢をどう読むか～肺炎・間 質性肺炎・気胸・肺水腫それぞれの評価ポイン ト	アジア太平洋離床ネットワー ク日本離床学会合同学術大会
2025-6-14	桑野公輔、藤岡智恵、藤田靖代、他	成人 ICU における小児面会に関する当院 ICU での取り組み	第 9 回日本集中治療医学会 九州支部学術集会
	川上大裕、桑野公輔、吉野俊平	M&M・ホームラン症例の振り返りで築く医療 安全文化と医療の質改善の取り組み	
	川上大裕、林 碧、桑野公輔、他	浸潤性粘液産生性肺腺癌が疑われた治療抵抗 性肺炎の一例	
	浅田紘輔、桑野公輔、川上大裕、他	ドキシサイクリンによる薬剤性食道炎の一例	
	山崎陽平、有田雄紀、新元勝久、他	血液培養陽性破傷風の一例	
2025-6-28 ～ 2025-6-29	吉野俊平、山田悠史	複雑化する高齢者医療に挑む！総合内科×緩和 医療科クロストークセッション	ACP（米国内科学会）日本支 部年次総会・講演会
2025-7-10 ～ 2025-7-12	Kawauchi A	ECPR Patient Selection Strategies	The 7th APELSO
2025-7-26	河内 章	「忙しいし天才でもない——それでも臨床研 究を嫌いにならず続けてこられた私なりのコ ツ」	第 9 回日本集中治療医学会関 東甲信越支部学術集会

放射線治療科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-3-1	佐々木智成	CyberKnife による寡分割放射線治療	第 23 回九州放射線治療シス テム研究会

中央検査部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-1-18	中村彩奈、吉富博人、川久保智美、他	AF の検出に AT パッチが有用であった 1 症例	第 10 回筑豊臨床検査発表会
	重藤清高、濱本将司、吉富博人、他	脳波検査にて強直間代発作を認めた 1 症例	
2025-2-2	奥田琢巳	症例 1 微細顆粒型 APL について提示・解説	第 35 回血液検査研修会
2025-6-27 ～ 2025-6-29	金谷直哉、半田乙和、村上侑希、他	スライドカンファレンス 領域：唾液腺	第 66 回日本臨床細胞学会（春期大会）
2025-7-26 ～ 2025-7-27	栗山正嗣、榊田晋作、奥田琢巳、他	ファゴット細胞を認めた急性骨髄性白血病の一症例	第 26 回日本検査血液学会学術集会
2025-7-27	重藤清高、吉富博人、濱本将司、他	脳波検査にて痙攣発作を認めた 1 症例	第 34 回福岡県医学検査学会
	川野和彦	医療安全はどこまで実施する？	
2025-10-3 ～ 2025-10-5	山中宏晃、金谷直哉、濱本将司、他	シミュレータを活用した採血待ち時間短縮の検討	第 57 回日本医療検査科学学会
2025-10-18 ～ 2025-10-19	吉田健登	病理医からの切り出し業務タスクシフト～効果・課題・展望～	第 59 回日臨技九州支部医学検査学会
	奥田琢巳	亜鉛サプリメント過剰摂取により骨髄異形成症候群との鑑別を要した銅欠乏性貧血造血障害	
2025-12-7	浦部知洋、川嶋大輔、金谷直哉、他	NET G3 との鑑別に苦慮した膵大細胞神経内分泌癌 (LCNEC) の一例	第 40 回福岡県臨床細胞学会学術集会

リハビリセンター

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-2-14 ～ 2025-2-15	白土健吾	胸部 CT 画像を用いた呼吸筋量測定 of 検者間信頼性評価	第 40 回日本栄養治療学会学術集会
2025-3-28 ～ 2025-3-30	大西悠太郎、横手 翼、西村天利、他	補助人工心臓植え込み術前後で外来心臓リハビリテーションを実施した一例	第 89 回日本循環器学会学術大会
	山内一生、横手 翼、大西悠太郎	ルリッシュ症候群において大腿切断を予測したリハビリテーションを実施した一症例	
2025-4-23 ～ 2025-4-26	井上慎太郎、川満謙太、奥野将太、他	The Effect of Frequency-Focused Exercise Therapy on Cancer-Related Fatigue	第 16 回 Asia Pacific Hospice Palliative Care Conference
2025-5-18	小樋雅隆	壊死性筋膜炎患者にテーピングを貼付し創部痛軽減を図った症例	第 40 回キネシオテーピング学術臨床大会
2025-5-29 ～ 2025-5-31	横手 翼	心臓血管外科患者における術後の筋力低下に関連する要因	World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation(ISPRM)
2025-5-29 ～ 2025-5-31	白土健吾	Evaluation of inter-rater reliability of respiratory muscle mass measurement by Chest Computed Tomography	World Physiotherapy Congress
2025-5-29 ～ 2025-5-31	奥野将太、大西悠太郎、川満謙太、他	Investigation of newly developed sarcopenia and its associated factors after liver cancer surgery.	第 2025 回 World Physiotherapy Congress

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-5-29 ～ 2025-5-31	大西悠太郎	Association between Preoperative Short Physical Performance Battery and Outcome after Transcatheter Aortic Valve Implanation	World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation(ISPRM)
	奥野将太	Investigation of newly developed sarcopenia and its associated factors after liver cancer surgery.	
	井上慎太郎	The relationship between Severe sarcopenia and the prognosis in patients with lymphoma.	
2025-6-12 ～ 2025-6-14	川満謙太	A 型ボツリヌス治療後に短期集中型リハビリテーション治療の併用が装具変更につながった慢性脳卒中患者の一例	第 62 回日本リハビリテーション医学会学術集会
	小菌秀太	進行舌癌再建術後の嚥下障害に対し言語聴覚士の介入で経口摂取を獲得した一例	
	寺下晶一郎	下肢内転筋群に対するボツリヌス療法後に尿失禁を合併した症例の一例	
	井上恵子	深頸部膿瘍、壊死性降下性縦隔炎術後に重度嚥下機能障害を来した一例	
	吉田大祥	亜急性期のボツリヌス療法が早期復職に繋がった被殻出血後上肢痙縮の一例	
	萩原尋子	継続的にボツリヌス療法と短期集中的リハビリテーションを行った上肢痙縮の一例	
2025-6-29	大西悠太郎、陣内卓朗、西村天利、他	Access 連携型データ基盤を活用した心血管リハビリテーションの業務改善の一例	第 3 回デジタル理学療法学会学術大会
	奥野将太、陣内卓朗、大西悠太郎、他	ADDIE モデルに従いデジタル化された新規採用者教育プログラムの設計と開発	
2025-7-19 ～ 2025-7-20	井上慎太郎、大神汰一、大西悠太郎、他	若年者と高齢者における外来心臓リハビリテーション移行の予測因子の違い	第 31 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
2025-7-20 ～ 2025-7-23	YokoteT, NakaneC, KimuraM, et al.	Investigation of factors associated with the number of days to independent walking after cardiac surgery	The 8th Rehabilitation Medicine Society of Australia and New Zealand 8th Annual Scientific Meeting
2025-8-22 ～ 2025-8-23	木戸孝史、白土健吾、川満謙太	胸部 Computed Tomography 画像評価による運動耐容能と関連する呼吸筋の検討	第 34 回福岡県理学療法士学会
2025-9-13 ～ 2025-9-16	白土健吾、木戸孝史、川満謙太、他	Prediction Of Postoperative Decline In Exercise Tolerance Using Preoperative Ct-Basedrespiratory Muscle Indices In Patients With Lung Cancer	第 47 回 ESPEN
2025-10-17 ～ 2025-10-18	井上慎太郎、川満謙太、奥野将太、他	Severe Sarcopenia is a prognostic predictor of patients with lymphoma.	第 11 回 Asian conference for frailty and sarcopenia
2025-10-19	小樋雅隆	壊死性筋膜炎患者にキネシオテーピングを貼付し創部痛軽減を図った症例～アンケート調査による疼痛評価～	第 41 回キネシオテーピング学術臨床大会
2025-10-31 ～ 2025-11-1	阿比留はるか、川満謙太、松本弥一郎	フレイルを呈したパーキンソン病一症例でみた身体機能と行動変容に対する中強度負荷ペダリング運動の効果	第 23 回日本神経理学療法学会学術大会
2025-11-1 ～ 2025-11-2	木戸孝史、井上慎太郎	術前免疫化学療法を施工した非小細胞肺癌患者の周術期にかけた栄養状態と身体機能の経過	第 8 回日本がん・リンパ浮腫理学療法学会学術大会
2025-11-7 ～ 2025-11-9	安藤幸助、栗原将太、澤田奈津弥、他	小指屈筋腱皮下断裂に対する作業療法の経験	第 59 回日本作業療法学会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-11-14 ～ 2025-11-15	小槌雅隆、中村裕輔、藤村謙次郎、他	人工膝関節全置換術後に内出血を呈した患者に対してキネシオテーピングを貼付し色調改善を図った症例	第 150 回西日本整形・災害外科学会学術集会
2025-11-28 ～ 2025-11-29	岸 信作、小島 薫、新鹿深夏、他	転倒転落ワーキングによる転倒予防パンフレット刷新と活用促進への取り組み	第 22 回日本医療マネジメント学会九州・山口連合大会
	甲斐田幸輝、岸 信作	車椅子フットレストによる下肢皮膚剥離インシデントに対する対策	
2025-11-29 ～ 2025-11-30	小槌雅隆、奥野将太	総合病院でのキネシオテーピングの導入実績と今後の展望	九州理学療法士学術大会
2025-11-29 ～ 2025-11-30	木戸孝史、白土健吾、川満謙太	肺癌手術患者における術前肋間筋量は術後運動耐容能に影響を与える	第 11 回日本呼吸理学療法学会学術大会
	大津愛可、木戸孝史、奥野将太、他	細菌性肺炎患者に対して高頻度胸壁振動法施行中の呼気陽圧療法併用により無気肺と労作時の酸素化が改善した一症例	
	内八重勇哉、奥野将太、白土健吾、他	既往に気管支拡張症がある肺炎患者に対して Fan 療法導入し呼吸困難感の即時効果を認めた症例	
2025-12-13 ～ 2025-12-14	井上慎太郎、大神汰一、大西悠太郎、他	Implementation and operation of high-intensity interval training in outpatient group cardiac rehabilitation: A report on activities in our hospital.	第 9 回日本循環器理学療法学会学術大会
	大神汰一、井上慎太郎、横手 翼、他	高頻度短時間の高強度インターバルトレーニングが著効した一例	
	大西悠太郎、横手 翼、大神汰一、他	がん悪液質を呈したドキソルビシン心筋症患者に対する外来心臓リハビリテーションが奏効した一例	
	永富 綾、大神汰一、大西悠太郎	multimorbidity な心不全患者に対して、テーラーメイドに理学療法を実践し身体機能が改善した一症例	

薬剤部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-5-8 ～ 2025-5-10	長崎皓光、内田守次、小出容平、他	セファレキシリン供給停止が外来処方への Access 抗菌薬使用比率におよぼす影響	第 73 回日本化学療法学会総会
2025-6-27 ～ 2025-6-29	逆瀬川知香、皆元文恵、草野充裕、他	飯塚病院におけるポリファーマシー対策の取り組み～対象診療科拡大後の成果と課題～	第 9 回日本老年薬学会学術大会
2025-7-12 ～ 2025-8-11	進 健司	精神科外来への薬剤師の関わり	第 8 回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum
2025-11-21 ～ 2025-11-22	進 健司、猪狩圭介、嘉陽宗臣、白玉 桜、中山立慈、朝枝 翼、森高啓太、梅田勇一	リエゾンチーム薬剤師による睡眠薬適正使用への関与と処方動向調査	第 38 回日本総合病院精神医学会総会

中央放射線部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-1-8 ～ 2025-1-9	篠田紘司、井下田栄吉、鎌野宏礼	多発性硬化症の診断における Central vein sign と Paramagnetic rim lesion の有用性	令和 6 年度厚生労働省神経免疫班合同班会議
2025-5-21 ～ 2025-5-24	篠田紘司、井下田栄吉、鎌野宏礼	Diagnostic values of central vein sign and paramagnetic rim lesion in multiple sclerosis	第 66 回日本神経学会学術大会
2025-6-25	山本悠太	施設紹介と CyberKnife の実際	第 11 回北九州放射線治療技術研究会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-7-5 ～ 2025-7-6	下清水陸、一ノ瀬沙世、中山夏織、 他	Influence of Electromagnetic Waves from Nearby Electronic Devices on Pocket Dosimeter Measurements	第 39 回日本核医学技術学会 九州地方会学術大会
2025-7-11	井下田栄吉	救急 MRI 検査の臨床	第 9 回福岡 GEHC MRI User's Meeting
2025-8-8 ～ 2025-8-9	篠田紘司、井下田栄吉、鎌野宏礼	多発性硬化症における Paramagnetic rim lesion は客観的検査および自己評価による認 知機能低下と関連する	第 37 回日本神経免疫学会学 術集会
2025-8-27	原比奈子	当院の医療安全に対する取り組みと対策	第 1 回福岡県診療放射線技師 会筑豊地区学術研修会
2025-9-24 ～ 2025-9-26	篠田紘司、井下田栄吉、鎌野宏礼	Paramagnetic rim lesions are associated with self-reported cognitive decline but not other psychiatric symptoms of multiple sclerosis	第 41 回 Congress of the European Committee for Treatment and Research in Multiple Sclerosis
2025-9-25	笹尾凌地	コリメータの特性による各エネルギースペクト ルに与える影響	第 205 回北九州インビビ勉強 会
2025-10-5	稲俣大樹	「脳卒中」飯塚病院の現状報告	第 15 回北九州 MR 勉強会主 催ゼミ
2025-10-5 ～ 2025-10-8	篠田紘司、井下田栄吉、鎌野宏礼	Association of paramagnetic rim lesion with objectively measured and self-reported cognitive decline in multiple sclerosis	第 17 回 International Congress of Neuroimmunology
2025-11-1 ～ 2025-11-2	中山夏織、太田黒大明、下清水 陸、 他	有効視野の狭い PET-CT 装置における頭部検 査のポジショニングの検討	第 20 回九州放射線医療技術 学術大会

臨床工学部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-1-11	松岡翔平	ペースメーカーチェックの留意点	福岡県臨床工学技士会 不整 脈セミナー
2025-6-27 ～ 2025-6-28	桑田紗也加、横溝伸也、上村健斗、 他	当院における高気圧酸素治療加圧時の耳痛発 生状況に関する調査	第 59 回日本高気圧潜水医学 会 学術総会

予防医学センター

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-6-27 ～ 2025-6-28	赤星和也、田村慎一	直視型ラジアル超音波内視鏡を用いた膵癌胃癌 検診のアウトカム（第 2 法）- 発見癌及び膵囊 胞性腫瘍のその後の臨床経過を中心に -	第 64 回日本消化器がん検診 学会総会
2025-8-22 ～ 2025-8-23	川野綾子、赤星和也、大石善丈、他	検診の上部消化管内視鏡で発見された胃底腺 型胃癌の 2 例	第 66 回日本人間ドック・予 防医療学会学術大会
	赤星和也、川野綾子、秋永理恵、他	直視型ラジアル超音波内視鏡を用いた膵癌胃 癌検診で発見された無症候性内臓動脈瘤	
2025-11-18 ～ 2025-11-22	Akahoshi K, Kawano A, Fukuzawa Y, et al.	Asymptomatic Visceral Artery Aneurysms Detected during Pancreatic and Gastric Screening Using Forward-Viewing Radial Echoendoscope	Asian Pacific Digestive Week 2025
2025-11-28 ～ 2025-11-29	赤星和也、川野綾子、安倍俊行	特別企画”次世代に繋げる忘れられない症例 集 -Super-impressive case collection-” 直視型ラジアル超音波内視鏡を用いた検診で 偶発的に診断された小型腹部内臓動脈瘤の 3 例：診断の鍵となる特徴的 EUS 所見	第 120 回日本消化器内視鏡学 会九州支部例会

外来化学療法室

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-3-6 ～ 2025-3-8	横溝千登勢、野田万里子、 佐藤香緒里、他	外来化学療法室における患者数増加に対応した待ち時間減少への取り組みの報告	第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会

診療情報管理室

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-8-28 ～ 2025-8-29	江口拓究	当院の院内がん登録データを用いた 5 年生存率・生存期間の分析	第 51 回日本診療情報管理学会学術大会

医療安全推進室

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-11-8 ～ 2025-11-9	荒巻美鈴、新鹿深夏、福村文雄	内服薬セット時のダブルチェック廃止による必要性の再考	第 20 回医療の質・安全学会

地域連携センター

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-6-19 ～ 2025-6-21	堀内茅加	当院における ICT を活用した転院調整の強化	第 28 回日本臨床救急医学会総会・学術集会
	後藤裕美	救急領域から継続して支援するソーシャルワーカーの意義について考察～ ICU から介入したソーシャルワーカーの退院支援を通して～	

看護部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-5-17 ～ 2025-5-18	廣木貴子、宮崎万友子、原田恵美、他	A 病院血液内科と緩和ケアチームとの協働強化における活動報告～早期からの緩和ケア提供を目指して～	第 10 回日本がんサポーターズケア学会学術集会
2025-6-28 ～ 2025-6-29	辻 あゆみ、梅野陽香	A 病棟における認知症を有する患者のレクリエーション実施と看護師の意識調査	第 30 回日本老年看護学会学術集会
2025-8-22 ～ 2025-8-23	岡 佳子、東 めぐみ、内田敦子、他	新たななかかわり方を発見するリフレクション支援の方略について語り合ってみませんか？ ー管理者研修における研修参加者とともに支援者を支えるリフレクション支援の姿勢とわざの学び合いー	第 29 回日本看護管理学会学術集会
2025-8-29 ～ 2025-8-30	高口則子、宮崎 操、織間美和、他	院内褥瘡教育（褥瘡ケアスキルアップコース）の教育効果の評価 ～新たに他者への指導を取り入れて～	第 27 回日本褥瘡学会
2025-8-30 ～ 2025-8-31	藤岡智恵	呼吸療法を支える看護師の役割と独自性～集中ケア認定看護師として～	第 47 回日本呼吸療法医学会
2025-9-6 ～ 2025-9-7	若林彩音、岡 佳子、秀島陽子	多飲症を呈し、感情コントロールが苦手な統合失調症患者への新人看護師の関わり～“厄介な患者”から“ケアを必要としている人”へ～	第 19 回日本慢性看護学会学術集会
	岡 佳子、東 めぐみ、富田真佐子、他	外来医療から在宅医療への移行支援の取り組みの実際ー外来看護師と訪問看護師とケアマネジャーの立場からー	
2025-9-12 ～ 2025-9-14	大田佳江、小宮山敬祐、森田理真子	近隣地域を対象とした骨粗鬆症関連のアンケート調査	第 27 回日本骨粗鬆症学会
2025-9-20 ～ 2025-9-21	高橋 慧、餘目千史、村角直子、他	新型コロナウイルス感染拡大下における糖尿病のある人への外来看護支援	第 30 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-9-20 ～ 2025-9-21	森加苗愛、柴山大賀、原 光明、他	新型コロナウイルス感染拡大下において糖尿病看護を実践した看護師が認識した今後の新興感染症への対策	第 30 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会
	東 めぐみ、餘目千史、柴山大賀、他	現場の疑問が宝の山！ 糖尿病看護研究のはじめ方 - なるほど！ こうやって研究にするんだ！ -	
	東 めぐみ、岡 佳子、藤原優子、他	新型コロナウイルス感染拡大下における糖尿病のある人への病棟看護支援	
	中尾友美、堤 千代、岡 佳子、他	就労している 2 型糖尿病患者におけるリハビリ経験とセルフケアとの関連	
2025-10-4	宮崎 操、高口則子	ストーマ外来における重症度分類グレード 2 の合併症患者に対するケアの実際	第 41 回九州ストーマリハビリテーション研究会
2025-10-17 ～ 2025-10-18	笠原 舞、萱島寛人、後藤彩加、他	腹腔鏡下胆嚢摘出術電子パス移行後の運用効果	第 25 回日本クリニカルパス学会学術集会
2025-10-18 ～ 2025-10-19	井上沙耶、浦田吉広、溝田智美、他	セル看護提供方式 [®] による精神科看護での患者経験価値	第 7 回セル看護推進研究会
	栗原春香、浦田吉広、溝田智美、他	セル看護提供方式 [®] による精神科看護での患者経験価値	
2025-10-19	宮崎万友子、舩田能生子、山端裕貴	統合失調症を有するがん患者への関わり	第 7 回日本緩和医療学会基礎セミナー
2025-10-31 ～ 2025-11-1	竹内 歩、石江慶美、岩橋淑恵、他	認知症のある高齢 2 型糖尿病の看護支援の一例	第 63 回日本糖尿病学会九州地方会
2025-11-8	藤岡智恵	集中治療室における患者家族ケアの取り組み～意思決定支援の充実をめざした ACP シートの導入～	第 65 回院内看護研究発表会
2025-11-14 ～ 2025-11-15	伊藤 勲、兼頭直樹	「術後経静脈的自己調整鎮痛ポンプ (IV-PCA) の適正量決定への取り組み」	第 47 回日本手術医学会
2025-11-27 ～ 2025-11-28	大場裕司、浦田吉広、小田怜史	A 地域医療支援病院精神科病棟での看護師と薬剤師による服薬支援の現状と課題	第 70 回九州精神医療学会

栄養部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-12-12	重松由美	TIME 研究所	第 98 回九州製鉄所八幡地区協力会 QJC 活動発表大会

改善推進本部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-7-18 ～ 2025-7-19	立石奈々	改善人材開発プログラムの実践	第 27 回日本医療マネジメント学会学術総会

診療支援課

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-11-28 ～ 2025-11-29	倉嶋修司	生成 AI によるシフト自動作成システムの構築と医師の働き方改革への貢献	第 22 回日本医療マネジメント学会 九州・山口連合大会

臨床心理室

開催日	発表者名	表題名	学会名
2025-3-18	岡田彩美	長年不登校傾向にある中1女子との心理面接～“笑顔”で自分を守りながら周囲と繋がるA～	子どもを地域で支える会・筑豊
2025-5-24	中村花穂里	度重なる心身の危機の中で希望を語り続けた男性との伴走の過程－チーム医療でつないだ支援－	第6回一般社団法人 公認心理師の会 年次総会

3. 講演

肝臓内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-3-8	田中紘介	自分の肝臓を自分で評価する	西日本新聞市民医療講座

呼吸器内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-1-24	飛野和則	喘息治療の現状を考える	GSK Severe Asthma Treatment Discussion Seminar in 飯塚
2025-1-31	山元隆太	当院における高齢者肺癌と irAE について	呼吸器 Next Generation Symposium in Kitakyusyu
2025-2-5	吉峯晃平	進行期ニボルマブ + イピリムマブの実践	NSCLC Expert Practical Seminar
2025-2-19	井手ひろみ	重症喘息治療の実践～当院の Mepolizumab 使用経験を含め～	GSK Severe Asthma Web Seminar
2025-2-21	吉峯晃平	進行・再発 ニボルマブ + イピリムマブの実践	進行・再発非小細胞肺癌 WEB セミナー
2025-3-13	飛野和則	当院における Benralizumab 処方の実際	Fasenra STORY ～ Live in 九州～
2025-3-27	井手ひろみ	喘息発症から重症化までを考えてみる～ Mepolizumab の使用経験を含めて～	GSK Pulmo Nex Meeting in OKINAWA
2025-3-28	山元隆太	遺伝子変異陰性症例に対する治療方針とこれから	肺がん治療を考える会
2025-4-3	飛野和則	呼吸器疾患における帯状疱疹予防について	シングリックス Web 講演会
2025-4-25	吉峯晃平	CASPIAN レジメンの治療と実態を考察する	AZ SCLC Online Seminar2025
2025-5-14	大田裕晃	間質性肺疾患診療に必要な病診連携	ILD Short Lecture 2025 In Kyusyu
2025-5-27	吉峯晃平	当院における高齢者肺癌治療	第 18 回筑豊呼吸器 RENKEI の会
	飛野和則	呼吸器内科からの報告	
2025-6-17	村上陽亮	COPD における治療戦略と当院での現状	飯塚医師会学術講演会
2025-6-20	飛野和則	地域連携による COPD 治療の推進	地域で考える COPD セミナー
2025-6-27	飛野和則	EGFR 遺伝子変異陽性肺癌治療の Topics	Lung Cancer Seminar
2025-7-31	吉峯晃平	非小細胞肺癌治療におけるシスプラチン併用時のマネジメント	Perioperative Lung Cancer Web Seminar

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-8-2	大井隆之介	自然気胸に対する気漏・胸腔内圧測定の意味に関する検討（続報）	第 32 回気胸・のう胞性肺疾患フォーラム
2025-9-8	花香未奈子	日常診療から考える肺 MAC 症との向き合い方とアリケイの使いどころ	筑豊肺 NTM 症 Web 講演会
2025-9-17	坂部光邦	当院における重症喘息に対する生物学的製剤の使用実績のまとめ	Fasenra Seminar
2025-9-19	飛野和則	間質性肺疾患診療に必要な病診連携	間質性肺疾患 地域連携セミナー
2025-10-7	飛野和則	肺癌化学療法に関する知見とクライオ生検の有用性	RECK
2025-10-20	吉峯晃平	肺がん治療における神経障害性疼痛の治療について	Pain Live Symposium ～疾患に伴う痛みについて考える～
2025-10-24	坂部光邦	当院における重症喘息に対する生物学的製剤の使用実績のまとめ	Fasenra conference for Severe Astham/EGPA
2025-11-15	飛野和則	当院の ILD	第 49 回九州臨床画像解析研究会
2025-11-19	飛野和則	間質性肺炎診療の Topics	第 19 回筑豊呼吸器 RENKEI の会
2025-11-25	大田裕晃	当院の間質性肺炎の経験と最近の話題	筑豊呼吸器疾患連携セミナー
	山元隆太	地域で支える肺癌診療	
	大井隆之介	COPD に関する、最近の当院の取り組み	
2025-11-26	飛野和則	重症喘息に伴う咳と痰の治療戦略	第 72 回呼吸器疾患研究会
	村上陽亮	COPD における治療戦略と当院での現状	
2025-11-27	飛野和則	重症喘息マネジメント最前線：好酸球を“ゼロ”にする戦略とファセンラの位置づけ	Fasenra EGPA/Severe Asthma Seminar in Fukuoka
2025-12-5	飛野和則	COPD における最新の話題と当院の臨床研究	第 4 回呼吸器疾患臨床研究推進セミナー
2025-12-10	飛野和則	術前・術後の新たな選択肢～ AEGEAN 試験について～	第 4 回 AZ Lung Cancer Update Seminar
2025-12-18	飛野和則	CTD-ILD 診断・治療方針改訂のポイントと治療エビデンス	CTD-ILD 診療連携セミナー

心療内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-11-21	木附 康	抗うつ薬の服用指導～うつ病治療における薬剤師の役割～	薬剤師のためのうつ病 web セミナー

総合診療科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-1-20	清田雅智	研修医に対するベッドサイドレクチャー	福岡赤十字病院 教育回診
2025-1-25	清田雅智	Mycoplasma pneumoniae ～ 病歴で免疫現象を見破る	白河総合診療アカデミー
2025-1-28	清田雅智	Mycoplasma pneumoniae Pneumonia ～ 抗菌薬だけが治療法ではない	かかりつけ医のための実践道場 in 飯塚
2025-1-30	笠井雅大	非専門医のための透析患者について知っておくべきこと	Antaa Webinar
2025-2-5	清田雅智	英語文献は何をどのように読めばいいのか～ philology のすすめ	藝州グランドカンファレンス
2025-2-7	清田雅智	Laboratory diagnosis of syphilis / Pphylogy	水戸協同病院 教育回診
2025-2-23 ～ 2025-2-24	赤岩 喬	不快を機会に：陰性感情に基づくポートフォリオ作成術	第 20 回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー
	工藤仁隆	臨床教育をハックする EBM	
	柴田真志	臨床教育をハックする EBM	
	福田雄太	臨床教育をハックする EBM	
	中尾賢一	臨床教育をハックする EBM	
	山本幸近	【病院家庭医セッション】～病診連携を深める紹介状の書き方～	
	山本幸近	若手病院総合医チーム Presents COVID-19 罹患後症状のアプローチ	
	山本幸近	明日から実践！専攻医だからこそできる後輩教育 Tips	
	高橋啓悟	不快を機会に：陰性感情に基づくポートフォリオ作成術	
	土田紗愛	【病院家庭医セッション】～病診連携を深める紹介状の書き方～	
	吉田 伸	コマネジメントを改善するケアバンドル形式のパスをつくろう！誤嚥性肺炎、心不全増悪、腰椎圧迫骨折	
	藤村和弥	不快を機会に：陰性感情に基づくポートフォリオ作成術	
	丸山淳也	不快を機会に：陰性感情に基づくポートフォリオ作成術	
	柴田真志	不快を機会に：陰性感情に基づくポートフォリオ作成術	

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-3-7	小田浩之	在宅医療と救急医療	筑豊ブロック日本医師会生涯教育講座
2025-3-10	清田雅智	研修医に対するベッドサイドレクチャー	福岡赤十字病院 教育回診
2025-3-25	清田雅智	瞬察	かかりつけ医のための実践道場 in 飯塚
2025-4-14	清田雅智	研修医に対するベッドサイドレクチャー	福岡赤十字病院 教育回診
2025-5-12	清田雅智	研修医に対するベッドサイドレクチャー	福岡赤十字病院 教育回診
2025-5-17	小田浩之	「超成熟社会と総合診療」	日本プライマリ・ケア連合学会鹿児島支部会 第14回総会・講演会
2025-5-25	清田雅智	症例から学医学のエッセンス The great imitator?	適々斎塾
2025-5-29	清田雅智	insomnia ～不眠 vs 不眠症と非薬物療法	かかりつけ医のための実践道場 in 飯塚
2025-5-29	清田雅智	臨床感染症 1, 2	宮崎大学細菌学教室 学生講義
2025-6-9	清田雅智	研修医に対するベッドサイドレクチャー	福岡赤十字病院 教育回診
2025-6-27	清田雅智	GIM 新しい時代の担い手	横浜市立大学 総合診療科学 生講義
2025-7-14	清田雅智	研修医に対するベッドサイドレクチャー	福岡赤十字病院 教育回診
2025-7-29	清田雅智	めまいの診療	かかりつけ医のための実践道場 in 飯塚
2025-8-9 ～ 2025-8-10	吉岡志保	「今ここ」の価値観に迫る～家庭医だからこそできる ACP～	第37回学生・若手医療者のための家庭医療学夏期セミナー
	小宮山真代	「今ここ」の価値観に迫る～家庭医だからこそできる ACP～	
	桜井浩平	「今ここ」の価値観に迫る～家庭医だからこそできる ACP～	
	時岡 悠	「今ここ」の価値観に迫る～家庭医だからこそできる ACP～	
	山本幸近	「今ここ」の価値観に迫る～家庭医だからこそできる ACP～	
	桑野克久	「今ここ」の価値観に迫る～家庭医だからこそできる ACP～	
	大谷 昂	「今ここ」の価値観に迫る～家庭医だからこそできる ACP～	
	土田紗愛	「今ここ」の価値観に迫る～家庭医だからこそできる ACP～	

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-8-9 ～ 2025-8-10	高橋啓悟	「今ここ」の価値観に迫る～家庭医だからこそできる ACP ～	第 37 回学生・若手医療者のための家庭医療学夏期セミナー
2025-8-29	清田雅智	anemia in the elderly / vitamin B12 deficiency	和歌山生協病院 教育回診
2025-9-8	清田雅智	研修医に対するベッドサイドレクチャー	福岡赤十字病院 教育回診
2025-9-13	清田雅智	acute kidney injury ～ なぜ acute renal failure と呼ばなくなったか	白河総合診療アカデミー
2025-9-30	清田雅智	胸水の鑑別疾患	かかりつけ医のための実践道場 in 飯塚
2025-10-6	清田雅智	研修医に対するベッドサイドレクチャー	福岡赤十字病院 教育回診
2025-11-2 ～ 2025-11-3	工藤仁隆	診療ガイドラインを「見る」から「使いこなす」へレベルアップしよう	第 22 回秋季生涯セミナー 専門部医会フォーラム
2025-11-7	清田雅智	acid-base disorders / McKittrick-Wheelock syndrome / Insomnia	諏訪中央病院 教育回診
2025-11-10	清田雅智	研修医に対するベッドサイドレクチャー	福岡赤十字病院 教育回診
2025-11-27	清田雅智	腹水の鑑別疾患	かかりつけ医のための実践道場 in 飯塚
2025-12-5	清田雅智	めまいのアプローチ～ BPPV と PPV を中心に～	第 84 回 Fujita Primary Care Skills
2025-12-20	清田雅智	Mycoplasma pneumoniae as the great imitator	第 628 回診療内容向上研究会
2025-12-22	清田雅智	研修医に対するベッドサイドレクチャー	福岡赤十字病院 教育回診

膠原病リウマチ内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-1-25	内野愛弓	全人的な治療を目指したゴリムマブの使いどころ～医師の視点から～	SUMIRE
2025-2-20	中山恭兵	当院における関節リウマチ診療	第 23 回筑豊リウマチ研究会
2025-2-25	山内雄介	当院における PsA 診療の実態	乾癬性関節炎を考える会
2025-2-28	内野愛弓	関節リウマチと IL-6 - 当科のサリルマブ使用経験 -	RA Expert seminar 2025
2025-5-14	山内雄介	強皮症の病態と治療～ EULAR Recommendations2023 を踏まえて～	第 2 回 9-1 Conference
2025-6-17	内野愛弓	フレイルを考慮した RA 治療について	関節リウマチ WEB セミナー～高齢者 RA をどう守るか～

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-8-1	内野愛弓	関節リウマチ治療の最適化	Taisho Web Seminar 関節リウマチ治療の最前線
2025-9-18	内野愛弓	関節リウマチにおける治療選択	福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会
2025-9-29	内野愛弓	地域でみる関節リウマチ診療	直方鞍手医師会学術講演会
2025-10-16	山内雄介	膠原病に伴う間質性肺疾患 各疾患の特徴と早期治療の重要性	ILD Short Lecture 2025 In Kyushu
2025-11-11	内野愛弓	関節リウマチ診療における Filgotinib の役割～当科での使用経験からの考察～	JAKi RA Clinical Seminar in 小倉
2025-12-5	内野愛弓	関節リウマチ治療の最適化	Taisho Web Seminar

連携医療・緩和ケア科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-3-7	石上雄一郎	どこまで治療するかを考え型と話し方 DNAR/ACP	地域に根ざした緩和ケア勉強会
2025-3-9	石上雄一郎	救急集中治療領域の緩和ケア	高齢者救急とエンドオブライフ・ケア
2025-3-10	柏木秀行	心不全の緩和ケア～実践のための知識と地域づくり～	第2回まえばし在宅医療塾 在宅医療研修会
2025-5-15	柏木秀行	連携医療、緩和医療について	Fujita Critical Concepts for Generalists 勉強会
2025-5-17	山端裕貴	骨盤骨折ブース・OSCE	飯塚 PTLS 講習会
2025-6-6	柏木秀行	心不全のケア移行～地域で支える心不全の体制作り～	明日からの心不全連携を考える会
2025-7-10	石上雄一郎	どこまで治療をすべきかの考え方と話し方	令和7年度 臨床倫理研修会
2025-8-8	石上雄一郎	急性期の緩和ケアについて	東京ベイ・浦安市川医療センター 卒業生特別講演
2025-8-24	松坂 俊	疾患の想起～真実はいつもひとつ？～	第2回「臨床推論」薬剤師スキルアップ講座
2025-8-31	石上雄一郎	どこまで治療するべきかの考え方・話し方	古都はじめ奈良 2025
2025-9-28	石上雄一郎	ICU でできる緩和ケアと ACP について	集中認定看護師セミナー
2025-11-4	河内 咲	『治せる』だけで立ち向かえない時、救急医が知っておくべき緩和ケアの話	救急科勉強会 (Emergency Seminar)
2025-11-7	松坂 俊、山端裕貴	緩和・鎮静について、救急外来での治療方針の話し方	緩和ケア研修会

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-11-20	松坂 俊	壊死性軟部組織感染症を見逃さないために 知っておくべきこと ～症例から学ぶ壊死 性軟部組織感染症の AtoZ ～	第 27 回埼玉整形外科手術手技 研究会
2025-11-21	柏木秀行	認知症とエンドオブライフケア	第 11 回全日本認知症懇話会

循環器科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-2-7	川上將司	急性冠症候群における自然・当然・必然の 補助循環管理	第 3 回宮崎 Intervention Seminar
2025-3-3	児島啓介	循環器疾患と睡眠呼吸障害について	循環器 UP TO DATE WEB セ ミナー
2025-3-24	児島啓介	心不全薬物治療の重要性と、当院での心不 全診療の取り組みについて	Heart Failure Symposium2025

心不全科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-4-7	松川龍一	石灰化だけじゃない！ CB WOLVERINE	Wolverine Blade Master ～石灰 化病変における、低圧拡張の メリットを探る～
2025-4-17	松川龍一	心不全薬物治療の現在地を知り、未来へつ なぐ	京都心不全ネットワークミー ティング
2025-4-18	松川龍一	心不全薬物治療の均てん化をめざすために	Cardio-Renal Crosstalk in Miyazaki
2025-4-25	松川龍一	心不全診療の現在地を知り、これからを考 える	Forxiga Heart Failure Symposium
2025-5-9	松川龍一	ガイドラインも改訂された今、心不全診療 を改めて見直そう	MIYAGI NEXT HF NETWORK
2025-5-11	松川龍一	心不全薬物治療、最適化のために ～第 5 の 矢の果たす役割～	KOKURA LIVE
2025-5-16	松川龍一	新ガイドラインを日常の心不全診療に活か すために	心不全診療 Up to Seminar
2025-5-21	松川龍一	心不全マネジメントの現在地～新ガイドラ インから学ぶ～	心不全 Update Seminar
2025-5-23	松川龍一	心腎連関を意識した心不全への早期介入	Cardio Renal Crosstalk 患者さ んの未来を考える
2025-5-30	松川龍一	新ガイドラインを学び、これからの心不全 診療を考える	第 4 回大分の心不全を考える
2025-6-5	松川龍一	PCI 冬の時代だからこそ求められる脂質管 理	積極的脂質低下療法について 考える会 ～虚血性心疾患の再 発予防に向けて～
2025-6-6	松川龍一	新ガイドラインをこれからの心不全診療に 活かすために	ARNI Web Symposium ～高血 圧と心不全の連鎖を断つ～
2025-6-13	松川龍一	GDMT の最適化とは？	第 1 回 Kyushu Heart Failure Innovative Seminar

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-6-17	松川龍一	心不全診療の現在地を知り、未来につなげる ～カリウム管理の重要性～	Young expert seminar
2025-6-19	松川龍一	心不全薬物治療を最適化する～ Class II a をどう活かす？	心拍数管理と GDMT ～明日から使える心不全診療の Tips ～
2025-6-25	松川龍一	「心不全の現在地を知り、これからの心不全マネジメントを考える～新ガイドラインの改訂ポイントも踏まえて～」	Heart Failure Seminar in Kagoshima
2025-7-5	松川龍一	心不全ってどんな病気か知ってますか？～もしかしたらすでに心不全かも～	西日本新聞市民公開講座
2025-7-12	松川龍一	Opening Remarks	Heart Aid Link Educational Tour ～最新の心不全ガイドラインを多職種連携にどう活かす？～
2025-7-14	松川龍一	ステージ早期からの心不全マネジメント	いわき心不全治療講演会 2025
2025-7-20	松川龍一	心不全薬物治療の最適化～第 5 の矢を活かした個別化医療～	第 31 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 ランチョンセミナー
2025-7-23	松川龍一	新ガイドラインを活かしてステージを通した心不全管理を理解する	心不全治療 Up to date ～ 症例を通じて病態を理解する ～
2025-7-24	松川龍一	心不全薬物治療を最適化するために ～ Class IIa を上手に使いこなす～	ベリキューボ Web カンファレンス
2025-7-25	松川龍一	心不全治療の現在地	筑豊心不全診療スキルアップセミナー
2025-7-29	松川龍一	心不全治療の現在地を知る	地域のみんで心不全治療を考える会～多職種介入と薬物治療の有用性～
2025-7-30	松川龍一	心不全のトータルマネジメント～虚血性心筋症に対する薬物治療についても考察する～	心血管疾患のリスクに地域で立ち向かう～降圧治療を再考する～
2025-8-6	松川龍一	新ガイドラインから学ぶこれからの心不全診療～筑豊の心不全地域連携モデル確立を目指して～	筑豊エリア 心不全連携講演会～適切な心不全基礎薬導入を目指して～
2025-8-8	松川龍一	広げよう！健康ハートの輪	ジャディアンス全国 WEB 講演会
2025-8-19	松川龍一	心不全薬物治療を最適化する	心不全治療 Up to Date
2025-8-20	松川龍一	PCI 冬の時代における脂質管理	第 2 回これからの脂質管理のミライを考える会
2025-9-5	松川龍一	心不全薬物治療の最適化を目指して～ ARNI についても一度考えてみる～	心不全ファイアサイドセミナー
2025-9-10	松川龍一	ISCHEMIA 時代の脂質管理	レクビオ Web Symposium
2025-9-17	松川龍一	心不全薬物治療の最適化を目指す～カリウム管理の重要性～	Heart Failure Meeting 2025
2025-9-24	松川龍一	最適化された薬物治療を出来るだけ多くの心不全患者に届けるために	Heart FailureWeb セミナー
2025-9-25	松川龍一	PCI 冬の時代に求められる脂質管理	新時代の脂質管理を考える会 in 筑豊

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-9-26	松川龍一	GDMT を最適化するために～ ARNI をどう活かすか～	第3回始良・霧島心不全カンファレンス
2025-10-3	松川龍一	「虚血性心不全に対するトータルマネジメント」	冠動脈疾患の集学的治療戦略 in 沖縄～ PCI から心臓突然死・心不全予防まで～
2025-10-7	松川龍一	心不全薬物治療の最適化～ステージ A からの積極的介入～	循環器 UP TO DATE
2025-10-8	松川龍一	個別に最適化を目指す心不全薬物治療	心不全の多職種連携を考える会
2025-10-16	松川龍一	心不全薬物治療の最適化 ARNI を久しぶりに考えてみる	ARNI Open Conference
2025-10-17	松川龍一	新時代に求められる脂質管理	第2回新時代の脂質管理を考える会
2025-10-29	松川龍一	『心不全治療、その先の未来へ』～ GDMT の最適化の重要性～	心不全×CKD について考える会
2025-10-30	松川龍一	ATTR-CM 合併心不全患者に対する心不全包括的管理	ATTR-CM Symposium ～ siRNA による心アミロイドーシスへの新たなアプローチ～
2025-10-31	松川龍一	心不全における GDMT の最適解	Heart Failure WebSeminar
2025-11-4	松川龍一	心不全薬物治療を最適化する ARNI を再考する	心不全連携 conference
2025-11-6	松川龍一	心不全薬物治療を最適化するために ARNI について久しぶりに考えてみませんか？	第10回 Tokai Cardiovascular Meeting
2025-11-7	松川龍一	心不全の薬物治療、Class IIa を上手く使いこなすために	ベリキューボ錠 WEB カンファレンス
2025-11-10	松川龍一	心不全薬物治療の最適化を目指す ARNI について振り返ってみる	ARNI Open Conference
2025-11-11	松川龍一	心不全薬物治療の最適化とは？	最新の心不全治療を考える会 in 置賜
2025-11-14	松川龍一	新時代の心不全薬物治療～ GDMT の最適化を目指して～	慢性心不全診療 Up to Date ～ 日常診療に活かす心不全ガイドライン～
2025-11-17	松川龍一	新時代に求められる攻めの脂質管理	ACS 2 次予防における残余リスクを“0”を目指して
2025-11-21	松川龍一	心不全は薬物治療がキホン！その GDMT、最適化されてますか？	筑豊心不全診療スキルアップセミナー～心不全の薬物療法～
2025-11-21	松川龍一	Optimal lesion preparation のために必要なこと～ CB wolverine のアレコレ～	ARIA2025
	松川龍一	AMI-Cardiogenic shock に挑む～ SCAI B-C における MCS ～	
2025-11-25	松川龍一	心不全薬物治療の最適化を目指す～カリウム管理の重要性～	Heart Failure HK Meeting
2025-11-27	松川龍一	新たな心不全薬物治療の考え方	慢性心不全 学術講演会～それぞれの立場でできること～

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-11-30	松川龍一	高齢心不全に対しても GDMT を実践すべきか？	Jardiance National Conference 2025
2025-12-3	松川龍一	心不全薬物治療のこれから	心疾患マネジメントセミナー ～心不全のトータルマネジメントを考える～
2025-12-5	松川龍一	心不全薬物治療を個別に最適化するには	Cardiorenal Connection Symposium
2025-12-8	松川龍一	Optimal lesion preparation のススメ	Cut & Drug Webinar ～ DCB Prep の Cutting の真価を探る～
2025-12-9	松川龍一	最適化された心不全薬物治療とは	循環器疾患地域連携セミナー In 唐津
2025-12-11	松川龍一	心不全薬物治療を最適化する～ ARNI について深掘してみる～	心不全レベルアップセミナー 東海×福岡
2025-12-16	松川龍一	新時代に求められる脂質管理～ Unmet needs を攻める～	ネクセトル WEB seminar ～ 脂質異常症治療の新しい扉～
2025-12-17	松川龍一	攻めの脂質管理のための新たな武器～脂質管理の Unmet needs ～	ネクセトル発売記念講演会 in 筑豊
2025-12-23	松川龍一	新時代の積極的な脂質管理～脂質管理の Unmet needs ～	Cardiologist Seminar

脳神経内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-5-26	進村光規	急性期病院におけるてんかん治療の最前線	Neurology Meeting

腎臓内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-3-12	藤崎毅一郎	血液透析患者における ARNI の有用性	世界腎臓デーに降圧治療を考える
2025-7-29	西田明弘	当院で LDL アフェレーシスを施行した症例と最近 5 年間の 9 症例のまとめ	ネフローゼ症候群症例検討会
2025-7-31	藤崎毅一郎	DKD/CKD での専門医との連携について：CKD 診療連携のポイント	糖尿病重症化予防セミナー
2025-8-21	藤崎毅一郎	維持血液透析患者における QT 延長：血清 Ca, P 値および鉄動態との関連	第 66 回筑豊透析懇話会
2025-10-21	藤崎毅一郎	「当院における腎代替療法への取り組み：高齢透析患者と歩む PD 療法」	第 4 回 PD conference in 柳井

漢方診療科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-1-16	井上博喜	症例から学ぶ漢方の実際	第 284 回麻生飯塚漢方診療研究会
	井上博喜	『傷寒論演習』解説 72	

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-1-19	井上博喜	漢方基礎講座 第2回「陰証」、専門医・認定医試験における臨床報告 記載のコツ	第3回日本東洋医学会 福岡・熊本・大分・宮崎・長崎 5県合同県部会
2025-1-21	井上博喜	葛根湯医者はやぶ医者か?～漢方の考え方、使い方、効かせ方～	小倉薬剤師会 学術研修会
2025-1-25	吉永 亮	プライマリ・ケア漢方―海の漢方・山の漢方―	総合診療セミナー 総合診療における漢方 明日から実践できる一歩踏み込んだ漢方
2025-2-6	川野綾子	起立性調節障害と漢方	第364回筑豊小児科医会勉強会
2025-2-7	井上博喜	めまい・頭痛の漢方治療～起立性調節障害も含めて～	第12回九州 Web 漢方セミナー
2025-2-8	吉永 亮	総合診療に役立つ漢方医学『海の漢方・山の漢方』、腹診実技	くまもと漢方入門セミナー
2025-2-12	吉永 亮	全身倦怠感に対する漢方アプローチ―COVID-19 罹患後症状を含めて―	Primary 漢方セミナー
2025-2-13	井上博喜	筑豊漢方臨床講座 漢方処方選択の実際	第295回筑豊漢方研究会
2025-2-13	矢野博美	麻黄附子細辛湯と飯塚病院で体験した烏頭・附子剤の入院症例	第48回福岡漢方談話会
2025-2-15	井上博喜	呼吸器疾患に有効な漢方処方	鹿児島漢方入門セミナー
2025-2-18	矢野博美	2人の師匠栗山先生に教えてもらったこと 飯塚病院で印象に残った症例	漢方専門医による漢方勉強会
2025-2-20	井上博喜	『傷寒論演習』解説 73	第285回麻生飯塚漢方診療研究会
	井上博喜、竹内 肇	症例から学ぶ漢方の実際	
2025-3-1	井上博喜	補剤について、診療実技	漢方入門セミナー in 大分
2025-3-13	川野綾子	症例から学ぶ漢方の実際	第296回筑豊漢方研究会
	矢野博美	呼吸器疾患	
2025-3-18	井上博喜	柴胡加竜骨牡蛎湯と半夏瀉心湯を使いたくなる編	第1回くらしの不調にクラシエ続 夢中になれる漢方
2025-3-19	吉永 亮	風邪に対する漢方の考え方・使い方	第1回うつくしま漢方ベースキャンプ
2025-3-26	吉永 亮	海の漢方、山の漢方	那須郡市医師会学術講演会
2025-4-11	井上博喜	臨床漢方医学総論	第1回第一薬科大学 講義
2025-4-17	矢野博美	六病位	第2回第一薬科大学 講義

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-4-17	井上博喜	『傷寒論演習』解説 74	第 286 回麻生飯塚漢方診療研究会
	井上博喜	症例から学ぶ漢方の実際	
2025-4-19 ～ 2025-4-20	矢野博美	漢方の診断法と処方運用Ⅱ（少陽病）、症例検討	筑豊漢方基礎講座 2025
	中尾桂子	漢方の診断法と処方運用Ⅰ（太陽病）、漢方の診断法と処方運用Ⅳ（陰証②）	
	井上博喜	漢方医学概論、腹診、症例検討	
	吉永 亮	漢方の診断法と処方運用Ⅲ（陽明病）、漢方の診断法と処方運用Ⅴ（水）	
	竹内 肇	漢方の診断法と処方運用Ⅳ（陰証①）、漢方の診断法と処方運用Ⅴ（血）	
	川野綾子	腹診、漢方の診断法と処方運用Ⅴ（気）	
2025-4-25	吉永 亮	気・血・水	第 3 回第一薬科大学 講義
2025-4-26	吉永 亮	「メジャー漢方薬から学ぶ漢語と漢方」、「見る・嗅ぐ・聞く・触る」	漢方がわかる看護師養成レッスン
2025-5-2	川野綾子	四診	第 4 回第一薬科大学 講義
2025-5-9	竹内 肇	基本処方 1	第 5 回第一薬科大学 講義
2025-5-15	井上博喜、矢野博美	症例から学ぶ漢方の実際	第 287 回麻生飯塚漢方診療研究会
	井上博喜	『傷寒論演習』解説 75	
2025-5-15	竹内 肇	女性のメンタルヘルス	九州総合診療セミナー
2025-5-16	中尾桂子	基本処方 2	第 6 回第一薬科大学 講義
2025-5-23	吉永 亮	副作用・服薬上の注意	第 7 回第一薬科大学 講義
2025-5-30	井上博喜	治療学・処方選択の実際	第 8 回第一薬科大学 講義
2025-6-11	川野綾子	起立性調節障害と漢方	第 125 回熊本産婦人科漢方懇話会
2025-6-12	井上博喜、川野綾子	補剤について	第 297 回筑豊漢方研究会
2025-6-18	川野綾子	太陽病	福岡県立大学 講義

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-6-18	吉永 亮	五苓散を使いたくなる	第2回暮らしの不調にクラシエ～夢中になれる漢方セミナー～
2025-6-19	井上博喜	『傷寒論演習』解説 76	第288回麻生飯塚漢方診療研究会
	井上博喜、吉永 亮	症例から学ぶ漢方の実際	
2025-6-20～ 2025-6-22	吉永 亮	〈日本東洋医学会〉東洋医学（漢方・鍼灸）の疑問点にお答えします！第3弾「メンタルヘルスケアに用いる東洋医学（漢方薬・鍼灸）」	第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
2025-6-24	井上博喜、中尾桂子	葛根湯医者はやぶ医者か？～漢方の考え方、使い方、効かせ方～	山鹿地区薬剤師会 研修会
2025-7-9	吉永 亮	ストレスと漢方～柴胡剤の活用～	第3回うつくしま漢方ベースキャンプ
2025-7-10	吉永 亮	紫胡剤の活用	第298回筑豊漢方研究会
2025-7-17	井上博喜	『傷寒論演習』解説 77	第289回麻生飯塚漢方診療研究会
	井上博喜、竹内 肇	症例から学ぶ漢方の実際	
2025-7-26	吉永 亮	漢方薬を使って、痛み・しびれを治せる人に	医療安全セミナー
2025-8-6	吉永 亮	小児・思春期の漢方治療 - 起立性調節障害を中心に -	Kanpo Basic Master Series
2025-9-3	吉永 亮	おなかに漢方	第4回うつくしま漢方ベースキャンプ
2025-9-11	竹内 肇	ストレスと漢方	第299回筑豊漢方研究会
2025-9-16	井上博喜	下痢に対する漢方治療	JPS 漢方寺子屋九州
2025-9-16	吉永 亮	吉永先生による実技講習	Kanpo Training Circle Marronnier
2025-9-17～ 2025-9-18	吉永 亮	地域医療学各論 2	自治医科大学 講義
2025-9-18	井上博喜	症例から学ぶ漢方の実際	第290回麻生飯塚漢方診療研究会
	井上博喜	『傷寒論演習』解説 80	
2025-9-30	中尾桂子	捕中益気湯を使いたくなる偏	第3回くらしの不調にクラシエ 続 夢中になれる漢方
2025-10-2	吉永 亮	漢方には陰陽がある - 総合診療における活用 -	第48回定例漢方勉強会
2025-10-9	吉永 亮	プライマリ・ケア漢方 - 海の漢方・山の漢方 -	漢紡会

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-10-16	松山 圭	症例から学ぶ漢方の実際	第 291 回麻生飯塚漢方診療研究会
	井上博喜	『金匱要略講話』解説 1	
2025-10-17	吉永 亮	臨床講義	自治医科大学 講義
2025-10-22	竹内 肇	女性のメンタルヘルスに使える漢方薬	女性の未来に寄り添う東洋医学のアプローチ
2025-10-22	吉永 亮	漢方活用のポイント	地域医療 Light up with KAMPO フォーラム
2025-10-24	吉永 亮	臨床講義	自治医科大学講義
2025-11-5	吉永 亮	総合診療科に生きる - おなかに漢方 -	Kampo Basic Master Series
2025-11-7	吉永 亮	臨床講義	自治医科大学講義
2025-11-13	矢野博美	冷えの漢方治療	第 301 回筑豊漢方研究会
2025-11-20	中尾桂子	症例から学ぶ漢方の実際	第 292 回麻生飯塚漢方診療研究会
	井上博喜	『金匱要略講話』解説 2	
2025-11-22	川野綾子	困ったときに、この一手！～漢方の引き出し、開けましょう～	All Miyaaki 総合診療オートムセミナー
2025-11-30	井上博喜	漢方治療の奏効率を高めるために	第 50 回日本東洋医学会九州支部学術総会
	松山 圭、井上博喜、矢野博美、他	桂枝加竜骨牡蛎湯加減が奏効した起立性調節障害の一例	
	吉永 亮、川野綾子	「ドクター G を超えていけ！漢方と総合診療の二刀流」	
2025-12-4	井上博喜	日常診療に役立つ漢方概念①「気について」	第 1 回 2025 年度 鹿児島 漢方「木・血・水」セミナー
2025-12-6	吉永 亮	更なる高みへ 漢方処方の運用の実際	急性期漢方アカデミア
2025-12-11	竹内 肇	女性のメンタルヘルスに使える漢方	第 1 回医生ヶ丘 漢方医学セミナー
2025-12-13	吉永 亮	海の漢方・山の漢方 - プライマリ・ケアにおける活用 -	地域医療×漢方 ブレイクスルーセミナー
2025-12-18	矢野博美	八味地黄丸を使いたくなる偏	第 4 回くらしの不調にクラシエ続 夢中になれる漢方

小児科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-1-21	田中祥一朗	まちの保健室から見た子どもたちの健康課題	子どもを地域で支える会・筑豊
2025-1-30	田中祥一朗	地域で考える子どものトータルヘルスケア～小児科医からみた筑豊地区の子どもの現状～	令和6年度筑豊地区市町村社会教育委員研修会
2025-3-9	田中祥一朗	ピンチをチャンスに変える公民共創の力～課題先進地域の取り組み～	第20回赤ちゃん育成ネットワーク 研修フォーラム
2025-3-9	岡松由記	飯塚病院における研修医教育～医師の働き方改革が始まる前と後～	第49回日本外来小児科学会教育検討会
2025-3-13	田中祥一朗	人生100年時代を生き抜く～子どもたちの健康と未来を支えるために～	第365回筑豊小児科医会勉強会
	荒木潤一郎	飯塚病院小児科腎外来の『これまで』と『これから』	
2025-5-28	吉田浩一	先天梅毒を経験して	第52回筑豊周産期懇話会
2025-6-4	田中祥一朗	発達障がい理解と支援	令和7年度第一回福岡県女性支援団体ネットワーク会員向け研修会
2025-6-23	田中祥一朗	アタッチメントの視点から見る養育環境と発達	第4回筑豊地区要保護児童対策地域協議会自治体間ネットワーク協議会
2025-6-25	田中祥一朗	子どもの成育環境と地域社会	令和7年度第一回ファミサポ講習会
2025-7-10	田中祥一朗	医師という職業で描く、自分らしい人生	福岡工業大学附属城東高等学校進路研修会
2025-7-17	嘉村拓朗	二次医療機関からみた小児気管支喘息	第369回筑豊小児科医会勉強会
2025-7-30	田中ゆかり	低リン血症を機に診断に至った FGF23 関連低リン血症性くる病の親子例	飯塚医師会学術講演会
2025-8-23	大矢崇志	小児等地域療育支援病院の現状と展望について	令和7年度福岡県小児等在宅医療推進事業 小児在宅医療懇話会
2025-8-23 ～ 2025-8-24	嘉村拓朗	腹部鈍的外傷と子ども虐待	第16回日本子ども虐待医学会学術集会
2025-10-9	田中祥一朗	小児科医が育む“子どもにやさしいまち”～医療を超えて地域を支える～	八幡小児科医会講演会
2025-10-13	田中祥一朗	切れ目ない支援の構築に向けて	令和7年度一般社団法人福岡県公認心理師会 全体研修会
2025-10-28	嘉村拓朗	舌下免疫療法を含むアレルギーの予防について	大牟田市アレルギー教室
2025-11-18	田中祥一朗	子どもの成育環境と地域社会	令和7年度 第2回ファミサポ会員登録講習会
2025-11-25	田中祥一朗	子どものアレルギーを正しく理解し、学校・園で支えるために	令和7年度 嘉穂郡学校保健会研修会

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-12-5	大矢崇志	安全基地の作り方～困っている子に治うために～	障がい児支援に関わる多機関連携意見交換会
	田中祥一郎	地域にひらく“安心の場”－警固界限とクリニックから考える支援のかたち－	
2025-12-10	吉田浩一	発熱4日目の紹介受診患者。黄疸があったのでお腹に当てたエコーで偶然気づかれた心筋収縮能の低下？！	症例検討会
2025-12-17	大矢崇志	障がいを持つ子どもの親の気持ちを知ろう	令和7年度 校内医療的ケア研修会

産婦人科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-4-24	辻岡 寛	婦人科悪性腫瘍における薬物療法の最新アプローチ	第332回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会
2025-8-7	林 宗太郎	産婦人科医からみた思春期教育に関して	保健師研究会
2025-8-29	林 宗太郎	当院における子宮体癌再発に対するレンパチニブ併用療法の使用経験	Endometrial Cancer Web Seminar
2025-10-31	林 宗太郎	高校2年生に伝えたい性教育	福岡県教育委員会性教育事業
2025-11-12	林 宗太郎	高校2年生に伝えたい性教育	福岡県教育委員会性教育事業
2025-11-27	林 宗太郎	高校2年生に伝えたい性教育	福岡県教育委員会性教育事業

整形外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-11-12	美浦辰彦	飯塚病院整形外科における外傷診療の取り組み	飯塚病院 整形外科講演会
	久保祐介	手の外科診療：受診から治療までの流れと実際	
	小宮山敬祐	大腿骨近位部骨折と骨粗鬆症に対する当院の診療体制と治療方針	

脳神経外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-7-9	名取良弘	医療におけるTQM－医療界初のデミング賞受賞を中心に－	山梨大学医学部附属病院「医療の質向上のための研修会」
2025-9-19	名取良弘	臓器提供との出会い 推進力の源	九州大学臓器提供連携体制構築事業講演会
2025-10-31	甲斐康稔	脳梗塞に対する手術～後遺症を残さないために～	地域医療サポーター養成講座
2025-12-13	名取良弘	『保険診療・保険審査』ってどんな仕組み？	第7回九州大学脳神経外科連携セミナー

皮膚科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-5-13	井手豪俊	アトピー性皮膚炎周辺知識の向上	Next Generation Olumiant Expert Web Conference
2025-6-4	井手豪俊	円形脱毛症治療の最新情報	West Japan AlopeciaAreata Expert Web Conference
2025-6-20	井手豪俊	「アトピー性皮膚炎のおさらいと新しい治療選択肢アドトラザー」	アドトラザー@熊本講演会
2025-6-24	井手豪俊	乾癬の病態と治療	ユーシービージャパン（株）社内勉強会
2025-7-24	井手豪俊	皮膚疾患に関する最新の医学的知見	協和キリン株式会社社内研修会
2025-7-31	井手豪俊	皮膚疾患における最新の医学的知見	サンファーマ株式会社 社内研修会
2025-9-18	井手豪俊	乾癬治療における最新の医学的知見	SUN Psoriasis Web Seminar
	利谷理沙子	乾癬とその治療	
2025-11-20	井手豪俊	イルミアアドバイザー会議	イルミア アドバイザリー会議
2025-12-9	井手豪俊	進化する熱傷治療戦略 2025	熱傷 WEB セミナー

眼科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-2-13	中間崇仁	緑内障専門医が考える最近の緑内障治療 in 筑豊	緑内障治療を考える会 in 飯塚
2025-3-3	左野裕介	ラニビズマブ BS の適正使用について	千寿製薬株式会社 社内講演会
2025-9-25	林 邦彦	「後期研修医としての1年半：九州大学病院と飯塚病院での学び」	Kyushu Retina Network
2025-11-14	中間崇仁	緑内障・硝子体手術における Impress の使用経験	Impress 講演会 in 福岡～エキスパートによる本音の Impress 講座～

リエゾン精神科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-7-9	猪狩圭介	精神科リエゾンにおけるチーム医療～内と外の連携構築～	長崎県精神科医等育成事業教育研修会
2025-9-17	嘉陽宗臣、猪狩圭介	ゲートキーパー養成研修～こころのサインに気づくために～	第2回自殺未遂ゲートキーパー養成研修会
2025-9-26	嘉陽宗臣	ゲートキーパー養成研修～こころのサインに気づくために～	第3回自殺未遂ゲートキーパー養成研修会

麻酔科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-12-4 ～ 2025-12-5	尾崎実展	手術室の品質管理～麻酔医の立場から	第 12 回 Conference for Health Care

感染症科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-2-19	長谷川雄一	自分で選べるようになる！抗菌薬ことはじめ 後編	民間医局コネクトセミナー
2025-3-15	長谷川雄一	レクチャーの作り方	チーフレジデントミーティング 2025
2025-7-24	小出容平	まだまだ終わらない COVID-19 ～重症例の報告～	飯塚医師会学術講演会 COVID-19 セミナー 2025
2025-8-28	小出容平	終わらない COVID-19 ～重症化症例の報告～	Meiji コロナワクチンセミナー
	的野多加志	新型コロナワクチン最前線 ～コストタイプ（レプリコン）の臨床的位置付け～	

歯科口腔外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-1-24	石井広太郎	口腔カンジダ症	久光製薬講演会
2025-2-6	中松耕治	飯塚病院における周術期口腔管理の実際	福岡県「がん患者のための歯科医療連携推進事業」
2025-3-6 ～ 2025-3-8	石井広太郎	顎関節強直症手術の最近の潮流と適応を考える	第 9 回冬期口腔外科臨床研究会
2025-6-15	石井広太郎	衛生士がサポートする顎関節治療～基礎からメンテナンスまで～	福岡県東支部歯科衛生会研修会
2025-7-24	吉田涼子	リハビリテーション医学	麻生リハビリテーション大学校 特別授業
2025-11-14 ～ 2025-11-16	中松耕治	語源を用いた医療系英語の語彙力アップ法	第 70 回日本口腔外科学会総会
	石井広太郎	顎関節手術（顎関節鏡支援下を含めた）の適応と手技のコツ	
2025-11-20	石井広太郎	飯塚病院における周術期口腔機能管理とオラビ錠の臨床使用	周術期口腔機能管理 Web Seminar
2025-12-21	石井広太郎	総論：顎関節穿刺治療の現在地	第 64 回日本顎関節学会 学術講演会

集中治療科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-2-8 ～ 2025-2-9	吉野俊平	レクチャー：肺・下肢血管エコー・腹部エコー	第 25 回 POCUS (Point of Care Ultrasound) 東京ミッドタウンコース
2025-4-19 ～ 2025-4-20	吉野俊平	レクチャー：POCUS 腹部エコー	スクリーニング超音波検査を行う訪問看護師との連携によるオンライン診療の実証研究 2024 年度科学研究費助成事業 (課題番号：24K18660)
2025-7-5	川上大裕	FCCS7 月広島コース	米国集中治療医学会 FCCS
	川上大裕	FCCS7 月広島コース 講師	
2025-7-13	川上大裕	集中治療医から見た心原性ショックの呼吸管理と臓器灌流	Cardiogenic Shock Deep Dive 2025
2025-8-16	吉野俊平	DVT 講義	CareNetTV SchoolPOCUS Online Course 2025
2025-9-6	桑野公輔	酸塩基平衡、電解質異常に挑む	第 50 回 JSEPTIC セミナー
2025-9-6 ～ 2025-9-7	吉野俊平	レクチャー：肺・下肢血管エコー・腹部エコー	第 27 回 POCUS (Point of Care Ultrasound) 京都市立病院コース
2025-9-28	川上大裕	心肺連関から深める循環管理	第 26 回 JSICM リフレッシャーセミナー
2025-10-4	川上大裕	病院運営の中で集中治療医が果たす役割	第 13 回 Intensiveist セミナー
2025-11-4	河内 章	明日から実践出来る ECPR の患者選択戦略	救急セミナー
2025-11-6	川上大裕	「ケーススタディ」	日本集中治療医学会意志決定支援プロセスセミナー（アドバンスコース）
2025-11-14	吉野俊平	初学者のための FOCUS+ α	臨床研修センター NEXT レクチャー
2025-11-15	吉野俊平	FCCS11 月福岡コース	米国集中治療医学会 FCCS
2025-11-15	川上大裕	FCCS11 月福岡コース	米国集中治療医学会 FCCS
2025-11-30	桑野公輔	「ケーススタディ」	日本集中治療医学会意志決定支援プロセスセミナー（アドバンスコース）
2025-12-6 ～ 2025-12-7	吉野俊平	レクチャー：肺・下肢血管エコー・腹部エコー	第 28 回 POCUS (Point of Care Ultrasound) 順天堂大学浦安病院コース

放射線治療科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-6-21	佐々木智成	前立腺癌 SBRT にて照射開始後早期に尿路狭窄を来した一例	第 36 回九州放射線治療セミナー

リハビリセンター

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-7-17	横手 翼	多職種連携により運動療法の効果が得られた重症心不全の症例	息苦しさにより添う～心不全患者に対するモルヒネの適正使用を目指して～
2025-8-22 ～ 2025-8-23	木戸孝史	がん周術期における臓器別アプローチと理学療法の新展開～食道・肺・肝臓における最新エビデンスと未来への挑戦～ 肺癌：中長期を見据えた術前後に必要な周術期理学療法	第 34 回福岡県理学療法士学会
2025-9-6 ～ 2025-9-7	白土健吾	研究推進部企画【「私」の臨床研究、未来への道 - 多様な立場からのメッセージ】	第 11 回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会
2025-10-5	小樋雅隆	患者満足度向上を目指したキネシオテーピングの実践と評価	第 107 回福岡県理学療法士会学術研修大会

薬剤科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-1-29	進 健司	精神科における薬剤師外来 ～診察前面談の取り組み～	第 52 回みと臨床薬剤セミナー
2025-7-10	進 健司	薬剤師にできる睡眠薬マネジメント	門司薬剤師会学術講演会
2025-10-28	進 健司	精神科領域における病院薬剤師の実践と誇り	チーム医療で求められる病院薬剤師セミナー
2025-11-6	進 健司	睡眠薬の適正使用に向けた院内フォーミュラの導入	多職種のための不眠症診療セミナー
2025-11-28	進 健司	精神科における薬剤師のリアルワーク ～薬剤師外来とリエゾンチームでの実践～	第 338 回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術講演会
2025-12-9	進 健司	薬剤師力を活かしたリエゾンチームでの取り組み ～不眠症の薬物療法に対する介入を中心として～	PD セミナー in 鹿児島

中央放射線部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-2-15	西谷芳徳	北九州インビボ勉強会で学んだ核医学の基礎	第 203 回北九州インビボ勉強会

臨床工学部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-2-21 ～ 2025-2-22	松岡翔平	CIEDs 業務における臨床工学技士の役割 (Iizuka Style)	第 17 回植込みデバイス関連冬季大会
2025-8-30	松岡翔平	デバイス管理における看護師との連携	VHJ/Biotronik joint Seminar
2025-10-26	井桁洋貴	タスクシフトと臨床工学技士の可能性	第 29 回山形県臨床工学会

予防医学センター

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-3-25	赤星和也	胃癌検診と膵臓検診の現状と将来展望	第3回福岡県診療放射線技師会 筑豊地区学術研修会 消化管セミナー
2025-11-12	赤星和也	直視型ラジアル超音波内視鏡による一期的膵がん・胃がん検診	福岡県胃がん検診登録実施医療機関研修会

医療安全推進室

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-3-15	福村文雄	医療安全の仕組みを品質管理で整える	第11回日本医療安全学会学術総会

看護部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-2-8	瓜生矩子	認知症の理解と身体孤束ゼロへの取り組み	福岡県看護連盟筑豊1支部
2025-3-22	藤岡智恵	意思決定支援と ACP	ケアへの活かし方
2025-3-27 ～ 2025-3-28	藤岡智恵	人工呼吸器装着中のケア	ケアへの活かし方：人工呼吸器
2025-4-11	宮崎万友子	ケアネット番組「連載 100 回記念対談 日常診療と看護に活かせる緩和ケア TIPS」	ケアネット番組
2025-5-19 ～ 2025-6-24	藤岡智恵	アセスメントコース	フィジカルアセスメント～リカバリーコース～
2025-5-22 ～ 2025-6-27	藤岡智恵	外傷学習会	ケアへの活かし方
2025-7-6	宮崎万友子	「～尋ねてみよう～ 思いを知るためのコミュニケーション」臨死期の家族ケア	第13回日本緩和医療学会基礎セミナー
2025-7-9	大田佳江、小宮山敬祐、森田理真子、他	骨粗鬆症マネージャー活動報告～治療継続率向上を目指して～	オンラインセミナー
2025-12-20 ～ 2025-12-21	岡 佳子	2025 年度 糖尿病重症化予防（フットケア）研修会	佐賀県糖尿病協会

栄養部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-10-20	重松由美	栄養士総合講座～病院栄養士のおしごと～	中村学園大学短期大学部

改善推進本部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-1-14	福村文雄	改善活動を改善する～継続するための仕組み作り～	第660回 QC サークルグランドチャンピオン大会支部選抜大会

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-6-14	福村文雄	TQM で支える病院経営 ～自ら変われる組織（個人）であるために～	第 19 回鹿児島県立病院学会
2025-10-12	福村文雄	TQM-OS が支える病院経営 “質” を軸に経営課題を解決するしくみづくり	第 66 回全日本病院学会
2025-10-18	福村文雄	TQM で支える病院経営 ～自ら変われる組織（個人）であるために～	第 58 回鹿児島県立病院学会
2025-10-31	福村文雄	TQM における QC サークルの必要性 ～なぜ経営において QC サークルが必要なのか～	QC サークル北陸支部経営者フォーラム
2025-11-29	立石奈々	病院における改善活動と人材育成	全日本病院協会 病院の品質が経営を救う～選ばれる医療機関になるための QMS 実践セミナー～

臨床心理室

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2025-1-21	松尾純子、林美恵子、河北賢哉	臓器提供決断後の家族ケア	日本集中治療医学会地域ドナーコーディネーター養成講座
2025-3-23	松尾純子	意思決定支援と家族ケア	臓器提供施設連携体制構築事業ハンズオンセミナー
2025-11-25	竹下明子	落ち込んでいる方への対応～最初の出会いの重要性～	ネスレ日本株式会社 セミナー

〔 V 〕 院内研修会・勉強会

1. 院内臨床病理検討会（CPC）記録

開催日	年齢	性別	診療科	検討した診断
第219回 2月7日	40代	女性	集中治療科	血球貪食症候群
第220回 5月16日	80代	男性	呼吸器内科	悪性リンパ腫
第221回 7月25日	50代	男性	循環器内科	化膿性心外膜炎
第222回 9月26日	70代	男性	外科	#1 重複癌 1. 肺癌 2. S状結腸癌
第223回 11月28日	80代	女性	集中治療科	1. 肝細胞癌

2. 看 護 部

内 容	対 象	開催日	場 所
2024年度 臨床指導者専門コース	ラダーレベルⅠ以上	1月14日・1月28日 2月13日	北棟4階多目的ホール
リーダーシップ フォローアップ研修	ラダーレベルⅡ以上	1月15日・1月24日	エネルギーセンター大会議室
2024年度 専門コース 第14回「看護研究専門コース」 ワークショップ	ラダーレベルⅠ以上	1月16日・3月13日	教育研修棟432会議室 教育研修棟322会議室
新人看護師研修 「リフレクション研修」	2024年度 新人看護師	1月16日・1月30日	百年ホール
プリセプターフォローアップ 研修 2回目	2024年度 プリセプター	1月17日・2月3日	エネルギーセンター大会議室
2024年度 専門コース 第11回「褥瘡ケアスキルアップ コース」フォローアップ研修	ラダーレベルⅠ以上	1月29日	エネルギーセンター大会議室
2024年度 専門コース 第5回「糖尿病看護スキルアッ プコース」フォローアップ研修	ラダーレベルⅠ以上	3月3日～3月19日	各病棟
2024年度 若葉ナース研修プログラム ～フォローアップ研修～	2024年度 新人看護師	3月4日・3月10日	エネルギーセンター大会議室
介護福祉士まごころ発表会	全看護師・介護福 祉士	3月11日	百年ホール
プリセプター研修	2025年度 プリセプター	3月12日・3月18日	エネルギーセンター大会議室
2024年度 専門コース 第7回「緩和ケアスキルアップ コース」フォローアップ研修	ラダーレベルⅠ以上	3月13日	教育研修棟424セミナー室
2025年度新規採用者研修	2025年度 新人看護師	4月9日・4月10日	エネルギーセンター大会議室 百年ホール
新人看護師研修 「手術前後準備」	2025年度 新人看護師	4月15日～5月30日	各部署
新人看護師研修 「ME 機器の取り扱い」	2025年度 新人看護師	4月15日～4月30日	各部署
新人看護師研修 「針刺し事故防止」	2025年度 新人看護師	4月25日・4月28日 4月30日	百年ホール
新人看護師研修 「注射に関する一連のケア」 シミュレーション	2025年度 新人看護師	4月25日・4月28日 4月30日	百年ホール
新人看護師研修 「RST:吸引研修」	2025年度 新人看護師	5月～6月	各部署

内 容	対 象	開催日	場 所
2025年度 専門コース 第24回「アセスメント力・スキルアップコース」	ラダーレベルⅠ以上	5月19日・5月24日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修「安全管理」	2025年度 新人看護師	5月21日・5月22日 5月23日	北棟4階多目的ホール
新人看護師研修 「インスリン投与中の患者のケア」講義・演習	2025年度 新人看護師	5月16日・5月30日	エネルギーセンター大会議室
2024年度 リーダーナースフォローアップ 研修	ラダーレベルⅠ	5月29日・6月19日	エネルギーセンター大会議室 百年ホール
新人看護師研修 「RST:呼吸器演習 ビギナーズコース」	2025年度 新人看護師	6月3日・6月19日 6月24日・6月26日 7月3日・7月8日 7月10日・7月15日 7月22日・7月24日	ラーニングセンター
新人看護師研修 「インスリン投与中の患者のケア」シミュレーション	2025年度 新人看護師	6月5日・6月6日 6月10日・6月12日 6月17日	ラーニングセンター
アセスメント研修	ラダーレベル新人	6月9日・6月25日	エネルギーセンター大会議室
新人集合教育 「若葉ナース研修プログラム」	2025年度 新人看護師	6月18日・7月9日	エネルギーセンター大会議室
KYTトレーニング	ラダーレベル新人	6月23日・6月25日 7月9日・7月16日 7月23日	北棟4階多目的ホール
看護補助者対象看護補助者研修（体位変換）	介護福祉士 ナースエイド ナースアシスタント e-nurse	6月27日・7月25日 8月6日	専門学校麻生看護大学校 3階実習室
新人看護師研修 「口腔アセスメントと口腔ケア」 講義・演習	2025年度 新人看護師	7月1日・7月8日	北棟4階多目的ホール
新人看護師研修 「摂食嚥下障害をもつ患者の看護」講義・演習	2025年度 新人看護師	7月1日・7月8日	北棟4階多目的ホール
新人看護師研修 「麻薬の取り扱い」	2025年度 新人看護師	7月2日・7月4日	エネルギーセンター大会議室
プリセプターフォローアップ 研修1回目	2025年度 プリセプター	7月3日・7月7日	エネルギーセンター大会議室

内 容	対 象	開催日	場 所
2025年度 専門コース 第12回「褥瘡ケアスキルアップコース」	ラダーレベルⅠ以上	7月23日 8月4日・28日	百年ホール エネルギーセンター大会議室 ラーニングセンター
新人看護師研修 「フィジカルアセスメント研修」	2025年度 新人看護師	8月4日・8月5日 8月6日・8月7日 8月18日・8月19日 8月20日・8月21日 8月25日・8月26日 8月27日・8月28日 9月1日・9月2日 9月8日・9月9日 9月10日・9月11日 9月16日・9月17日 9月18日・9月19日 9月25日・9月26日 9月29日・9月30日 10月1日・10月2日	ICU・E4HCU・H2救急
2025年度 専門コース 第15回「看護研究専門コース」	ラダーレベルⅠ以上	8月5日・8月29日 10月29日	エネルギーセンター大会議室 教育棟424室
倫理研修1	ラダーレベル新人	8月7日・8月21日	百年ホール エネルギーセンター大会議室
2024年度 専門コース 臨床指導者専門コースフォローアップ研修	ラダーレベルⅠ以上	8月22日	北棟4階多目的ホール
リーダーナース研修	ラダーレベル新人	9月2日・9月16日	エネルギーセンター大会議室
2025年度 専門コース 第8回「緩和ケアスキルアップコース」	ラダーレベルⅠ以上	9月3日・9月17日 10月9日	百年ホール 北棟4階多目的ホール
新人看護師研修 「褥瘡の予防とケア」	2025年度 新人看護師	9月3日・9月4日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 「輸血の実践」シミュレーション	2025年度 新人看護師	10月6日・10月8日 10月10日・10月17日 10月20日・10月24日	ラーニングセンター
セル看護提供方式®	ラダーレベルⅢ	10月7日・10月20日	エネルギーセンター大会議室

内 容	対 象	開催日	場 所
新人看護師研修 「RST:呼吸器演習 Aコース」	2025年度 新人看護師	10月7日・10月9日 10月23日・11月6日 11月11日・11月13日 11月18日・11月20日 11月25日・11月27日	ラーニングセンター
セル看護提供方式®	ラダーレベルⅢ	10月7日・10月20日	エネルギーセンター大会議室
リーダーシップ研修	ラダーレベルⅠ以上	10月16日・10月28日	エネルギーセンター大会議室
看護補助者対象看護補助者研修（移乗）	介護福祉士 ナースエイド ナースアシスタント e-nurse	10月17日・10月24日 12月19日	専門学校麻生看護大学校 3階実習室
看護師対象看護補助者研修	全看護師	11月1日～11月30日 まで動画視聴 12月19日まで ディスカッション	各部署
2025年度 専門コース 第6回「糖尿病看護スキルアップコース」	ラダーレベルⅠ以上	11月4日・11月17日 12月8日	エネルギーセンター大会議室
第65回院内看護研究発表会	全看護師	11月8日	エネルギーセンター大会議室

3. 医療安全研修

1. MRM研修(講義)

開催日	タイトル	講師	参加数
6月4日 (7月15日)	医療安全の基本的なこと ～ヒューマンエラーと安全文化～ (同ビデオ講習)	福村文雄（医療安全推進室）	101 (5)
7月9日	当院における Rapid Response System の展開	吉野俊平（集中治療科）、 竹田智子（集中ケア認定看護師）	129
9月3日 (10月21日)	アナフィラキシー（同ビデオ講習）	片桐欧（集中治療科）	90 (5)
10月1日 (12月9日)	インスリンと1型糖尿病について (同ビデオ講習)	北岡優（内分泌・糖尿病内科）、 岩橋淑恵（糖尿病看護認定看護師）	61 (3)
12月8日	院内暴力にどう向き合うか	猪狩圭介（リエゾン精神科）、 大場裕司（精神看護認定看護師）	75

2. MRM研修(演習)

開催月	開催回数	タイトル	参加数
10月	3回	人事制度分析研修（2等級以上対象）	71
6月～7月	5回	2年目スタッフ KYT 研修	110
5月～7月	2回	KYT エキスパート研修	19
8月～9月	2回	不具合分析エキスパート研修	15

4. 改善勉強会

No.	内 容	対 象	【開催回数】開催日	受講者 総数
1	改善基礎1	新入社員	【1回】4月2日（新入社員研修）	123名
2	改善基礎2 E K (Everyday Kaizen) を やってみよう！	1 等級相当 以上	【8回】 1月14日、2月12日、6月11日、 7月24日、8月22日、9月11日、 10月22日、11月11日	140名
3	Kaizen ワークショップ1・2	3 等級相当 以上	【4回】 2月21日、5月22日、7月10日、 12月22日	50名
4	EK指導者研修	4 等級相当 以上	【3回】 6月23日、8月6日、11月18日	24名

5. 学会を除く学術研修会・勉強会

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
肝臓内科	肝臓と代謝談話会		16日										
	4科合同カンファレンス	毎月 第一・第三水曜日											
	外科合同カンファレンス	毎週火・木曜日											
	放射線治療カンファレンス	第4水曜日											
	研究論文抄読会	毎月2回 水曜日開催											
呼吸器内科	筑豊呼吸器疾患研究会						17日					26日	
	北九州呼吸器懇話会										9日		
	九州臨床画像解析研究会					24日					15日		
	筑豊呼吸器RENKEIの会					27日						19日	
	呼吸器カンファレンス・抄読会	毎週金曜日											
呼吸器腫瘍内科	肺がんキャンサーボード (呼吸器内科・腫瘍内科)	毎週火曜日(祝日は除く)											
内分泌・ 糖尿病内科	実地医家のための糖尿病セミナー		21日										
	病棟カンファレンス	毎週水曜日											
	甲状腺画像検討会	毎週水曜日											
消化器内科	Gut Clinical Conference			7日			13日			12日			5日
	消化管がんCancer Board	毎週水曜日											
	勉強会	毎週金曜日											
血液内科	血液疾患を語る会											22日	
	抄読会	毎週火曜日											
総合診療科	レジデントデー		12日		11日	15日	19日	14日			2日		
	M&Mカンファレンス		18日		8日	22日				16日		11日	
	九州総合診療セミナー	16日		13日		15日						20日	
	EBMカンファレンス				10日 17日			8日 10日	14日	16日	7日 9日	6日	23日 25日
	ジャーナルクラブ						26日	14日	28日	18日	16日	19日	
	家庭医レジデントデー(額田病院にて)	第3土曜日											
	家庭医家族会議	第1・3木曜日											
	清田Dr. モーニングレクチャー	毎週金曜日											
	鶴木塾	隔週火曜日											
	清田レクチャー	隔週火曜日											
	大内田塾	毎週水曜日											
膠原病・ リウマチ内科	筑豊リウマチ研究会		20日 21日					3日			23日		
	スタッフミーティング	第1水曜日											
	病棟カンファレンス	毎週木曜日											
	抄読会	毎週木曜日											
心療内科	スキルアップミーティング			13日				17日		18日		20日	
循環器内科	循環器UPTODATE WEBセミナー			3日							7日		

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小児科	筑豊小児科医会勉強会		6日	13日	17日	28日	18日	17日		4日	23日		
	筑豊感染症懇話会										23日		
	筑豊周産期懇話会 (産婦人科合同)					28日							
	筑豊地域小児在宅医療研修会		20日						21日				
	筑豊子ども虐待防止講演会	31日											
	研修医ミニレクチャー	不定期											
	勉強会	毎週月・金曜日											
産婦人科	筑豊周産期懇話会					28日							
	手術症例カンファレンス	毎週月曜日											
	放射線治療カンファレンス	毎週月曜日											
	画像診断カンファレンス	毎週月曜日											
	抄読会	毎週月曜日											
腎臓内科	シュミレータートレーニング							6日					
	HD勉強会	30日	20日		24日		5日	24日					
	DWカンファレンス	毎月第2水曜日											
	PDカンファレンス	毎月第3水曜日											
	PD連携強化プロジェクト	毎月第4金曜日											
	抄読会	毎週火曜日											
漢方診療科	麻生飯塚漢方診療研究会	16日	20日		17日	15日	19日	17日		18日	16日	20日	
	麻生飯塚生薬研究会	23日	27日	27日	24日	22日	26日	24日		25日	23日	27日	
	筑豊漢方研究会		13日	13日			12日	10日		11日	17日	13日	
	院内医師向け漢方勉強会		18日	11日			10日	8日		9日	14日	11日	9日
	筑豊漢方基礎講座				19日 20日								
	勉強会	月～金曜日											
	漢方基礎勉強会	毎週火曜日											
泌尿器科	手術／クリニカルカンファレンス	毎週水曜日											
放射線科	肝臓内科カンファレンス	第4水曜日											
	緩和ケア科カンファレンス	第2・4月曜日											
	耳鼻咽喉科カンファレンス	毎週木曜日											
	抄読会							第2・4月曜日					
画像診療科	脳神経内科カンファレンス	毎週木曜日											
病理科	病理診断室内勉強会	不定期											
外科	外科手技セミナー(縫合トレーニング)				16日							14日	
	4科合同カンファレンス	毎月 第一・第三水曜日											
	外科カンファレンス	毎週水曜（肝胆膵・乳腺）、木曜（消化管）											
	乳腺カンファレンス	毎週 火曜日											
	消化管がんCancer Board	毎週 水曜日											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
呼吸器外科	呼吸器カンファレンス	毎週 火曜日・金曜日											
	呼吸器外科勉強会	不定期											
	筑豊呼吸器RENKEIの会	2025年11月19日開催											
	Lung Cancer expert Seminar	2025 年 12 月 15 日開催											
脳神経外科	筑豊脳血管内治療症例検討会	27日		24日		26日		28日		29日		17日	
	放射線治療科・画像診療科合同カンファレンス	毎週水曜日											
耳鼻咽喉科	耳鼻科勉強会									5日			
	症例カンファレンス	毎週月曜日・水曜日											
	耳科カンファレンス	第1・3木曜日											
脳神経内科	筑豊脳疾患研究会				17日								
	抄読会	毎週木曜日											
歯科口腔外科	新人看護師研修							1日 8日					
	第42回 筑豊歯科・口腔外科懇話会								1日				
	外来スタッフ勉強会	月1回 火曜日											
	外来症例検討会	隔週火曜日											
	手術検討会	毎週金曜日											
心臓血管外科 血管外科	循環器UPTODATE WEBセミナー			3日							7日		
	田川医師会勉強会	17日											
	直方鞍手医師会 学術講演会	27日											
	Med TAVI セミナー	31日											
	Med VHJ セミナー		13日										
	Med web セミナー				15日								
	ライフライン 大血管治療勉強会										9日		
	北九州・筑豊地区 SICD技術講演会										18日		
	沖縄 SICD勉強会										29日		
	ライフライン EV-ICD勉強会												10日
	抄読会	毎週木曜日											
	勉強会	毎週金曜日											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
整形外科	SPOを語る会(品川)											22日	
	第4回Hip Rhapsody福岡			22日									
	第5回股関節教育セミナー(九大)				20日								
	股関節疾患全例症例検討会					17日							13日
	九州大学骨切りセミナー(九大)	23日											
	Stop繰り返し骨折を考える会(web)										29日		
	関西医科大カダバーセミナー(大阪)			7日									
	e-casebook(web講演)								20日			18日	
	福島SPOカダバーセミナー(福島)			20日 21日									
	第63回関東股関節懇話会(東京)											1日	
	北九州股関節研究会(小倉)					27日							
	第3回飯塚病院 骨粗鬆症連携 に関する情報交換会	16日											
	筑豊の健康寿命延伸を考える会			17日									
	地域で考える二次骨折予防セミナー							9日					
皮膚科	熱傷WEBセミナー												9日
	皮膚科カンファレンス	毎週水曜日											
リエゾン精神科	リエゾンチーム研修会						9日 25日			24日			
	患者行動制限最小化勉強会			10日 11日					18日 25日		27日		
	認知症ケア研修会										3日		
	MRM暴力対策研修会								8日				
	精神科身体合併症研究会												
	妊娠期からの ケア・サポート事業研修会												
	飯塚医師会講演会					12日							
	長崎県精神科医等育成事業教育研修会							9日					
	自殺未遂ゲートキーパー養成研修会									17日 26日			
	自殺未遂者支援実務者会議					22日				18日			
	自殺未遂者支援連携強化会議											14日	
	自殺未遂者支援研修会		5日										
	医師連絡会 カンファレンス	毎週(月)											
	西1F 行動制限カンファレンス	毎週(月)											
	リエゾン新患カンファレンス	毎週(月・火・木)											
	リエゾンチーム・ ケースカンファレンス	毎週(火・木)											
	リエゾン精神科カンファレンス	毎月(金)											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
リエゾン精神科	デイケアミーティング	毎月（火）											
	西病棟連絡会	毎月（金）											
	産科・精神科合同カンファレンス	毎月（金）											
	認知症ケアチーム会議	毎月（金）											
麻酔科	術後疼痛管理チームカンファレンス	23日	27日	27日	24日			28日	25日	22日	27日		22日
	麻酔科安全カンファレンス	22日	26日	26日		28日	25日	23日	27日		22日	26日	
	麻酔科ミーティング	8日 15日 29日	12日	12日 19日	2日 9日 16日 30日	7日 14日 22日	4日 11日 18日	9日 16日 30日	6日 20日	10日 17日 25日	1日 8日	5日 12日 19日	10日 17日
	抄読会	27日	10日	10日	21日	19日	2日 16日 30日	14日	4日 25日	8日 22日	20日	17日	1日 15日
	勉強会	毎週月曜日、火曜日、金曜日											
救急科	筑豊地域救命救急研究会	28日	25日	27日	24日	28日	26日	28日	26日	24日	30日	26日	23日
	外傷カンファレンス		10日										
	症例振り返りカンファレンス	毎日（各勤務時間内）											
	救急科スタッフ会議	第2・4水曜日											
	レジデント Day	第2土曜日											
	多職種合同カンファレンス	第3月曜日											
	ドクターカーカンファレンス	第3火曜日											
	専攻医振り返りカンファレンス	第3水曜日											
	中毒カンファレンス	第3金曜日											
	画像診療科とのカンファレンス	第4水曜日											
	呼吸器内科とのカンファレンス	奇数月第3水曜日											
	ICU カンファレンス	偶数月第4月曜日											
集中治療科	教育カンファレンス	毎日（随時）											
	集中治療科 MTG	毎週金曜日											
	M & M カンファレンス	第1・第3火曜日											
	Clinical Question	第1・第3水曜日											
	多職種倫理カンファレンス	第2火曜日											
	症例振り返り	毎週木曜日											
	ICU コアミーティング	第3木曜日											
	多種職シミュレーション	随時開催											
	診療マニュアルプロジェクト	第4水曜日											
	救急科・ICU 合同カンファレンス	偶数月第4月曜日											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
感染症科	ID Fellow Conference		26日						27日			26日		
	多施設合同アドバンスカンファ	23日	27日	27日		22日		24日	28日		23日	27日		
	症例まみれ検討会	22日	26日		23日	28日	25日	23日		24日	22日	26日		
	Clinical Microbiology Round	31日	21日	7日	25日	30日	13日	25日	22日	26日	24日	28日	19日	
	研修医最終発表	17日	14日 28日		11日	30日		11日			30日		26日	
	抄読会・輪読会	隔週水曜日												
リハビリテーション科・部	ボトックスカンファレンス	毎週水曜日												
	多職種嚆下カンファレンス	毎週火曜日												
	臨床研究カンファレンス	不定期												
	心臓リハビリカンファレンス	毎週水曜日												
薬剤部	福岡県病院薬剤師会筑豊支部 学術研修会	30日		19日	24日		3日	18日		18日	9日 21日	28日	3日	
	福岡県病院薬剤師会筑豊支部 中小病院研修会		20日				12日						16日	
	勉強会	毎週月曜日												
中央検査部	検査部新人発表会			27日						24日				
	検査部2年目発表会		25日											
	メッセージ教育										28日 30日			
	急変時トレーニング								12日 19日 26日	1日 9日 16日				
	検査技師会 臨床生理部門勉強会				30日		26日							
	検査技師会 病理細胞部門勉強会									12日				
	検査技師会 臨床微生物部門勉強会				3日									
	検査技師会 輸血細胞治療部門勉強会							24日	26日					
	QMS 勉強会					9日								
	12C 受付・採血 システム ダウン時対応トレーニング								12日 19日 26日	1日 9日 16日				
	EFA 採血トレーニング						毎週水曜日							
	学会参加 伝達講習会	不定期												
臨床工学部	人工呼吸器安全使用講習会	5回	6回	4回			9回	2回	2回		1回	5回	2回	
	人工心肺安全研修						1日							
	PCPS 安全研修							30日	1日	22日	20日			
	高気圧酸素治療安全研修	9日	1日				20日		14日					
臨床心理室	14A /52F スキルアップミーティング									18日		20日		
	小児科 Dr- 心理カンファレンス									3日 17日				
	緩和ケア病棟心理カンファレンス	毎週火曜日												
	新患カンファレンス	毎週月・金曜日												
	ケースカンファレンス	毎月第3金曜日												
	勉強会	不定期												

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
栄養部	ケースカンファレンス	毎月第4火曜日											
中央放射線部	放射線部学術勉強会		20日	5日	21日					12日 17日 19日 22日 30日			15日
	中央放射線部画像カンファレンス	8日 27日	3日	10日	21日 30日	19日 27日	16日	28日	26日	8日	20日	17日	22日
	乳腺画像勉強会(B.I.S)						10日	7日		9日			
	放射線安全講習会 (e-learning:Safety Plus)	2024年度 (～3月22日)									2025年度 (10月30日～)		
	MRI検査の安全利用のための 研修(e-learning:Safety Plus)	2024年度 (～3月21日)									2025年度 (10月14日～)		
	北九州放射線治療技術研究会						25日						
	北九州インビボ勉強会		15日							25日			
	北九州MR勉強会主催ゼミ										5日		
	福岡GEHC MRI User's Meeting							11日					
	福岡県診療放射線技師会 筑豊地区研学術修会			25日					27日			29日	
救急救命室	ER多職種カンファレンス	19日	19日	18日	15日	20日	17日	17日	19日	24日	21日	18日	16日
	救急救命室カンファレンス	偶数月・第4金曜日											
	ドクターカーカンファレンス	毎月第3火曜日											
	BLS講習会(職員向け)	毎週月・水・金曜日(8月～10月)											

〔Ⅵ〕 委員会活動報告

1. 医療ガス安全管理委員会

委員長 内藤智孝

副委員長 村上輝之

目 的：

医療ガス（医療に用いる酸素、医療用圧縮空気、窒素、二酸化炭素、各種麻酔ガス、吸引）設備の安全管理をはかり、患者および医療従事者の安全を確保する。

活 動 内 容：

1. 医療ガス保全点検

厚生労働省による医療ガス保全点検指針に基づく日常点検、定期点検の実施及び、監督

2. 医療ガス使用状況の把握

3. 必要に応じて、室内ガスの濃度測定、及び試験

4. 医療ガス取り扱いの安全講習会の主催

5. 年4回の定期会議及び報告

①医療ガス設備工事、点検報告：年4回の定期点検は問題なく終了した。過去の検討事案に関しては予定も含めほぼ解決した。

②医療ガス安全講習会：2021年度よりeラーニング受講を開始した。受講率向上を図り、メールで定期周知、2023年度より必須講習に指定したが、受講率は頭打ち状態である。受講を容易にするため、内容を見直し、短縮化するとともに、管理者への受講状況把握、管理を依頼した。

③BCPへの取り組み：大規模災害への対応のためのマニュアル作成と定期的な災害訓練の実施が目標。医療ガス設備の設計図、点検マニュアルを収集した。また、手術室でのシャットオフバルブの操作マニュアルを策定した。酸素カットオフ時の大型酸素ボンベを利用した、逆送システムの検討をすすめている。

④加湿瓶の廃止検討：呼吸管理委員会に廃止の是非を委託し、不可避な症例を除き廃止の方向で調整、必要症例にはディスポーザブル加湿瓶導入を検討。

⑤酸素ボンベ管理ラウンド：酸素ボンベ管理チェック表を策定し、南病棟のラウンドを行い、問題点の抽出、工夫している点など現状把握した。結果をもとに、チェックマニュアルを作成し、各病棟に周知、今後定期的なラウンドで確認していく。

次年に向けて：

1. 全職員向けのSafety Plus を利用した医療ガス取扱安全講習会受講を促進するとともに、対象を絞ったより厳格な管理をしていく。

2. 院内報等を活用し、医療ガスに関する職員の啓蒙をはかる。

3. 大規模災害時など、BCPへの取り組みを2026年度も引き続き継続する。大規模災害時対応マニュアルの作成および大規模災害訓練の実施を目指す。

4. 委員会メンバーの情報共有、知識拡充を目的に、院内医療ガス設備の視察、保守点検のレクチャー学会参加、関連施設見学等を適宜実施する。

5. 酸素ボンベ管理ラウンドを皮切りに、その他必要に応じて、医療ガス安全管理ラウンドを行い、問題点の抽出と解決および標準化を図る。活動を通じ病院全体としての、医療ガス安全に対する意識を高める。

2. 放射線安全委員会・特定放射性同位元素防護委員会

委員長 佐々木智成

目 的：

本委員会は、「放射性同位元素等の規制に関する法律」に基づいて、当院における放射性同位元素および放射線発生装置の取扱いや管理に関する事項を定め、放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保することを目的としています。また、特定放射性同位元素の防護のために必要な措置を講じることで、盗取の防止を図っています。

活 動 内 容：

放射線安全委員会の活動においては、放射線発生装置や放射性同位元素の安全な取り扱い、被ばく低減についての講習会（初期教育や再教育）および放射線管理区域内で勤務される職員の個人被ばく線量管理を行っています。過剰な職業被ばくをした恐れのある職員がいる場合は、産業医の協力のもと各機関への報告や緊急の健康診断などの対応も行っております。今年度も放射線業務従事者への教育訓練（再教育）は、e-learning（Safety Plus）にて行い、4月の新入職員に対する放射線業務従事前の講習（対面）も継続して行っております。10月より循環器内科の西 淳一郎部長を副委員長に迎え、従事者の被ばく線量の減少に向け活動を強化していく所存です。

放射線管理区域内で勤務する職員の個人被ばく線量管理は、個人被ばく線量計で管理しています。毎月、測定会社より貸与されたガラスバッジを各部署対象職員に配布・回収し、測定会社に測定を依頼しています。後日、測定会社より送付された個人被ばく線量データを確認し、被ばく線量の多い職員に対しては注意を促すとともに、必要な放射線防護対策を提案いたします。また放射線から適切に身体を防護するために、防護板や防護メガネの使用を推進し、水晶体の被ばく線量を正確に測定するために水晶体専用被ばく線量計の導入も継続しております。

特定放射性同位元素防護委員会においては、「放射性同位元素等の規制に関する法律施行規則の解説」が見直され、2025年10月1日に施行されたことに伴い、当院の「特定放射性同位元素防護規程」の改訂を行なっています。また、防護管理者の育成を進め、防護管理者の増員を行っています。

次年に向けて：

放射線を用いた診療や治療の件数が増加するなか、当委員会活動によって放射線業務従事者が職業被ばくや医療被ばくを再認識し、且つ最新の情報を得ることにより無駄な職業被ばくや医療事故を無くすように努めてもらえればと考えています。院内で被ばく線量の比較的高い職員に対しては、所属先・関連診療科との協力を図りながら当該職員の被ばく状況に留意し、被ばく防護の指導や必要に応じた対応を遅滞なく行い、各診療科からの被ばく防護に関する問い合わせなどにも対応いたします。さらに院内全体の放射線に対する理解を深めるため、被ばく防護の指導をさらに強化していきます。

3. 感染管理委員会

委員長 本村健太
副委員長 小出容平

目 的：

この組織は科学的根拠に基づいた病院感染対策を推進し、MRSA、VREなどの薬剤耐性菌やHIVなどのウイルスによる感染症から患者及び医療従事者を守ることを目的とする。

活 動 内 容：

○院内職員教育

全職員対象の勉強会を以下のように実施した。

[テーマ・講師名]

1月17日「ASTについて(QandA)」

講師：感染管理センター 丸谷看護師、薬剤部 長崎薬剤師

2月28日「AST研修：血液培養のすゝめ～実症例で学ぶ血液培養の有用性～」

講師：連携医療・緩和ケア科 松坂医師

5月21日「患者さんと医療従事者を守る！手指衛生の重要性」

講師：感染管理センター 山下看護師

8月29日「8月30日は何の日？～針刺し事故防止と感染予防～」

講師：医務室 産業医 金山医師

9月25日「肺結核」

講師：呼吸器内科 坂部医師

11月27日「AST研修：血液培養陽性！TRUE？コンタミ？」

講師：感染管理センター 丸谷看護師、中央検査部 手島検査技師

12月18日「HIV感染症の現状と血液曝露対策」

講師：総合診療科 中村医師

○病棟回診

週1回のICTによる環境ラウンドを、全病棟は毎月、非侵襲性処置実施部署は2ヶ月毎、その他部署は3ヶ月毎に実施し、2週間以内に各現場へ結果を報告した。次回以降のラウンド時に、ラウンド時の指摘事項に対して、改善されているか確認を行っている。

○手指衛生使用量モニタリング(アルコール消毒薬)

手指消毒剤の実使用量と病棟別・部門別手指消毒剤使用量を、感染管理委員会や看護部ミーティング、リンクメンバーミーティングで定期報告した。厚生労働省から事業委託されたAMR臨床リファレンスセンターが提供する、感染対策連携共通プラットフォーム(J-SIPHE)において、全国で感染対策向上加算1を取得している施設での、手指消毒剤の実使用量の中央値のうち、直近5年間で最も値が高い2022年のデータである13.61以上を目標としており、2025年での目標値の達成率は、全24病棟のうち97.3%であった。

○抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動

メロペネム、ピペラシリン/タゾバクタム、セフェピム、静注キノロン系抗菌薬をモニタリング対象薬とし、オーダー時に提出される抗菌薬使用理由書を基に、前述の薬剤がオーダーされた症例を、薬剤開始時に抽出し、提出された培養検査の結果が判明した場合や臨床経過が良い場合など、De-escalationが適当と判断されたタイミングで、感染症科医師ないしは感染管理担当薬剤師から主治医へ連絡し、抗菌薬の適正化に関する支援を行った。

メロペネムの使用日数（Days Of Therapy：DOT）をモニタリング指標とし、全国で感染対策向上加算1を取得している施設のうち、第一四分位の値である1.0を目標値に設定して、支援を継続したところ、2025年のメロペネムのDOTは1.05とわずかに超え、目標を達成できなかった。長期使用がやむを得ない症例の影響もあるが、介入の遅れが目立ったため、来年以降はより早期に支援できるよう薬剤師と連携していく。

○感染管理地域連携カンファレンス

- ・ 3月19日 「各施設からの手指消毒剤使用量提出データ比較
／花王（手指バリアの確認とその対策）」（対面／WEB） 27施設66名
- ・ 6月25日 「各施設からの手指消毒剤使用量提出データ比較
／アンチバイオグラムとJ-SIPHEの活用について」（対面／WEB） 36施設105名
- ・ 10月3日 「各施設からの手指消毒剤使用量提出データ比較
／COVID-19の症例報告」（対面／WEB） 28施設77名

[相互ラウンド]

- 2月21日 当院ICTが社会保険田川病院の回診を行った。
- 3月21日 飯塚市立病院ICTが当院に来院し、回診を行った。

○ HIV 対策室

2025年の新規患者は1名（転医）。39名が外来通院中であり抗HIV薬治療中である。

HIV患者を受入れていただく為、医療福祉施設1施設に向けて医師、MSW、看護師による出張研修を実施した。

次年に向けて：

継続して手指消毒剤使用量を全国中央値と比較し、実使用量が少ない部署には、現状の振り返りと低下要因を精査・報告いただき、部署毎に改善策を講じることで、全部署での目標（全国中央値以上）達成率が90%以上を維持できるよう目指す。またカルバペネム使用量削減に向けて、職種間のタスクシフト・シェアを行い、抗菌薬適正使用支援活動を継続していく。

4. 労働安全衛生委員会

委員長 本村健太

目 的：

[基本方針]

本委員会では、職員が心身ともに健康で、安全に働くことができる職場環境の構築を目指し、以下の4点を基本方針として活動した。

1. 安全管理：労働災害防止体制の確立
2. 健康管理：職員の心身にわたる健康管理を積極的に推進する
3. 環境衛生管理：院内感染等を防ぎ、安全教育が行き届いた清潔で働きやすい職場環境をつくる
4. 緊急時対応措置：訓練と教育の継続的实施と強化

活 動 内 容：

1. 安全管理

労働災害を防止するため、毎月の委員会にて業務上の災害事例と対策を報告し、情報共有を図った。特に発生件数の多い「針刺し・切創及び皮膚粘膜暴露」については最重点課題として対策を継続。全職員に対し、事例紹介と具体的な防止策を「ワンポイントアドバイス」として配信することで、現場レベルでの注意喚起と意識向上に努めた。

2. 健康管理

毎月の委員会において、労働者疾病統計調査の結果を報告し、職員の健康状態の把握に努めた。2025年は施設環境サービス課が職場巡視に同行する体制を確立した。

これにより、巡視時に確認されたカビの発生や空調不備などの問題に対し、その場で専門的見地から改善策を提案し、迅速な修繕・対応へつなげた。専門部署の視点を導入したことで、現場の負担軽減と環境衛生の質の向上を実現した。

3. 環境衛生管理

リスクの早期発見と労働災害防止を目的として、定期的な職場巡視を実施した。2025年は、「職場巡視フロー図」の作成、および「職場用チェック票」・「職場巡視報告書」の改訂を行い、課題の可視化を推進。改善事項に対する事後措置を毎月の委員会で報告する仕組みを確立し、残存リスクについては委員会で協議を行い、実効性のある改善へと繋げた。

4. 緊急時対応措置

近年、社会問題化しているペイシャントハラスメントから職員の身の安全と心身の健康を守るため、防御体制の整備を行った。職員が安心して業務に従事できる環境維持を最優先とし、「ペイシャントハラスメントに対する指針」および「対応マニュアル」の策定に向けて審議を重ねた。規定の整備が完了し、組織的な対応基盤が整った。

次年に向けて：

針刺し・皮膚粘膜曝露等の具体的な事例分析に基づき、発生件数の減少を目指す。

労働疾病統計調査結果を各部門・部署で活用できるよう、分析できるような形式で報告する。職場巡視による環境改善のサイクルを定着させ、安全意識が組織全体に浸透するよう情報共有を徹底する。

不測の事態に備え、マニュアルの再確認を行い、職員の危機管理能力の維持・向上を図る。

5. 医師の負担軽減・処遇改善委員会

委員長 本村健太

目 的：

医師の負担軽減・処遇改善委員会は、飯塚病院に勤務する医師の業務上の負担軽減および処遇の改善を目的として活動する。

活 動 内 容：

2024年4月より開始された「医師の働き方改革」の導入に伴い、地域医療確保（B水準）および臨床研修・専攻医の研修（C-1水準）を理由として時間外労働が超過する医師に対し、毎月の面談実施が義務化された。また、月の時間外労働が80時間を超える医師に対しては、問診および面談を実施し、睡眠負債や疲労蓄積の程度を評価した上で、勤務継続の可否を確認している。当委員会では、これらの面談の実施状況ならびに面談を通じて得られた意見を基に、医師の負担軽減および処遇改善に向けた取り組みを進めている。

2025年4月時点において、当院にはB水準の医師が13名、C-1水準の医師が10名在籍しており、これらの医師に対して毎月面談を実施した。2024年度および2025年度のB水準・C-1水準医師の時間外労働時間は、働き方改革導入後から概ね横ばいで推移している（上期平均：2024年度 99.6時間/月、2025年度 100.4時間/月）。一方、同時期の面談において聴取した睡眠負債および疲労蓄積の状況については、若干の改善が認められた（睡眠負債：2024年度 2.3→2025年度 1.9、疲労度蓄積：2024年度 0.78→2025年度 0.46）なお、いずれも0～3の評価尺度であり、数値が高いほど負債・蓄積が大きいことを示す。

また、A水準の医師については、月の時間外労働が100時間を超える医師、または80時間を超え、かつ睡眠負債や疲労度蓄積が認められる医師を対象として面談を実施した。問診票および面談結果の評価において、就労制限が必要と判断される医師は認められなかった。2024年度上期平均では、月の時間外労働が80時間を超える医師が6名、100時間を超える医師が1名であったのに対し、2025年度ではそれぞれ3名、0名となっており、前年度と比較して長時間労働に該当する医師数は減少している。

次年に向けて：

働き方改革の導入により、面談を通して医師の睡眠状況や疲労蓄積の実態を把握することが可能となり、負担軽減に向けた課題の抽出が進んだ。当委員会と通じてこれらの課題を共有し、病院全体および各診療科において適宜改善を図られたことが、B水準・C-1水準医師における睡眠負債・疲労蓄積の改善、ならびにA水準医師における長時間労働者数の減少につながったものとする。今後も引き続き、面談などを通じた勤務実態の把握を継続し、負担軽減および超過勤務時間削減に向けて労働安全衛生委員会とも連携しながら、医師の負担軽減および処遇改善につながる取り組みを積極的に推進していく方針である。

6. BCP 管理委員会

委員長 名取良弘
副委員長 山田哲久

目 的：

当院では、災害時における人的被害の最小化および診療機能の継続を目的として、2025年8月にBCP管理委員会を設立した。災害対応は災害種別や発生時間帯、被害状況により求められる対応が大きく異なるため、形式的なマニュアル整備にとどまらず、現場で実際に機能する体制構築が重要である。本委員会では医師部門・看護部門・総合医療技術部門・経営管理部門など多職種が参画し、分科会制により検討を進めている。第一整備分科会はBCPおよび各種対応マニュアルの整備・更新を担い、第二教育分科会は災害訓練および職員教育を通じた組織力の向上、第三災害派遣分科会は災害時における医療派遣体制の整備および調整体制の構築、第四地域連携分科会は災害発生時における地域医療機関の状況把握と情報共有体制の構築を担っている。

活 動 内 容：

2025年度は、第一整備分科会において「火災」および「瞬時停電」を重点テーマとし、初動対応の検討を行った。火災対応では、事務局作成の初動プランをもとに各部署で検討を行ったが、現場運用の困難さが明らかとなり、消防署と連携して防火防災計画に基づく手順整理を進めた。瞬時停電対応については、各部署の稼働状況を把握する仕組みについて検討を継続した。第二教育分科会では、DMAT・JMAT・災害支援ナース等の災害医療派遣チームをBCP管理委員会のもとで統合的に管理する方針を定め、訓練運営の体系化を進めた。第四地域連携分科会では、地域医療機関リストや活動フローの整理を行い、情報共有体制構築に着手した。

次年に向けて：

次年度は、各分科会の成果をマニュアルやアクションカードへ反映させ、訓練と実運用を連動させたBCP運用を進める。火災や停電への初動対応手順の整理とデジタル化、災害訓練と職員教育の継続を通じ、災害時においても組織として機能する体制の確立を目指す。

7. 薬事委員会

委員長 本村健太

副委員長 梅田勇一

目 的：

薬事委員会は、医薬品の適正使用推進のため、医薬品の採用、削除、管理、その他薬事に関する事項について審議すること等を目的としています。

活 動 内 容：

院長(委員長)、副院長、経営管理部長、看護部長、資材課長、薬剤長から構成され2ヶ月に1回(偶数月)に開催しています。

2025年は6回の委員会にて、新規採用44品目、採用に伴う削除7品目、また例年12月に事務局(薬剤部DI室)主導で実施している使用頻度が低い薬品の採用削除の検討にて13品目の削除を決定しました。12月現在の採用医薬品数は1914品目です。一増一減の原則の基、採用審議を行っていますが、分子標的薬等は抗がん剤のみに留まらず各種新薬の登場や、バイオシミラーなど先行品との適応の不一致により採用品目数は徐々に増加傾向であると共に、外来診療においては、非常に高額な注射薬の使用も増えてきています。

また、後発医薬品への切り替えに関しては、計4品目の切り替えが承認されました。

一方で、2025年も昨年から引き続き医薬品の供給が非常に不安定であり、治療の根幹を成すステロイドの供給停止や手術室で使用する麻酔薬の供給量の低下、麻薬(フェンタニル)の世界規模の供給不安など、代替薬の選択に苦慮する状況も発生し、診療に大きな負担と制限がかかる状況にもなりました。現在も当院で運用中の薬剤のうち供給に問題が発生した医薬品は184品目を超え、そのうち22品目の薬品はオーダーを停止したまま状態になっています。患者治療への影響が非常に懸念されます。

そのような中、後発医薬品使用体制加算の施設基準については、各診療科の協力の基、後発品置換率の二段階目のライン85%を超え、後発医薬品使用体制加算2の算定を開始することができました。

次年に向けて：

昨年同様、高額な注射薬も増加する一方で、各種薬剤の供給不安はまだ続く予想となっています。常に流通状況に留意しながら可能な限りバイオシミラーの導入や、後発医薬品への切替えを進めていきます。また、VHJ 関連病院として、薬剤部会等の推奨(共同購入)薬について各診療科の協力を仰ぎつつ採用を検討していきます。

8. 資材委員会

委員長 本村健太

目 的：

院内で使用する保険医療材料、設備投資等の病院資材について採用等の審議を行い、安全性の維持、医療の質の向上、経済的適正配置を実現する。

活 動 内 容：

1. 新規保険医療材料

試用10件の届出を受領し、仮採用 7 件、本採用13件、本採用取下げ 1 件を承認した。

2. 医療機器・備品を購入する設備投資の配分

2025年度予算として申請された246件（定価28,620百万円）の申請の中から、各申請部署の意見を踏まえて63件の購入について認可。また予算外購入として54件（2025年12月末現在）の購入を認可した。

3. 運用・審議方法

①高額医療機器購入の申請および審議方法

定価50百万円以上の機器については、申請者が資材委員会でその必要性を説明する。

また、投資額100百万円以上の新規又は増設申請については、経営会議において審議を行う。

②保険医療材料の採用申請方法

試用、仮採用、本採用の3段階による申請を行う。

③保険医療材料の採用審議方法

仮採用申請は、申請者が資材委員会にてその必要性を説明し、本採用申請は仮採用期間中（6ヶ月間）の使用評価を報告する。また、事務局は仮採用、本採用共にコストもしくは差益について説明する。

次年に向けて：

1. VHJ 共同購入品目の拡大

VHJ 共同購入に関する12の部会及び委員会（医療材料部会、薬剤部会、ME 部会、循環器部会 不整脈部門、循環器部会 カテーテル治療部門、整形部会、透析部会、放射線部会、放射線部技術委員会、検査部会、透析部会小委員会、薬剤評価委員会）の事業支援を継続して行い、臨床における質の向上を維持しながら医療機材を調達し、安全面及びコスト面において多くのメリットが得られるように活動を推進する。

2. 2026年6月の診療報酬改定を視野に入れた設備投資や診療材料購入の対策を行う。

3. 新規診療材料の採用に関する審議、医療機器の評価、調査を随時行う。

4. 医療機器の適切配置、新規医療機器購入時の機器選定を行う。

5. 医療安全・コスト削減、効率化に適合した医療材料物品の選定を行う。

9. ISO 委員会

委員長 吉野俊平
副委員長 梅田勇一

目 的：

ISO9001の認証取得・更新を継続し、全病院的なQMS（品質マネジメントシステム）を構築し、内部監査員と共に医療の質の向上と安全な病院を実現すること。

活 動 内 容：

①内部監査について

■ 内部監査員養成講座の実施

➤ 動画配信とし、理解度テストを実施

■ 実施状況及び結果

監査目的	中期経営計画をふまえて「自部署の強み / 弱み」を確認し、それを活かす / 改善するために実施・予定していることについて確認する		
監査実施期間	2025 年 8 月 18 日～ 11 月 27 日		
被監査数	15 チーム（診療科・病棟・外来（9）、医療技術部門・経営管理部門・本部機能（6））		
重点改善事項	0 件	改善推奨事項	8 件
評価	S：取り組みの結果を評価している。		10 チーム
	A：「自部署の強み / 弱み」についてどちらか一方でも取り組んだ、取り組もうとしていることがある。		6 チーム
	B：自部署の強み / 弱みについて記載ができています。【標準】		0 チーム
	C：B が記載できていない。		0 チーム

1チームのみ診療科と病棟で別々に評価したため、監査数と合わず

②マネジメントレビューについて

■2024年内部監査について報告（2025年3月13日実施）

■2025年内部監査について報告（2025年12月25日実施）

③文書管理について

■3月に全職員に対し文書の見直しを周知

次年に向けて：

1. [内部監査]

・今年度同様の内部監査目的で監査の実施を行う。

2. [文書管理]

・「文書管理・検索システム」の活用を促進する。
・文書登録内容の整理をする。

10. TQM 活動推進委員会

委員長 中島雄一

※TQM活動：サークルによるQC手法等を使用した改善活動

目 的：

TQM活動推進委員会は、TQM活動を病院全体の活動へ展開し、職員全員の問題解決能力を高め、快適で安全な環境で業務を行うための思考を養い、病院全体の医療の質向上を実現させ、患者サービスに貢献することを目的とする。

活 動 内 容：

1月15日・2月3日	勉強会/TQM活動の流れについて
1月17日	エントリー締め切り 17サークルがエントリー
1月27日・2月6日	TQM活動導入研修 実施（TQM活動推進委員会・TQM活動推進分科会）
2月13日	勉強会/背景と指標 実施（TQM活動推進分科会）
3月5日・7日・11日	レビュー者研修会 実施（TQM活動推進事務局）
3月13日	勉強会/現状把握 実施（TQM活動推進分科会）
3月21日	第33回TQM活動キックオフ大会 開催
4月16日	勉強会/要因分析 実施（TQM活動推進分科会）
5月13日	勉強会/対策立案・対策実施 実施（TQM活動推進分科会）
6月12日	勉強会/効果の確認 実施（TQM活動推進分科会）
7月17日	勉強会/標準化と管理の定着 実施（TQM活動推進分科会）
9月19日・22日・25日	勉強会/講評の仕方 実施（TQM活動推進委員 古賀秀信さん）
10月4日	第33回TQM活動発表大会 開催（のがみプレジデントホテル）
11月14日・15日	第26回フォーラム医療の改善活動全国大会 in 北九州 参加〔職員17名〕

次年に向けて：

2025年は、これまでに比べ更にTQM活動の勤務時間内実施を勧める事を目的とし、TQM活動デーの推進を図った。また導入研修も、活動内容がわかりやすいものになってきた。更にナビの改訂に着手する事も始めた。

2026年も続けて更なる勤務時間内でのTQM活動の推進を目指し取り組んでいく。ナビの改訂を終了させ、更に使用しやすいものにしたい。更に日科技連（日本科学技術連盟）の発表大会等へも参加しやすくなるよう、勉強会の工夫や、DXを取り入れた活動の推進も行いきたい。

また、改善人材開発プログラム、KW活動リーダー経験プログラムに沿ったリーダー育成を更に推進してゆく。

11. クリニカルパス委員会

委員長 辻岡 寛
副委員長 梶原優子

目 的：

医療の質の維持・向上を図るために、クリニカルパス作成・見直し及びパス使用を促進すること。

活 動 内 容：

現在、電子パスは10診療科で16パスを運用されており、25診療科で50パスの作成を行っている。
1年以上運用された電子パスについて、パス設定日数と在院日数の差や適応疾患の確認、アウトカム達成率などを分析し、パス作成部署と共有した。

2025年 主な活動

- 1) 委員会開催：9回
- 2) パスレビュー実施；電子パス（3件） 書式パス（3件）
- 3) クリニカルパス点検実施；2回（3月・9月） 点検総数（1,107件）
- 4) パス担当者連絡会議開催；計5回（参加総数：92名）

【日程】6月20日、7月1日、7月11日、7月15日、7月29日

- 5) 第25回日本クリニカルパス学会学術集会発表・参加

【日程】10月17日（金）・18日（土） 【場所】富山県市民会館 富山国際会議場

【発表】乳房全切除術における電子クリニカルパス作成と運用実践 北第七階病棟 山本百恵
頭部・脊髄・頸部血管造影（アンギオ）パスにおける記録不備改善の取り組み

東第六階病棟 宇土実紗

腹腔鏡下胆嚢摘出術電子パス移行後の運用効果 東第七階病棟 笠原 舞

【参加】5名（辻岡 寛、梅野陽香、山本百恵、小島幸子、笹田幸秀）

- 6) パス登録状況

	新規登録	改定登録	登録総数
電子パス	6	0	16
書式パス	0	22	121

- 7) 2025年入院患者パス使用率（パス使用患者数/退院数）：37.2%（2024年 37.1%）

- 8) パス発表大会開催

【日程】12月4日（木）17：15～18：00 【場所】教育研修棟6階 百年ホール

【発表】E-1201 血管造影検査・治療（造影のみ、動注、塞栓術）パス 画像診療科

E-0903 内臓神経ブロックパス

連携医療・緩和ケア科/東第4病棟

E-2014 乳腺疾患化学療法一泊入院パス

乳腺外科/がん集学治療センター

【参加】97名（参加者79名、パス委員18名）

次年に向けて：

引き続き、既存の書式パスの電子化を推進し、電子パスの運用増加を図る。

12. QI 委員会

委 員 長 白土基明

副委員長 井本俊之

目 的：

医療の質は一般的に構造（ストラクチャー）、過程（プロセス）とアウトカム（結果・転帰）で規定される。QI 委員会では、これら臨床や医療の質に関する指標（Quality Indicator、以下 QI）の測定、報告および活用を基本とし、当院における医療の質を継続的に向上させ、Patient first や患者サービスに貢献することを目的とする。

活 動 内 容：

開催回数：3 回（4 月、8 月、12 月）

主な活動内容：

- ・ 2024 年度部署 QI の収集・整理および結果報告
- ・ 部署 QI の院内掲示に向けた準備
- ・ 医療の質可視化プロジェクトへの参加

次年に向けて：

2026 年は、以下の活動を行う予定

- ・ 部署 QI の院内掲示
- ・ 病院指標の整備
- ・ 各部署での QI 設定・測定・質の維持改善に関するサポート
- ・ 医療の質可視化プロジェクトへの参加継続

13. 患者経験価値向上委員会

委員長 中島雄一

副委員長 柏木秀行

目 的：

患者経験価値向上委員会（以下、PX向上委員会）は、Patient eXperience（患者経験価値）（以下、PX）サーベイ等を用いて組織全体を客観的に見直し、課題の抽出と改善を行いながら、飯塚病院の継続的な医療の質向上の実現と患者サービスに貢献することを目的とする。

活 動 内 容：

月1回定例会議を開催した。

2025年の主な活動：

1. ご意見箱・ホームページからのご意見・PXサーベイのフリーコメントをPX向上委員会でまとめて、患者さん・ご家族からのご意見やクレームに対し事実確認を行い現場にフィードバックした。
2. 外来・救急外来患者PXサーベイについて設問を作成。幹部会にて承認をいただいた。
3. 外来・救急外来PXサーベイを5月7日（水）より開始した。
4. 5月23日（金）に入院PXサーベイ結果の報告会開催。幹部会、患者経験価値向上委員会、外来・病棟師長、医療技術職技師長、経営管理部の課長クラスが参加した。
5. 7月部長会で入院・外来PXサーベイの結果報告を行った。
6. 入院アンケート調査を委託しているインシンクとの契約について、現行契約が2025年9月で満了となった。これに伴い、2025年9月から2026年4月までの期間で契約を更新した。
7. 11月からAIH-netにアンケートの自由記載欄を掲載した。掲載にあたり、患者さんの個人情報ならびに職員に関する否定的な意見については、個人が特定されないよう適切に情報を加工している。

次年に向けて：

1. PXサーベイの報告会を開催する。
2. PXサーベイの結果について、院外への広報手段を検討する。
3. 可能であればPXサーベイ結果から改善の提案を導く。
4. 入院から退院までの患者さんのジャーニーマップを作成する。

14. 急変対応委員会

委員長 吉野俊平

副委員長 山田哲久

目 的：

院内において予期せぬ患者状態の危機的増悪（急変）発生の削減および発生時の影響緩和を目的とする。

活 動 内 容：

審議および決定事項（毎月1回の定例会議）

（ア）分析(2025年)

1. 院内死亡 1,253件（来院時心肺停止または蘇生後 233件、看取り入院 0件、終末期＜悪性腫瘍401件、脳神経93件、心臓89件、肺炎呼吸器193件、感染73件、肝不全24件、腎不全22件、心不全 0件、他125件＞、その他0件）
2. ハリーコール：66件（病棟51件、その他15件）
3. Rapid Response System（以下、RRSと省略）稼働：296件
4. 病棟からICU入室 179件

（イ）主な決定事項

1. ハリーコール時救急病床の部屋番号の放送は、看護師より病棟名での放送をお願いする。
2. 予防医学センターに救急カート設置については、どんなことを想起するか、そこでどこまでやるかを、まず部署で考え案を委員会に出していただく。
3. 挿管中の患者がCT等で検査台へ移動する時は、頭元の医師が挿管チューブを把持し移動する。第3CTが多いので第3CT室に表示、周知を行う。
4. 急変対応委員会規約の夜間急変シミュレーションチーム名称を削除する。
5. 振り返りシート改訂の周知はESTと急変対応委員会両方で周知する。
6. CPA急変経過記録の改訂を承認する。
7. ICU相談基準の改訂を承認する。
8. 救急系の救急カート内のエアウェイスコープは吸引無しに統一する。
9. 急変対応委員会規約の下部組織にハリー運営チームを入れる。看護師(救急統括管理師長他)と表記する。
10. レッドハリーを終了する。
11. 気切の患者はDATの対象外とする。
12. BLS集合研修の終了シールを今年度も使用する。
13. 「ICU入室のめやす」の中のノルアドレナリン0.2 μ という表記を削除する。
14. ハリー運営チーム・RRS運営チームの運営指針は急変対応委員会として作成する。
15. 院内BLSは急変対応委員会として医療安全の研修で可能とする。
16. 歯科外来での静脈内鎮痛時、必要時はRRS要請、緊急時はハリーコール要請する。
17. 急変時の患者家族への説明は基本主科で行う。
18. ハリーコール基準改訂分を承認する。
19. RRSフロー、ICU入室基準改定分を承認する。
20. 11AでもRRS要請可とし、RRTがトリアーージし移動の判断を任せる。

21. DAT運営規約を承認する。
22. RRTにおける特定行為の横断的活動を特定行為管理委員会へ提案する。
23. 痙攣時指示があれば先に指示を優先し、止まらなければハリーコールする。
24. E4HCUの救急カートは東4階病棟と合わせて1台とする。
25. スピーチカニューレの注意点をベッドサイドに表示する。
26. 予防医学センターの急変フロー修正分を承認する。
27. ハリーコールの時に、DNAR指示を理由に不適切な発言を慎むことを医師へ周知メールする。

次年に向けて：

- (ア) 院内の急変事例を監視・測定・改善していく。
- (イ) 改善計画に則って、教育・啓発を行う。
- (ウ) 特にRRS起動が適切に行われるよう啓発に取り組む。

15. MRM 委員会

委員長 福村文雄

目 的：

飯塚病院で発生する不具合および院内外の情報をもとに、患者安全にかかわるシステムを監視・測定・改善していくことで、より安全な組織としていくことを目的とする。

活 動 内 容：

(ア) 審議事項（毎月1回の定例会議）

①主な決定事項

1. MRM委員会下部組織として「身体的拘束最小化チーム」の立ち上げを承認する。
2. 東棟緊急エレベーター開延長時間の延長について、2分への延長を継続することを承認する。
3. 看取り期の心電図モニター不要指示およびエスカレーションアラーム導入を承認する。
4. 院内セキュリティについて、カードリーダー設置完了、アナウンス後に運用開始する。
5. 身体拘束最小化のための指針改定を承認する。
6. 電子カルテの有害事象アラートの表示は、オーダー時に出るしかけに変更する。

②即時報告集計報告

1. 全件3,514件（医師 105件、看護師 2,712件、薬剤師 114件、放射線技師83件、検査技師 96件、療法士 32件、他の技師 185件、事務149件、その他 38件）
2. 警鐘事例 7件（診療・診断・合併症 3件、薬剤 2件、手術・麻酔 1件、ルート・ドレーン・チューブ0件、処置0件、医療機器 1件、その他0件）
3. 転倒転落による骨折 13件

③Patient First Prize（不具合早期発見）選出・表彰

60名を表彰（医師 9、看護師 38、薬剤師 0、検査技師 2、放射線技師 3、臨床工学技士 2、その他 6）

(イ) MRM研修

3. 医療安全研修参照

次年に向けて：

(ア) 即時報告から院内の患者安全状況をモニターし、警鐘事例への再発防止対策をフォローしていく。

(イ) 医療安全研修を計画、実施していく。

16. 透析機器安全管理委員会

委員長 藤崎毅一郎

副委員長 沖永一樹

目 的：

透析関連機器の保守管理に関する計画を策定し、それを適切に実施することにより、安全で質の高い透析治療を提供する。

活 動 内 容：

<委員会における活動>

- 透析機器および水処理装置の管理計画立案と実施。
- 透析用水・透析液の水質管理（生菌数検査・エンドトキシン活性値検査の実施）。
- その他、本委員会の目的を達成するために必要と認める活動。

<活動実績>

1. 血液浄化センターの透析装置46台（透析装置41台・個人用透析装置5台）、RO装置1台、透析液供給装置2台、透析剤溶解装置4台に対し、定期点検、定期部品交換を実施した。
2. 病棟透析室の透析装置13台（透析用監視装置11台・個人用透析装置2台）、RO装置1台、透析液供給装置1台、透析剤溶解装置2台に対し、定期点検、定期部品交換を実施した。
3. 保守点検と同様に関連装置全台でエンドトキシン活性値の測定及び生菌数検査を行い、清浄化の確認を行った。透析用水・透析液ともに日本透析医学会が提言する「2016年度版透析液水質基準」が定める基準値内で管理することができた。
4. 透析関連機器の安全使用のための研修を17回（延べ112名）実施した。

次年に向けて：

- 血液浄化センターおよび病棟透析室の透析関連装置の保守管理と、透析用水・透析液の清浄化に務める。
- 従事者に対する透析関連機器の安全使用のための研修を継続していく。

17. 病院食サービス委員会

委員長 井上智彰

副委員長 大向功祐

目 的：

- 1) 入院患者さんへ適正な栄養管理を行うことを目的に、治療中のさまざまな病態に応じた多食種の食事を提供する。
- 2) 病院食自体が患者さんの治療やQOL向上に効果を認めるため、治療に貢献できる質の高い食事提供や、また入院生活の精神的サポート（楽しみ）になることである。
- 3) 当委員会は、飯塚病院の食事療法全般について、医師・看護師等を含む会議において定期的検討を行うものである。

活 動 内 容：

- 1) 毎月1回の委員会開催。定期会議の中で継続的に問題提議を行い、解決を行う。
- 2) 入院患者さんへのアンケートの実施（2回／年）
- 3) 栄養部の人員不足の対応及び業務改善の検討
 - ①少ない人員で調理するために、献立をまとめ極力別調理を減らしたりリニューアル献立を2025年2月25日より提供開始した。その一例として消化管術後食、潰瘍食、低残渣食などの提供食材の緩和及び内容を変更した（風味付け程度の香辛料や香味野菜は使用し別調理を減らすようにした）。
 - ②嚥下粥を提供している患者が650食中10食程度と少なかった為、別調理を廃止し粘度調整が必要な患者には病棟スタッフが増粘剤を混ぜて提供する運用に変更した。
 - ③主食の盛り付け業務の習得が早く出来るよう米飯と全粥の器をそれぞれ1種類に統一した。
- 4) コスト削減の対応
コストのかかる食材の提供回数や提供量を見直し、3) ①に記載したリニューアル献立に反映している。更にデザート類に提供していた紙スプーン（1つ1.02円）の提供も廃止した。
- 5) 抗がん剤治療中の患者専用メニュー『こすもす食』の見直しについて
 - ①こすもす食を提供する病棟をがん集学治療センターのみから南3A病棟、南3B病棟を追加した
 - ②こすもす食を見直すために、化学療法2回目以降の患者50名を対象に、どのような物が食べたいかなどのアンケート調査を行った。また、現在提供しているこすもす食を食べている患者の残食調査を行い、新献立運用、提供に向け検討している。

次年に向けて：

安心・安全で、且つ満足していただけるような食事提供を可能にするために病院食のKAIZENを継続的に行う。

【現在検討中の案件】

- ・人員不足に対する業務内容の見直し及び効率化の継続
- ・コスト削減に向けた献立の見直しの継続
- ・こすもす食の見直しの継続
- ・厨房の環境改善と人員不足対応を目的に厨房の改修案の検討

18. 情報システム委員会

委員長 清田雅智

副委員長 山田哲久

目 的：

本委員会では、情報システムを通じ、医療の質の向上、患者サービスの向上、業務の効率化、コストの削減等を図ることを目的として、活動しています。

活 動 内 容：

本委員会では情報システム・情報セキュリティに関する協議・検討や決定・承認を実施しており、2025年は3月、11月を除き、毎月開催しました。2025年の主な案件は、以下の通りです。

■システム開発・導入関連

- 救急時医療情報閲覧機能 [1月]
- 検査オーダー承認機能 [1月]
- 地域医療情報連携Synapse ZEROを用いた総合せき損センターとの画像情報共有 [4月]
- 心不全の薬物治療の標準化のためのGDTMスコアリングシステムの開発 [8月]
- RRS記録の電子化 [8月]
- 処方オーダー承認機能 [8月]

■情報セキュリティ関連

- 飯塚病院ホームページへの不正アクセス報告 [2月]
- セキュリティインシデント報告および対応状況報告 [5月、6月、7月]
- セキュリティ対策実績報告 [6月、12月]
- セキュリティ強化ツール：ASM（Attack Surface Management）の紹介 [7月]
- 情報セキュリティ対策標準「クラウドサービス導入／利用標準」策定について [10月、12月]
- クラウドサービス利用申請
 - ◆Google Forms [2月、6月、7月]
 - ◆Dr.JOY：AI電話予約サービス [2月]
 - ◆Google Drive：救急科ドキュメント管理 [8月]
 - ◆MDV-Act：病院経営支援システム [9月]
- スマートデバイス利用申請
 - ◆メディカルケアステーション（MCS：Mecical Care Station） [9月]
- リモートアクセスサービス利用申請
 - ◆近隣病院への医師派遣（総合診療科、連携医療・緩和ケア科） [4月]
 - ◆サテライトオフィスでの読影作業（画像診療科） [4月]

■その他

- 医診伝心 定期メンテナンスの周期変更について [6月、12月]
- 次期電子カルテに向けたベンダー電子カルテデモ開催 [9月]

次年に向けて：

電子カルテ・オーダーリングシステム等の強化、地域医療情報連携システム（外来患者Web予約システム等）、医療DX関連（全国医療情報プラットフォーム対応等）、スマートデバイスへのシステム導入、情報セキュリティ関連、AIおよびクラウドの活用、次期電子カルテシステム等の検討・審議を行います。

また、2025年に実施した、Web版システム利用に関する院内ルールを改訂により、2026年からさまざまなシステムの利用が進むと予想されます。医療業界でもランサムウェアによる脅威が問題になってきているので、セキュリティ教育を強化します。

19. 診療情報管理委員会

委員長 福村文雄

目 的：

診療録等の適切な管理・運用を行うと共に、診療支援・医学研究および教育・病院の運営など各種業務の円滑な遂行を図ることを目的とする。また、DPCコーディング委員会としてDPCコーディングに関する運用・管理を行う。

活 動 内 容：

新規フォルダー・新規書式作成

- 感染症科アドミッションノート（白紙）
- ポート自己抜針指導介入患者選定のフロー図
- 線量報告書＋「中央放射線部」フォルダー作成
 - 条件付き承認とした。
- 分娩時絶食時血糖測定専用ワークシート
 - 承認としたが依頼関係者からの要望により保留とした。

報告事項

- 量的点検報告
 - 記載不備の多い診療科へフィードバックを行った。
- 入院診療計画書点検報告
 - 1泊入院、準夜・休日の点検を行い交付の必要ない場合があることを確認した。
- 2024年度診療記録開示結果報告
 - 開示249件。前年度に比べ80件増。51%が弁護士事務所（肝炎訴訟等）
- 診療情報管理委員会 規約改訂
 - 第6条（議事録および保管）について、部署名変更にあたり改定した。

DPCコーディング委員会

- 合併症があると入院期間Ⅱが長くなるケースや点数が上がる仕組み。
- 7日以内の再入院について
- 原疾患に基づくコーディングについて
 - 内容の検討と周知を行った。

次年に向けて：

法律や診療報酬制度において求められる記録を点検していく。さらに記録遵守の向上を目指して、記録を容易にするために電子カルテシステムの改定を考えていきたい。

20. 研修管理委員会

委員長 小田浩之

目 的：

飯塚病院における初期研修・後期研修・専門研修の実施を統括管理すること

活 動 内 容：

奇数月に定例開催

【決定事項】

- 医科初期研修医 第35期 18名の研修修了の承認
- 歯科初期研修医 第6期 1名の研修修了の承認
- 専門研修医 21名の研修修了の承認
- CPC司会者選出方法を「手上げ方式」から「診療科ごとの持ち回り制」へ変更
 - ※CPC司会者の要件：「総合内科専門医資格」を有すること
 - 2025年11月より「診療科ごとの持ち回り制」にて運用開始
- 「飯塚病院臨床研修プログラム運営規程」を作成し、検討・修正後、承認
 - 運用開始：2025年12月1日

【2026年度採用予定】

● 初期研修医

医科：マッチング17名（定員17名）

（採用面接受験者数：62名、中間公表1位希望人数：31名、市中病院ランキング：28位/898施設）

歯科：マッチング1名（定員1名）（採用面接受験者数：3名）

● 専攻医：14名

内科プログラム	：	一次登録	11名（定員12名）
救急科プログラム	：	一次登録	1名（定員4名）
産婦人科プログラム	：	一次登録	1名（定員4名）
麻酔科プログラム	：	一次登録	1名（定員2名）

21. 図書委員会

委員長 藤崎毅一郎
副委員長 小野清恒

目 的：

医学・医療の進展に伴う医療情報の増大に対して効率的な情報収集の支援を行うこと。電子情報化時代に即した蔵書管理、情報収集ツールを採用し、効率化、迅速化を進めること。

活 動 内 容：

- ・ 書面会議を含め毎月1回委員会を開催しています。
- ・ 購読雑誌のアンケートを実施しました。
- ・ 契約電子リソース：医中誌WEB/UpToDate/DynaMed/MEDLINE Complete/
メディカルオンライン/メディカルオンラインイーブックス/
医書.jpオールアクセス/ Full Text Finder/
Ovid Clinical & Hospital LWW Essential Collection
- ・ 外国雑誌タイトル数30（うちオンライン28）
- ・ 国内雑誌タイトル数35
- ・ 購読中止雑誌：Journal of Bone and Joint Surgery/Neurosurgery/医療判例解説
- ・ 購入書籍40冊
- ・ 文献複写依頼206件

次年に向けて：

医学研究・最新医療の提供のためには、膨大な医療情報の中から、迅速で適切な情報抽出が必要となっています。特に文献情報は、電子媒体が中心となり、インターネット検索で得られる事が当たり前となっています。近年書籍・文献も冊子体から電子媒体へと変化が進み、ユーザーにとって、検索の効率化が図れる一方、出版社側は情報の一元的管理を進め、ユーザーに対しより優位な地位を得る結果となっております。最近、複数書籍を閲覧できるパッケージなどが導入されてきたことにより電子書籍への移行を図るように推進してきました。最近の電子媒体使用料の高騰や円安の影響により予算規模の増大が懸念されます。この点に関しましては、これまで進めてきました使用頻度の低い書籍の購入の中止、電子媒体への変更も、電子書籍への移行によって随時見直しています。また、委員のメンバーを院内部署からこれまでより広く募り、院内図書の充実や利用を広く周知することにも力を入れております。今後はこのデジタル化とAIをミックスした学術活動が広がっていくことが予想されます。特にAIへの潮流は増していくと考えますが、この点における図書室の役割はまだ模索中であり、2026年も職員の皆様の学術活動の支援となりますよう活動をしていきたいと考えています。

文責：図書委員長 藤崎 毅一郎

22. クレデンシャル委員会

委員長 名取良弘
副委員長 西淳一郎

目 的：

クレデンシャル委員会は教育・研修ブロックの常設委員会として、飯塚病院勤務医師の能力向上を通じて、飯塚病院で提供される医療の水準と患者の安全を向上させることを目的に活動を実施しています。

活動としては次のように、医師の技量評価に関する検討と資格認定が主な業務です。

【プリヴィレッジ】各医師の診療行為の範囲を定める

【クレデンシャル】プリヴィレッジを定めるにあたって資格を判断する過程

活 動 内 容：

具体的な委員会活動としましては、毎月一回、部長会後に委員会を開催しております。

開催概要としましては、

◆開催日時：毎月1回、部長会議終了後

◆委員：各科管理部長（または部長代行）

◆実行委員：委員長1名、副委員長1名、事務局（人事課）

◆定例の活動：各診療科、医師ごとに作成されたプリヴィレッジリストの検討として、定期的見直し、修正、項目の追加、新任医師の登録などの承認を実施しています。

次年に向けて：

2025年もプリヴィレッジリスト登録の目的や意義の周知を図り、リストの自己評価から実際の技量評価・リスト登録までの流れを説明し、早期の登録や内容の見直しを図ってきました。

特に入職直後の医師の暫定的な評価・登録をできる限り早めに行った上で、3ヶ月後を目処に再評価をしていただくよう周知を図り実行をしてきました。2025年度の登録件数（12月時点）は168件（うち新規入職医師82件）となり、全新規入職医師の94%以上の登録を行うことができました。

2026年も引き続き力量評価表のさらなるブラッシュアップを実施し、100%登録を目指して新任医師についても情報の早期登録を進めてまいります。

また、各医師に対してReviewを行いPrivilegingし、本委員会でCredentialingすることで、各医師のPrivilegingを決定、見える化を行い、将来的に医師全体の評価方法の見直し、評価システムの再考や諸規程の整備につなげていきたいと考えています。

23. 手術室業務改善委員会

委員長 尾崎実展

副委員長 坂本雅美

目 的：

手術室勤務者の業務拡大と資質の向上ならびに手術室運営の効率化を進める。

委員会設立の経緯：

2005 年にヨーロッパ静脈経腸栄養学会 (ESPEN) で公表された術後強化回復プログラム (Enhanced Recovery after Surgery:ERAS) が普及し、術後回復促進の考え方が激変した。これを受け、当院でも手術前・手術中・手術後を区切ること無く周術期として一つの単位と考え、周術期管理チームで管理する発想が生まれた。麻酔補助看護師 (AAN)・手術室エイド (ORA)・手術室テクニシャン (ORT) 等の認証制度を立ち上げ、効率的運用に寄与するべく本委員会が創設され、2015 年から研修ブロック管轄下に院内安全ブロックから移行した。

活 動 内 容：

1. 麻酔補助看護師 (Anesthesia Assistant Nurse:AAN) 制度 麻酔科医の業務の一部である麻酔維持管理を補助する資質を有する看護師を AAN と呼ぶ。麻酔維持管理について学んだ後に、実地指導と試験合格を経て院長より認証される。麻酔科医の指示のもとで麻酔維持管理を行い、麻酔業務を補助する。院内認定で養成を行っていたが、看護師特定行為制度が発足したため、術中麻酔管理領域パッケージ看護師特定行為研修を修了した後、麻酔維持管理の追加学習・実地指導の後に AAN として活動を行うものとした。
2. 手術室エイド (Operating Room Aide:ORA) 制度 手術器械準備業務を看護師に代わって ORA が行う。
3. 手術室テクニシャン (Operating Room Technician:ORT) 制度 手術器械出し業務を看護師に代わって ORT が行う。ステップアップ研修を受け、外科医より評価を受け認証される。
4. 2025 年度の主な活動
 - a) 本年度、1 名が術中麻酔管理領域パッケージ看護師特定行為研修を受講しており、研修終了後、麻酔維持管理の追加学習・実地指導を行い AAN となる予定である。
 - b) ORA 1 名が ORT 研修を終了し ORT に認定され ORT が 3 名となった。ORA・ORT の人員確保が急務と思われ募集中であるが応募のない現状である。

次年に向けて：

ORA・ORT の人員確保につとめる。

麻酔管理領域パッケージ看護師特定行為研修を継続する。

24. 特定行為管理委員会

委員長 名取良弘

目 的：

看護師特定行為全般に関する管理を目的とし、特定行為管理委員会を置く。また下部組織として部会を置き統括する。

活動内容：

① 研修部会

- ・ 2024年度の受講生はなし。
- ・ 2025年度から救急コース（救急領域パッケージ（5区分）＋『循環動態に係る薬剤投与関連』）を開講、且つ、術中麻酔パッケージにも『循環動態に係る薬剤投与関連』を追加。2025年度、術中麻酔コース1名、救急コース4名が受講中。（第3期生）

② 業務部会

- ・ 早稲田大学理工学部棟近研究室との共同研究で特定行為看護師の力量評価システムを構築・完成。
- ・ RRTにおける特定行為看護師の横断的活動についての検討。

次年に向けて：

- ・ 2025年12月時点で2026年度の出願者は4名（術中麻酔コース1名、救急コース3名）。
- ・ 2027年度、新規開講に向け、厚生労働省への申請。
- ・ RRTにおける特定行為看護師の横断的活動に向けての検討継続。

25. 地域医療支援病院研修委員会

委員長 岩佐紀輝

目 的：

地域医療支援病院として地域医療レベルを向上させるために必要な研修会の設立・運営・管理・活動支援を行う。

活 動 内 容：

1. 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実施状況の把握
2. 研修会の案内、運営、参加者の把握などの実務管理

2025年に飯塚病院が主体となって開催された研修会は以下の通り。

- 総開催回数・・・36回（前年24回）
- 延べ参加者数・・・1,574名（前年1,422名）
- 院外からの参加者数・・・998名（前年979名）

研修項目	実施回数	参加者数		
		院内	院外	合計
筑豊小児科医会勉強会	7	124	203	327
骨粗鬆症地域連携に関する情報交換会	1	15	22	37
筑豊地域 MSW 研究会	3	41	30	71
麻生飯塚漢方診療研究会	2	17	40	57
飯塚病院連携施設間会議	1	66	58	124
筑豊救命救急研究会	11	25	132	157
筑豊周産期懇話会	1	37	44	81
筑豊臨床栄養研究会	1	24	14	38
筑豊支部病院薬剤師会	3	67	82	149
筑豊脳血管内治療検討会	1	56	4	60
筑豊地区感染管理ネットワーク	2	17	165	182
飯塚病院地域支援病院報告会	1	64	132	196
飯塚病院 連携の会	2	23	72	95
合計	36	576	998	1,574

2025年の研修会開催回数は、前年の24回を上回る計36回（延べ参加者1,574名、うち院外998名）となった。2025年は、医師のみならず薬剤師やソーシャルワーカーなど、多職種を対象とした研修会を幅広く実施したことが特徴である。特に、新たに飯塚病院連携の会として「飯塚病院・訪問看護ステーション連携の会」を企画開催し、22施設31名の参加を得た。研修回数の増加により、地域の医療従事者に対して多角的な学習機会を提供することができた。今後も地域のニーズに応じた適切な研修プログラムを継続的に企画し、地域医療全体の質向上および多職種間の連携強化を推進していく。

26. 倫理委員会

委員長 名取良弘

目 的：

「ヘルシンキ宣言」および「患者の権利に関するリスボン宣言」の趣旨と、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省/厚生労働省/経済産業省）、その他倫理審査委員会の設置について規定する法律、ガイドライン、その他関係法規・指針に基づき、患者の人権の擁護を目的として、以下の事項を行う。

- 1) 医療をめぐる患者の権利や生命倫理に関する事項についての審査
 - (1) 研究の実施の可否
 - (2) 新規医療行為の実施・継続の可否
 - (3) 上記(1)、(2)以外の医療における倫理に関する事項の適否
- 2) 研究倫理に関する院内教育

活 動 内 容：

原則的に、毎月第3月曜日に開催されている。2025年の当委員会申請総数は166件（対前年比+21%）、新規医療行為2件、臨床研究111件、学会発表39件、適応外使用9件、TQM 5件

部署名	申請数	部署名	申請数	部署名	申請数	部署名	申請数
リハビリテーション部	18	中央検査部	5	麻酔科	2	腎臓内科	1
看護部	16	薬剤部	5	膠原病・リウマチ内科	2	内分泌・糖尿病内科	1
呼吸器内科	14	外科	4	臨床工学部	2	放射線科	1
消化器内科	9	リエゾン精神科	4	中央放射線部	2	診療情報管理室	1
肝臓内科	8	呼吸器外科	3	歯科衛生室	2	医療技術部門	1
循環器内科	8	眼科	3	感染症科	1	栄養部	1
総合診療科	8	連携医療・緩和ケア科	3	漢方診療科	1	医療福祉室	1
集中治療科	7	心不全科	2	形成外科	1	医療安全推進室	1
血液内科	6	小児外科	2	呼吸器腫瘍内科	1	DX推進室	1
整形外科	6	脳神経内科	2	産婦人科	1	院外	1
救急科	5	泌尿器科	2	小児科	1	合計	166

審査結果の内訳は承認159件、不承認3件、修正の上承認1件、保留1件である。申請部署と申請数は先述の表の通りである。

なお、脳神経外科、外科、歯科口腔外科、整形外科、眼科、呼吸器内科は網羅的研究申請承認済み。

また、研究に係る職員に対し、研究指針等の遵守を目的に臨床研究における倫理的事項に関する研修（SafetyPlus）については868名が受講、利益相反（COI）に関する調査については322名が回答した。

次年に向けて：

引き続き飯塚病院における患者の人権の擁護を目的とし活動を行っていく

1. 倫理委員会の開催
 - ・月1回定例に倫理委員会を開催する
 - ・案件に応じ適宜に臨時の倫理委員会を開催する
2. 教育活動
 - ・研究に係る職員に対し研究倫理指針等の遵守を目的に研修を行う

27. 臨床研究管理委員会

委員長 白土基明

目 的：

- 飯塚病院におけるすべての臨床研究の適切な運営管理
- 臨床研究に関する教育活動

活 動 内 容：

- 臨床研究の適切な運営管理を行った。

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に沿って適切に行われるよう、実施状況、実施計画書の変更、同意説明文書・同意書の変更、有害事象及び不具合の発生事例、関係書類の保管状況などについて審査を行った。また定期的な監査を実施した。

1. 委員会の開催

2025 年 7 月 22 日 審議内容：2025 年上期 迅速審査及び監査結果の報告及び審議

2025 年 12 月 23 日 審議内容：2025 年下期 迅速審査及び監査結果の報告及び審議

2. 迅速審査の実施

実施状況の審査：継続99件、終了17件、

実施計画（研究計画書、同意説明文書、ホームページ掲載文書、研究責任者交代、研究分担者追加・変更、研究期間延長、対象期間延長、目標症例数）の変更の審査：183件

3. 監査の実施

監査対象の選出：介入研究または侵襲ありの研究を全研究から無作為に抽出した。2 年以内に行った部署とは違う部署を選出することを原則としている。

上期：看護部 12A（2025 年 7 月 9 日）：A 問題なし

下期：総合診療科（2025 年 12 月 18 日）：A 問題なし

重篤な有害事象に関する報告12件について研究継続承認の報告

- 臨床研究に関する教育活動を行った。

臨床研究の倫理に関する研修（共催：倫理委員会）

研修の対象者：研究に係る職員

Safety Plus：868名（2025年1月～2025年12月の合計）

次年に向けて：

飯塚病院におけるすべての臨床研究において、倫理指針に沿って適切に行われるよう、実施状況、実施計画書の変更、同意説明文書・同意書の変更、有害事象及び不具合の発生事例、関係書類の保管状況などについて審査を行う。また定期的な監査を実施する。

- 通常審査：年2回定期に委員会を開催し審査及び臨床研究に関する事項についての検討を行う。
また、期間に行った迅速審査及び監査の報告を受ける。
重要な案件が発生した場合には臨時で委員会を開催する。
- 迅速審査：研究計画の変更等の審査を随時行う。また実施状況について年に1回審査を行う。
- 監査：年2回、臨床研究の監査を実施する。
- 教育活動：研究者に、年1回の倫理研修の受講が徹底されるよう啓蒙活動を行う。

28. 治験審査委員会

委員長 原 俊彦
副委員長 吉峯晃平

目 的：

審査依頼のあった治験及び製造販売後臨床試験に関し、主に患者利益を保護する観点から倫理的・科学的に妥当な計画・方法であるかを審査し、実施の可否を判断する。又、進行中の治験及び製造販売後臨床試験において、重篤な有害事象、実施計画の変更、内外から報告される有害事象についての安全性、年間の実施状況、逸脱事項等について審査し、その継続の可否を判断、承認を行う。

活 動 内 容：

2025年は、治験の新規審査を12件行った。2024年の13件より-1件の減であった。又、当院で発生した重篤な有害事象について5件（前年比-16）、実施計画の変更について122件（前年比+1）（この内、迅速審査36件）、安全性に関する報告について257件（前年比-5）、継続（実施状況）について19件（前年比+3）の審査を行った。安全性情報の有害事象個別報告共通ラインリストについては事務局で集計し、審議が効率よく進行するようにした。審査の電子化により、効率的に運営している。

その他、1治験を外部審査委員会にて審査を行っているが、治験実施に問題はない。

次年に向けて：

1. 法令（GCP）の規制下にある委員会であるため、今後も違反のないように運営にあたる。
2. 患者の権利保護の視点を徹底し、倫理的・科学的に妥当な審査が行われるよう審査の質のより一層の向上を目指す。
3. 2.の項目のために配付資料等をより分かり易いものとしていく。

29. 脳死判定委員会

委員長 高瀬敬一郎
副委員長 岡松由記

目 的：

臓器の移植に関する法律に基づき、臓器提供施設である当院において発生した「脳死とされうる状態」に該当する患者さんに対して適正な脳死判定を行うこと。ひいては、円滑な臓器提供に資すること。

活 動 内 容：

院内臓器提供コーディネーターの主催により行われている臓器提供勉強会では、医師、コーディネーター、臨床検査技師、看護師らと密接に連携をとり、積極的に参加するとともに必要に応じて講演や情報提供を行っている。この勉強会にて脳死下臓器提供机上シミュレーションを行っている。また年に1回脳死判定委員会を開催し、情報の共有に務めている。

次年に向けて：

今後も勉強会、脳死下臓器提供机上シミュレーションや、脳死患者対応セミナーなどを通じて全員が情報を常に新しく保つよう努力し、実際に「脳死とされうる状態」に該当する患者さんが発生したときに滞りなく作業が進むように環境を整えていくよう努力する。

30. 小児虐待防止委員会

委員長 岡松由記

背景：

当委員会は2006年2月に発足し、同年11月に常設委員会として認可された。2013年6月から児童虐待防止医療ネットワーク事業の筑豊唯一の拠点病院として、児童虐待専門コーディネーターを配置し、児童虐待対応に関する相談への助言等、児童虐待対応力向上のための教育研修を行っている。

目的：

- 院内や地域関係機関と連携し、児童虐待防止の対応強化を行う。
- 支援が必要な児童や妊婦に早期対応し、部門横断的に評価や適切な支援を行う。
- 児童虐待防止拠点病院として、虐待対応に関する相談への助言、地域の体制整備を行う。

活動報告：

- ICT活用による業務の効率化・省力化を通じて、連携・支援のさらなる充実を目指している。
- 要保護児童対策地域協議会のデジタル化推進の連携に関する基本協定に基づき、会議などへの出席を行なった。
- 児童相談所の依頼を受けて、対応（診察・診断書作成など）したケースが6件あった。
- 虐待報告受理件数は、のべ492件（2025年1月～12月）。詳細は下記の通り。

◆内訳（重複有り）

ネグレクト	271
身体的虐待	74
心理的虐待	82
性的虐待	8（疑い2）
要支援	152
除外	22
計	609

◆報告した連携機関（重複あり）

児童相談所	18
（市町村）子ども家庭センター	397
警察	6
保育園・幼稚園	0
学校	0
かかりつけ医	2

※保育、教育機関は市町村（子ども家庭センター）が調整機関となり連携している

次年に向けて：

- 多職種協働・地域連携を継続し、虐待児への対応を行なう。
- 地域の支援機関と連携を深め、児童虐待防止に向けた官民連携を推進する。
- 児童虐待防止に関する教育研修を企画し、地域全体の虐待防止対応能力向上を図る。

31. 患者行動制限最小化委員会

委員長 猪狩圭介

目 的：

精神科病棟入院中の患者で、行動制限を受けている者に対して審議し、患者の人権擁護を目的とする。

活 動 内 容：

■定期的な委員会の開催

毎月第1金曜日、精神保健指定医であるリエゾン精神科部長を委員長として開催。下記事項について審議し、適正かつ最小限の行動制限に改善を図る。

1. 妥当性について倫理的、法的側面と臨床的現実性とを照合しつつ検討
2. 制限範囲の縮小
3. 早期解除
4. 処遇改善
5. 年2回の研修を計画・開催
6. 委員長は審議された事項を、院長に答申

行動制限下にある患者の直近一週間における精神状態、自傷・他害のおそれ、身体合併症、アドヒアランス、認知機能について、当院独自の状態評価スケールを用いて評価し、退院支援としてLOCUSを用いて多職種で情報共有している。これらの評価指標を用いることにより、多面的かつ客観的にリスク評価を行い、行動制限の妥当性を検討している。

■2025年の新規活動内容：

厚生省告示第130号には、隔離や身体的拘束をできる限り早期に代替方法へ切り替えるように努めることが明記されている。精神科救急医療ガイドラインでは、代替方法として、ディエスカレーションや薬物による対応などが推奨されている。本年度は、MRM共催で、リエゾン精神科が院内全職員を対象にして、ディエスカレーションを含めた院内暴力対策の研修会を行っている。また、西一階病棟の看護管理者、病棟薬剤師、リエゾンチームメンバーが協働して、九州精神医療学会で演題発表を行い、精神科病棟での看護師と薬剤師による服薬支援の現状と課題について報告し、他職種連携を強め、患者の精神科治療を支援して、隔離や身体的拘束といった行動制限の最小化に努めている。

次年に向けて：

精神科病棟での行動制限は精神保健福祉法に基づき、精神障害者に対して精神保健指定医の判断のもとで行われる。行動制限は、患者の人権、意思を尊重しながらも、患者の医療、安全および保護の必要性を考慮の上で慎重に行わなければいけない。今後も、過剰な行動制限が実施されていないか、スタッフによる患者虐待が発生していないかなどを常に評価、検討しながら、適切で必要最小限の行動制限を目指す。

32. 個人情報保護委員会

委員長 福村文雄

目 的：

飯塚病院における、診療等に係る個人情報の取得、保有、管理等の厳正な取扱いを図ることを目的とする。

活 動 内 容：

原則的に、月1回開催。下記事項について審議し規程に基づき対応を行う。

1. 個人情報保護法改定に伴う個人情報保護規程の改定
2. 個人情報保護に関する審議依頼への対応
3. 不具合発生に対する再発防止対策
4. 従業員の個人情報取扱いに関する教育

【主な審議】

- 予防医学センターのAI予約サービス利用に伴う個人情報取得について
 - 委託契約を結んだ利用であることを確認し承認とした。
- がんゲノム医療連携に伴うC-CAT・検査会社のシステムに患者情報を登録するうえでの考え方について
 - 患者IDに特定の番号を付与し登録IDとして使用する。容易に個人が特定できないことを確認し承認とした。
- クラウド利用に伴うセキュリティーポリシー見直しと個人情報保護規定の関係について（計7回）
 - 患者の個人情報取扱いに伴う運用フローと院外委託時の覚書を承認および、個人情報保護規程の改定を行った。
- 情報のセキュリティレベルについて
 - 情報のセキュリティレベルⅠ～Ⅲを確認した。

【事例報告】

- 患者の情報を患者の職場の職員へ伝言した事例報告と対応について
 - 伝言も第三者へ患者情報を漏らすことになる。一般化した文書を作成し注意喚起を行っていく。

次年に向けて：

1. 関連部署との連携を図り、院内における個人情報の取得、保有、管理を適切に行う。
2. 従業員の個人情報取扱いに関する教育内容を計画・実施する。

33. 呼吸管理委員会

委員長 飛野和則

副委員長 石垣あい

目 的：

当委員会の目的は、「人工呼吸を使用する患者さんの安全確保と治療の質の向上」である。具体的にはRST（Respiratory Support Team）活動が円滑に行われるよう院内の環境整備を行うほか、RST活動が適切に行われているか、また、人工呼吸管理や合併症の発生率、合併症発生に伴う入院期間延長などについて調査する。その他、人工呼吸器治療の質向上と標準化を目指し、医師や看護師へ教育を行っている。加えて、コスト管理についても見直し、医療事故をなくすために安全な方法や器具を取り入れるよう努めている。

活 動 内 容：

1. RSTラウンド

2006年より、“気軽に相談できる体制作り”を目的として、RST看護師と臨床工学技士が月1回のRST回診を行ってきた。2010年からは、医師、理学療法士を加えた多職種のメンバーで、週1回のRST回診を行った。電子カルテ化に伴い、回診記録の確実性・簡素化を徹底し、治療計画書作成を回診時に行えるよう調整している。

2. 院外向け研修会

2025年実施実績なし

3. 院内看護師研修

6月より新人看護師を対象にビギナーズコース、10月より新人及び中途採用看護師を対象にAコースの研修を行った。

次年に向けて：

在宅人工呼吸器を携帯した患者さんの緊急入院やレスパイト目的の入院も増加が予想され、院内だけの呼吸管理には限界がある。2026年も引き続き、地域ネットワーク作りを着実に進めて行きたい。また、今後も呼吸管理に関わる新しい機器が発売される見込みであるため、知識のアップデートを継続して行う。

34. 褥瘡管理委員会

委員長 井手豪俊
副委員長 平川愛子
加治屋晶子

目 的：

1. 褥瘡発生およびMDRPU発生の要因分析を追究し、より効果的なケアと褥瘡予防対策に結びつけ、発生率の低減と重症事例を出さない取り組みを行う。
2. 褥瘡対策チームと連携し、褥瘡管理に関連した院内システムの再検討を行う。
3. 褥瘡管理に関する質向上のために、褥瘡研修会に参加できないスタッフも含め、総合的に教育計画を策定していく。

活 動 内 容：

1. 褥瘡管理委員会・各病棟の褥瘡リンクメンバーによるミーティングの開催
 - ・褥瘡管理委員会開催日：毎月第4木曜日
院内で起きた事例についてディスカッションを行い、予防と対策の周知をした。
褥瘡管理委員会の中で、多職種を交えて事例検討に取り組んだ。
 - ・褥瘡リンクミーティング開催日：毎月第3月曜日
院内重度褥瘡発生の事例から浮き彫りになった、情報伝達や観察方法などの問題点を、リンクミーティングで協議し対策を立案した。
2. 院内外の関係者に対する研修会の開催
 - ・8月と11月に、褥瘡管理についての知識向上を目的とした研修会を開催した。
3. 褥瘡回診の開催
 - ・褥瘡管理依頼書が提出された事例（月平均約50件）に対して褥瘡チームが介入し、褥瘡管理方法を提案。その後も継続的に定期的評価を行った。重度褥瘡有病者に対しては、月2回程度の褥瘡チーム回診（※医師・WOCN・薬剤師・理学療法士による）を実施した。
4. 褥瘡予防具の管理
 - ・褥瘡予防具（ウェルピー）のカウントを実施（2回/年）
5. 院内褥瘡患者（院外発生・院内発生）に関する動態把握（統計）
 - ・毎月、院内褥瘡発生分析・医療関連機器圧迫創傷発生分析を行い、当月の重点ポイントを全病棟管理者と褥瘡リンクメンバーへ配信した。
 - ・WOCN・病棟褥瘡委員やコメディカルなど多職種で協働しながら予防的ケアを実施し、褥瘡発生率および重症化を更に低減させ、治癒率のアップに努めた。
 - ・2011年2月以降、目標とする院内褥瘡発生率1%未満を継続中である。

次年に向けて：

1. 褥瘡発生および医療関連圧迫機器創傷発生の要因分析を追究し、より効果的なケアと褥瘡予防対策に結びつけ、発生率の低減と重症事例を出さないための活動を継続する。
2. 褥瘡ケアの質向上を目的とした教育計画を、褥瘡リンクメンバーとともに策定していく。

35. 栄養管理委員会

委員長 松永 諭

目 的：

1. 栄養評価・栄養管理の側面から治療をサポートする。
2. 栄養に関する薬剤・食品の選択、デバイスの新規採用や更新に関して、現状を把握するとともに問題点があれば改善に努める。
3. 病院常設委員会として、飯塚病院における栄養管理に関する事項について検討、適正化を図り、院内を指導するほか、下部組織であるNST（栄養サポートチーム）活動が円滑に行えるよう環境整備を行う。適切な活動が行えるようバックアップすることで、最終的には褥瘡・重症感染症・院内感染などのリスクを減少させ、在院日数の短縮、薬剤・材料費用の適正化、入院経済効率改善を達成する。

活 動 内 容：

1. 多様な疾患・病態に対応できるよう、輸液製剤や栄養剤、関連機材の新たな選択や絞込みを行った。
2. これまでの「NST回診」を充実させ、週1回のNSTカンファレンスと回診を行い、個々の症例に対して個別に作成した栄養治療実施計画書に基づいた治療を実施し、栄養治療実施報告書を作成した。
3. 栄養管理委員会を定期的に開催し、上記活動内容の報告・検討を行った。
4. 2024年の診療報酬改定に基づく栄養管理体制の中で標準的な栄養スクリーニングによる評価が求められ、GLIM基準を活用することが望ましいとされている。そのため、現在の栄養スクリーニングシステムを見直し、GLIM基準での栄養評価・栄養管理の運用方法の検討を行い、中央5階病棟にて試験導入した。

次年に向けて：

1. 院内スタッフのNST教育に努め、栄養管理の質向上をはかる。
2. NSTリンクナースの役割を明確にし、病棟スタッフへの情報発信や教育方法を確立する。
3. 地域NSTの更なる連携を目指して、筑豊臨床栄養研究会の開催・内容の見直しを行う。
4. 学会発表を奨励・推進し、外部施設からの講演依頼や投稿依頼を積極的に引き受ける。
5. GLIM基準を活用した栄養評価・栄養管理の試験運用を看護部等の関係する部署と協力して行う。

36. 輸血療法委員会

委員長 喜安純一
副委員長 濱井優輔

目 的：

適正かつ安全な輸血療法の推進を目的とします。

活 動 内 容：

【年 6 回の委員会の開催】

- 血液製剤及びアルブミン製剤の科別使用状況の報告

1 ヶ月毎の血液製剤及びアルブミン製剤の使用量を診療科別に報告しました。また、使用量が特に多かった患者は病名や経過についても報告しました。

- 輸血管理料について

血液製剤適正使用の要件を満たした施設に輸血管理料の算定が認められ、当院は輸血管理料 I の認定施設です。FFP/RBC が0.54未満かつ ALB/RBC が2.00未満であれば輸血適正使用加算が取得できます。2025年は FFP/RBC が0.51、ALB/RBC が1.48と管理基準内であり、輸血製剤が適正に使用されていることが確認されました。引き続き輸血管理料および管理加算を維持できる見込みです。

- 血漿分画製剤の使用状況の報告

1 ヶ月毎の血漿分画製剤の使用量を製剤毎に報告しました。

- 血液製剤、血漿分画製剤の査定状況の報告

血液製剤、血漿分画製剤の査定理由を患者毎に報告しました。

- 輸血関連即時報告

輸血に関連する即時報告の内容・原因・対策について報告しました。

2025年は合計 6 件であり2024年の10件と比較すると大幅に減少しています。注意喚起や手順の見直しなど継続した啓蒙活動の結果だと思われます。

- 製剤の破損報告

2025年の血液製剤の破損金額は923,930円でした。これは2022年の1401,834円から約50万円減少しており、3年連続した減少となっています。これからも善意の献血から供給される医療資源をムダにすることの無いように活動していきます。しかしながら病態変化が予測困難な患者は依然として対応が難しく、破損件数の約半分を占めている状況です。

- 血液センター報告

外部委員として赤十字血液センターより輸血関連の副作用や感染症症例、血液製剤の使用状況などの情報を提供していただきました。

次年に向けて：

より安全で迅速な輸血療法の実施を目指しています。血液製剤の使用・破損状況の把握、諸問題には解決策を実行しながら適正かつ安全な輸血療法の推進に努めます。

37. 診療報酬適正管理委員会

委員長 清田雅智
副委員長 吉田孝一
梶原優子

目 的：

診療報酬請求業務を総括し、適正な請求を目指すことにより病院経営に貢献する。

活 動 内 容：

- * 診療報酬適正管理委員会
月に1回開催し、以下の事項について協議を施行
 - ① 減点金額の集計及び報告
 - ② 減点内容及びその傾向や対応策の検討
 - ③ 各減点内容に関しての再審査請求の決定、申請書類の検討
 - ④ 高額な請求に関して主治医を交えて症状詳記やデータ等の内容検討
 - ⑤ オレンジレポートの指定、検証
 - ⑥ ブルーレポートの指定、検証報告（解決済みの案件）
- * 部長会議での報告（月1回）
- * 医師への保険診療に対する指導・提案（随時）
- * クラークへの査定報告と査定対応策等の指導（月1回）

【各レポートの対応内容】

- オレンジレポート
（過剰な医療行為や、解釈の誤解等に基づく査定に対する、対象者個人への案件）
回収件数：6件 対象項目の内訳（投薬：5件、画像：1件）
具体例：処方制限の認識不足、用法・用量逸脱、過剰検査
- ブルーレポート
（運用面に関係している査定問題で、システムの解決を必要とする案件）
解決件数：2件
具体例：手入力による誤り
 - * 査定対策管理の仕組みを構築（対策する項目の請求から査定結果までを一連で管理）
 - * 査定対策項目のデータ抽出、集計、資料作成においてRPAの活用
 - * 外来検査（腫瘍マーカー、KL-6）での過剰査定の対策
 - * 手術材料の査定（インターシード）について業者、メーカーとの面談

次年に向けて：

この10年でみると、2018年のピーク時に比べて入院、外来とも査定金額は半分のレベルの減少を持続できています。次年度は、外来検査での過剰査定の対策を拡充、高点数注射薬の査定対策データ抽出・資料作成を行います。

38. 臨床検査適正化委員会

委員長 大石善丈
副委員長 犬丸絵美

目 的：

検体管理加算（Ⅳ）に関する施設基準の一部を満たすために設立された委員会である。院内における臨床検査を適正に運営し、監視する。具体的には各診療科が求める臨床検査を整備し、検査内容が正確かつ迅速、確実に報告される環境を整える。また他部門からの要求を協議し、ムリ・ムダ・ムラを生じさせず、検査の妥当性を確認する。

活 動 内 容：

委員会は毎月1回開催した。飯塚病院の各委員会、各診療科の医師から提出された要望や中央検査部内から提出された要望（依頼方法の変更、新規導入、検査項目セット化、検査法の変更等）について適正であるか審議し、適切に変更・導入をおこなった。以下、主な活動内容を報告する。

- 2月：LSI精度管理データ改竄項目（一部）の委託先変更（SRL）を承認
血液ガス分析装置変更に伴う基準範囲の設定変更を承認
- 3月：カルバペネマーゼ産生確認試験CIM Tris法の導入を承認
- 4月：百日咳菌検査（LAMP法）の院内導入を承認
ブリーバラセタム（抗てんかん薬）血中濃度測定の院内導入を承認
- 6月：CGPの結果登録先と、結果の閲覧制限を設けることについて承認
抗てんかん薬（レベチラセタム、ラモトリギン、ラコサミド）TDMの院内導入を承認
- 8月：NT-proBNPおよびトロポニンTの院内導入を承認（移行期間として、当面はBNP、トロポニンIもそれぞれ測定できる体制をとる）
皮膚科医のタスクシフトとして、新規オーダー項目（皮膚真菌塗抹検査）作成を承認
- 11月：尿中レジオネラ抗原検査において、血清群1型のみ検出対象であることが分かるような結果記載方式への変更を承認

（活動内容から一部抜粋）

次年に向けて：

引き続き臨床検査の適正化を図ると共に、不適切な依頼方法や無駄な検査を洗い出し、業務改善に繋げる。また委員の参加率を上げ、多くの意見をいただけるよう進行を工夫しながら臨床側のニーズも喚起し、より充実した臨床検査を目標に運営していきたい。

39. 骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS）委員会

委員長 小宮山敬祐

副委員長 大田佳江

目 的：

1. 骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS：Osteoporosis Liaison Service）は、骨粗鬆症の啓発・予防・診断・治療のための多職種連携システムである。骨折リエゾンサービス（FLS：Fracture Liaison Service）チーム（FLSチーム）及び二次性骨折予防継続管理料チーム（二骨チーム）を運営し、飯塚病院における骨粗鬆症治療管理を適正化する。
2. FLSチームは、骨粗鬆症骨折患者に対する再骨折予防のために診療支援を行う
3. 二骨チームは、診療報酬加算の算定漏れ・不適切算定を防ぐため、職種横断で加算要件の理解を深め、記録・運用の標準化を推進することで、確実な加算取得と医療の質向上を実現する。

活 動 内 容：

- ・ 2025年7月 委員会発足
- ・ 定例会議開催（7月9月12月）
- ・ 2025年8月 チーム編成アンケート調査（委員・メンバー全員）
- ・ 2025年9月 6チーム（FLS・加算・薬剤・運動・栄養・地域連携）に編成
- ・ FLSプロトコル作成 各チーム勉強会？
- ・ 2025年10月より大腿骨近位部骨折術後患者に対しFLS病棟ラウンドを開始
- ・ 2025年12月 加算伝票の改定、地域連携に関する書類（バトンツール）作成
- ・ 2025年12月 加算要件である院内勉強会開催

その他

メンバー交代

2025年12月より【委員】小田浩之（総合診療科）→福田雄太（総合診療科）

次年に向けて：

2026年も引き続き、下記について重点的に活動を行う予定である

- ・ FLS病棟ラウンド対象患者の拡大と運用
- ・ FLS病棟ラウンドメンバー再編成（輪番制）
- ・ FLSプロトコル改訂
- ・ 骨粗鬆症治療院内プロトコル作成と運用
- ・ 患者教育用骨粗鬆症DVDの改定（院内無料チャンネル、C3Fディールーム視聴）
- ・ バトンツールの運用と広報

40. がん診療連携委員会

委員長 本村健太

目 的：

「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針（厚生労働省）」に基づき、地域がん診療連携拠点病院としての体制整備の推進および飯塚病院における「がん診療」に関わる環境整備を推進する。

活 動 内 容：

【活動①】福岡県がん診療連携協議会および専門部会への参加

会議名	開催回数	2025 年開催月
がん診療連携協議会	2 回	3 月、9 月
緩和ケア専門部会	2 回	1 月、8 月
研修・教育専門部会	2 回	1 月、8 月
地域連携・情報専門部会	2 回	1 月、7 月
がん登録専門部会	2 回	2 月、8 月

※ Web 会議もしくは対面開催

【活動②】委員会の開催：6 回（2025年 2 月・4 月・6 月・8 月・10 月・12 月）

○主な検討・確認事項

- ・福岡県がん診療連携協議会および各専門部会の報告
- ・地域がん診療連携拠点病院における要件の確認・情報共有
- ・がんゲノム医療連携病院指定取得および実施状況の報告等
- ・がん診療連携拠点病院要件の『市民向け講座の体制づくり』の報告

（がん診療連携拠点病院要件に基づく）

【その他】

○メンバー離任

- ・2025年 3 月 龍野 恵子（がん相談支援センター）
- ・2025年 3 月 都留 和宏（地域共創・広報戦略課）

○メンバー着任

- ・2025年 2 月 岡本 正博（乳腺外科）
- ・2025年 4 月 細川 智美（患者相談支援室：がん相談支援センター）
- ・2025年 4 月 内田 静香（地域共創・広報戦略課）

41. がん集学治療委員会

委員長 白土基明
副委員長 飛野和則

目 的：

- (1) 地域がん診療連携拠点病院としての体制整備の推進
- (2) 飯塚病院のがん集学治療の構築
- (3) 飯塚病院のがん診療の向上のための方策を提言

活 動 内 容：

① 化学療法のレジメン審査

2025年 63件

② 2025年化学療法実績

	入院化学療法件数 (ハイケア 3F 入院件数)	外来化学療法件数	
		総数	加算症例のみ
2025 年	2,283	9,642	7,876
2024 年	1,986	9,130	7,527

③ 化学療法に関する診療の問題点の検討や改善策の実施

- ・ de novo B 型肝炎発生対策のための HBV マーカー実施状況のモニター
- ・ プロトコールオーダリングシステムの見直し
- ・ 新規プロトコール審査手順の見直し
- ・ がんチーム医療推進勉強会開催：11回 総参加者 476名

次年に向けて：

- ・ HBV マーカー実施状況のモニター継続
- ・ プロトコールオーダリングシステムの再構築
- ・ 外来化学療法室の円滑な運用方法の検討・提言

42. 緩和ケア委員会

委員長 柏木秀行
副委員長 中山隆弘
宮崎万友子

目 的：

1. 飯塚病院の緩和ケアの向上のための方策につき提言する。
2. 地域がん診療連携拠点病院としての緩和ケア体制の整備を推進する。
3. 緩和ケアセンター体制の促進。

活 動 内 容：

- ・委員会開催：3回（3月・6月・9月 第1火曜日）
- ・メンバーが、各々の部門での活動目標を明確にし、取り組みを実施した。
- ・緩和ケアチーム研修会 2025年1月23日（木）開催
- ・医師等に対する「緩和ケア研修会」開催
 - ◆第17回 2025年9月13日（土）開催
 - ・受講生 23名（院内21名 院外2名）
 - ・講師 6名（外部講師2名・がん患者からの講演1名を含む）
 - ・ファシリテーター 8名
 - ・事務局 3名

その他

○メンバー交代

- ・2025年3月より

【委員】

龍野 恵子（がん相談支援センター） → 細川 智美（患者相談支援室:がん相談支援センター）

- ・2025年6月より

【委員】 ビスタ 仁衣奈（栄養部） → 山崎 彩（栄養部）

次年に向けて：

2026年も引き続き、下記について活動する予定である。

1. 緩和ケアセンター設立準備
2. 緩和ケア研修会の実施（2026年9月12日（土）開催予定）
3. がん診療連携拠点病院として緩和ケア体制の整備の促進

〔Ⅶ〕 院 内 報 告

1. 飯塚病院地域医療支援病院運営委員会活動報告

事務局 地域連携センター

目 的：飯塚病院が地域の医療機関の要請に適切に対応し、地域全体の医療機能の向上と効率に必要な支援を行っているかを審議する。

活動内容：本年は計4回の委員会を開催し、紹介・逆紹介率の維持や共同診療の推進など、地域医療連携の実効性が確認された。委員からは小児救急の役割分担や心臓リハビリ、高度な専門医療、災害医療体制への高い評価が寄せられた。物価高騰や人材確保など経営環境が厳しさを増す中、地域の「最後の砦」として飯塚医師会等と緊密に連携し、地域全体で支え合う体制を維持・強化していく重要性が改めて確認された。

委員会での話題提供（トピックス）

	開催月	発表者	タイトル
第67回	2月	西 淳一郎 循環器科内科部長	循環器内科による 地域医療支援の取り組み
第68回	5月	藤崎 毅一郎 腎臓内科部長	慢性腎臓病（CKD）の診療
第69回	8月	甲斐田 幸輝 リハビリテーション部技師長	飯塚病院リハビリテーション部心臓リハビリテーション
第70回 (第19回 報告会)	11月	座長：佐々木 智成 飯塚病院副院長 ①松川 龍一 心不全科部長 ②二宮 瑞樹 外科統括部長	①心不全診療の現在地 ②新しい飯塚病院外科 ～体にやさしい医療を筑豊の患者さんへ～

飯塚病院地域医療支援病院運営委員会委員（27名）

（2025年12月時点）

委員長	本村健太	飯塚病院院長
副委員長	岩見元照	飯塚医師会会長
	岩佐紀輝	飯塚病院副院長兼医療連携本部長
保健福祉行政関係者	東 剛史	飯塚市福祉部長
	伊勢真美子	嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所保健監
	大塚千穂子	嘉麻市福祉事務所健康課課長
	岡松則人	飯塚地区消防本部警防課長
医療関係者	肘井孝之	飯塚医師会副会長
	田中 晃	飯塚医師会専務理事
	野見山祐次	飯塚医師会副専務理事
	児嶋良太	飯塚医師会地域医療・地域包括ケア担当理事
	大塚隆彦	飯塚医師会地域医療・地域包括ケア副担当理事
	後藤英伸	飯塚歯科医師会会長
	藤浦大介	飯塚薬剤師会会長
学識経験者	藤尾光彦	近畿大学産業理工学部情報学科 教授
	村上 直	九州工業大学大学院情報工学研究院 准教授
市民代表	井上節子	飯塚市婦人会会長
	松隈隆和	飯塚ロータリークラブ会長
	柳瀬葉子	九州車いすテニス協会事務局長
飯塚病院職員	名取良弘	飯塚病院副院長
	福村文雄	飯塚病院副院長
	中島雄一	飯塚病院副院長
	飛野和則	飯塚病院副院長
	藤崎毅一郎	飯塚病院副院長
	佐々木智成	飯塚病院副院長
	井本俊之	飯塚病院副院長
	森山由香	飯塚病院副院長

2. VHJ (Voluntary Hospitals of Japan) 活動報告

経営企画室 室長 森 智之

VHJ機構は、医療の質の向上を図るため、自主的な研究活動を全国的に展開するとともに、データベースの構築・情報の提供、啓発活動を通じて保健・医療・福祉向上に寄与することを目的とする特定非営利活動法人（NPO法人）であり、2025年現在、42施設が加盟しています。

■ VHJ機構の事業

- 経営情報活用事業
- 臨床研修推進事業
- その他事業

今年は、倉敷中央病院が幹事病院としてVHJ職員交流研修会を実施しました。
概略は、以下記載のとおりです。

■ 第35回 VHJ研究会職員交流研修会

- ・ 日時：2025年10月10日（金）～11日（土）
- ・ 幹事病院：公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
- ・ 会場：1日目 岡山県倉敷市（倉敷市芸文館，倉敷アイビースクエア）
2日目 同上 （倉敷中央病院）
- ・ 内容：1) 講演会
 - ①主幹病院挨拶・紹介（倉敷中央病院より）
 - ②基調講演Ⅰ「認知症の克服をめざして」
国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 所長 岩坪 威 氏
 - ③基調講演Ⅱ「大原美術館－その理念とコレクション」
大原芸術研究所所長 大原美術館館長 東京大学名誉教授 三浦 篤 氏
- 2) 分科会
 - ①分科会：経営・地域連携 ー新たな地域医療構想を見据えて
 - ②分科会：看護管理 ー働きやすさから働きがいのある職場へ
 - ③分科会：チーム医療 ー業務効率化と質の向上の二兎を追う
 - ④分科会：人材確保と人材育成 ー医療職の確保と育成
 - ⑤分科会：リハビリテーション ーリハビリ部門運営の現状とこれから
- 3) 飯塚病院見学
- 4) 事務長会議

■ その他

- ・ VHJ会員病院、各施設との情報共有（アンケート依頼・回答）を行っています。
- ・ 2025年より事務長会議（現地およびWEB）が発足し、病院間での意見交換を進めています。

3. 改善活動報告

改善推進本部

1) Everyday Kaizen (EK) 活動

EK活動は、「身の回りの問題に気づき、改善できるようになる」ことを目的に、原則一人で一ヶ月以内に行う改善活動です。

2025年は1,165件のEK活動報告が提出されました。そのうちの263件は「Bottom Up, Rewarding Job～若手からアイデアを、現場からやりがい～」をテーマに掲げて実施したEK活動推進キャンペーン期間中（10月1日～11月30日）に提出されました。



2) TQM (QCサークル) 活動

TQM活動では2025年「まごころ医療」で、地域の未来を支える」をメインテーマに、TQM活動推進委員会推奨テーマとして『ムダの削減』を掲げ、2月～10月まで改善活動に取り組みました。

TQM活動発表大会は、2025年10月4日にのがみプレジデントホテルにて対面形式で開催しました。以下の通り報告します。

(1) サークル発表数：18（口頭発表17、フォローアップ報告1）

(2) 表彰サークル（部署・サークル名）

	部署名	サークル名	テーマ	受賞状況
第1会場	中央第六病棟	まゆこワールド★	「症状緩和が迅速にできる体制づくり～ハートをつけて病室でお待ちしています～」	最優秀賞
	薬剤部	業務の鉄人	「薬剤師による病棟業務の拡充」	優秀賞
	リハビリテーション部	それゆけ!!!リハパンマン!!! ～添書が辛くて力が出ないよ～	「リハビリ添書の作業時間の短縮と質の向上」	審査員特別賞
	E4 救急・HCU	E4 救急・HCU timeless ～意思決定支援忘れているようじゃ無理か。意思決定支援はね、参加しとかないと～	「意思決定支援の充実による看護の質の向上」	お客様賞
第2会場	中央検査部 感染管理センター	はいよろこんで ～血培サポートします～	「血液培養検査における検査前プロセスの適正化」	最優秀賞
	東第四病棟	入院？はいよろこんで！	「入退院における患者の待ち時間削減」	優秀賞 お客様賞
	医療福祉室	三代目医療福祉侍	「外来相談における、対応者の心的負担の軽減」	審査員特別賞

(3) 参加者数：361名 内訳：会場343名、Web視聴（院内職員限定）：18名

※TQM活動発表大会の詳細は、要旨集に記載しています。

3) Kaizen ワークショップ (KW) 活動

KW活動は課題達成・リーダー育成を目的として、通常業務を離れて2日間集中的に改善を行う活動です。2025年にKW活動の2日間を実施した部署とテーマは以下の通りです。

活動部署	KW 日程	テーマ	内容
中央検査部	2月18日 19日	安心・安全な病理検査室を目指して ～患者間違いを起こさない仕組み作り～	◆病理検体の最終確認方法の変更 ◆検体確認における中断時のルールの見直し
中央第五病棟	2月27日 28日	清拭の時間だよ！全員集合！！	◆タイムスケジュールの見直し ◆清拭に関するルールの決定
14A 外来	3月27日 28日	診療日以外の診察終了後、患者の「待つストレス」「迷う不安」ゼロを目指して～患者に優しい透明でスムーズな外来診療の効率化～	◆診療日以外の予約手順の整理 ◆診療日以外の患者診察終了後会計処理のプロセス変更
栄養部	6月26日 27日	調理と栄養管理の二刀流を目指して ～業務の掛け持ち負担を強みにかえたい～	◆新人教育に関わる作業の効率化 ◆新人のニーズに合わせた教育資料の整理
中央第六病棟	7月30日 31日	未来の緩和ケア病棟の役割を定義する	◆緩和ケア病棟に求められる役割の可視化 ◆看護師に求められるスキルの整理
救急救命室	8月20日 21日	患者処置（診療）第一に！！ ～診療情報取込に翻弄されない環境を目指して～	◆救急救命士の受付業務・手順の見直し ◆紹介患者のCD-R取り込み業務・手順の変更
リハビリテーション部	9月9日 10日	退院時の指導方法と指導料算定業務の改善	◆退院時指導の資料管理・検索ファイル作成 ◆退院時指導算定ワークフローによる可視化
東第八病棟	9月17日 18日	物品管理リノベーション ～見える・分かる・途切れない～	◆3定の決定とカンパンの作成 ◆動線を意識した物品の配置変更
診療支援課	10月23日 24日	外来初診における医師の返書作成支援	◆初診返書作成支援の標準手順決定 ◆返書作成の新規支援導入手順作成
中央放射線部	11月6日 7日	電話対応の作業を見直し、業務に集中できる環境を整備する	◆当日単純検査依頼の手順の変更 ◆電話対応および情報共有方法の見直し

4) 改善ベルト制度

改善ベルト制度は、当院の改善活動をリードする職員を増やし、継続的に改善活動の指導者が育成される仕組みを作ることとを目的として、2011年より開始した制度です。

2025年は、11名の方がKAIZENシルバーベルト、2名の方がKAIZEN ゴールドベルトを取得され、8月8日に表彰式を行いました。現在のKAIZENベルト保持者は、シルバーベルト103名、ゴールドベルト31名で、改善活動の指導者としての役割を担っていただいています。

5) 改善発表大会

(1) 2月10日 参加者数：88名

活動部署	テーマ	発表者
13B 外来	手術を受ける患者の思いに寄り添った外来看護の実現 ～入院説明のプロセスの中で患者の心の声を聴く～	高口 則子
東第四病棟	食べることは生きること ～入院前の食事形態を目指して～	辻 あゆみ
リハビリテーション部	リハビリ評価・訓練実施時の時間とスペースの不具合を解消する	安藤 幸助
栄養部	カリウム制限食の最適解への道 ～疑問からはじまった業務改善～	高口 瑞希

(2) 7月23日 参加者数：76名

中央放射線部	朝礼の改変 ～スタッフ全員の情報共有と、業務時間内に行えるシステムの構築～	満園 耕治
薬剤部	棚卸し作業の負担軽減と病棟業務時間の確保	梅田 勇一
中央検査部	安心・安全な病理検査室を目指して ～患者間違いを起こさない仕組み作り～	川嶋 大輔
中央第五病棟	清拭の時間だよ！全員集合！！	日高 久美子

4. ISO9001 品質マネジメントシステム（QMS）活動報告

改善推進本部 森 香奈枝・佐野美和子

2025年1月21日～23日に外部審査（更新審査）を受審し、引き続きISO9001の認証を得る事ができました。また、新任部長に対してISO9001活動の個別説明を実施し、内部監査では主任監査員としての役割を担っていただきました。

以下、2025年の活動内容をご報告いたします。

【活動内容】

1月21日～23日	ISO9001 外部審査 受審【表1】
6月	新任部長へISO9001活動について個別説明実施【表2】
11月	ISO9001外部審査説明 動画配信
12月	全職員へISO9001外部審査（2026年分）実施について周知

【表1：ISO9001外部審査報告】

審査期間	2025年1月21日～23日（更新審査）				
審査対象部署 / 委員会	41 審査（71 部署 / 委員会）				
評価出来る事項	54 件	観察事項	34 件	不適合	0 件

【表2：ISO9001活動個別説明】

実施日	2025年6月3日～6月24日	対象人数	新任部長7名
説明者	ISO管理責任者	説明内容	ISO9001 概要及び活動内容（内部監査や外部審査等）等

5. イノベーション活動報告

イノベーション推進本部 本部長 本村健太

工房・知財管理室 室長 井桁洋貴

CI推進室 室長 清田雅智

イノベーション推進本部（IPO）はPatient Firstの原点に立ち、「まごころ医療」の実践を目指して、医療の質向上のための医療イノベーションの推進を目的として活動している。2025年の活動およびその実績を以下に報告する。

<工房・知財管理室>

1) 「飯塚メディコラボ」の推進

「飯塚メディコラボ」は、医療機器等の開発を目指すメーカー等の団体に医療現場の観察機会を提供し、現場ニーズに基づく開発につなげる企画として2016年10月に開始した。2025年は、九州大学の「橋渡し研究プログラム（異分野融合型研究開発推進支援事業）」補助事業を通じ、九州大学・早稲田大学のチームの受入を行った。

2) 医療デバイス開発取組みの推進

院内から収集されたニーズやアイデアに基づく共同開発や製品化を推進しており、院内スタッフから11件の投稿を受け付けたほか、企業との意見交換など、開発に関して20件、医工連携に関して24件を実施した。8月には「医工連携フォーラム・ビジネスマッチング会in飯塚」に参加し、飯塚地域の他病院とともに臨床ニーズを発表し、新たなデバイスの開発を目指し、メーカーや地元企業との個別商談を実施した。また10月には、幕張メッセにて開催された「メディカル・ジャパン東京」において、福岡県のブース内に飯塚市立病院・福岡県済生会飯塚嘉穂病院・当院の3病院にて出展し、「飯塚メディコラボ」の紹介を行ったほか、福島県郡山市にて開催された「メディカルクリエーションふくしま」では、MCF大賞の審査員を務めるなど、院外においても積極的な活動を行った。

3) 院内スタッフへの啓蒙活動

職員の啓蒙とイノベーション活動推進を目的に「イノベーション道場」を開催しており、6月には「国の医療DX推進とPHRの可能性」のテーマで講演会を実施した。

4) 院外組織との連携・交流

飯塚市、九州工業大学、飯塚研究開発機構とともに「飯塚医療イノベーション推進会議」を組織し、地域の活性化につながる医工連携を推進しており、定期的な意見交換を実施した。また、筑豊地域医療・福祉関連支援委員会の委員を務めるなど、地域における企業支援にも注力しているほか、九州大学の「橋渡し研究プログラム（異分野融合型研究開発推進支援事業）」補助事業についても、事業分担者として2022年より協力を継続している。さらには、イノベーション活動の推進と医療の質向上を目的とした海外機関との交流も継続しており、11月には、IPO設立以来交流のあるFogarty Innovationを訪問したほか、Stanford大学Biodesign部門においても意見交換を実施した。

< CI推進室 >

1) CI推進室メンバーの選定、CI推進室の設置

2024年10月に発足した。2025年3月より半年で組織作りを行い、室長以下コアメンバーと動画作成メンバーの6名の協力者を得た。また、南病棟1階に専用の部屋が設置された。コアメンバーは、概ね月1階程度、定期的に米国の協力者と会合を行いながら、CI教育のコンテンツ作りの素案を練った。年度の後半にCIコンテンツ作りを開始した。今後、CI教育を行うdigital platformを構築し、院内の職員に教育コンテンツの配信を始める計画である。

2) AMIA参加による米国の状況視察

2025年5月にカリフォルニア州Anaheimで行われたAMIA(米国医療情報学会)学会に参加し、併せてUCLAでのCI組織の活動を現地視察した。学会では、米国の電子カルテでのAIの立ち位置を学び、UCLAではCIの組織作りのあり方を学んだ。

2025年11月にジョージア州Atlantaで行われたAMIA総会に参加し、東京大学、ユタ大学の日本人と知遇を得た。途中New YorkのNYP/Weill-Cornell大学にて現場視察を行った。

生成AIが半年の間に急速に進化し、実装されてきた現状を確認した。今後、海外で知り合ったCIの専門家から当院のCI推進に対しての助言や、講演を行っていただく計画である。

3) 今後の展望

2026年3月までにCI教育を促す動画を視聴できる環境を院内に実装する計画である。次年度からコンテンツの内容をさらに充実させ、院内でDXを推進するための職員のレベルアップを目指したいと考えている。

6. 地域包括ケア推進本部活動報告

地域包括ケア推進本部 小栗和美

地域包括ケア推進本部は、主に医師会や行政が行う地域包括ケア推進(在宅医療・介護連携)に関する事業へ支援を行う「地域包括ケア事業業務」と、介護保険に関する相談・支援を行う「介護保険支援業務」を行っていたが、医療・介護機関の連携にとどまらず、今後はインフラの整備や人口流出といった地域課題にも目を向け、行政や多様な関係者と協働しながら、「地域を共創する」姿勢が必要である。こうした流れを踏まえ、地域住民の視点を大切にしたブランディングを推進し、渉外機能の強化を通じて、広報活動をより戦略的に展開していく必要がある。そのため、2025年4月より従来の「地域包括ケア推進本部」と「広報課」の機能を統合し、互いの強みを活かしながら、新たに「地域共創・広報戦略課」として再編・始動する。このため、今回は2025年1月～3月までの活動およびその実績を報告する。

【地域包括ケア事業業務】

(1) 医師会との連携・事業における協働推進

当本部より飯塚医師会地域包括ケア推進センターに職員を派遣。医師会内で行政からの委託を含む様々な地域包括ケア事業を実施し、飯塚医療圏の地域包括ケアシステムの構築に貢献した。行政委託の事業は以下などがある。

- ・飯塚市、嘉麻市、桂川町 在宅医療介護連携推進事業
 - ・福岡県在宅医提供体制充実強化事業
- 等

(2) 行政との連携・事業における協働推進

- ・飯塚市、嘉麻市、桂川町の介護保険地域支援事業への協力
 - ・飯塚市社会福祉協議会地域権利擁護事業運営審議会
 - ・地域ケア会議政策形成部会
 - ・厚生労働省研究補助事業への協力
- 等

(3) 筑豊地域医療サポーター 2.0養成講座 再開

2024年6月に再開した本講座は、行政や住民組織を巻き込んだ形式で展開している。2025年3月には飛野和則医師を講師に「肺がんに関する最新の治療事情」を開催し、75名が参加した。学びを通じて地域全体で命を支え合う「顔の見える繋がり」を育んだ一年であり、住民の皆様と歩んだこの活動は、安心して暮らせる地域づくりの確かな礎として次なる体制へ引き継がれる。

【介護保険支援業務】

(1) 院内職員の家族の介護に関する現状調査、支援

職員が抱える家族介護の不安・負担軽減を目指し、40歳以上の職員を対象に家族介護に関する現状を再調査した。職員に、当本部は患者だけでなく職員の家族介護の相談でも利用可能だと周知し、2025年1月～3月には職員からの家族介護の相談に9件対応した。

(2024年：44件)

（２）介護保険に関わる相談、申請支援

介護保険の申請作業や加入後に受けられるサービスの内容は複雑な構造となっており、患者やその家族への負担が大きい。そのため、介護保険に関する相談や申請の支援を実施した。対応した件数は2025年1月50件、2月43件、3月59件（合計149件）だった。（2024年：557件）

（３）ケアプラン作成

2025年1月14回、2月14回、3月15回（合計43回）のケアプランを作成。
（2024年：157回）

（４）介護保険主治医意見書のチェックおよび管理

「主治医意見書」は介護保険申請や更新に必要な書類で、被保険者の主治医によって作成される。当部では当院で作成されたすべての主治医意見書の不備のチェックと受け渡しを行っている。2025年1月～3月にチェックを実施した主治医意見書の月毎の件数は、1月147件、2月143件、3月137件（合計427件）だった（2023年：1,716件）。

（５）筑豊地区介護予防センター業務（福岡県より受託）

当院は福岡県より筑豊地区介護予防支援センターとしての業務を受託しており、当本部においてリハビリテーション部と共同で以下の業務を実施。

- ・市町村や介護従事者を対象とした研修の実施

2025年1月「聴覚フレイル」研修を開催 29名参加

- ・フレイル予防事業

定期的な住民向けフレイルチェック活動に加えて、

2025年2月 飯島勝矢教授（東京大学 高齢社会総合研究機構）による
飯塚市講演会をサポート

7-1. 医学研究推進本部活動報告

本部長 佐々木智成
(事務局：臨床研究支援室)

2025年1月～12月までの医学研究推進本部の活動実績は下記の通りです。

目 的：

職員に対し、臨床研究に関する経済的支援ならびに学術的功績の評価等を通じて、当院における学術活動をより活発なものにし、当院からの臨床研究を根付かせ、患者、病院や地域に還元（貢献）する。

本部の活動内容：

1. 臨床研究助成金の認定とその授与
2. 学術奨励賞の認定とその授与
3. 運営基盤の整備

2025年度活動内容：

- 1) 臨床研究助成金規程および学術奨励賞規程を全面的に見直し、運用を開始しました。
- 2) 業務上必要な情報の共有をslackで行い、定期ミーティングを実質廃止とし、業務改善を行いました。

<参考>2025年（1～12月）に、医診伝心に入力された論文は合計128編（英文19、和文109）でした。

英文論文	19
和文論文	109
合計	128

7-2. 臨床研究支援室 活動報告

室 長：佐々木智成
副室長：古賀秀信

2025年1月～12月までの臨床研究支援室の活動実績は下記の通りです。

(1) 科研費 関連

2025年は、当院から2つの研究課題に対する科研費応募への支援を行いました。

- ・03/10 第7回 不正防止計画推進部署 公的研究に関する会議
- ・04/02 研究活動における不正行為への対応に関するガイドラインに基づく取組状況に係るチェックリスト提出（文部科学省 競争的研究費調整室）
- ・04/28 2024年度 経営会議 報告
- ・05/28 令和8(2026)年度 科研費 公募要領 に関する院内周知（部長会）
- ・09/16 第4回 科研費内部監査
- ・09/30 第8回 不正防止計画推進部署 公的研究に関する会議
- ・10/03 体制整備自己評価チェックリスト 提出（文部科学省 研究公正推進室）

(2) 臨床研究支援 関連

a) 研究実務支援

部門	事前相談等	倫理審査に関する 支援 等	Data Management 統計解析 関連	発表・論文に関する 支援 他	合計
医師	10	4	23	19	56
看護部	2	2	7	23	34
医療技術	9	12	11	11	43
事務・その他	0	0	2	15	17
合計	21	18	43	68	150

b) 臨床研究支援室が支援した論文および演題発表 * PubMed, 医中誌および医診伝診から検索可能分

<論文>

- Germline variants and mosaic chromosomal alterations affect COVID-19 vaccine immunogenicity. Cell Genom. 2025 Mar 12;5(3):100783. doi: 10.1016/j.xgen.2025.100783. Epub 2025 Mar 4.
- Clinical characteristics and outcomes of acute type A aortic dissection in out-of-hospital cardiac arrest patients: A retrospective study. Int J Cardiol. 2025 Dec 1;440:133708. doi: 10.1016/j.ijcard.2025.133708. Epub 2025 Aug 5.
- Evaluation of a direct method for detecting extended-spectrum β -lactamase using the Cica-beta test on positive blood culture bottles. Microbiol Spectr. 2025 Nov 4;13(11):e0111225. doi: 10.1128/spectrum.01112-25. Epub 2025 Oct 8.
- Association between prehospital adrenaline administration and short-term outcomes in patients with shockable out-of-hospital cardiac arrest undergoing extracorporeal cardiopulmonary resuscitation: a propensity-score matched analysis. Int J Cardiol Heart Vasc. 2025 Jun 30;59:101735. doi: 10.1016/j.ijcha.2025.101735.
- Investigation of Changes in the Rate of Renal Function Decline Before and After Embedding Peritoneal Dialysis Catheter. Ther Apher Dial. 2025 Dec;29(6):927-928. doi: 10.1111/1744-9987.70049. Epub 2025 May 29.

- Ceftriaxone for Methicillin-Susceptible Staphylococcus aureus Bacteremia: A Descriptive Case Series of Nine Patients During a Cefazolin Shortage. Cureus. 2025 Oct 6;17(10):e93977. doi: 10.7759/cureus.93977.
- 直視型ラジアル超音波内視鏡を用いた膵癌胃癌検診の有用性 腹部超音波膵癌検診との比較を中心に、日本消化器がん検診学会雑誌(1880-7666)63巻4号 Page560-572

<学会発表>

- ・再挿管率の至適範囲についての多施設後方的研究 (第52回 日本集中治療学会：福岡市)

c) 臨床研究に関するCRC業務 合計36試験

d) 倫理審査支援：2025年のQIは下表の通りです(管理値=100%)。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
支援件数	2	0	1	1	1	3	2	0	0	2	1	1
初回通過件数	2	-	1	1	1	3	1	-	-	1	1	1
割合*(%)	100	-	100	100	100	100	100	-	-	50	100	100

*割合=倫理委員会事務局に提出された、作成支援を希望する当院主管臨床研究における倫理審査初回通過割合(%)

(3) 教育関連

a) Basic Skillセミナー：上期に開催しました。

内容	参加数	内容	参加数
STROBE statement について	2	生成 AI に関する話題・情報提供、その他	28
疫学と統計	6	品質とデータについて	6
Excel に慣れる, 活用する, 好きになる!	14	真因を探る!	6

b) 研究倫理・コンプライアンス教育

教材名	受講者数 合計人数(名)					備考
	合計	医師	看護師	医療技術	事務その他	
「研究」に関する倫理	868	162	304	347	55	
コンプライアンス教育	469	24	241	176	28	9月まで(以降、メール配信)

c) 利益相反(COI) 申告 合計322件(医師93、看護師91、医療技術122、事務・その他16)

8. 治験管理室活動報告

治験管理室 神野貴子

治験管理室は、治験の科学的な質と成績の信頼性を確保し、患者さんの権利と安全を守ることが念頭おき、治験実施の支援、管理を積極的に行っています。

- (1) 治験ごとに治験コーディネーターを配置し治験を実施する医師の支援や患者さんへの説明、検査や来院の管理を行っています。
- (2) 治験使用薬を保管庫に施錠保管および温度管理を行っています。
- (3) 治験使用薬および特定臨床研究治療薬の調剤を行っています。
- (4) 治験に関する記録や治験審査委員会の承認書等を保管管理しています。
- (5) 治験の実施可能性について製薬会社より依頼された調査票の作成を行っています。
- (6) 発売後の薬剤の有効性・安全性の調査である製造販売後調査の契約窓口となっています。

●2025年の新規治験受託実績

実施診療科	目標症例数	対象疾患名	開発相	二重盲検
外科	1	肝切除癒着防止剤	—	
腎臓内科	5	高血圧合併慢性腎臓病	III	●
血液内科	5	COVID-19	III	●
呼吸器内科	2	非嚢胞性線維症性気管支拡張症	II b	●
産婦人科	6	子宮内膜症	III	●
産婦人科	2	子宮内膜症	III	●
呼吸器内科	3	気管支拡張症	III	●
肝臓内科	1	肝腎症候群	III	●
呼吸器内科	2	COPD	III	●
眼科	1	緑内障	III	●
肝臓内科	1	肝細胞癌	III	●
呼吸器内科	2	喘息	II	●

●2025年の治験実施可能性調査

79件

●2025年の製造販売後調査受託実績

特定使用成績調査2件 使用成績調査3件 副作用調査3件

9. 当院における分離菌と薬剤感受性

中央検査部 微生物検査室

2025年は、新型コロナウイルス感染症に加え、季節性インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎、百日咳など、複数の病原体による感染症の流行が確認された年となりました。特に百日咳については、2024年12月以降報告数が増加傾向を示し、2025年7月まで増加が続いた結果、統計開始以降で最も多い報告数を記録しました。

当院ではこれまで百日咳菌の院内検査を実施していませんでしたが、流行状況を踏まえ、2025年6月に百日咳菌核酸検出検査（Loop-mediated Isothermal Amplification：LAMP法）を新たに導入しました。これにより、百日咳が疑われる患者に対して、より迅速な検査結果の提供が可能となりました。

また、2025年4月からは厚生労働省により感染症の管理方法が変更され、急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）としてのサーベイランスが開始されました。これらの感染症動向を注視しつつ、院内における早期対応と適切な感染対策に引き続き努めてまいります。

近年、医師の業務負担軽減を目的としたタスクシフトや、臨床検査技師による病棟業務の必要性が高まっています。当院ではその一環として、皮膚真菌塗抹検査および血液培養検体採取の2項目について取り組みを実施しました。

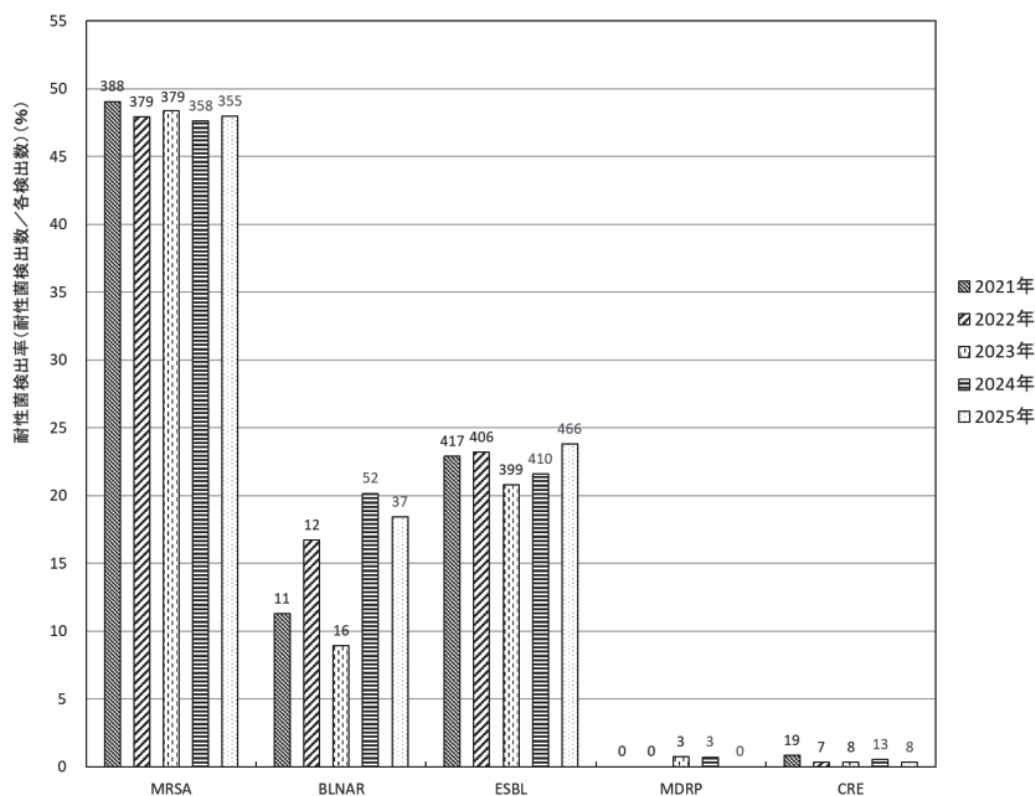
皮膚真菌塗抹検査については、皮膚科医師および総合診療科医師とともに昨年より段階的にトレーニングを重ね、2025年10月より、臨床検査技師のみでの検体採取および検査を開始しました。対象は、陰部湿疹や足白癬が疑われる入院患者とし、従来は入院中に皮膚科受診まで約1週間を要していたところ、診断および治療開始までを最短で当日中に行うことが可能となりました。この取り組みは、診療の迅速化および臨床現場への貢献につながったものと考えています。

血液培養検体の採取については、Total Quality Management（TQM）活動を通じて臨床検査技師が採取手技を習得し、血液培養採取の機会が少ない病棟や、採取スタッフが不足している状況において、臨床検査技師が採取補助として対応できる体制を整備しました。本取り組みにより、血液培養における適正な採血量の確保や汚染率の低下に寄与することを目指しています。

今後も、急激に高度化・複雑化する医療への対応や、医師の業務負担軽減および医療の質向上に資する体制構築に努めてまいります。

● 分離菌情報

A) A) 耐性菌検出率：耐性菌検出数（グラフ上部数値）／各検出数



MRSA：methicillin resistant *Staphylococcus aureus*

BLNAR： β -lactamase negative ampicillin resistant *Haemophilus influenzae*

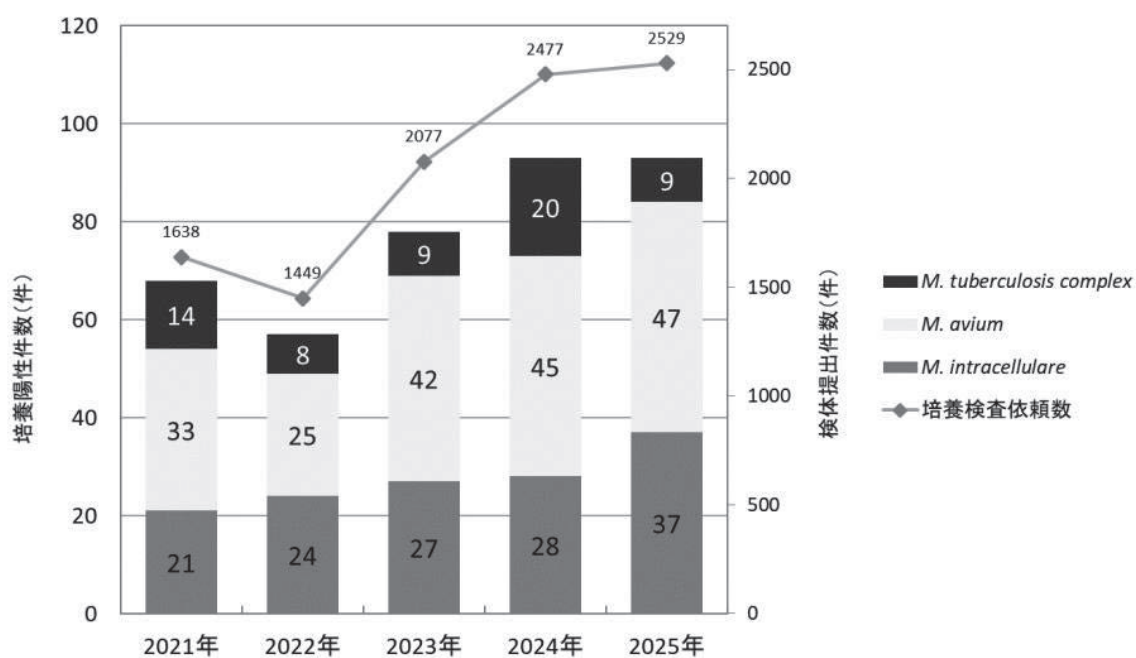
ESBL：extended spectrum β -lactamase

MDRP：multi drug resistant *Pseudomonas aeruginosa*

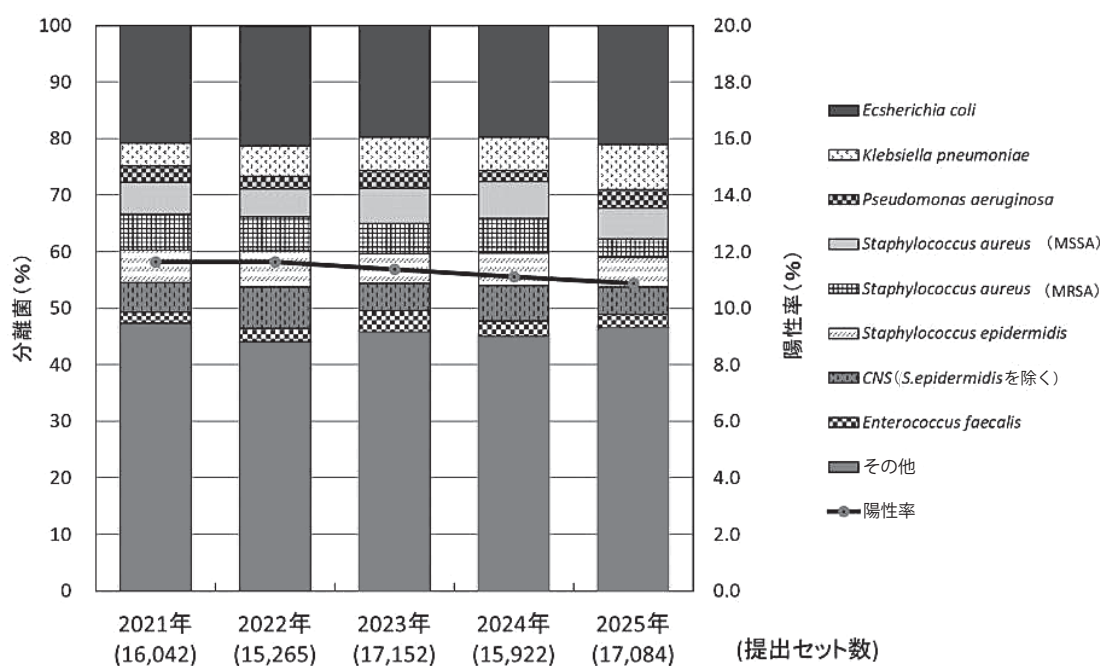
CRE：carbapenem resistant *Enterobacteriaceae*

ESBL の検出率および検出件数が昨年より増加しております。直近 5 年間で最多となっており、今後の動向に注視が必要です。近年増加が懸念されている CRE（カルバペネム耐性腸内細菌目）の検出数および検出率については大きな増減はありませんでした。

B) 抗酸菌動向 (*Mycobacterium tuberculosis complex*, *M. avium*, *M. intracellulare*)



C) 血液培養陽性率（陽性セット数／提出セット数）と検出菌の内訳（検出菌数／血液培養検出菌総数）



● 薬剤感受性

A) 成人 グラム陽性球菌

菌名	株数	MPC	S/A	OZ	ONZ	IPM/OS	GM	EM	CLDM	MINO	LVFX	TEO	VOM	LZO	ST	RFP
Staphylococcus aureus (MSSA)	307	100	100	100	100	100	72	68	69	99	75	100	100	100	99	99
Staphylococcus aureus (MRSA)	240	-	-	-	-	-	50	15	16	87	5	100	100	100	99	99
Staphylococcus epidermidis	122	38	38	38	38	38	59	46	58	95	49	100	100	100	89	98

菌名	株数	POG	ABPO	CTX	OTRX	OPFM	MEPM	EM	AZM	CLDM	LVFX	VOM	OP
Streptococcus pyogenes	20	100	100	100	100	100	100	84	84	NR	100	100	100
Streptococcus agalactiae	148	100	100	100	100	100	100	55	55	NR	66	100	88
Streptococcus dysgalactiae	48	100	100	100	100	100	100	67	67	NR	96	100	100

菌名	株数	POG	ABPO	CTX	OTRX	OPFM	MEPM	EM	AZM	CLDM	LVFX	VOM	OP
Streptococcus viridans group	54	91	91	98	98	98	100	49	51	96	85	100	100

菌名	株数	POGm	POGmm	C/A	CTXm	OTXmm	OTRXm	OTRXmm	OPFMmm	MEPM	EM	AZM	CLDM	LVFX	VOM	ST	OP	RFP
Streptococcus pneumoniae	77	68	100	100	86	100	88	100	99	71	10	13	NR	94	100	81	91	100

菌名	株数	POG	ABPO	EM	MINO	TEO	VOM	LVFX	LZO	RFP
Enterococcus faecalis	305	100	100	41	39	100	100	92	100	48
Enterococcus faecium	161	22	22	10	43	100	100	17	100	20

B) 成人 グラム陰性桿菌

菌名	株数	ABPO	S/A	C/A	P/T	OZ	COL	ONZ	OPDK-P	OTRX	CXZ	OPFM	IPM/OS	MEPM	AZI	GM	AMK	MINO	OPFX	LVFX	ST
<i>Escherichia coli</i> (全体)	1202	49	63	84	97	58	64	99	67	69	69	70	99	99	69	91	99	93	52	56	79
<i>Escherichia coli</i> (CTX耐性)	376	0	34	68	95	0	0	97	0	0	1	3	99	99	2	86	98	93	10	16	62
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	449	R	77	88	98	80	84	99	84	84	84	85	100	100	84	89	100	89	80	87	82
<i>Klebsiella oxytoca</i>	190	R	74	88	88	28	86	99	91	87	93	92	99	99	88	99	100	97	91	96	95
<i>Proteus mirabilis</i>	81	86	90	98	100	81	96	100	100	100	100	100	NR	100	99	91	99	0	74	77	90
<i>Enterobacter cloacae</i> complex	204	R	R	R	78	R	R	R	30	53	58	92	94	98	62	100	100	93	87	89	89
<i>Enterobacter aerogenes</i>	64	R	R	R	73	R	R	R	50	53	58	97	94	97	64	100	100	98	94	95	98
<i>Citrobacter freundii</i> complex	88	R	R	R	94	R	R	R	36	73	73	87	97	97	74	100	100	90	83	86	85
<i>Citrobacter koseri</i>	54	R	89	91	98	87	89	94	89	89	91	89	100	100	89	98	100	94	87	89	94
<i>Serratia marcescens</i>	62	R	R	R	69	R	R	R	29	NR	58	100	NR	100	66	98	98	98	77	79	100

菌名	株数	S/A	C/A	P/T	OZ	OTRX	ONZ	OPFM	AZI	GM	AMK	OPFX	LVFX	ST
<i>Aeromonas</i> sp	57	39	30	86	0	77	95	96	93	100	100	96	98	95

菌名	株数	PPRO	P/T	S/A	ONZ	OPFM	AZI	IPM/OS	MEPM	OPFM	GM	AMK	TOB	MINO	OPFX	LVFX	ST
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	386	94	94	-	95	96	86	89	95	97	92	99	99	-	93	90	-
<i>Acinetobacter baumannii</i> complex	24	83	NR	100	92	92	-	100	96	100	-	100	100	100	92	92	92
<i>Stenotrophomonas maltophilia</i>	42	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	98	-	93	98

菌名	株数	ABPO	C/A	S/A	COL	OPFM	CTX	OTRX	GM	OPFX	LVFX	MEPM	RFP	MINO	ST	OP
<i>Haemophilus influenzae</i>	123	47	79	73	66	100	100	100	91	100	100	100	NR	99	66	98

菌名	株数	ABPO	S/A	ONZ	OTRX	IPM/OS	MEPM	CLDM
<i>Bacteroides fragilis</i> group	27	0	85	74	26	100	96	56

C) 小児

菌名	株数	WAP0	S/A	OZ	OM	IPM/OS	GM	EM	CLDM	MINO	LVFX	TEB	VOM	LZD	ST	RP
<i>Staphylococcus aureus</i> (MSSA)	15	100	100	100	100	100	67	67	67	100	80	100	100	100	100	100
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA)	10	-	-	-	-	-	50	44	44	100	10	100	100	100	90	100
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	8	25	25	25	25	25	38	38	63	100	38	100	100	100	88	100

菌名	株数	POC	ABPO	CTX	CTRX	GFPM	MEPM	EM	AZM	CLDM	LVFX	VOM	CP
<i>Streptococcus pyogenes</i>	2	100	100	100	100	100	100	100	100	NR	100	100	100

菌名	株数	ABPO	S/A	C/A	P/T	OZ	COL	OM	GFPM	CTRX	CLZ	GFPM	IPM/OS	MEPM	AZI	GM	AMK	MINO	OPFX	LVFX	ST
<i>Escherichia coli</i> (全体)	21	48	62	86	100	71	76	100	81	81	81	86	100	100	86	95	100	100	57	57	67

菌名	株数	PfPO	P/T	S/A	OM	GFPM	AZI	IPM/OS	MEPM	OPFX	GM	AMK	TOB	MINO	OPFX	LVFX	ST
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	8	100	100	-	100	100	88	88	100	100	75	100	100	-	88	88	-

菌名	株数	ABPO	C/A	S/A	COL	GFPM	CTX	CTRX	GM	OPFX	LVFX	MEPM	RP	MINO	ST	CP
<i>Haemophilus influenzae</i>	2	0	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	NR	100	100	100

【備考】

- 2025年1月1日～2025年12月31日の期間に提出された検体を集計対象とした。但し、同一患者から検出された同一菌は、初回の分離株のみを集計対象とした。また、監視培養検体より検出した菌は除外した。
- 表の数値は、対象菌株のうち「S」（感受性）を示した菌株の割合（％）を示している。
- ブレイクポイントの判定は、CLSI M100-S30 に準拠して行った。
ただし、*Aeromonas* sp. は CLSI M45-A3、*Bacteroides fragilis* group は検査委託先の判定結果を使用した。
- *Streptococcus viridans* group は無菌検体より検出した菌株のみを対象とした。
- 成人の *Escherichia coli* は、「全体」と「第3世代セフェム系抗菌薬（CTX）耐性」とで識別して記載した。
- それぞれの結果で、90％以上の感受性を認める項目の背景を している。
- 表記が「NR」の項目は、当検査室で実施している検査方法では報告することのできない菌と薬剤の組み合わせである。
- 「R」は、その菌種の自然耐性により必ず耐性の結果が報告される薬剤である。
- 菌株数が30に満たない菌種については、「参考値」とする。
- 次の菌種において、カッコ内の薬剤は尿路分離株で結果を報告していないため、計算対象から除外している。

MSSA、MRSA、*S. epidermidis* (EM、CLDM、MINO)

S. agalactiae (EM、AZM、CLDM、CP) *E. faecalis*、*E. faecium* (EM)

- *Streptococcus pneumoniae* については、髄膜炎以外では「nm：non meningitis」、髄膜炎では「m：meningitis」を参照のこと。

10. 研修スケジュール (2025 年度)

初期研修医1年次

2025 年 12 月 31 日現在

ローテーション 開始日	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	2	9	16	23	30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
氏名																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
植田 凌平	消化器内科			肝臓内科			ER			脳神経外科			脳神経内科			産婦人科			血液内科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科			産婦人科					

オリエンテーション

初期研修医2年次

ローテーション 開始日	3
----------------	---

11. 研修医募集の記録

2025 年

大 学 名	受験者数	採用者数	見学		クリニカルクラークシップ	
			受入(延べ人数)	うち採用者数	受入(実人数)	うち採用者数
弘前大学			1			
岩手医科大学			2			
東北大学			2			
東北医科薬科大学			3			
東京科学大学			1			
東京医科大学	1		1			
東邦大学	1		3			
帝京大学			1			
昭和医科大学			1			
聖マリアンナ医科大学			1			
埼玉医科大学			1			
千葉大学			1			
国際医療福祉大学	2		6			
筑波大学			1			
愛知医科大学	1		1			
藤田医科大学			1			
信州大学			2			
岐阜大学	1		1			
三重大学						
金沢大学	1				1	
富山大学			1			
福井大学	1		2			
近畿大学			2			
関西医科大学	1	1	2	1		
神戸大学						
兵庫医科大学			3			
京都大学			1			
広島大学			5			
岡山大学			1			
川崎医科大学			1			
鳥取大学	1	1	2	1		
島根大学			2			

大 学 名	受験者数	採用者数	見学		クリニカルクラークシップ	
			受入(延べ人数)	うち採用者数	受入(実人数)	うち採用者数
山口大学	2		9			
愛媛大学	1	1	1	1		
香川大学	2		3			
徳島大学			2			
九州大学	12	5	55	5	4	
福岡大学	4	2	12	2	2	
産業医科大学	1		5			
久留米大学	5	1	23	1		
大分大学	2	2	10	2	4	
佐賀大学	6	1	15	1		
長崎大学	3	2	19	2		
宮崎大学	2		9		7	
熊本大学	4		9			
鹿児島大学	5	1	13	1		
琉球大学	2		6			
ハンガリー国立 デブレツェン大学	1					
Charles University					1	
合計	62	17	243	17	19	0

歯科

大学名	受験者数	採用者数	見学	
			受入(延人数)	うち採用者数
九州大学	2	1	10	1
九州歯科大学			1	
明海大学	1		1	
合計	3	1	12	1

12. ファシリティ本部活動報告

本部長 名取良弘
事務局 森 智之

■発足の経緯：「Patient Firstを追求し、選ばれる高度急性期・急性期病院」を念頭に、
施設・設備の将来に向けての計画を立案・推進する部門として2020年4月に発足

■目 的：施設・設備の将来に向けての計画を立案・推進

■2025年活動内容：

1. 新棟の機能、既存棟に残す機能に関する必要なスペースやファンクションの整理
2. 厨房、手術室などを優先した建替えプラン、および建替え候補地の検討
3. 建替えにかかる必要コストの再試算

■2026年の活動：

1. 調理環境の改善を目的とした厨房機能リニューアルの内容、
および整備スケジュールの設定と実行
2. 飯塚病院の将来構想に合わせた、新棟構想の検討継続
3. 新棟建設における投資回収計画の検討
4. 関係部署における設計要件の検討
5. 基本設計時期の検討

以上

13. 表彰

① 令和6年度 飯塚病院学術奨励賞

領域	賞区分	部署	執筆者	タイトル	発表誌
	富永賞	肝臓内科	栗野哲史	Diagnostic features of autoimmune hepatitis in SARS-CoV-2-vaccinated vs. unvaccinated individuals	Experimental and therapeutic medicine
	指導者賞	肝臓内科	田中紘介	Diagnostic features of autoimmune hepatitis in SARS-CoV-2-vaccinated vs. unvaccinated individuals	Experimental and therapeutic medicine
看護部門	トップ賞	看護部	倉智恵美子	セル看護提供方式®における朝の引き継ぎの標準化と課題	日本医療マネジメント学会雑誌
	指導者賞	名誉院長	田中二郎	セル看護提供方式®における朝の引き継ぎの標準化と課題	日本医療マネジメント学会雑誌
医療技術部門	トップ賞	リハビリテーション部	中根知尋	Association between Active Hobby before Hospitalization and Frailty at Discharge in Patients with Acute Cardiovascular Disease	Progress in Rehabilitation Medicine
	指導者賞	リハビリテーション部	横手 翼	Association between Active Hobby before Hospitalization and Frailty at Discharge in Patients with Acute Cardiovascular Disease	Progress in Rehabilitation Medicine
英文原著領域	最優秀賞	膠原病リウマチ内科	大田俊行	Impact of anti-human IgG hinge peptide antibodies on identification of patients with early seronegative rheumatoid arthritis	Clinical and Experimental Rheumatology
	優秀賞	内視鏡センター	赤星和也	Short-term outcome of endoscopic submucosal dissection using a clutch cutter for subepithelial lesions within the esophagogastric submucosa a Japanese prospective observational study	Clinical Endoscopy
	優秀賞	整形外科	久保祐介	Radiological features of the carpometacarpal joint in hamate body fracture on anteroposterior hand X-ray image	Journal of Orthopaedic Science
	優秀賞	総合診療科	工藤仁隆	Added Value of Eastern Cooperative Oncology Group-performance Status to Quick Sequential Organ Failure Assessment for the Diagnosis of Bacteremia in Older Patients with Suspected Infections	Cureus
	優秀賞	呼吸器内科	吉峯晃平	Trousseau's Syndrome in Lung Cancer Patients: A Retrospective Study in a Japanese Community Hospital	Cureus Journal of Medical Science
	指導者賞	呼吸器内科	飛野和則	Trousseau's Syndrome in Lung Cancer Patients: A Retrospective Study in a Japanese Community Hospital	Cureus Journal of Medical Science
	努力賞	脳神経内科	進村光規	Tranexamic acid-induced involuntary movements and convulsions in patients undergoing cardiac and thoracic aortic surgery using cardiopulmonary bypass	Epilepsy & Seizure
英文症例報告・短報領域	最優秀賞	感染症科	沖中友秀	Significance of early diagnosis and surgical management in treating Mycobacterium immunogenum-related pyogenic extensor tenosynovitis: a case report	BMC Infectious Diseases
	指導者賞	感染症科	的野多加志	Significance of early diagnosis and surgical management in treating Mycobacterium immunogenum-related pyogenic extensor tenosynovitis: a case report	BMC Infectious Diseases
	優秀賞	感染症科	的野多加志	Borderline Lepromatous Leprosy Therapy Complicated by Type 1 Leprosy Reaction and Adverse Reactions with Dapsone and Clofazimine	American Journal of Tropical Medicine and Hygiene
	優秀賞	総合診療科	新元貴久	Cytokine release syndrome following COVID-19 infection during treatment with nivolumab for cancer of esophagogastric junction carcinoma: a case report and review	International Journal of Emergency Medicine
	指導者賞	総合診療科	戸高貴文	Cytokine release syndrome following COVID-20 infection during treatment with nivolumab for cancer of esophagogastric junction carcinoma: a case report and review	International Journal of Emergency Medicine
	優秀賞	循環器内科	川上将司	Novel method for diagnosing takotsubo syndrome with left ventriculography using a microaxial flow pump in temporary surgical mode in a patient with cardiogenic shock: a case report	European Heart Journal Case Reports

英文症例報告・短報領域	優 秀 賞	呼吸器内科	西澤早織	Sarcoidosis mimicking lung cancer: Clinical image	Journal of Clinical Images and Medical Case Reports
	指導者賞	呼吸器内科	飛野和則	Sarcoidosis mimicking lung cancer: Clinical image	Journal of Clinical Images and Medical Case Reports
	努 力 賞	呼吸器内科	坂部光邦	Eosinophilic granulomatosis with polyangiitis developed during treatment with benralizumab for severe asthma: A case report and literature review	Respirology Case Reports
	努 力 賞	呼吸器内科	山元隆太	Cryptococcal Pleuritis in an Immunocompetent Patient: A Case Report and Literature Review	Cureus Journal of Medical Science
	努 力 賞	呼吸器内科	大田裕晃	A Case Report of Hemophagocytic Lymphohistiocytosis and Meningitis Due to Atezolizumab Treatment for Lung Adenocarcinoma	Cureus Journal of Medical Science
	努 力 賞	呼吸器内科	平松由莉	Immunoglobulin A Vasculitis After Initiation of Treatment for Tuberculous Pleurisy: A Case Report and Literature Review	Cureus Journal of Medical Science
	努 力 賞	呼吸器内科	川畑隆史	Bilateral Diaphragmatic Nerve Paralysis Secondary to Cervical Spondylosis: A Rare Case	Cureus Journal of Medical Science
	努 力 賞	呼吸器内科	村中瑞旗	Unveiling the Unexpected: Lung Adenocarcinoma Presenting With Penile Mondor's Disease and Multiple Thrombotic Complications	Cureus Journal of Medical Science
	努 力 賞	呼吸器内科	大田裕晃	Acute Lung Injury Caused by Mugwort Steaming	Cureus Journal of Medical Science
	努 力 賞	呼吸器内科	内田和紀	Successful Treatment of Postmenopausal Exacerbation of Abdominal Lymphangiomyomatosis With Sirolimus: A Report of a Rare Case	Cureus Journal of Medical Science
	努 力 賞	産婦人科	八木光生	Peritonitis caused by Mycoplasma hominis after laparoscopic total hysterectomy: a case report	Case Reports in Women's Health
	努 力 賞	産婦人科	竹内 肇	Laparoscopic bilateral salpingo-oophorectomy for recurrent ovarianendometriotic cysts in a woman taking adjuvant tamoxifen for breastcancer: A case report	Case Reports in Women's Health
	努 力 賞	産婦人科	李 理華	Transverse vaginal septum in a teenager with a history of imperforate hymen: A case report	Journal of Pediatric Surgery case reports
	努 力 賞	産婦人科	李 理華	Transverse vaginal septum in a teenager with a history of imperforate hymen: A case report	Journal of Pediatric Surgery case reports
和文総説・著書領域	最優秀賞	救急科	山田哲久	緊急治療 感染 COVID-19	すぐに役立つ 脳神経外科救急ハンドブック改訂3版
	優秀賞	内視鏡センター	赤星和也	超音波内視鏡	日本消化器内視鏡学会卒後教育委員会編「消化器内視鏡ハンドブック」
	優秀賞	漢方診療科	吉永 亮	かぜの漢方治療アップデート “かぜっぽい”からインフルエンザ・COVID-19 まで	総合診療（商業誌）
	努力賞	薬剤部	進 健司	リエゾン精神科での薬剤師外来	薬局（商業誌）
和文原著領域	最優秀賞	リハビリテーション部	木戸孝史	肺癌手術患者における入院期間中の運動耐容能改善は術後1ヶ月の運動耐容能に影響する	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌
	指導者賞	リハビリテーション部	奥野将太	肺癌手術患者における入院期間中の運動耐容能改善は術後1ヶ月の運動耐容能に影響する	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌
	優 秀 賞	連携医療緩和ケア	石上雄一郎	不搬送指示と ACP の問題点	日本在宅救急医学会誌
	優 秀 賞	整形外科	園田和彦	Patient specific guide を用いた大腿骨転子間弯曲内反骨切り術の骨切り精度	Hip Joint'24

和文原著領域	優 秀 賞	整形外科	小宮山敬祐	レーザーガイド下におけるマニュアル THA はナビゲーション THA のインプラント設置精度に迫れるか	Hip Joint'24
	優 秀 賞	総合診療科	井上三四郎	大腿骨近位部骨折患者のコードステータスに関する話し合いー コマナジメントにより治療した 256 例の検討	整形外科
和文症例報告・短報領域	最優秀賞	看護部	久保佳子	皮膚・排泄ケア認定看護師の認識からみた褥瘡予防とセル 看護提供方式 [®]	日本医療マネジメント学会雑誌
	指導者賞	名誉院長	田中二郎	皮膚・排泄ケア認定看護師の認識からみた褥瘡予防とセル 看護提供方式 [®]	日本医療マネジメント学会雑誌
	優 秀 賞	看護部	佐野美和子	患者状態（フェーズ）移行条件を転棟基準として活用した取 り組み～第 7 波 COVID-19 陽性患者 救急病棟からの転棟～	日本臨床知識学会誌
	優 秀 賞	リハビリテー ション部	大西悠太郎	高齢大動脈解離 Stanford A 型術後患者に対して上肢運動と 呼吸療法の併用により呼吸困難感が改善した一例	循環器理学療法学
	指導者賞	リハビリテー ション部	横手 翼	高齢大動脈解離 Stanford A 型術後患者に対して上肢運動と 呼吸療法の併用により呼吸困難感が改善した一例	循環器理学療法学
	優 秀 賞	血液内科	津田麻理子	亜鉛サプリメント過剰内服により骨髄異形成症候群との鑑別 を要する二系統血球減少を来した 1 例	日本病院総合診療医 学会雑誌
	優 秀 賞	肝臓内科	古賀勇太	脾摘後の切除不能肝細胞癌に対しデュルバルマブ・トレメ リムマブ併用療法が奏効した 1 例	肝臓
	努 力 賞	漢方診療科	原田直之	起立性調節障害に伴う睡眠相後退症候群に赤丸料による温 補治療が奏効した一例	日本東洋医学雑誌
	努 力 賞	整形外科	古谷武大	関節リウマチ患者にサルモネラを起因菌とした人工膝関節 感染をきたした一例	九州リウマチ
	努 力 賞	臨床心理室	松尾純子	セラピストが移行の援助者として機能すること	大分大学臨床心理研 究

② 麻生グループ社員表彰

社 長 賞	栄養部
経 営 貢 献 賞	呼吸器内科グループ
	臨床研究支援室 古賀秀信
	臨床研究支援室 科研費事務局
	TQM 活動推進分科会
	改善推進本部 寺岡理恵子
	リハビリテーション部 医学研究推進部
	看護部 宮崎万友子

③ 「Nurse Of The Year 2025」 表彰

チームを支える影のヒーロー

1 位	栗原春香（西一階病棟）
2 位	平田静香（南 3 B 病棟）
3 位	福原志津香（南 3 A 病棟）
4 位	辰島里美（東第七病棟）
5 位	熊川未来（北第五病棟）
6 位	堤 瑞穂（中央第四病棟）
7 位	中島則子（14 A）
7 位	笹栗あけ美（13 B）
8 位	島津志津香（東第八病棟）
9 位	五所美雪（南 2 A 病棟）
新人賞	小栗日菜乃（H 2 救急）

④ 職務姿勢に関する医師評価表彰

Doctor of the Year 2025	
清田雅智（総合診療科）	
Doctor of Distinction Year 2025	
浅沼 翼（感染症科）	川上大裕（集中治療科）
井手ひろみ（呼吸器内科）	工藤仁隆（総合診療科）
大田裕晃（呼吸器内科）	黒坂一輝（肝臓内科）
大武瑞樹（小児科）	柴田茉祐（内分泌・糖尿病内科）
大野 幸（麻酔科）	竹内 肇（予防医学センター）
岡村のぞみ（腎臓内科）	西山 哲（産婦人科）
嘉陽宗臣（リエゾン精神科）	松永 論（総合診療科）

卒後研修に関する医師評価表彰

Clinical Educator of the Year 2025（ベスト指導医）
大内田良真（総合診療科）
Clinical Educator of the Year 2025（内科系ベスト指導医）
鶴木友都（総合診療科）
Clinical Educator of the Year 2025（外科系ベスト指導医）
濱井優輔（麻酔科）

研修医表彰者一覧

Resident of the Year 2025（ベスト研修医）	石田大祐
Power of the Year 2025（協調性・積極性に優れている研修医）	上杉優佳
Intelligence of the Year 2025（判断能力・知識が優れている研修医）	塩瀬遥佳
Share of the Year 2025（研修医が選ぶベスト研修医）	塩瀬遥佳
Technical Excellence of the Year 2025(手技評価の承認ポイント第 1 位の研修医)	塩瀬遥佳

〔Ⅷ〕 医師部門および主要職員名簿

1. 医師名簿

(2025 年 12 月 31 日現在)

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
	本村健太	九州大学（大学院）	H3 (H11)	1991 (1999)	院長 兼イノベーション推進本部長 兼予防医学本部長 兼イノベーション改善運営会議議長 兼地域包括ケア推進会議議長 兼卒後教育評議会議長 兼救命救急評議会議長 兼TQM推進会議議長 兼高気圧酸素治療室長
	名取良弘	九州大学	S60	1985	副院長 兼脳神経外科部長 兼救命救急フィールド長 兼救命救急センター長 兼予防医学本部長補佐 兼ファシリティ本部長 兼東第六病棟医長 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	福村文雄	九州大学	S60	1985	副院長 兼医療安全推進本部長 兼医療安全推進室長 兼改善推進本部顧問 兼情報本部長 兼診療情報管理室長 兼診療支援フィールド長
	中島雄一	福岡大学	H1	1989	副院長 兼改善推進本部長 兼手術フィールド長 兼外科入院フィールド長
	飛野和則	熊本大学 (順天堂大学大学院)	H13 (H23)	2001 (2011)	副院長 兼呼吸器内科部長 兼内科入院フィールド長 兼呼吸器病センター長 兼がん集学治療センター副センター長 兼TQM推進会議議長 兼南3B病棟医長 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	藤崎毅一郎	鳥取大学	H11	1999	副院長 兼腎臓内科部長 兼腎センター長 兼血液浄化センター長 兼南2A病棟医長 兼入院透析室長 兼教育推進本部長 兼外来フィールド長
	田中二郎	鹿児島大学	S44	1969	名誉院長（顧問） 兼救命救急センター特別顧問 兼卒後教育評議会議員

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
	増本陽秀	九州大学	S55	1980	顧問
	中島 格	九州大学	S48	1973	顧問
	大田俊行	山口大学	S49	1974	顧問 兼膠原病センター長 兼中央検査部技術・教育・研究指導室長
	的野多加志	長崎大学 (東北大学大学院)	H19 (H30)	2007 (2018)	顧問
	安藤廣美	九州大学	S52	1977	顧問
	山本英彦	熊本大学 (大学院)	S53 (S57)	1978 (1982)	顧問 兼予防医学本部予防医学センター顧問
	鮎川勝彦	九州大学	S56	1981	顧問
	井村 洋	藤田学園保健衛生大学 (大学院)	S56 (S63)	1981 (1988)	顧問
	江口冬樹	福岡大学 (大学院)	S58 (H4)	1983 (1992)	顧問
	赤星和也	鹿児島大学	S61	1986	顧問 兼予防医学本部予防医学センター顧問 (内視鏡担当)
肝臓内科 (4 名)	田中紘介	産業医科大学 (九大大学院)	H16 (H27)	2004 (2015)	肝臓内科部長 兼南 3A 病棟医長
	栗野哲史	山口大学 (九大大学院)	H20 (R2)	2008 (2020)	診療部長
	鈴木秀生	大分医科大学 (九大大学院)	H21 (R3)	2009 (2021)	診療部長
	黒坂一輝	大分大学	R2	2020	医長代理
消化器内科 (14 名)	久保川 賢	九州大学	H6	1994	消化器内科部長 兼内視鏡センター長 兼東第四病棟医長
	宜保淳也	九州大学	H11	1999	診療部長
	淀江賢太郎	九州大学	H15	2003	診療部長
	小副川 敬	北里大学	H17	2005	診療部長
	長田繁樹	和歌山県立医科大学	H19	2007	診療部長
	兼子容子	滋賀医科大学	H22	2010	医師
	野崎哲史	福岡大学	H23	2011	医長
	西原佑一郎	九州大学 (大学院)	H23 (R2)	2011 (2021)	医長
	永松諒介	九州大学	H24	2012	医長
	松林江里子	広島大学	H25	2013	医師
	大崎智絵	久留米大学	H28	2016	医長代理
	木村弥成子	久留米大学	H28	2016	医長代理
	内之倉弘和	大分大学	H29	2017	医長代理
	若杉晃伸	宮崎大学	H30	2018	医長代理
呼吸器腫瘍内科 (1 名)	吉峯晃平	近畿大学	H24	2012	呼吸器腫瘍内科部長代行 兼外来化学療法室長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
呼吸器内科 (13名)	飛野和則	熊本大学 (順天堂大学大学院)	H13 (H23)	2001 (2011)	副院長 兼呼吸器内科部長 兼内科入院フィールド長 兼呼吸器病センター長 兼がん集学治療センター副センター長 兼 TQM 推進会議議員 兼南 3B 病棟医長 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	花香未奈子	産業医科大学	H17	2005	診療部長
	井手ひろみ	帝京大学	H19	2007	診療部長
	西澤早織	熊本大学	H24	2012	医長
	杉本武哉	和歌山県立医科大学	H25	2013	医長
	大井隆之介	長崎大学	H26	2014	医長
	山元隆太	宮崎大学	H26	2014	医長
	坂部光邦	三重大学	H29	2017	医長代理
	平松由莉	九州大学	H30	2018	医長代理
	大田裕晃	山口大学	H30	2018	医長代理
	川畑隆史	長崎大学	H30	2018	医長代理
	内田和紀	山口大学	H31	2019	医長代理
	村上陽亮	佐賀大学	H31	2019	医長代理
内分泌・糖尿病内科 (5名)	井上智彰	産業医科大学 (九大大学院)	H17 (H25)	2005 (2013)	内分泌・糖尿病内科部長
	吉村恵美	佐賀大学	H27	2015	医長
	柴田茉祐	産業医科大学	H28	2016	医長代理
	小林宏正	鹿児島大学	H31	2019	医長代理
	岡本菜奈	山口大学	R2	2020	医長代理
血液内科 (7名)	白土基明	九州大学	H5	1993	血液内科部長 兼がん集学治療センター長 兼 TQM 推進会議議員
	喜安純一	九州大学	H14	2002	診療部長
	藤岡絵里子	九州大学 (大学院)	H15 (H23)	2003 (2011)	医師
	津田麻理子	九州大学 (九州大学大学院)	H23 (R4)	2011 (2022)	医長
	帆足公佑	久留米大学	H26	2014	医長
	大山 真	山口大学	H27	2015	医長
	高松明子	長崎大学 (九州大学大学院)	H22	2010 (2021)	医師
心療内科 (1名)	木附 康	九州大学	H15	2003	心療内科部長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
総合診療科 (30 名)	小田浩之	鹿児島大学	H8	1996	総合診療科部長 兼医療安全推進室リスクマネージャー 兼教育推進本部ラーニングセンター長 兼西二階病棟医長 兼 TQM 推進会議議員
	中村権一	熊本大学	H3	1991	総合診療科特任診療部長
	清田雅智	長崎大学	H7	1995	診療部長 兼 CI 推進室長
	松永 諭	琉球大学	H15	2003	診療部長 兼北第八病棟医長
	赤岩 喬	大分大学	H16	2004	診療部長
	江本 賢	金沢大学	H18	2006	総合診療科診療部長
	吉田 伸	名古屋市立大学	H18	2006	診療部長
	中安一夫	自治医科大学	H20	2008	診療部長
	工藤仁隆	福岡大学	H24	2012	医長
	山口裕崇	九州大学	H24	2012	総合診療科医長 兼 E4 救急・HCU 副室長
	丸山淳也	長崎大学	H24	2012	医長
	鶴木友都	大阪大学	H25	2013	総合診療科部長補佐
	安田雄一	鳥取大学	H26	2014	医長
	北野峻介	長崎大学	H27	2015	医長代理
	大坪寛央	熊本大学	H27	2015	医長
	宍戸諒平	札幌医科大学	H28	2016	医長代理
	小野正詩	香川大学	H28	2016	医長代理
	大西崇平	島根大学	H28	2016	医長代理
	黒川智美	福岡大学	H28	2016	医長代理
	大向功祐	札幌医科大学	H28	2016	医長代理
	柴田真志	広島大学	H29	2017	医長代理
	大塚陽平	大分大学	H29	2017	医長代理
	能美康彦	琉球大学	H30	2018	医長代理
	大内田良真	長崎大学	H30	2018	医長代理
	廣瀬光基	長崎大学	H31	2019	医長代理
	福田雄太	長崎大学	H31	2019	医長代理
	矢野恒太	久留米大学	H31	2019	医長代理
	新谷あん	香川大学	H31	2019	医長代理
	高橋啓悟	岩手医科大学	H31	2019	医長代理
	高井咲弥	九州大学	R2	2020	医長代理
感染症科 (3 名)	小出容平	佐賀大学	H28	2016	感染症科部長代行 兼感染管理センター長
	笠井雅大	福岡大学	H31	2019	医長代理
	浅沼翼	福島県立医科大学	H31	2019	医長代理
膠原病・リウマチ内科 (4 名)	内野愛弓	長崎大学	H13	2001	膠原病・リウマチ内科部長
	山内雄介	九州大学	H26	2014	医長
	日浦惇貴	九州大学	H27	2015	医長
	宮村圭祐	九州大学	R5	2023	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
連携医療・緩和ケア科 (12 名)	柏木秀行	筑波大学	H19	2007	連携医療・緩和ケア科部長 兼救命救急センター副センター長 兼中央第六病棟医長
	松坂 俊	旭川大学	H19	2007	診療部長
	吉松 文	大分大学	H18	2006	診療部長
	石上雄一郎	滋賀医科大学	H24	2012	医長
	竹下隼人	長崎大学	H25	2013	医長
	高橋佑輔	新潟大学	H28	2016	医長代理
	大塚友貴	長崎大学	H29	2017	医長代理
	山端裕貴	弘前大学	H28	2016	医長代理
	大東 杏	横浜市立大学	H30	2018	医長代理
	河内 咲	群馬大学	H30	2018	医長代理
	大竹健人	東京医科歯科大学	H31	2019	医長代理
	藤田晋也	宮崎大学	R2	2020	後期研修医
ペインクリニック科 (1 名)	中山隆弘	山梨大学	H26	2014	ペインクリニック科部長代行
循環器内科 (8 名)	西淳一郎	九州大学 (九州大学大学院)	H12 (H21)	2000 (2009)	循環器内科統括部長 兼中央第四病棟医長 兼 C4HCU 医長
	稲永慶太	九州大学	H14	2002	循環器内科部長 兼 E4 救急・HCU 室長
	田中敬士	北海道大学	H16	2004	診療部長
	高原勇介	九州大学	H19	2007	診療部長
	石丸晃成	九州大学(大学院)	H27 (R6)	2015 (2024)	医長
	児島啓介	九州大学	H28	2016	医長代理
	生田拓	広島大学	H29	2017	医長代理
	大坪俊也	九州大学	R4	2022	専攻医
心不全科 (1 名)	松川龍一	九州大学	H16	2004	心不全科部長 兼循環器内科診療部長
心臓血管外科 (3 名)	内田孝之	九州大学	H1	1989	心臓血管外科特任部長 兼ハイブリッド手術室医長 兼臨床工学部長 兼医学研究推進本部 兼手術評議会議員 兼中央第五病棟医長 兼 C5HCU 室長
	鹿子島成充	北海道大学	R2	2020	医長代理
	弘中裕士	九州大学	R2	2020	医長代理
血管外科 (1 名)	松元 崇	九州大学	H6	1994	血管外科部長
泌尿器科 (4 名)	入江慎一郎	福岡大学(大学院)	H6 (H13)	1994 (2001)	泌尿器科部長 兼結石破碎室長 兼東第五病棟医長
	宮嶋哲匡	福岡大学(大学院)	H8 (H15)	1996 (2003)	診療部長
	麻生信太郎	香川大学	R2	2020	医長代理
	山崎史裕	福井大学	R3	2021	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
外科 (12 名)	二宮瑞樹	九州大学(大学院)	H10 (H16)	1998 (2004)	外科統括部長 兼東第七病棟医長 兼東第八病棟医長 兼 E7HCU 室長
	永田茂行	九州大学(大学院)	H10 (H16)	1998 (2004)	診療部長
	吉田倫太郎	九州大学(大学院)	H14	2002 (2011)	診療部長
	藤中良彦	九州大学(大学院)	H17 (H23)	2005 (2011)	診療部長
	梶原脩平	佐賀大学 (佐賀大学大学院)	H23 (R3)	2011 (2021)	医長
	若杉絢子	島根大学	H30	2018	医長代理
	栗山直剛	九州大学	H25	2013	医長
	田中 康	九州大学	H28	2016	医長代理
	中山湧貴	九州大学	H29	2017	医長代理
	宮里 綾	琉球大学	R4	2022	専攻医
	塗木海斗	九州大学	R5	2023	専攻医
	米野正識	九州大学	R5	2023	専攻医
肝胆膵外科 (1 名)	萱島寛人	九州大学(大学院)	H14 (H21)	2002 (2009)	肝胆膵外科部長
乳腺外科 (1 名)	岡本正博	九州大学(大学院)	H8 (H14)	1996 (2002)	乳腺外科部長
呼吸器外科 (5 名)	岡 壮一	産業医科大学	H16	2004	呼吸器外科部長
	西澤夏將	北海道大学	H24	2012	医長
	定直日菜	産業医科大学	R3	2021	専攻医
	小林美苑	産業医科大学	R2	2020	医長代理
	井上孔介	産業医科大学	R5	2023	専攻医
呼吸器腫瘍外科 (1 名)	近石泰弘	産業医科大学	H16	2004	呼吸器腫瘍外科部長
小児外科 (1 名)	近藤琢也	九州大学	H22	2010	小児外科部長
腎臓内科 (8 名)	藤崎毅一郎	鳥取大学	H11	1999	副院長 兼腎臓内科部長 兼腎センター長 兼血液浄化センター長 兼南 2A 病棟医長 兼入院透析室長 兼教育推進本部長 兼外来フィールド長
	中下さつき	福岡大学	H16	2004	診療部長
	福満研人	川崎医科大学	H26	2014	医長
	西田明弘	九州大学	H30	2018	医長代理
	岡村のぞみ	九州大学	R2	2020	医長代理
	島子佑斗	鳥取大学	R5	2023	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
小児科 (11名)	岡松由記	福岡大学	H12	2000	小児科部長 兼北第五病棟医長
	坂口万里江	山口大学	H2	1990	特任診療部長
	神田 洋	久留米大学	H8	1996	小児科診療部長 兼総合周産期母子医療センター長 兼総合周産期母子医療センター 新生児部門管理部長 並新生児室長
	大矢崇志	大分医科大学	H10	1998	診療部長
	田中ゆかり	久留米大学	H21	2009	医師
	嘉村拓朗	徳島大学	H26	2014	医長
	大武瑞樹	佐賀大学	H30	2018	医長代理
	茂藤優司	山形大学	R2	2020	医長代理
	末継智士	熊本大学	R3	2021	専攻医
	莫根良太	愛媛大学	R3	2021	専攻医
	安元和博	久留米大学	R4	2022	専攻医
耳鼻咽喉科 (3名)	深堀光緒子	福岡大学	H18	2006	耳鼻咽喉科部長
	平木 陽	久留米大学	H27	2015	医長
	井上俊太		R4	2022	専攻医
眼科 (5名)	中間崇仁	九州大学(大学院)	H20 (H28)	2008 (2016)	眼科部長
	左野裕介	山口大学 (九大大学院)	H26 (R4)	2014 (2022)	医長
	舩津治彦	金沢医科大学	H27	2015	医長代理
	林 邦彦	関西医科大学	R4	2022	専攻医
	本多洋貴	慶應義塾大学	R5	2023	専攻医
整形外科 (9名)	原 俊彦	熊本大学	H3	1991	整形外科部長 兼中央第三病棟医長
	浜崎晶彦	長崎大学	H5	1993	診療部長
	美浦辰彦	九州大学	H13	2001	診療部長
	園田和彦	九州大学(大学院)	H20 (H29)	2008 (2017)	診療部長
	久保祐介	九州大学(大学院)	H20 (H30)	2008 (2018)	診療部長
	小宮山敬祐	長崎大学 (九大大学院)	H20 (H31)	2008 (2019)	診療部長
	酒井 鴻	山口大学	R2	2020	医長代理
	沖崎優一朗	九州大学	R4	2022	専攻医
	池邊晃嗣朗	九州大学	R5	2023	専攻医
麻酔科 (7名)	内藤智孝	九州大学	H16	2004	麻酔科部長 兼中央手術室・中央材料室医長 兼手術評議会議員
	田平暢恵	九州大学	H12	2000	診療部長
	大野 幸	鹿児島大学 (鹿児島大学大学院)	H19 (H24)	2007 (2012)	診療部長
	濱井優輔	京都大学	H23	2011	医長
	松原史子	大分大学	H30	2018	医師
	衛藤 理	九州大学	R2	2020	医長代理
	添田浩史	佐賀大学	R2	2020	専攻医
周術期管理科 (1名)	尾崎実展	宮崎医科大学	H1	1989	周術期管理科特任部長 兼手術評議会議員

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
脳神経外科 (5名)	名取良弘	九州大学	60	1985	特任副院長 兼脳神経外科部長 兼救命救急フィールド長 兼救命救急センター長 兼予防医学本部長補佐 兼経営戦略会議議長 兼ファシリティ本部長 兼救命救急評議会副議長 兼東第六病棟医長 兼 TQM 推進会議議員 兼手術評議会議員 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	甲斐康稔	広島大学 (九州大学大学院)	H11 (H19)	1999 (2007)	診療部長
	麦田史仁	九州大学	H30	2018	医長代理
	安部啓介	九州大学	H29	2017	医長代理
	西本裕亮	九州大学	R4	2022	専攻医
脳神経内科 (6名)	高瀬敬一郎	長崎大学 (九大大学院)	H10 (H20)	1998 (2008)	脳神経内科部長 兼脳卒中センター長 並南1A病棟医長
	進村光規	熊本大学	H20	2008	診療部長
	司城昌大	九州大学	H20	2008	診療部長
	姜 裕貴	山口大学	H27	2015	医長
	古賀裕朗	九州大学	R5	2023	専攻医
	坂上晴紀	九州大学	R3	2021	専攻医
病理科 (3名)	大石善丈	九州大学(大学院)	H9 (H16)	1997 (2004)	病理科部長 兼検査部長
	平木由佳	九州大学	H20	2008	診療部長
	谷口 緑	琉球大学	H26	2014	医長
皮膚科 (5名)	井手豪俊	熊本大学	H24	2012	皮膚科部長代行
	永井貴子	宮崎大学	H28	2016	医長代理
	利谷理沙子	久留米大学	R2	2020	医長代理
	武智晴紀	久留米大学	R4	2022	専攻医
	宮崎万里奈	福岡大学	R5	2023	専攻医
形成外科 (3名)	平川愛子	佐賀大学	H25	2013	形成外科部長
	市川宗近	横浜市立大学	R2	2020	医長代理
	井川怜美	久留米大学	R5	2023	専攻医
リエゾン精神科 (5名)	猪狩圭介	長崎大学 (九大大学院)	H16 (H29)	2004 (2017)	リエゾン精神科部長 兼デイクアセンター長 兼西三階病棟医長
	白玉 桜	群馬大学	H29	2017	医長代理
	嘉陽宗臣	九州大学	H29	2017	医長代理
	中山立慈	千葉大学	R2	2020	医長代理
	朝枝 翼	九州大学	R4	2022	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
産婦人科 (7名)	辻岡 寛	福岡大学(大学院)	H4 (H11)	1992 (1999)	産婦人科統括部長 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	倉員正光	川崎医科大学 (福岡大学大学院)	H18 (H28)	2006 (2016)	診療部長
	門田千穂	佐賀大学	H26	2014	医長
	林宗太郎	北里大学	H28	2016	医長代理
	吉良さちの	三重大学	H29	2017	医長代理
	安部直希	琉球大学	H31	2019	医長代理
	関亦真生	産業医科大学	R2	2020	医長代理
産科 (1名)	李 理華	山口大学(大学院)	H17 (H24)	2005 (2012)	産科部長 兼総合周産期母子医療センター 産科部門管理部長 兼北第六病棟医長
婦人科 (1名)	西山 哲	自治医科大学	H16	2004	婦人科部長 兼北第七病棟医長
放射線科 (1名)	佐々木智成	九州大学(大学院)	H4 (H12)	1992 (2000)	副院長 兼放射線科統括部長 兼放射線治療科主任部長 兼医学研究推進本部長 兼臨床研究支援室長 兼医学研究推進本部(学術研究員)
画像診療科 (6名)	三浦亘智	宮崎医科大学	H6	1994	画像診療科特任部長 兼 PET センター長
	鳥井芳邦	九州大学	S57	1982	診療部長
	永尾英毅	九州大学	H14	2002	診療部長
	鎌野宏礼	山口大学 (九大大学院)	H15 (H25)	2003 (2013)	診療部長
	白石貴大	名古屋大学	H30	2018	医長代理
	大塚 徹	九州大学	H31	2019	医長代理
放射線治療科 (2名)	佐々木智成	九州大学(大学院)	H4 (H12)	1992 (2000)	副院長 兼放射線科統括部長 兼放射線治療科主任部長 兼医学研究推進本部長 兼臨床研究支援室長 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	高木美緒	山口大学	R3	2021	専攻医
歯科口腔外科 (5名)	中松耕治	九州大学(大学院)	60 (H1)	1985 (1989)	歯科口腔外科特任顧問
	石井広太郎	九州大学(大学院)	H15 (H19)	2003 (2007)	歯科口腔外科部長
	田尻姿穂	九州大学	H22	2010	医長 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	竹田早希	岡山大学	R2	2020	後期研修医
	鈴木大智	九州大学	R7	2025	研修医
漢方診療科 (4名)	井上博喜	鹿児島大学 (富山大学大学院)	H13 (H23)	2001 (2011)	漢方診療科部長
	矢野博美	佐賀医科大学	H6	1994	漢方診療科診療部長 兼予防医学本部予防医学センター長
	吉永 亮	自治医科大学	H16	2004	漢方診療科診療部長 兼医学研究推進本部詰
	中尾桂子	愛媛大学	H20	2008	診療部長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
救急科 (8名)	山田哲久	広島大学	H15	2003	救急科部長 兼救命救急センター副センター長 兼H2救急室長 兼救命救急評議会議員 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	井上 聡	広島大学	H23	2011	医長
	香月洋紀	長崎大学	H26	2014	医長
	片桐 欧	帝京大学	H26	2014	医長
	川合喬之	愛媛大学	H27	2015	医長
	岩佐和樹	大分大学	H28	2016	医長代理
	有吉 慧	信州大学	H29	2017	医長代理
	小高聡子	東京大学	H31	2019	医師
集中治療科 (9名)	吉野俊平	長崎大学	H11	1999	集中治療科部長 兼救命救急センター副センター長 兼ICU室長 兼救命救急評議会議員
	川上大裕	大分大学	H21	2009	診療部長
	桑野公輔	東海大学	H22	2010	診療部長
	河内 章	順天堂大学	H29	2017	医長代理
	林 碧	宮崎大学	H30	2018	医長代理
	有田雄紀	大分大学	H31	2019	医長代理
	山崎陽平	九州大学	H31	2019	医長代理
	浅田紘輔	大阪大学	H31	2019	医長代理
	米村 拓	京都府立医科大学	R2	2020	医長代理
リハビリテーション科 (1名)	松本弥一郎	近畿大学	H23	2011	リハビリテーション科部長代行
予防医学センター (3名)	矢野博美	佐賀医科大学	H6	1994	漢方診療科診療部長 兼予防医学本部予防医学センター長
	川野綾子	自治医科大学	H25	2013	医長
	竹内 肇	旭川医科大学	H26	2014	医長
内科 (14名)	友利雅貴	福島県立医科大学	R2	2020	専攻医
	大前瞭太	滋賀医科大学	R3	2021	専攻医
	石田哲久	杏林大学	R3	2021	専攻医
	眞崎亮浩	九州大学	R3	2021	専攻医
	松山 圭	北海道大学	H25	2013	専攻医
	辺土名瑞貴	琉球大学	R4	2022	専攻医
	小磯圭貴	九州大学	R5	2023	専攻医
	湯浅幹己	大分大学	R5	2023	専攻医
	清末 響	大分大学	R5	2023	専攻医
	貞賀泰孝	九州大学	R2	2020	専攻医
	大宮萌子	山形大学	R3	2021	専攻医
	小方智景	広島大学	R4	2022	専攻医
	金城友有	琉球大学	R4	2022	専攻医
	佐藤拓人	奈良県立医科大学	R5	2023	専攻医
内科(消化器内科) コース (3名)	野田順世	佐賀大学	R4	2022	専攻医
	空閑亮太	神戸大学	R4	2022	専攻医
	徳田祐也	鹿児島大学	R5	2023	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
内科(呼吸器内科) コース (5 名)	曾我部翔大	広島大学	R3	2021	専攻医
	齋藤 紫	岩手医科大学	H31	2019	専攻医
	川崎裕哉	大分大学	R5	2023	専攻医
	郡日菜子	熊本大学	R5	2023	専攻医
	村中瑞旗	熊本大学	R5	2023	専攻医
内科 (内分泌・糖尿病内科) コース (1 名)	北岡 優	長崎大学	R3	2021	専攻医
内科(総合診療科) コース (9 名)	藤村 遼	福岡大学	R3	2021	専攻医
	木村浩史	福井大学	R3	2021	専攻医
	山下大裕	山口大学	R3	2021	専攻医
	東 将希	佐賀大学	R2	2020	専攻医
	前岡佑汰	鳥取大学	R4	2022	専攻医
	内田悠太郎	鳥取大学	R5	2023	専攻医
	織田洋二郎	岩手医科大学	R5	2023	専攻医
	野村知哉	九州大学	R5	2023	専攻医
	太田孝一	鳥取大学	R4	2022	専攻医
内科(循環器内科) コース (4 名)	北出 希	琉球大学	R3	2021	専攻医
	佐藤 祐	広島大学	R3	2021	専攻医
	中井祐太郎	大分大学	R4	2022	専攻医
	笹本 晃	帝京大学	R4	2022	専攻医
内科(腎臓内科) コース (1 名)	末次駿一	岡山大学	R4	2022	専攻医
内科(肝臓内科) コース (1 名)	濱本太寛	九州大学	R5	2023	専攻医
総合診療コース (23 名)	橋本彦太郎	長崎大学	H28	2016	専攻医
	溝口朋実	熊本大学	H31	2019	専攻医
	西泊翔太	福岡大学	H31	2019	専攻医
	武貞 輝	久留米大学	R3	2021	専攻医
	山本幸近	長崎大学	R2	2020	専攻医
	二宮辰光	久留米大学	R3	2021	専攻医
	土田紗愛	新潟大学	R3	2021	専攻医
	鈴木雅文	山口大学	R3	2021	専攻医
	黒木 平	東京医科歯科大学	R2	2020	専攻医
	桜井浩平	久留米大学	H28	2016	専攻医
	吉岡志保	産業医科大学	R4	2022	専攻医
	桑野克久	久留米大学	H28	2016	専攻医
	小宮山真代	琉球大学	R4	2022	専攻医
	時岡 悠	産業医科大学	R4	2022	専攻医
	林 雅文	信州大学	R5	2023	専攻医
	森永敏文	山口大学	R5	2023	専攻医
	山田隆斗	慶應義塾大学	R5	2023	専攻医
	緒方理子	産業医科大学	R5	2023	専攻医
	足立達哉	琉球大学	R5	2023	専攻医
	北村 彩	宮崎大学	H29	2017	専攻医
	吉田こころ	香川大学	R4	2022	専攻医
	中島英哉	東京医科大学	R4	2022	専攻医
	辻 健太郎	日本大学	R2	2020	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
外科コース (2名)	橘 佑亮	山口大学	R5	2023	専攻医
	中江信明	奈良県立医科大学	H30	2018	専攻医
小児科コース (1名)	吉田浩一	川崎医科大学	H27	2015	専攻医
麻酔科コース (3名)	添田亜友	佐賀大学	R2	2020	専攻医
	星合亮尚	慶應義塾大学	R4	2022	専攻医
	媚山友仁	新潟大学	R3	2021	専攻医
産婦人科コース (1名)	八木光生	長崎大学	R3	2021	専攻医
救急科コース (10名)	石橋大樹	自治医科大学	H31	2019	専攻医
	苔口啓樹	杏林大学	R3	2021	専攻医
	田村彰浩	長崎大学	R4	2022	専攻医
	吉岡大輔	奈良県立医科大学	R3	2021	専攻医
	谷川裕美	山口大学	R4	2022	専攻医
	森岡太意気	熊本大学	R4	2022	専攻医
	伊賀健一郎	岡山大学	R4	2022	専攻医
	澤田高志	九州大学	R5	2023	専攻医
	井上拓海	名古屋大学	R3	2021	専攻医
	谷 昌憲	岩手医科大学	R3	2021	専攻医
消化器内科コース (1名)	石坂浩貴	熊本大学	R5	2023	後期研修医
研修医 (36名)	石田大祐	九州大学	R6	2024	研修医
	上杉優佳	東京大学	R6	2024	研修医
	牛場大祐	山口大学	R6	2024	研修医
	大庭優実子	山口大学	R6	2024	研修医
	金子博紀	久留米大学	R6	2024	研修医
	河端諒真	福岡大学	R6	2024	研修医
	栗木遼太郎	九州大学	R6	2024	研修医
	佐藤智子	東邦大学	R6	2024	研修医
	塩瀬遥佳	九州大学	R6	2024	研修医
	土井康熙	産業医科大学	R6	2024	研修医
	馬場玲奈	長崎大学	R6	2024	研修医
	兵頭梨沙	福岡大学	R6	2024	研修医
	松田佳子	佐賀大学	R6	2024	研修医
	三溝稜人	九州大学	R6	2024	研修医
	宮本桃子	山形大学	R6	2024	研修医
	山本和幸	九州大学	R6	2024	研修医
	山本 風凜	長崎大学	R6	2024	研修医
	吉積智也	熊本大学	R6	2024	研修医
	植田凌平	広島大学	R7	2025	研修医
	岡崎咲代子	広島大学	R7	2025	研修医
	片桐季里	産業医科大学	R7	2025	研修医
	國崎 修	長崎大学	R7	2025	研修医
	古賀聖晴	九州大学	R7	2025	研修医
	舘康太朗	金沢大学	R7	2025	研修医
	中西那月	佐賀大学	R7	2025	研修医
	西平祐大	九州大学	R7	2025	研修医
	西村俊慶	岡山大学	R7	2025	研修医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
研修医 (36 名)	本田杏樹	長崎大学	R7	2025	研修医
	松尾拓真	佐賀大学	R7	2025	研修医
	的野将吾	熊本大学	R7	2025	研修医
	右田奈巳	金沢医科大学	R7	2025	研修医
	水谷 愛	九州大学	R7	2025	研修医
	村上雄紀	山口大学	R7	2025	研修医
	村上凌一	九州大学	R7	2025	研修医
	湧川立規	長崎大学	R7	2025	研修医
産業医 (2 名)	金山雅俊	産業医科大学 (大学院)	H23 (R4)	2011 (2022)	医長
	森崎貴博	産業医科大学	H28	2016	医長代理

2. 医師異動

①採用

発令月日	氏名	発令
2025.1.1	小城拳士郎	内科専攻医
2025.1.1	浅田充夫	救急科コース専攻医
2025.1.1	御供彩夏	内科専攻医
2025.1.1	東 将希	内科（総合診療科）コース専攻医
2025.2.1	衛藤 理	麻酔科専攻医
2025.2.1	小高聡子	救急科コース専攻医
2025.4.1	伊藤 駿	内科（総合診療科）コース専攻医
2025.4.1	村中瑞旗	内科（呼吸器内科）コース専攻医
2025.4.1	郡日菜子	内科（呼吸器内科）コース専攻医
2025.4.1	川崎裕哉	内科（呼吸器内科）コース専攻医
2025.4.1	田島知宙	内科（脳神経内科）コース専攻医
2025.4.1	塗木海斗	外科専攻医
2025.4.1	小磯圭貴	内科専攻医
2025.4.1	笠井雅大	感染症科医長代理
2025.4.1	岡村のぞみ	腎臓内科医長代理
2025.4.1	安部直希	産婦人科医長代理
2025.4.1	高井咲弥	総合診療科医長代理
2025.4.1	麻生信太郎	泌尿器科医長代理
2025.4.1	笹栗 誠	小児科医長代理
2025.4.1	関亦真生	産婦人科医長代理
2025.4.1	高橋啓悟	総合診療科医長代理
2025.4.1	石橋大樹	救急科コース専攻医
2025.4.1	植田凌平	臨床研修室研修医師
2025.4.1	岡崎咲代子	臨床研修室研修医師
2025.4.1	片桐季里	臨床研修室研修医師
2025.4.1	國崎 修	臨床研修室研修医師
2025.4.1	古賀聖晴	臨床研修室研修医師
2025.4.1	館康太朗	臨床研修室研修医師
2025.4.1	中西那月	臨床研修室研修医師
2025.4.1	西平祐大	臨床研修室研修医師
2025.4.1	西村俊慶	臨床研修室研修医師
2025.4.1	本田杏樹	臨床研修室研修医師
2025.4.1	松尾拓真	臨床研修室研修医師
2025.4.1	的野将吾	臨床研修室研修医師
2025.4.1	右田奈巳	臨床研修室研修医師
2025.4.1	水谷 愛	臨床研修室研修医師
2025.4.1	村上雄紀	臨床研修室研修医師
2025.4.1	村上凌一	臨床研修室研修医師
2025.4.1	湧川立規	臨床研修室研修医師
2025.4.1	鈴木大智	歯科口腔外科研修医師
2025.4.1	内田悠太郎	内科（総合診療科）コース専攻医
2025.4.1	林 雅文	総合診療コース専攻医
2025.4.1	澤田高志	救急科コース専攻医
2025.4.1	森永敏文	総合診療コース専攻医

2025.4.1	山田隆斗	総合診療コース専攻医
2025.4.1	緒方理子	総合診療コース専攻医
2025.4.1	徳田祐也	内科（消化器内科）コース専攻医
2025.4.1	足立達哉	総合診療コース専攻医
2025.4.1	末次駿一	内科（腎臓内科）コース専攻医
2025.4.1	織田洋二郎	内科（総合診療科）コース専攻医
2025.4.1	藤田 彩	内科（総合診療科）コース専攻医
2025.4.1	中里匠吾	内科（総合診療科）コース専攻医
2025.4.1	野村知哉	内科（総合診療科）コース専攻医
2025.4.1	石坂浩貴	消化器内科コース後期研修医
2025.4.1	瀨本太寛	内科（肝臓内科）コース専攻医
2025.4.1	橘 佑亮	外科コース専攻医
2025.4.1	竹田早希	歯科口腔外科後期研修医
2025.4.1	木村浩史	内科（総合診療科）コース専攻医
2025.4.1	田村知佳子	内科（循環器内科）コース専攻医
2025.4.1	佐藤 祐	内科（循環器内科）コース専攻医
2025.4.1	添田浩史	麻酔科コース専攻医
2025.4.1	山下大裕	内科（総合診療科）コース専攻医
2025.4.1	友利雅貴	内科専攻医
2025.4.1	鈴木雅文	総合診療コース専攻医
2025.4.1	大前瞭太	内科専攻医
2025.4.1	苔口啓樹	救急科コース専攻医
2025.4.1	伊賀健一郎	救急科コース専攻医
2025.4.1	柿原光貴	救急科コース専攻医
2025.4.1	黒木 平	総合診療コース専攻医
2025.4.1	石田哲久	内科専攻医
2025.4.1	北川万梨子	内科専攻医
2025.4.1	眞崎亮浩	内科専攻医
2025.4.1	松山 圭	内科専攻医
2025.4.1	湯浅幹己	内科専攻医
2025.4.1	清末 響	内科専攻医
2025.4.1	辺土名瑞貴	内科専攻医
2025.4.1	中塚無我	内科専攻医
2025.4.1	大野孝太郎	内科専攻医
2025.4.1	辻本藍子	総合診療コース専攻医
2025.4.1	中島英哉	総合診療コース専攻医
2025.4.1	佐々木侑佳	総合診療コース専攻医
2025.4.1	荒牧 杏	連携医療・緩和ケア科
2025.4.1	浅沼 翼	感染症科医長代理
2025.4.1	吉松 文	連携医療・緩和ケア科診療部長
2025.4.1	河内 咲	連携医療・緩和ケア科医長代理
2025.4.1	河内 章	集中治療科医長代理
2025.4.1	米村 拓	集中治療科医長代理
2025.4.1	近藤琢也	小児外科部長
2025.4.1	宮里 綾	外科専攻医
2025.4.1	松川龍一	心不全科部長
2025.4.1	大坪俊也	循環器内科専攻医
2025.4.1	山崎史裕	泌尿器科専攻医
2025.4.1	宮崎智也	外科専攻医

2025.4.1	吉田倫太郎	外科診療部長
2025.4.1	田中 康	外科医長代理
2025.4.1	黒坂一輝	肝臓内科医長代理
2025.4.1	平川愛子	形成外科医長
2025.4.1	市川宗近	形成外科医長代理
2025.4.1	島子佑斗	腎臓内科専攻医
2025.4.1	大武瑞樹	小児科医長代理
2025.4.1	末継智士	小児科専攻医
2025.4.1	莫根良太	小児科専攻医
2025.4.1	安元和博	小児科専攻医
2025.4.1	司城昌大	脳神経内科診療部長
2025.4.1	古賀裕朗	脳神経内科専攻医
2025.4.1	麦田史仁	脳神経外科医長代理
2025.4.1	國分康彦	整形外科医長
2025.4.1	酒井 鴻	整形外科医長代理
2025.4.1	沖崎優一朗	整形外科専攻医
2025.4.1	櫛田 薫	整形外科専攻医
2025.4.1	林 邦彦	眼科専攻医
2025.4.1	本多洋貴	眼科専攻医
2025.4.1	高松明子	血液内科医師
2025.4.1	高木美緒	画像診療科専攻医
2025.4.1	白石貴大	画像診療科医長代理
2025.4.1	定直日菜	呼吸器外科専攻医
2025.4.1	谷口 緑	病理科医長
2025.4.1	井上俊太	耳鼻咽喉科専攻医
2025.4.1	利谷理沙子	皮膚科医長代理
2025.4.1	宮崎万里奈	皮膚科専攻医
2025.4.1	宮村圭祐	膠原病・リウマチ内科専攻医
2025.4.1	中山立慈	リエゾン精神科医長代理
2025.4.1	朝枝 翼	リエゾン精神科専攻医
2025.4.1	小林宏正	内分泌・糖尿病内科医長代理
2025.4.1	岡本菜奈	内分泌・糖尿病内科医長代理
2025.4.1	鹿子島成充	心臓血管外科医長代理
2025.4.1	弘中裕士	心臓血管外科医長代理
2025.4.1	永松諒介	消化器内科医長
2025.4.1	倉員正光	産婦人科診療部長
2025.4.1	衛藤 理	麻酔科専攻医
2025.5.19	加藤勇冴	集中治療科専攻医
2025.7.1	阿瀬雅己	総合診療コース専攻医
2025.7.1	吉田ころろ	総合診療コース専攻医
2025.7.1	中山湧貴	外科医長代理
2025.7.7	深澤魁人	内科専攻医
2025.8.1	福西 慧	内科専攻医
2025.8.1	平木 陽	耳鼻咽喉科医長
2025.8.4	米野正識	外科専攻医
2025.9.1	添田亜友	麻酔科コース専攻医
2025.10.1	門田千穂	産婦人科医長
2025.10.1	池邊晃嗣朗	整形外科専攻医
2025.10.1	井川怜美	形成外科専攻医
2025.10.1	坂上晴紀	脳神経内科専攻医

2025.10.1	茂藤優司	小児科医長代理
2025.10.1	岡 壮一	呼吸器外科部長
2025.10.1	小林美苑	呼吸器外科医長代理
2025.10.1	太田孝一	内科（総合診療科）コース専攻医
2025.10.1	谷 昌憲	救急科コース専攻医
2025.10.1	八木光生	産婦人科コース専攻医
2025.10.1	中江信明	外科コース専攻医
2025.10.1	貞賀泰孝	内科専攻医
2025.10.1	辻健太郎	総合診療コース専攻医
2025.10.1	井上拓海	救急科コース専攻医
2025.10.1	大宮萌子	内科専攻医
2025.10.1	小方智景	内科専攻医
2025.10.1	金城友有	内科専攻医
2025.10.6	佐藤拓人	内科専攻医
2025.11.1	井上孔介	呼吸器外科専攻医
2025.12.1	塗木海斗	外科専攻医
2025.12.1	添田浩史	麻酔科コース専攻医

②退職

発令月日	氏名	所属	在籍期間
2025.1.28	鈴木祥太郎	集中治療科医長代理	2016.4.1 ～ 2025.1.28
2025.2.27	荒木潤一郎	小児科医長	2023.4.1 ～ 2025.2.27
2025.3.16	山下敬大	総合診療コース専攻医	2024.10.1 ～ 2025.3.16
2025.3.31	谷 昌憲	救急科コース専攻医	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	中江信明	外科コース専攻医	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	伊藤将司	内科（総合診療科）コース専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	栗林佐也子	内科（総合診療科）コース専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	竹井雅人	内科（循環器内科）コース専攻医	2022.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	太田宜宏	内科（循環器内科）コース専攻医	2022.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	小畑有未	内科（呼吸器内科）コース専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	下河舞子	内科（腎臓内科）コース専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	土屋伸生	内科（感染症科）コース専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	青野美桜	内科専攻医	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	馬場晶子	内科専攻医	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	浅田充夫	救急科コース専攻医	2025.1.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	梅田 開	内科専攻医	2024.11.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	中野公介	内科（総合診療科）コース専攻医	2023.10.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	小城拳士郎	内科専攻医	2025.1.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	西野一輝	外科コース専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	時任寛行	内科専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	沢田雄一郎	内科（腎臓内科）コース専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	御供彩夏	内科専攻医	2025.1.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	川口湧水	総合診療コース専攻医	2022.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	光廣直貴	内科（総合診療科）コース専攻医	2023.9.25 ～ 2025.3.31
2025.3.31	横井一樹	内科（総合診療科）コース専攻医	2024.3.25 ～ 2025.3.31
2025.3.31	中尾賢一	内科（総合診療科）コース専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	西尾裕樹	内科（連携医療・緩和ケア科）コース専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	縄田英吾	内科（循環器内科）コース専攻医	2023.10.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	松本洋典	内科（循環器内科）コース専攻医	2024.3.25 ～ 2025.3.31

2025.3.31	桐原志保美	内科（循環器内科）コース専攻医	2024.3.25 ～ 2025.3.31
2025.3.31	西川奈那	内科（内分泌・糖尿病内科）コース専攻医	2024.12.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	川下知英	外科コース専攻医	2020.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	新井貴大	外科コース専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	藤村和弥	総合診療コース専攻医	2021.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	江藤慎平	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	小倉畑雄也	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	久保田良晴	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	河野康平	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	坂本百合子	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	西村映実里	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	牧野佐和子	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	山崎翔太郎	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	山邊桃子	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	渡邊安未	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	伊藤 駿	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	川崎裕哉	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	郡日菜子	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	田島知宙	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	村中瑞旗	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	小磯圭貴	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	塗木海斗	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	米野正識	臨床研修室研修医師	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	秋山遼海	歯科口腔外科研修医師	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	笠井雅大	内科（総合診療科）コース専攻医	2023.3.25 ～ 2025.3.31
2025.3.31	岡村のぞみ	内科（腎臓内科）コース専攻医	2024.12.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	安部直希	産婦人科コース専攻医	2023.10.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	高井咲弥	内科（総合診療科）コース専攻医	2023.9.25 ～ 2025.3.31
2025.3.31	麻生信太郎	泌尿器科専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	笹栗 誠	小児科専攻医	2023.12.9 ～ 2025.3.31
2025.3.31	関亦真生	産婦人科コース専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	小高聡子	救急科コース専攻医	2021.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	高橋啓悟	総合診療コース専攻医	2021.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	大賀泰寛	循環器内科診療部長	2017.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	川上将司	循環器内科診療部長	2018.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	眞柴貴久	循環器内科循環器内科医長代理 兼心不全ケア科医長代理	2022.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	富士本悠吾	循環器内科医長代理	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	松岡和福	泌尿器科医長代理	2023.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	高平順朗	肝臓内科専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	牟田隆則	腎臓内科医長	2022.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	園田啓太	脳神経内科診療部長	2019.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	寺師綾子	脳神経内科医長代理	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	井上大輔	脳神経外科診療部長	2021.6.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	打道高之	整形外科専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	今里友亮	整形外科専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	藤澤徳仁	整形外科医長代理	2024.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	藤村謙次郎	整形外科診療部長	2020.4.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	奥平景子	眼科医長代理	2022.10.1 ～ 2025.3.31
2025.3.31	林 玲奈	眼科専攻医	2024.4.1 ～ 2025.3.31

2025.3.31	南部孝樹	歯科口腔外科後期研修医	2022.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	奈須光佑	画像診療科専攻医	2024.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	馬場勇介	画像診療科専攻医	2024.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	井上洋平	集中治療科医長代理	2023.10.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	新元貴久	集中治療科医長代理	2023.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	山中萌奈美	集中治療科医長代理	2024.10.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	清澤大裕	病理科医長代理	2024.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	渡邊紗千	耳鼻咽喉科専攻医	2024.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	中村薫乃	形成外科医長代理	2022.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	中西良太	外科診療部長	2024.7.4 ~ 2025.3.31
2025.3.31	田中宏治	皮膚科専攻医	2023.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	松本真由子	皮膚科専攻医	2024.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	松本英展	腎臓内科医長代理	2020.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	中山恭兵	膠原病・リウマチ内科専攻医	2024.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	二宮鈴菜	リエゾン精神科専攻医	2024.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	古賀美紗樹	リエゾン精神科専攻医	2024.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	嶋田伸吾	内分泌・糖尿病内科診療部長	2020.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	松尾彰信	心臓血管外科医長代理	2023.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	幾島栄悟	心臓血管外科医長	2024.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	杉原山太	内科（総合診療科）コース後期研修医	2024.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	柴山道登	内科（総合診療科）コース後期研修医	2022.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	糸永周一	消化器内科医長	2023.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	靄野広介	呼吸器腫瘍内科部長兼外来化学療法室長	2007.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	油布祐二	血液内科特任顧問	2010.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	沖中友秀	感染症科部長代行 兼感染管理センター長代行	2021.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	濱崎慎平	連携医療・緩和ケア科医長代理	2018.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	竜田恭介	小児外科部長	2022.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	田中祥一郎	小児科診療部長	2016.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	齊木玲央	小児科診療部長	2017.3.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	本間一樹	小児科医長代理	2024.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	松行圭吾	小児科医長代理	2023.10.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	山口瑠美	総合診療科医師	2014.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	遠藤優輝	内科（感染症科）コース専攻医	2024.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	薄竜太郎	総合診療科医長代理	2021.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	山田彩乃	腎臓内科医長代理	2023.10.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	長谷川雄一	感染症科医長代理	2017.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	内田壮平	内科（総合診療科）コース専攻医	2022.4.1 ~ 2025.3.31
2025.3.31	衛藤 理	麻酔科専攻医	2025.2.1 ~ 2025.3.31
2025.5.31	添田亜友	麻酔科コース専攻医	2022.4.1 ~ 2025.5.31
2025.6.18	後藤麻木	産科部長 兼総合周産期母子医療センター産科部門管理部長 兼北第六病棟医長	2003.5.1 ~ 2025.6.18
2025.6.29	中塚無我	内科専攻医	2025.4.1 ~ 2025.6.29
2025.6.30	辻本藍子	総合診療コース専攻医	2025.4.1 ~ 2025.6.30
2025.7.6	大野孝太郎	内科専攻医	2025.4.1 ~ 2025.7.6
2025.7.6	加藤勇冴	内科専攻医	2025.5.19 ~ 2025.7.6
2025.7.31	伊東智樹	耳鼻咽喉科医長代理	2023.6.16 ~ 2025.7.31
2025.7.31	櫛田 薫	整形外科専攻医	2025.4.1 ~ 2025.7.31
2025.8.3	塗木海斗	外科専攻医	2023.4.1 ~ 2025.8.3

2025.8.31	添田浩史	麻酔科コース専攻医	2025.4.1 ~ 2025.8.31
2025.8.31	中俣悠亮	腎臓内科医長代理	2017.4.1 ~ 2025.8.31
2025.8.31	溝邊真由	脳神経外科専攻医	2024.4.1 ~ 2025.8.31
2025.8.31	國分康彦	整形外科医長	2025.4.1 ~ 2025.8.31
2025.9.30	伊藤 駿	内科（総合診療科）コース専攻医	2023.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	中里匠吾	内科（総合診療科）コース専攻医	2025.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	田島知宙	内科（脳神経内科）コース専攻医	2023.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	田村知佳子	内科（循環器内科）コース専攻医	2025.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	大谷 昂	総合診療コース専攻医	2023.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	金銅大祐	救急科コース専攻医	2023.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	徳永奈穂	産婦人科コース専攻医	2021.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	木野裕磨	内科（総合診療科）コース専攻医	2024.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	白江惇人	内科専攻医	2024.10.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	新井田侑佳	総合診療コース専攻医	2025.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	柿原光貴	救急科コース専攻医	2025.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	北川万梨子	内科専攻医	2025.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	阿瀬雅己	総合診療コース専攻医	2025.7.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	細川 旬	総合診療科医長代理	2019.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	吉村 基	脳神経内科医長	2022.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	笹栗 誠	小児科医長代理	2023.12.9 ~ 2025.9.30
2025.9.30	井野 康	形成外科部長	2022.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	安田 学	呼吸器外科部長	2017.4.1 ~ 2025.9.30
2025.9.30	岩佐和樹	救急科コース専攻医	2018.4.1 ~ 2025.9.30
2025.10.5	深澤魁人	内科専攻医	2025.7.7 ~ 2025.10.5
2025.10.31	飯藤依里子	産婦人科コース専攻医	2022.4.1 ~ 2025.10.31
2025.11.17	井上三四郎	総合診療科診療部長	2022.4.1 ~ 2025.11.17
2025.11.30	福西 慧	内科専攻医	2025.8.1 ~ 2025.11.30
2025.11.30	宮崎智也	外科専攻医	2025.4.1 ~ 2025.11.30
2025.12.31	織田洋二郎	内科（総合診療科）コース専攻医	2025.4.1 ~ 2025.12.31
2025.12.31	媚山友仁	産婦人科コース専攻医	2024.4.1 ~ 2025.12.31
2025.12.31	大前瞭太	内科専攻医	2025.4.1 ~ 2025.12.31
2025.12.31	佐藤拓人	内科専攻医	2025.10.6 ~ 2025.12.31
2025.12.31	金城友有	内科専攻医	2025.10.1 ~ 2025.12.31
2025.12.31	貞賀泰孝	内科専攻医	2025.10.1 ~ 2025.12.31
2025.12.31	中島英哉	総合診療コース専攻医	2025.4.1 ~ 2025.12.31

3. 看護師長・主任名簿

所 属		職 名	氏 名	所 属		職 名	氏 名
看護部		副院長兼看護部長	森山由香	南棟	南 1A 病棟	看護師長	大塚真由
		看護管理師長	梶原優子			看護主任	片岡賀美
		看護管理師長	和田麻美	西棟	西三階病棟	看護師長	秀島陽子
北棟	北第八病棟	看護管理師長 兼病棟看護師長	加治屋晶子			看護主任	大田淑恵
		看護主任	甲斐 梓			看護主任	大野菜美
	北第七病棟	看護師長	小原智恵子		西二階病棟	看護師長	溝田智美
		看護主任	宮西博子			看護主任	月俣千鶴
	北第六病棟	看護師長	中山和子		西一階病棟	看護師長	浦田吉広
		看護主任	藤田起代美			看護主任	満園真紀子
	北第五病棟	看護師長	梅野陽香	ハイケア棟	血液浄化センター	看護師長	小松加寿子
		看護主任	白石道子		がん集学治療センター	看護師長	佐藤香緒里
		看護主任	立畠由佳			看護主任	木森由紀子
	北第五病棟 (NICU・GCU)	看護師長	立川 翠			看護主任	松岡洋子
		看護主任	長崎佳代		外来化学療法室	看護師長(兼)	佐藤香緒里
	東第八病棟	看護主任	長崎佳代			看護主任	横溝千登勢
		看護師長	日置由季		H2 救急	看護管理師長 兼病棟看護師長	長田孝幸
	東第七病棟	看護主任	中原梨恵			看護主任	河村和美
		看護管理師長 兼病棟看護師長	小畑亜紀子		救命救急センター	看護師長	野見山由美子
		看護主任	高木理恵			看護主任	山寄量博
		看護主任	辰島里美		北棟外来	北棟統括マネージャー	渡辺由香利
		看護主任代行	舩井江里			看護師長	福村陽子
東棟	東第六病棟	看護主任	舩井江里	外来	14A	看護主任	重藤綾子
		看護師長	田中百合子		14B	看護師長	西本美香
	東第五病棟	看護主任	辻 あゆみ		13A	看護主任	吉田嘉子
		看護師長	松岡知美			看護主任	飯島紀子
	東第四病棟	看護主任	櫻井喜代		13B	看護師長	許斐綾子
		看護主任	田中あづさ			看護主任	高口則子
		看護主任	矢津田あざみ			看護主任	山中良子
	中央手術室	看護主任	緒方早智子		12A	看護師長	森田理真子
		看護師長	坂本雅美		12B	看護主任	篠崎妙江
		看護主任	矢野知代		11B	看護主任	浦田 遥
		看護主任	兼頭直樹		放射線科	看護主任	藤田日花
中央棟	中央第六病棟	看護主任	成松 慧		画像診療科	看護主任	野島 薫
		看護師長	石垣あい		放射線治療科	看護主任	白土加代
		看護主任	藤岡智恵		52F	看護主任	松山純子
	中央第五病棟	看護主任	松本陽子		リエゾン精神科	看護主任	辻 直美
		看護主任	宮崎万友子		小児科	看護主任	中尾里美
		看護主任	舩田能生子		眼科	看護主任	吉村麻紀子
	中央第四病棟	看護主任	山本百恵	看護部長室	耳鼻咽喉科	看護主任	中村教代
		看護主任	木村美香		看護補助業務推進担当	マネージャー	谷川由佳
	中央第三病棟	看護主任	日野久美子		セル看護推進担当	マネージャー	渡邊恵里子
		看護主任	日高久美子		特定行為推進担当	マネージャー	倉智恵美子
	南 3A 病棟	看護主任	花田千穂			マネージャー	百瀬栄美子
		看護主任	堤 瑞穂		改善推進担当	サブマネージャー	梶澤芳江
南棟	南 3B 病棟	看護主任	長谷川千絵		DX 推進担当	看護主任	田中美香
		看護主任	吉見美砂			看護師長	佐野美和子
	南 2A 病棟	看護主任	吉田千絵			看護師長	上川重昭
		看護主任	木村美香				
	南 2A 病棟	看護主任代行	濱田美智子				
		看護主任	平田静香				

※看護部以外は除く

4. 総合医療技術部門役職者名簿

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
副院長	医療技術部門長	井本俊之	臨床工学部	技師長	小田和也
薬剤部	薬剤長	梅田勇一		副技師長	村上輝之
	副薬剤長	進 健司		副技師長(兼)	井桁洋貴
	副薬剤長	神野貴子		主任	清水重光
	副薬剤長	三好康介		主任	沖永一樹
	主任	中嶋弘之		主任	金城依子
	主任	松永尚子		主任	黒瀬努
	主任	小田怜史		主任	松岡翔平
	主任	小田有紀		主任	伊藤明広
	主任	田先由佳		主任	田村慎一
	主任	皆元文恵	栄養部	マネージャー(兼)	小野清恒
	主任	中野陽子		技師長	重松由美
中央検査部	技師長	犬丸絵美		副技師長	田代千恵子
	副技師長	川野和彦		主任	岸川英貴子
	主任	井上佳奈子		主任	高田圭子
	主任	藤上祐子		主任	椿 さとみ
	主任	川嶋大輔		主任	黒田将介
	主任	古野貴未		主任	柳 愛
	主任	川久保智美		主任	江田千種
	主任	濱本将司		主任	古家妃華里
中央放射線部	技師長	満園耕治	医療福祉室	技師長 (兼地域連携 センター長)	浦川雅広
	副技師長	白石 隆		主任	樋口愛紀子
	副技師長	太田黒大明		主任	住吉まゆみ
	主任	梶嶋哲雄		主任	原田恵実
	主任	井下栄吉	臨床心理室	副技師長	竹下明子
	主任	鳥江功二	歯科衛生室	副技師長	本田智恵子
	主任	中村浩太		主任	河野真由美
	主任	山野正起	救急救命室	室長(兼)	都留和宏
	主任	下清水陸		副室長	小峠博樹
	主任	矢邊孝平		主任	大峯将幹
リハビリテーション部	技師長	甲斐田幸輝		主任	浦園真司
	副技師長	山崎哲弘	放射線治療科	主任	萩尾清文
	副技師長	宮本隆寿			
	副技師長	井上智博			
	副技師長	安藤幸助			
	主任	阿比留はるか			
	主任	石川清美			
	主任	西村天利			
	主任	坂口裕美			
	主任	田中雅也			
	主任	大坪 翔			
	主任	栗原将太			
	主任	奥野将太			

5. 経営管理部門等役職者名簿

所 属	職 名	氏 名
副院長（兼医療連携本部長）		岩佐紀輝
経営管理部長		池 賢二郎
経営管理部特任副部長（兼）		藤野泰典
経営管理部特任副部長（兼）		木下了丞
経営管理部マネージャー		皆川栄治
経営管理部マネージャー（BCP 担当）（兼）		都留和宏
経営管理部マネージャー（兼）		立石奈々
経営企画室	室長	森 智之
	副室長	原田智史
DX 推進室	室長	池 賢二郎
地域共創・広報戦略課	課長	小栗和美
	課長代理	内田静香
医事課	課長	吉田孝一
	課長代理	小栗沙織
	課長代理	久保田智之
	主任	竹下直美
	主任	中尾麻美
	主任	細川留理子
	主任（東病棟担当）	石松孝子
	主任	吉田香代
	主任	勝木奈穂
	主任	児玉礼好
I C U	主任クラーク	田村裕子
人事課	課長	仲吉 翔
	マネージャー	松岡英道
	課長代理	中村良江
	課長代理	岡田裕樹
	課長代理（医務室担当）	長岡由起
	愛生苑出向	木下了丞
救命救急センター	事務長（兼）	都留和宏
総務課	課長（兼）	小野清恒
	課長代理（兼）	都留和宏
	主任	高嶋麗子
経理課	課長	吉武成美
資材課	課長	倉重貴彰
	課長代理	細川忠行
診療支援課	課長	梅野圭史
	主任	辻口大輔
情報システム室	室長	城野政博
診療情報管理室	室長（兼）	福村文雄
	マネージャー（兼）	藤野泰典
	サブマネージャー	光武和寿
	主任	松田加奈子
施設環境サービス課	課長	兼実孝志

所 属	職 名	氏 名
臨床研究支援室	室長（兼）	佐々木智成
	副室長	古賀秀信
改善推進本部	マネージャー	立石奈々
	サブマネージャー	寺岡理恵子
	サブマネージャー	兵道哲彦
医療連携本部 地域連携センター	センター長	浦川雅広
	副センター長	田村美恵
	師長	細川智美
	師長	久保佳子
	主任	藤井美保
	主任	幸野亜希子
予防医学センター	マネージャー	秋永理恵
	主任	草本君子
イノベーション推進本部	マネージャー（兼）	井桁洋貴
工房・知財管理室	室長（兼）	井桁洋貴
教育推進本部	マネージャー	日高幸彦
	サブマネージャー	宮原信一郎
	主任	江里口杏平
中央材料室	室長	小田和也

6. 主要委員会

①常設委員会

ブロック名称	ブロック長	委員会名称	委員長	副委員長	委員数 [※]
業務安全	本村健太	医療ガス安全管理委員会	内藤智孝	村上輝之	4名
		放射線安全委員会・ 特定放射性同位元素防護委員会	佐々木智成	西 淳一郎 満園耕治	11名
		感染管理委員会	本村健太	小出容平	13名
		労働安全衛生委員会	本村健太	石井広太郎	34名
		医師の負担軽減・処遇改善委員会	本村健太	—	34名
		BCP 管理委員会	名取良弘	山田哲久	23名
物品購入	本村健太	薬事委員会	本村健太	梅田勇一	6名
		資材委員会	本村健太	—	11名
医療の質のモニター	中島雄一	ISO 委員会	吉野俊平	梅田勇一	24名
		TQM 活動推進委員会	中島雄一	古賀秀信	15名
		クリニカルパス委員会	辻岡 寛	梶原優子	19名
		QI 委員会	白土基明	井本俊之	9名
		患者経験価値向上委員会	中島雄一	柏木秀行	12名
医療の安全管理	福村文雄	急変対応委員会	吉野俊平	山田哲久	16名
		MRM 委員会	福村文雄	—	19名
		透析機器安全管理委員会	藤崎毅一郎	沖永一樹	6名
		病院食サービス委員会	井上智彰	大向功祐	5名
情報管理	福村文雄	情報システム委員会	清田雅智	山田哲久	16名
		診療情報管理委員会	福村文雄	—	11名
教育・研修	藤崎毅一郎	研修管理委員会	小田浩之	—	35名
		図書委員会	藤崎毅一郎	小野清恒	7名
		クレデンシャル委員会	名取良弘	西 淳一郎	47名
		手術室業務改善委員会	尾崎実展	坂本雅美	12名
		特定行為管理委員会	名取良弘	—	10名
		地域医療支援病院研修委員会	岩佐紀輝	—	5名
倫理	名取良弘	倫理委員会	名取良弘	飛野和則	17名
		臨床研究管理委員会	白土基明	—	10名
		治験審査委員会	原 俊彦	吉峯晃平	12名
		脳死判定委員会	高瀬敬一郎	岡松由記	9名
		小児虐待防止委員会	岡松由記	大武瑞樹	25名
		患者行動制限最小化委員会	猪狩圭介	—	4名
		個人情報保護委員会	福村文雄	—	7名
診療の適正化	飛野和則	呼吸管理委員会	飛野和則	石垣あい	18名
		褥瘡管理委員会	井手豪俊	平川愛子 加治屋晶子	10名
		栄養管理委員会	松永 諭	—	10名
		輸血療法委員会	喜安純一	濱井優輔	12名
		診療報酬適正管理委員会	清田雅智	梶原優子 吉田孝一	9名
		臨床検査適正化委員会	大石善丈	犬丸絵美	10名
		骨粗鬆症リエゾンサービス委員会	小宮山敬祐	大田佳江	22名
がん診療	飛野和則	がん診療連携委員会	本村健太	—	14名
		がん集学治療委員会	白土基明	飛野和則	14名
		緩和ケア委員会	柏木秀行	中山隆弘 宮崎万友子	10名

※委員数：委員長、副委員長を除く数（事務局含む）

②看護部常設委員会

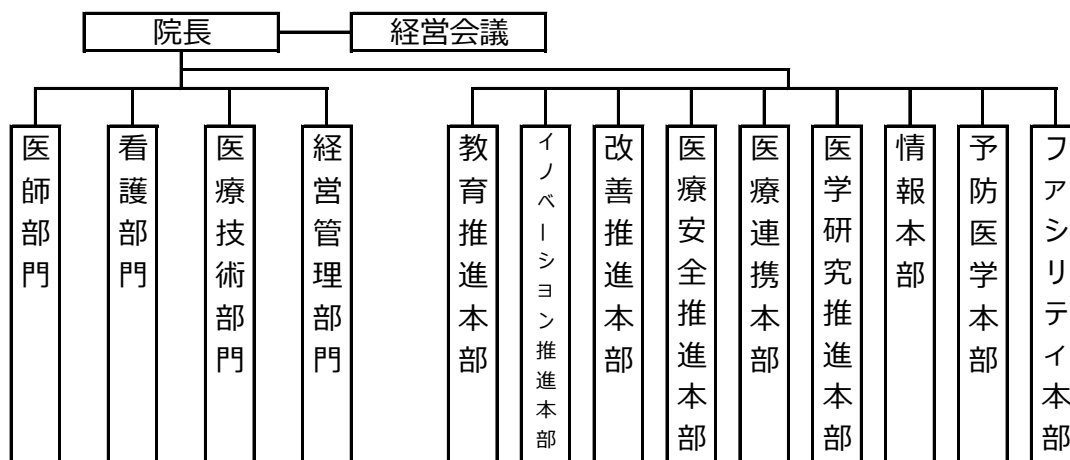
委員会名称	委員長	所属	委員数
業務改善委員会 (セル看護委員会)	加治屋晶子	看護管理師長 兼北第八病棟看護師長	29 名
看護手順・基準委員会	立川 翠	北第五病棟 (NICU・GCU) 看護師長	28 名
教育委員会	梅野陽香	北第五病棟看護師長	32 名
臨床指導者委員会	田中美香	看護部長室 (特定行為推進担当) 看護主任	32 名
看護研究委員会	田中あづさ	東第四病棟看護師長	8 名
看護記録委員会	小畑亜紀子	看護管理師長 兼東第七病棟看護師長	14 名

2025年12月31日現在

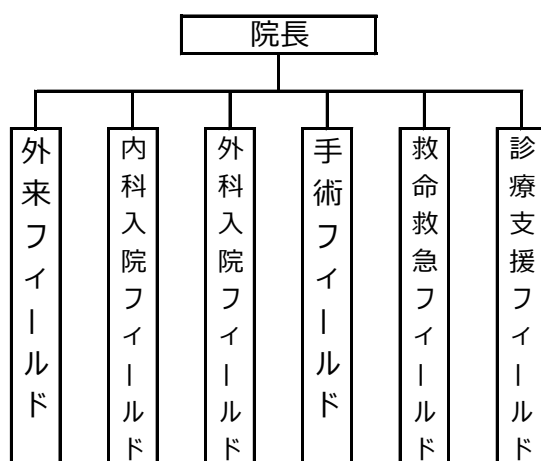
〔Ⅸ〕 飯塚病院概況 他

1. 飯塚病院組織図

部門・本部



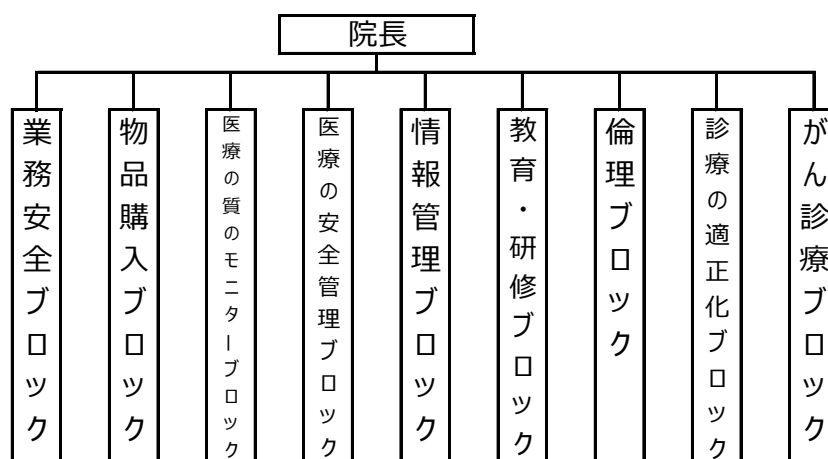
診療フィールド



院長直轄の会議体

地域医療支援病院運営委員会
幹部会
日本一のみごころ病院実現諮問会議
経営戦略会議
卒後教育評議会
救命救急評議会
手術評議会
イノベーション改善運営会議
地域包括ケア推進会議
TQM推進会議
医療事故対策会議

常設委員会



部門

診療現場の生産性、診療の質を担保する上で必要な人材やその他の資源を管理し、将来の方向性、指針などをとりまとめ実行する組織体

医師部門

総合診療科
循環器内科
心不全科
呼吸器内科
呼吸器腫瘍内科
消化器内科
肝臓内科
膠原病・リウマチ内科
腎臓内科
内分泌・糖尿病内科
血液内科
脳神経内科
小児科
リエゾン精神科
心療内科
漢方診療科
外科
肝胆膵外科
乳腺外科
呼吸器外科
呼吸器腫瘍外科
心臓血管外科
血管外科
小児外科
産婦人科
整形外科
脳神経外科
眼科
耳鼻咽喉科
泌尿器科
皮膚科
形成外科
麻酔科
周術期管理科
歯科口腔外科
救急科
集中治療科
放射線科
画像診療科
放射線治療科
連携医療・緩和ケア科
ペインクリニック科
感染症科
リハビリテーション科
病理科

看護部門

看護部

医療技術部門

薬剤部
中央検査部
技術・教育・研究指導室
中央放射線部
栄養部
リハビリテーション部
臨床工学部
医療福祉室
歯科衛生室
臨床心理室
救急救命室

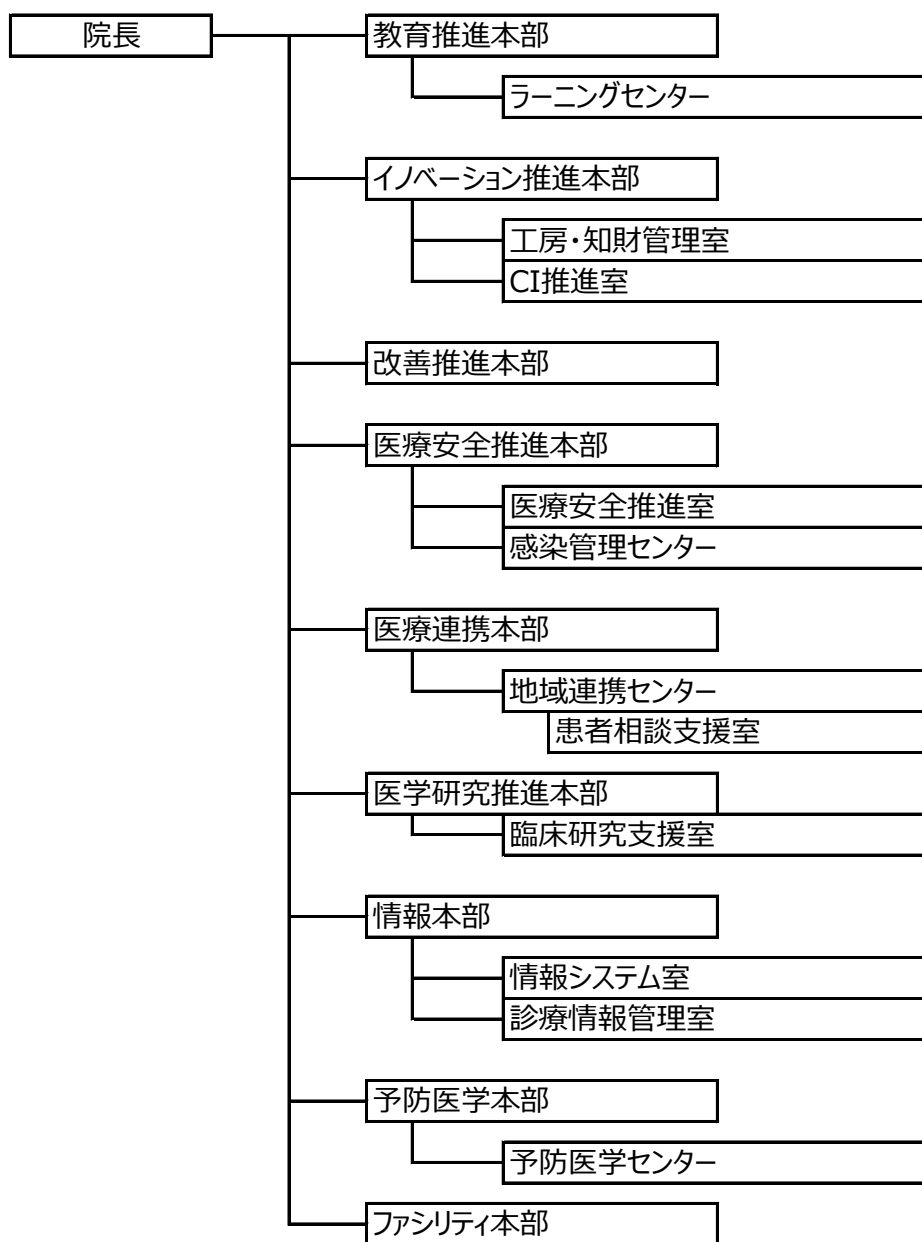
経営管理部門

経営管理部

経営企画室
地域共創・広報戦略課
医事課
人事課
医務室
総務課
警備室
電話交換室
図書室
経理課
施設・環境サービス課
資材課
診療支援課
DX推進室

本部

院長特命の課題・分野において方針をとりまとめ、部門横断的にマネジメントを行う部署



診療フィールド

診療現場において適正な医療が提供できるよう各診療科・現場内でコミュニケーションを密にとり、現場内の問題を解決していく場

外来フィールド

11A	総合受付 (トリアージセンター)
11B	総合診療科 感染症科
11D	会計
11E	PET・核医学センター
12A	肝臓内科 膠原病・リウマチ内科 (膠原病・リウマチセンター) 内分泌・糖尿病内科 血液内科 整形外科
12B	腎臓内科
13A	産婦人科 泌尿器科 皮膚科 形成外科
13B	脳神経内科 外科 呼吸器外科 脳神経外科 麻酔科 連携医療・緩和ケア科
14A	循環器内科 呼吸器内科 消化器内科 心臓血管外科 血管外科
14B	内視鏡センター
31	放射線治療科
34	血液浄化センター
50	リハビリテーション科
51C	画像診療科
52A	眼科
52B	耳鼻咽喉科
52D	小児科 小児外科
52E	歯科口腔外科
52F	漢方診療科 (東洋医学センター) 心療内科
61	デイケアセンター
71	リエゾン精神科

内科入院フィールド

中央第六病棟
中央第四病棟
C4HCU
南3A病棟
南3B病棟
南2A病棟
入院透析室
南1A病棟
東第四病棟
H3F (がん集学治療センター)
外来化学療法室
西三階病棟
西二階病棟
西一階病棟
北第八病棟
北第五病棟
NICU・GCU

外科入院フィールド

中央第五病棟
C5HCU
中央第三病棟
東第八病棟
東第七病棟
E7HCU
東第六病棟
東第五病棟
北第七病棟
北第六病棟・MFICU

手術フィールド

中央手術室
ハイブリッド手術室
中央材料室
病理科

救命救急フィールド

救命救急センター
救急外来
ICU
H2救急
E5準救急
E6救急
SCU
E4HCU
高気圧酸素治療室
救急救命室

診療支援フィールド

薬剤部
中央検査部
中央放射線部
栄養部
リハビリテーション部
臨床工学部
医療福祉室
歯科衛生室
臨床心理室

● 機能的センター群

総合周産期母子医療センター
循環器病センター
呼吸器病センター
脳卒中センター
腎センター

常設委員会

法的及び社会的責任を果たすために設置され、病院経営や運営に直結し、
期限を定めず定期的な開催を行う会議体

業務安全ブロック	医療ガス安全管理委員会
	放射線安全委員会・特定放射性同位元素防護委員会
	感染管理委員会
	労働安全衛生委員会
	医師の負担軽減・処遇改善委員
	BCP管理委員会
物品購入ブロック	薬事委員会
	資材委員会
医療の質のモニターブロック	ISO委員会
	TQM活動推進委員会
	クリニカルパス委員会
	QI委員会
	患者経験価値向上委員会
医療の安全管理ブロック	急変対応委員会
	MRM委員会
	透析機器安全管理委員会
	病院食サービス委員会
情報管理ブロック	情報システム委員会
	診療情報管理委員会
教育・研修ブロック	研修管理委員会
	図書委員会
	クレデンシャル委員会
	手術室業務改善委員会
	地域医療支援病院研修委員会
	特定行為管理委員会
倫理ブロック	倫理委員会
	臨床研究管理委員会
	治験審査委員会
	脳死判定委員会
	小児虐待防止委員会
	患者行動制限最小化委員会
	個人情報保護委員会
診療の適正化ブロック	呼吸管理委員会
	褥瘡管理委員会
	栄養管理委員会
	輸血療法委員会
	診療報酬適正管理委員会
	臨床検査適正化委員会
	骨粗鬆症リエゾンサービス委員会
がん診療ブロック	がん診療連携委員会
	がん集学治療委員会
	緩和ケア委員会

2. 概 要

(2025 年 12 月現在)

名 称：飯塚病院
開 設：大正 7 年（1918 年）8 月
開 設 者：株式会社麻生 代表取締役社長 麻生 巖
所 在 地：福岡県飯塚市芳雄町 3 番 83 号
病 院 区 分：地域医療支援病院
院 長：本村健太
名 誉 院 長：田中二郎
顧 問：安藤廣美、山本英彦、鮎川勝彦、井村 洋、江口冬樹、赤星和也
副 院 長：名取良弘、福村文雄、中島雄一、藤崎毅一郎、佐々木智成、飛野和則、森山由香、
井本俊之、岩佐紀輝
許 可 病 床 数：1,006 床（一般 963 床、精神 43 床）
敷 地 面 積：46,272.26㎡
延 床 面 積：71,777.48㎡
職 員 数：

医 師	376 名
看 護 師	1,051 名
医療技術者	600 名
事務その他	425 名
計	2,452 名

病 棟 数：北棟 7 病棟、東棟 10 病棟、ハイケア棟 2 病棟、中央棟 6 病棟、南棟 5 病棟、
西棟 3 病棟、計 33 病棟
診 療 科 目：45 科
肝臓内科 消化器内科 呼吸器内科 呼吸器腫瘍内科 内分泌・糖尿病内科
血液内科 心療内科 総合診療科 膠原病・リウマチ内科 連携医療・緩和ケア科
ペインクリニック科 循環器内科 心不全科 心臓血管外科 血管外科 泌尿器科
外科 肝胆膵外科 乳腺外科 呼吸器外科 呼吸器腫瘍外科 小児外科 腎臓内科
小児科 耳鼻咽喉科 眼科 整形外科 麻酔科 周術期管理科 脳神経外科
脳神経内科 病理科 皮膚科 形成外科 リエゾン精神科 産婦人科 画像診療科
放射線科 放射線治療科 歯科口腔外科 漢方診療科 感染症科 救急科
集中治療科 リハビリテーション科

施設基準届出状況

1) 基本診療料

地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療医療安全対策加算 2
歯科外来診療感染対策加算 3
歯科診療特別対応連携加算
情報通信機器を用いた診療に係る基準
一般病棟入院基本料（急性期一般入院料 1）
精神病棟入院基本料（15 対 1）
重度認知症加算（精神入院）
障害者施設等入院基本料（10 対 1）
看護補助体制充実加算 1（障害者施設等入院基本料）
夜間看護体制加算（障害入院）
急性期充実体制加算 1
小児・周産期・精神科充実体制加算
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算 1
医師事務作業補助体制加算 1（15 対 1）
急性期看護補助体制加算(25対 1) 看護補助者 5 割以上
夜間 100 対 1 急性期看護補助体制加算
夜間看護体制加算
看護補助体制充実加算 1（急性期看護補助体制加算）
看護職員夜間配置加算（12 対 1）
特殊疾患入院施設管理加算
看護配置加算
看護補助加算 1
看護補助体制充実加算 1（看護補助加算）
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算 2
緩和ケア診療加算
精神科身体合併症管理加算
精神科リエゾンチーム加算
リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算 1
医療安全対策地域連携加算 1
感染対策向上加算 1
指導強化加算
患者サポート体制充実加算
重症患者初期支援充実加算
報告書管理体制加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算
呼吸ケアチーム加算
術後疼痛管理チーム加算
後発医薬品使用体制加算 2
病棟薬剤業務実施加算 1
データ提出加算 2
入退院支援加算 1 及び加算 3
地域連携診療計画加算
入院時支援加算
総合機能評価加算
精神科入退院支援加算
医療的ケア児（者）入院前支援加算
認知症ケア加算 1

せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算
排尿自立支援加算
地域医療体制確保加算
地域歯科診療支援病院入院加算
救命救急入院料 1
精神疾患診断治療初回加算
救急体制充実加算 2
小児加算
特定集中治療室管理料 2
算定日数上限に関する施設基準
小児加算
早期離床・リハビリテーション加算
重症患者対応体制強化加算
ハイケアユニット入院医療管理料 1
脳卒中ケアユニット入院医療管理料
新生児特定集中治療室管理料 2
総合周産期特定集中治療室管理料 1
母胎・胎児集中治療室管理料
新生児治療回復室入院医療管理料
小児入院医療管理料 2
養育支援体制加算
時間外受入体制強化加算 2
看護補助体制充実加算（小児入院医療管理料 2）
緩和ケア病棟入院料 1
短期滞在手術等基本料 1
短期滞在手術等基本料 2
看護職員処遇改善評価料 52

2) 特掲診療料

歯科疾患管理料の注 11 に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
ウイルス疾患指導料
外来栄養食事指導料の注 3
心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に掲げる遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん性疼痛緩和指導管理料の注 2 に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算
がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ニ
外来緩和ケア管理料
糖尿病透析予防指導管理料
乳腺炎重症化予防・ケア指導料
婦人科特定疾患治療管理料
二次性骨折予防継続管理料 1
二次性骨折予防継続管理料 3
下肢創傷処置管理料
地域連携小児夜間・休日診療料 2
地域連携夜間・休日診療料
院内トリアージ実施料
外来放射線照射診療料
外来腫瘍化学療法診療料 1

療養・就労両立支援指導料 注3 相談支援加算
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
外来排尿自立指導料
ハイリスク妊産婦連携指導料1
ハイリスク妊産婦連携指導料2
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
医療機器安全管理料2
医療機器安全管理料（歯科）
救急患者連携搬送料
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
在宅療養後方支援病院
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
遺伝学的検査
骨髓微小残存病変量測定
B R C A 1 / 2 遺伝子検査
がんゲノムプロファイリング検査
先天性代謝異常症検査
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（髄液）
検体検査管理加算（IV）
国際標準検査管理加算
遺伝カウンセリング加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
胎児心エコー法
ヘッドアップティルト試験
長期継続頭蓋内脳波検査
脳波検査判断料1
神経学的検査
ロービジョン検査判断料
コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷試験
経頸静脈的肝生検
前立腺針生検法
（MRI 撮影及び超音波検査融合画像によるもの）
C T 透視下気管支鏡検査加算
経気管支凍結生検法
精密触覚機能検査
画像診断管理加算3
ポジトロン断層撮影
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
CT 撮影及び MRI 撮影
冠動脈 CT 撮影加算
血流予備量比コンピューター断層撮影
外傷全身 CT 加算
心臓 MRI 撮影加算
乳房 MRI 撮影加算
頭部 MRI 撮影加算

全身 MRI 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料（I）
脳血管疾患等リハビリテーション料（I）
運動器リハビリテーション料（I）
呼吸器リハビリテーション料（I）
がん患者リハビリテーション料
歯科口腔リハビリテーション料2
救急患者精神科継続支援料
認知療法・認知行動療法1
精神科作業療法
精神科ショート・ケア「小規模なもの」
精神科デイ・ケア「小規模なもの」
抗精神病特定薬剤治療指導管理料
（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る）
医療保護入院等診療料
処置の休日加算1（医科点数表第2章第9部処置の通則の5に規定する処置の休日加算1）
処置の時間外加算1（医科点数表第2章第9部処置の通則の5に規定する処置の時間外加算1）
処置の深夜加算1（医科点数表第2章第9部処置の通則の5に規定する処置の深夜加算1）
処置の休日加算1（歯科点数表第2章第8部処置の通則の6に規定する処置の休日加算1）
処置の時間外加算1（歯科点数表第2章第8部処置の通則の6に規定する処置の時間外加算1）
処置の深夜加算1（歯科点数表第2章第8部処置の通則の6に規定する処置の深夜加算1）
硬膜外自家血注入
人工腎臓
導入期加算2及び腎代替療法実績加算
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
下肢末梢動脈疾患指導管理加算
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対する LDL アフェレシス療法
ストーマ合併症加算
手術用顕微鏡加算（根管内異物除去）
口腔粘膜処置
歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
CAD/CAM 冠
皮膚移植術（死体）
組織拡張器による再建手術
（乳房（再建手術）の場合に限る）
緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
骨移植術
（軟骨移植術を含む）（自家培養軟骨移植術に限る）
緊急穿頭血腫除去術
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
緑内障手術
（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
緑内障手術流出路再建術（眼内法）
緑内障手術濾過胞再建術（needle 法）
網膜付着組織を含む硝子体切除術
（眼内内視鏡を用いるもの）

網膜再建術	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)	(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術
顎関節人工関節全置換術(歯科)	(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
乳房切除術	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る)	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(乳がんセンチネルリンパ節加算1)	経皮の大動脈遮断術
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)(乳がんセンチネルリンパ節加算2)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)(センチネルリンパ節生検(単独))	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	ダメージコントロール手術
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術	腹腔鏡下十二指腸局所切除術
(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	(内視鏡処置を併用するもの)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術	腹腔鏡下胃切除術
(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
胸腔鏡下肺切除術	腹腔鏡下胃切除術
(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る)	(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	腹腔鏡下噴門側胃切除術
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術	(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下噴門側胃切除術
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下胃全摘術
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術気管支形成を伴う肺切除	腹腔鏡下胃全摘術
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、	(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、	胆管悪性腫瘍手術
尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、	(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	体外衝撃波胆石破碎術
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	腹腔鏡下肝切除術
(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術	腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下中央切除術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
胸腔鏡下弁形成術	腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
胸腔鏡下弁置換術	(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経カテーテル大動脈弁置換術	腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術
経皮的僧帽弁クリップ術	腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術
不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの))	(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの))	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術
経皮的中隔心筋焼灼術	(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剝離術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	内視鏡的小腸ポリープ切除術
(リードレスペースメーカー)	腹腔鏡下直腸切除・切断術
両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)	(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術
及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)	腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術
及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
	(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
	腹腔鏡下仙骨腔固定術
	腹腔鏡下仙骨腔固定術
	(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

腹腔鏡下腔式子宮全摘術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体がんに限る)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮頸がんに限る。)
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
体外式膜型人工肺管理料
手術の休日加算1 (医科点数表第2章第10部手術の通則の12に規定する手術の休日加算1)
手術の時間外加算1 (医科点数表第2章第10部手術の通則の12に規定する手術の時間外加算1)
手術の深夜加算1 (医科点数表第2章第10部手術の通則の12に規定する手術の深夜加算1)
手術の休日加算1 (歯科点数表第2章第9部手術の通則の9に規定する手術の休日加算1)
手術の時間外加算1 (歯科点数表第2章第9部手術の通則の9に規定する手術の時間外加算1)
手術の深夜加算1 (歯科点数表第2章第9部手術の通則の9に規定する手術の深夜加算1)
胃瘻造設術 (経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に規定する手術)
周術期栄養管理実施加算
輸血管理料Ⅰ
輸血適正使用加算
自己生体組織接着剤作成術
自己クリオプレシペレート作製術 (用手法)
人工肛門・人工膀胱造設前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
歯周組織再生誘導手術
広範囲顎骨支持型装置埋入手術
歯根端切除手術 注3 (歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いた場合)
レーザー機器加算
麻酔管理料 (Ⅰ)
麻酔管理料 (Ⅱ)
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
一回線量増加加算 (高エネルギー放射線治療)
強度変調放射線治療 (IMRT)
一回線量増加加算 (強度変調放射線治療 (IMRT))
画像誘導放射線治療加算 (IGRT)
体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算 (動体追尾法)・((その他))
保険医療機関間の連携による病理診断
病理診断管理加算2
悪性腫瘍病理組織標本加算
クラウン・ブリッジ維持管理料
外来・在宅ベースアップ評価料 (Ⅰ)
歯科外来・在宅ベースアップ評価料 (Ⅰ)
入院ベースアップ評価料 71

3) 入院時食事療養

入院時食事療養 (Ⅰ)

3. 各学会の認定状況一覧

日本小児科学会 研修施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会 実施施設
日本皮膚科学会 研修施設	日本消化器内視鏡学会 指導施設
日本精神神経学会 研修施設	日本脳卒中学会 研修教育病院
日本外科学会 修練施設	経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会 実施施設
日本整形外科学会 研修施設	日本脈管学会 研修指定施設
日本眼科学会 研修施設	関連 10 学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会 腹部ステントグラフト実施施設
日本耳鼻咽喉科学会 研修施設	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設
日本泌尿器学会 拠点教育施設	日本低侵襲心臓手術学会
日本脳神経外科学会 専門研修プログラム 連携施設	日本透析医学会 認定施設
日本医学放射線学会 放射線科専門医総合修練機関	日本臨床細胞学会 認定施設
日本麻酔科学会 認定病院	日本臨床細胞学会 教育研修施設
日本病理学会 研修認定施設 B	心臓血管麻酔学会 専門医認定施設 基幹施設
日本消化器病学会 認定施設	日本総合病院精神医学会
日本循環器学会専門医研修施設	一般病院連携精神医学専門医特定研修施設認定
日本呼吸器学会 認定施設	日本総合病院精神医学会
日本血液学会 専門研修認定施設	一般病院連携精神医学専門医研修施設認定
日本神経学会 教育施設	日本病院総合診療医学会 認定施設
日本腎臓学会 研修施設	日本放射線腫瘍学会 認定施設
日本肝臓学会 認定施設	インペラ補助循環用ポンプカテーテル実施施設
日本糖尿病学会 認定教育施設 I	関連 10 学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会 胸部ステントグラフト実施施設
日本内分泌学会 内分泌代謝科認定教育施設	トランスサイレチン型アミロイドーシスに対するビンダケル導入施設
日本リウマチ学会 教育施設	生殖医療専門医制度研修連携施設
日本感染症学会 認定研修施設	日本門脈圧亢進症学会技術認定教育施設
日本消化器外科学会 修練施設	日本脳卒中学会 一次脳卒中センター認定
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構 基幹施設	日本核医学会専門医教育病院
日本小児外科学会 教育関連施設	日本顎関節学会研修機関施設
呼吸器外科専門医合同委員会 専門研修基幹施設	日本小児科学会 研修支援施設
日本周産期・新生児医学会 基幹研修施設 (新生児)	日本女性医学会専門医制度認定研修施設
日本周産期・新生児医学会 暫定認定施設 (母体・胎児)	日本医学放射線学会 画像診断管理認証施設
日本婦人科腫瘍学会 指定修練施設	日本循環器学会
日本集中治療医学会 専門医研修施設	経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設
日本 IVR 学会 修練施設	日本急性血液浄化学会 認定施設
日本東洋医学会 研修施設	日本口腔外科学会 認定研修施設
日本緩和医療学会 認定研修施設	日本胃癌学会 認定施設 B
日本外傷学会 研修施設	日本高血圧学会認定研修施設 I
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 エキスパンダー実施施設	左心耳閉鎖システム 実施施設
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 インプラント実施施設	日本アレルギー学会
日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A	アレルギー専門準教育研修施設
日本乳癌学会 認定施設	外傷診療施設機能評価制度 「S 評価」
日本がん治療医認定医機構 認定研修施設	
食道外科専門医 準認定施設	
日本腹部救急医学会 認定施設	
日本呼吸器内視鏡学会 認定施設	
日本呼吸療法医学会 専門医研修施設	
日本産科婦人科内視鏡学会 認定研修施設	
日本心血管インターベンション治療学会 研修施設	
日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設	

4. 私たちの理念・方針

「麻生グループ」詳細は「ASO GROUP VISION BOOK」を参照

Vision（未来像）	安心をカタチに生きがいをデザインする ASO グループ
Mission（使命）	社会システムの変革に貢献する
医療事業拡大の方針	麻生グループが病院経営の事業を拡大する方針について（略）

「飯塚病院」

開設の精神	郡民のために良医を招き、治療投薬の万全を図らんとする
経営理念	WE DELIVER THE BEST ～ まごころ医療、まごころサービス それが私たちの目標です ～
目指す病院像	日本一のまごころ病院
院長基本方針 (2015.02)	○社会人としての良識に従い各自の責任を全うすること ○患者中心で質の高い最適医療を実践すること ○医の倫理と良心に従い患者の権利の擁護とプライバシーの保護に努めること ○医療の質の向上と安全管理に努めること ○進取の気に溢れるチーム医療を実践すること ○臨床研修病院として国際水準の教育指導を行うこと ○地域基幹病院として救急医療および先進医療に力を注ぐこと ○保健・医療・福祉・介護機関との緊密な連携を図ること ○地域と地球の環境に配慮すること ○健全経営を基盤とすること
2018-2025 年度 飯塚病院 中長期計画	【病院の 2025 年度ビジョン（あるべき姿）】 Patient First を追求し、選ばれる高度急性期・急性期病院 【視点ごとの 2025 年度ビジョン（あるべき姿）】 A) 救急外来体制：命を救う要（かなめ）として、筑豊に最も進んだ救急医療を提供する病院 B) 専門医療：トップレベルの専門医療により、筑豊の高度急性期・急性期医療を担う病院 C) 質と安全：全職員が医療の質と安全の向上・改善に取り組み続ける病院 D) 患者経験価値：患者・家族が、全てのプロセスにおいて、「ここに来て良かった」と思える病院 E) 地域連携：地域の医療機関から信頼され、ともに発展する病院 F) 人材力：志のあるスタッフが集い、やりがいを持って成長でき、「ここで働きたい、働けて良かった」と思える病院 G) 健全経営：全職員が厳しくなる外部環境への危機感を共有し、経営に参画する病院

編集後記

昨年の編集時に医師の異動情報のルールを改定し再掲載を決めたが、2021年～23年の情報は欠失状態になっており対応を検討した。2018年第31号の編集後記に記したように、これらの修正情報はWeb版に行うことを再確認した。また、目次〔Ⅶ〕院内報告の「表彰」が2018年から経緯不明で削除されていたことにも気づき、同様の対応を取ることを決めたのでここに明記しておく。

政界では石破首相が退陣した結果、初の女性総理として高市早苗総理が誕生し、新時代の幕が開けた感がある。こういう人事の背景にはgenerationの抱える時代の要請というものがあるのだろう。飯塚病院では、本村院長が就任されてから数々の改革が進行中である。筑豊の中核病院として役割を果たしてきた飯塚病院の大きな功績は、救急外来の設置であろう。昔の飯塚病院は「巷では、最後死ぬ時にゆく病院と言われていましたよ」とある患者から聞いた。今では「助かりなかったら飯塚病院にと思っていたが最近はどうも」と聞く。

総務省によると、2024年の公的病院の83.3%は赤字経営で、過去最高の3952億円赤字を計上したとしている。個人病院は、経営者自らが医師を雇用するので、病院へのRoyaltyは高い。大病院では多くの医師は医局からの派遣でないと成立せず、人選などで大学からの組織運営の影響を受けることは周知の事実である。

さて、白黒を反転させるゲームのオセロはご存知だろう。これは英語表記でOthelloと書くが、実は日本人の発明で水戸市出身の長谷川五郎氏が開発した。氏は元々製薬会社に勤めていて、ある有名病院の医局長にこの構想を話した際、社会復帰を目指す患者さんが、頭を使う、手と指を使う、人と対話するといった観点で、リハビリとして福音となると後押しされた（長谷川五郎 オセロ百人物語 河出書房新社2005年）。Othelloの名前の由来は、William Shakespeare (1564-1616)の4大悲劇の一つオセロから、英文学者であった父親の四郎教授が名付けたとのこと。それは、美しき白人のデズデモーナ(白)と、北アフリカのムスリムである気高いムーア人で黒人とされるオセロ(黒)が、緑の平原(緑の盤)で勇敢に戦うという喩えであるという。飯塚病院もまた、オセロのように白黒を反転できるのか、定年が近くなったので遠くから眺めておきたい。

2025年といえば、坂口志文先生がT regの業績でノーベル医学生理学賞を受賞されたことは、医師として記す必要がある。これはリンパ球のTh1系とTh2系の暴走に対して制御するという役割を持つ細胞で、誰も顧みなかった研究を地道に進めた結果の発見と語っている。免疫機構内で相反するものの、必要性のある二つの方向性の活動を、行き過ぎたところでは制御する細胞であり、これが免疫機構のhomeostasisを保つ秘訣のようである。

同じくノーベル医学生理学賞を2012年に受賞した山中伸弥先生の座右の銘を紹介したい。やはり、苦難を乗り越えて地道な研究生生活の上にiPS細胞の発見があったとしている。

飯塚病院年報 第38号

2026年7月発行

編集発行：飯塚病院

〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町3番83号

T E L (0948) 22-3800 (代表)

F A X (0948) 29-5744 (代表)

印刷：フジキアドワークス株式会社

〒820-0053 福岡県飯塚市伊岐須490-15

T E L (0948) 29-3177

F A X (0948) 24-5234